

根室市

トーサムポロ湖周辺竪穴群(2)

— 根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成27年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

根室市

トーサムポロ湖周辺竪穴群(2)

— 根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成27年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



調査状況（東から）



B地区基本土層（南西から）



F-1 検出状況（北東から）



H-24 遺物出土状況（南西から）



H-25 磨製石斧出土状況（南西から）



H-18 焼土・炭化材検出状況（東から）



H-19 完掘状況（北から）



H-24 焼土・炭化材検出状況（南から）



H-25 完掘状況（北から）

カラー図版 4



P-37 遺物出土状況（南西から）



P-45 遺物出土状況（北から）



P-43 掘り上げ土検出状況（南西から）



P-46 完掘状況（北から）



P-55 土層断面（南西から）

例 言

1. 本書は、北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部が行う根室半島線交付金工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成26（2014）年度に実施した、根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群の埋蔵文化財発掘調査報告書（『根室市 トーサムボロ湖周辺堅穴群（2）』北埋調報324）である。
2. 本書の執筆は付篇1～3を除き、愛場和人・広田良成が分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は愛場・広田が行った。
3. 発掘調査時の写真撮影は各担当者が行い、報告書掲載遺物の撮影は1部1課吉田裕吏洋が行った。
4. 自然科学的分析の内容と委託先機関は、次の通りである。
黒曜石製石器の産地推定：株式会社 パレオ・ラボ
放射性炭素年代測定：株式会社 加速器分析研究所
炭化材樹種同定：株式会社 パリノ・サーヴェイ
5. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・ご協力をいただいた。（順不同・敬称略）
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 根室市教育委員会
根室市歴史と自然の資料館：猪熊樹人、福田光夫

記号等の説明

1. 確認した遺構は下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。なお、遺構の番号は平成21～23（2009～2011）年度の調査で確認した遺構の番号の連番とした。

H：竪穴住居跡 P：土坑 F：焼土 FC：フレイク集中

2. 遺構図面等の縮尺は原則的に下記の通りで、各図にスケールと方位記号（座標北）を付した。

竪穴住居跡：40分の1、60分の1、80分の1
土坑・焼土・フレイク集中：40分の1、60分の1
遺物出土状況図：20分の1
地形測量図・遺構位置図：任意

なお、遺構平面図の「+（十字）と記号」はグリッド名で、「・（ドット）と数値」はその地点の標高（m）を表す。

3. 遺物図の縮尺は原則的に次のとおりでスケールを付した。

復原土器：3分の1 拓本土器：3分の1
剥片石器：2分の1 礫石器：3分の1、4分の1

4. 本文及び図表中で遺構の規模は次の要領で示した。一部破壊されているものや調査区外に広がるものは現存する計測値を（丸括弧）で示した。

竪穴住居跡・土坑：確認面の長径×短径/床面・坑底面の長径×短径/確認面からの最大深（m）
焼土：分布範囲の長径×短径/最大厚（m）
フレイク集中：分布範囲の長径×短径（m）

目 次

カラ一図版	
例言	
記号等の説明	
目次	
図目次	
表目次	
写真図版目次	

I章 緒 言

1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査の経緯	
(1) 道道根室半島線特改工事と過年度調査の経緯	1
(2) 調査・報告の経緯	2
4. 調査結果の概要	2

II章 遺跡の位置と環境

1. 位置と立地	7
2. 過去の調査	7
3. 周辺の遺跡	15

III章 調査の概要

1. 発掘区の設定	19
2. 基本層序	23
3. 調査の方法	26
4. 整理の方法	
(1) 一次整理の方法	27
(2) 二次整理の方法	27
5. 遺物の分類	
(1) 土器等	28
(2) 石器等	28

IV章 B地区の遺構

1. 概要	29
2. III層の遺構	
(1) 竪穴住居跡	29

(2) 土坑	62
(3) 焼土	90
(4) フレイク集中	92

V章 B地区の遺構・包含層出土の遺物

1. 遺構・包含層出土の土器	
(1) 遺構出土の土器	109
(2) 包含層出土の土器	120
2. 遺構・包含層出土の石器	
(1) 遺構出土の石器	130
(2) 包含層出土の石器	146
3. 遺構等出土の微細遺物について	157

VI章 まとめ

1. 遺構について	173
2. 遺物について	
(1) 土器	174
(2) 石器	174
3. 過去に調査が行われた遺構について	175
4. 分析の目的と結果の評価	
(1) 黒曜石製石器の産地推定(付篇1)	177
(2) 放射性炭素年代測定(付篇2)	178
(3) 炭化材樹種同定(付篇3)	178

付篇

1. 黒曜石製石器の産地推定	193
2. 放射性炭素年代測定	197
3. 炭化材樹種同定	201

写真図版

引用参考文献

報告書抄録

目 次

図 I-1	B地区遺構位置図	4	図 IV-36	P-46・47	81
図 II-1	遺跡の位置	8	図 IV-37	P-48・49	82
図 II-2	遺跡周辺の地形	9	図 IV-38	P-50・51	83
図 II-3	トーサムボロ湖周辺堅穴群堅穴分布図	11	図 IV-39	P-52・53	85
図 II-4	トーサムボロ湖周辺堅穴群L地区堅穴分布図	12	図 IV-40	P-54	87
図 II-5	L-1地区堅穴分布図	13	図 IV-41	P-55~57	89
図 II-6	周辺の遺跡	16	図 IV-42	F-1・2	91
			図 IV-43	F-3~5	93
			図 IV-44	F C-3~5	94
図 III-1	B地区調査区設定図・年度別調査範囲図	20	図 V-1	遺構出土の土器 (1)	110
図 III-2	トーサムボロ湖周辺堅穴群世界測地系グリッド設定図	22	図 V-2	遺構出土の土器 (2)	111
図 III-3	B地区基本順序模式図・柱状図	25	図 V-3	遺構出土の土器 (3)	113
			図 V-4	遺構出土の土器 (4)	114
図 IV-1	B地区遺構位置図	30	図 V-5	遺構出土の土器 (5)	115
図 IV-2	H-17	31	図 V-6	遺構出土の土器 (6)	117
図 IV-3	H-18 (1)	33	図 V-7	遺構出土の土器 (7)	119
図 IV-4	H-18 (2)	34	図 V-8	包含層出土土器点数分布図 (1)	121
図 IV-5	H-18 (3)	35	図 V-9	包含層出土土器点数分布図 (2)	122
図 IV-6	H-18 (4)	36	図 V-10	包含層出土の土器 (1)	123
図 IV-7	H-19 (1)	38	図 V-11	包含層出土の土器 (2)	124
図 IV-8	H-19 (2)	39	図 V-12	包含層出土の土器 (3)	126
図 IV-9	H-19 (3)	40	図 V-13	包含層出土の土器 (4)	127
図 IV-10	H-20	41	図 V-14	包含層出土の土器 (5)	129
図 IV-11	H-21	43	図 V-15	遺構出土の石器 (1)	131
図 IV-12	H-22	44	図 V-16	遺構出土の石器 (2)	132
図 IV-13	H-23 (1)	46	図 V-17	遺構出土の石器 (3)	133
図 IV-14	H-23 (2)	47	図 V-18	遺構出土の石器 (4)	135
図 IV-15	H-23 (3)	48	図 V-19	遺構出土の石器 (5)	136
図 IV-16	H-24 (1)	50	図 V-20	遺構出土の石器 (6)	137
図 IV-17	H-24 (2)	51	図 V-21	遺構出土の石器 (7)	138
図 IV-18	H-24 (3)	52	図 V-22	遺構出土の石器 (8)	140
図 IV-19	H-25 (1)	54	図 V-23	遺構出土の石器 (9)	141
図 IV-20	H-25 (2)	55	図 V-24	遺構出土の石器 (10)	143
図 IV-21	H-25 (3)	56	図 V-25	遺構出土の石器 (11)	144
図 IV-22	H-26	57	図 V-26	遺構出土の石器 (12)	145
図 IV-23	H-27	59	図 V-27	包含層出土土器点数分布図 (1)	147
図 IV-24	H-28・29	60	図 V-28	包含層出土土器点数分布図 (2)	148
図 IV-25	P-26・27	63	図 V-29	包含層出土土器点数分布図 (3)	149
図 IV-26	P-28・29	64	図 V-30	包含層出土土器点数分布図 (4)	150
図 IV-27	P-30	65	図 V-31	包含層出土土器点数分布図 (5)	151
図 IV-28	P-31・32	67	図 V-32	包含層出土土器点数分布図 (6)	152
図 IV-29	P-33・34	69	図 V-33	包含層出土の石器 (1)	153
図 IV-30	P-35・36	71	図 V-34	包含層出土の石器 (2)	155
図 IV-31	P-37・38	72	図 V-35	包含層出土の石器 (3)	156
図 IV-32	P-39~41	74	図 V-36	包含層出土の石器 (4)	158
図 IV-33	P-42・43	76	図 VI-1	第1号堅穴	180
図 IV-34	P-44	78	図 VI-2	第29号堅穴	181
図 IV-35	P-45	79	図 VI-3	第30号堅穴	182
			図 VI-4	第1・25・29・30号堅穴出土土器	183

表 目 次

表I-1	遺構数一覧	5	表IV-20	フレイク集中出土石器点数表(水洗選別)	108
表I-2	遺物点数一覧	5			
表I-3	遺物点数一覧(水洗選別)	5			
表II-1	トーサムボロ湖周辺堅穴群L地区調査一覧	14	表V-1	包含層出土石器点数表	159
表II-2	トーサムボロ湖周辺堅穴群L地区調査遺構一覧	14	表V-2	包含層出土石器点数表	159
表II-3	周辺の遺跡一覧	17	表V-3	H-24出土復原石器観察表	160
表III-1	B地区測量の概要	21	表V-4	H-24・P-48復原石器観察表	160
表III-2	基本順序	24	表V-5	H-24・P-48復原石器観察表	160
			表V-6	H-24・P-51復原石器観察表	160
表IV-1	堅穴住居跡一覧	96	表V-7	H-25復原石器観察表	160
表IV-2	堅穴住居跡付属遺構一覧	97~100	表V-8	P-31復原石器観察表	161
表IV-3	土坑一覧	100・101	表V-9	P-37復原石器観察表	161
表IV-4	土坑付属遺構一覧	101・102	表V-10	P-46・49復原石器観察表	161
表IV-5	焼土一覧	102	表V-11	P-49復原石器観察表	161
表IV-6	フレイク集中一覧	102	表V-12	遺構出土破片石器観察表	162~165
表IV-7	遺構出土位置計測遺物説明表	102	表V-13	H-57区出土復原石器観察表	166
表IV-8	堅穴住居跡出土石器点数表	103	表V-14	F-52区出土復原石器観察表	166
表IV-9	堅穴住居跡出土石器点数表	104	表V-15	F-52区出土復原石器観察表	166
表IV-10	土坑出土石器点数表	105	表V-16	G-55区出土復原石器観察表	166
表IV-11	土坑出土石器点数表	106	表V-17	F-64区出土復原石器観察表	166
表IV-12	焼土出土石器点数表	106	表V-18	包含層出土破片石器観察表	167・168
表IV-13	フレイク集中出土石器点数表	106	表V-19	遺構出土石器観察表	169~171
表IV-14	フレイク集中出土石器点数表	107	表V-20	包含層出土石器観察表	171・172
表IV-15	堅穴住居跡出土石器点数表(水洗選別)	107	表V-21	水洗選別出土遺物一覧	172
表IV-16	フレイク集中出土石器点数表(水洗選別)	107			
表IV-17	堅穴住居跡出土石器点数表(水洗選別)	108	表VI-1	B地区出土遺物点数表	184
表IV-18	土坑出土石器点数表(水洗選別)	108	表VI-2	B地区出土遺物点数表(水洗選別)	184
表IV-19	焼土出土石器点数表(水洗選別)	108	表VI-3	第1号・29号・30号堅穴付属遺構一覧	185
			表VI-4	第1号・29号・30号堅穴付属遺構一覧	185
			表VI-5	第1号堅穴調査の概要一覧	186
			表VI-6	第29号堅穴調査の概要一覧	187
			表VI-7	第30号堅穴調査の概要一覧	188・189
			表VI-8	黒曜石製石器の産地推定結果一覧	189
			表VI-9	放射性炭素年代測定結果一覧	189

写真図版目次

カラー図版

図版1	調査状況(東から)
	B地区基本土層(南西から)
	F-1検出状況(北東から)
	H-24遺物出土状況(南西から)
	H-25磨製石斧出土状況(南西から)
図版2	H-18焼土・炭化材検出状況(東から)
	H-19完掘状況(北から)
図版3	H-24焼土・炭化材検出状況(南から)
	H-25完掘状況(北から)
図版4	P-37遺物出土状況(南西から)

	P-45遺物出土状況(北から)
	P-43掘り上げ土検出状況(南西から)
	P-46完掘状況(北から)
	P-55土層断面(南西から)

モノクロ図版

図版1	トーサムボロ湖周辺堅穴群B地区遠景(南西から)
	調査風景(東から)
図版2	調査区西側調査状況(東から)
	調査区東側調査状況(西から)
図版3	調査区東側完掘状況(西から)
	調査区中央付近完掘状況(北東から)

図版 4	調査区完掘状況 (東から) H-17土層断面 (北から)	P-32遺物出土状況 (北西から) P-33完掘 (北から)
図版 5	H-18東西土層断面 (南西から) H-18覆土中焼土・炭化材検出状況 (東から) H-18H P-12・13土層断面 (南から) H-18H P-21土層断面 (南から)	図版 18 P-34完掘 (北西から) P-35遺物出土状況 (北から) P-36完掘 (北東から) P-37遺物出土状況 (南西から) P-37土器内石楯またはナイフ出土状況 (東から)
図版 6	H-19東西土層断面 (南西から) H-19H F-3土層断面 (南から) H-19H S-1 検出状況 (北東から) H-19完掘 (北から)	図版 19 P-38遺物出土状況 (北東から) P-39遺物出土状況 (西から) P-40完掘 (北から) P-41完掘 (西から) P-42完掘 (西から) P-43土層断面 (南から) P-43掘り上げ土検出状況 (南東から) P-43完掘 (北西から) P-44完掘 (南西から)
図版 7	H-20土層断面 (東から) H-20覆土中焼土・炭化材検出状況 (西から) H-20H P-13土層断面 (南から) H-20完掘 (北西から)	図版 20 P-45遺物出土状況 (北から) P-45遺物出土状況 (東から) P-46S P 検出状況 (南から) P-46遺物出土状況 (北から) P-46完掘 (北から) P-47遺物出土状況 (北東から) P-48遺物出土状況 (西から)
図版 8	H-21東西土層断面 (南西から) H-21H P-1土層断面 (西から) H-21H F-1 検出状況 (北西から) H-21H P-4土層断面 (南西から) H-21完掘 (北西から)	図版 21 P-49完掘 (北西から) P-50完掘 (北西から) P-51完掘 (南から) P-52炭化材検出状況 (西から) P-53完掘 (東から) P-54完掘 (東から)
図版 9	H-22土層断面 (南から) H-22H F-1土層断面 (南から) H-22H P-1土層断面 (西から) H-22H P-7土層断面 (北西から) H-22完掘 (南東から)	図版 22 P-55土層断面 (南西から) P-56遺物出土状況 (北東から) P-57遺物出土状況 (東から) F-1 検出状況 (北東から) F-2 上面炭化材検出状況 (南西から) F-3土層断面 (北から) F-4土層断面 (西から) F-5土層断面 (南から) 包含層土器出土状況 (西から) 包含層石器出土状況 (北東から) 調査状況 (西から)
図版 10	H-23東西土層断面 (南西から) H-23H S-1 検出状況 (北東から) H-23H F C-1 検出状況 (東から) H-23H P-26土層断面 (西から) H-23完掘 (東から)	図版 23 遺構出土の復原土器 (1) 遺構出土の復原土器 (2) 遺構出土の破片土器 (1) 遺構出土の破片土器 (2) 遺構出土の破片土器 (3) 遺構出土の破片土器 (4) 包含層出土の復原土器 包含層出土の破片土器 (1) 包含層出土の破片土器 (2) 包含層出土の破片土器 (3) 遺構出土の石器 (1) 遺構出土の石器 (2) 遺構出土の石器 (3) 遺構出土の石器 (4) 遺構出土の石器 (5) 遺構出土の石器 (6) 包含層出土の石器 (1) 包含層出土の石器 (2)
図版 11	H-24東西土層断面 (南東から) H-24石楯またはナイフ出土状況 (南東から) H-24遺物出土状況 (南西から) H-24覆土中焼土・炭化材検出状況 (東から) H-24完掘 (南から)	
図版 12	H-25東西土層断面 (南から) H-25H F-2 検出状況 (南から) H-25床面遺物出土状況 (南東から) H-25磨製石斧出土状況 (南西から) H-25完掘 (東から)	
図版 13	H-26東西土層断面 (北から) H-26覆土中焼土・炭化材検出状況 (北から) H-26覆土中焼土土層断面 (東から) H-26完掘 (北西から)	
図版 14	H-27東西土層断面 (南西から) H-27南北土層断面 (北西から) H-27完掘 (北西から)	
図版 15	H-28土層断面 (北から) H-28H F-1土層断面 (南西から) H-28遺物出土状況 (西から)	
図版 16	H-29土層断面 (南から) H-29H F-1・2土層断面 (南東から) H-29H P-2土層断面 (南から) H-29H P-4土層断面 (南から) H-29完掘 (西から)	
図版 17	P-26遺物出土状況 (南西から) P-27完掘 (南西から) P-28土層断面 (南から) P-29完掘 (西から) P-30遺物出土状況 (北東から) P-31土層断面 (西から)	

I 章 緒 言

1. 調査要項

事業名：根室半島線（B改-153）交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成26年度）
 根室半島線（A改-16）交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成27年度整理事業）
 委託者：北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部
 遺跡名：トーサムボロ湖周辺堅穴群（北海道教育委員会登録番号 N-01-1）
 所在地：根室市豊里96-1地先～96-8地先
 調査面積：2,760㎡
 調査期間：平成26年7月1日～平成27年3月31日（現地調査 平成26年8月18日～10月31日）

2. 調査体制

平成26年度

第1調査部長 千葉 英一（常務理事兼務） 第2調査部長 三浦 正人
 第2調査部第3調査課長 村田 大（発掘担当者）
 主 査 愛場 和人（発掘担当者） 主 査 広田 良成（発掘担当者）

平成27年度（整理事業）

第1調査部長 長沼 孝（常務理事兼務） 第2調査部長 三浦 正人
 第2調査部第2調査課長 笠原 興
 主 査 愛場 和人 主 査 広田 良成

3. 調査の経緯

（1）道道根室半島線特改工事と過年度調査の経緯

この調査の対象である道道35号根室半島線は、起終点を根室市街にもち、根室半島の海岸線を一周する総距離46.2kmの道路で、最東端は納沙布岬付近を通過する。この道路はほぼ片側一車線の舗装道路であるが、丘陵や海岸地形に沿ったカーブやアップダウン頻度が高く、多数の小集落を結んでいる。そのため、各所でカーブ緩和や歩道整備などの改良が施工されてきており、調査原因であるトーサムボロ湖両岸部の改良工事もこの一環である。

トーサムボロ湖口は往時、徒歩・馬・渡船などで通行していたが、昭和20年代には簡易な木橋が架けられたという。昭和30年ごろに車で通れる橋が架かり、半島を一周できるようになった。両岸の住民の思いから「協力橋」と名付けられている。この協力橋に至る道は、湖の両側から緩いが長い下り坂となり危険が伴い、特に冬季の通行には支障がある。そのため、橋のたもと付近のカーブをさらに緩くする要望が多く、工事の必要が生じた。また、納沙布岬に向かう道路として大型バスの通行も多くあり、下りカーブと道路幅員に改良の余地があった。

上記の問題改良のため当時の釧路土木現業所根室出張所は、根室半島特殊改良第1種工事事業を計

画し昭和61(1986)年、事業計画用地内にあるトーサムボロ湖周辺堅穴群に対する試掘調査の協議を北海道教育委員会(以下、「道教委」)にあげた。その後、数度にわたる試掘調査や工事計画見直しを経て、最終的に湖両側の道路用地にかかる3,695㎡(西側:A地区1,773㎡、東側:B地区1,922㎡)及び現道下部分について、発掘調査が必要と判断された。道路用地部分については、平成21～23(2009～2011)年の3か年、当センターが発掘調査を行った(以下、「過年度調査」)。この過年度調査についての報告書は平成26年度に『根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群(1)』として刊行している。

B地区の現道下部分3,100㎡については、過年度調査終了部分に仮道を作り、道路を切り替えた後に発掘調査を行う計画がたてられた。仮道予定地にかかる現道の法面範囲190㎡(調査区南西側のE・F-32～50区付近)について、本調査に先行して平成26(2014)年1月に道教委による工事立会が行われた。工事立会では遺構・遺物は確認されず、その後仮道建設が進められた。そして平成26(2014)年度に現道から仮道への切り替えが行われ、その後当センターが現道部分の発掘調査を行った。

(2) 調査・報告の経緯

平成21～23(2009～2011)年調査(以下、「過年度調査」)と同様に発掘調査に際しては、鋼路建設管理部中標津出張所から当センターに対し、調査終了直後には工事に掛からないために調査区を埋戻し養生すること、汚濁水の現場内処理などについて歯舞漁業協同組合と打ち合わせることを指示された。歯舞漁協とは調査準備工前に打ち合わせ、調査時期がサケ漁と期間が重複することから、現場内で汚濁した水が絶対に湖内に流出しないようにとの強い要請を受けこれに対処した。秋の長雨や強風に対応した調査排土の堆積場への養生や、土砂の崩落・飛散防止に特に配慮した。

鋼路建設管理部とは平成26(2014)年7月1日に契約し、準備作業は7月下旬から行った。最初に現道のアスファルト、砂利などの舗装を除去し、次に表土除去を行った。その後、仮道と調査区南側境界が接していることから、調査時の安全確保のため仮道と調査区の境界にはフェンスを設置した。その他の準備を経て8月21日から発掘調査に着手した。当初の調査予定面積は2,910㎡で、過年度調査の結果を基に遺構確認調査範囲1,390㎡と通常調査範囲1,520㎡に分かれていた。遺構確認範囲については重機でVI層(地山)上面まで掘削したが、その内調査区西端側はVI層が大きく攪乱を受けていた。道教委からは、この部分(遺構確認範囲の西端150㎡)については調査不要という指示を受け、最終的な調査面積は2,760㎡となった。発掘調査の進め方は、排土場所を確保するため、遺構確認調査範囲を優先し、その後包含層調査を行った。また、調査区南壁沿いの仮道法面にあたる部分は調査及び通行の安全確保のため、10月上旬に仮道を片側交互通行にしてから、調査を行った。調査後はすぐに法面の埋戻しを行い現状復旧した。発掘調査は10月30日で終了し、10月31日に撤収作業を行った。

整理作業は、平成26・27(2014・2015)年度の2か年にかけて行い、平成27年度に調査報告書を刊行することとなった。

4. 調査結果の概要

道道根室半島線改良工事に伴う本遺跡の発掘調査は、平成21～23(2009～2011)年度(以下「過年度」)及び平成26(2014)年度に実施した。過年度は2か所(A・B地区)についての調査を行っており、それらの内容については『根室市 トーサムボロ湖周辺堅穴群(1)』(2015 北理調報317)に報告しているので、参照願いたい。

当報告書は平成26(2014)年度に実施したB地区の調査についてまとめたものである。今回の調査

区は平成23(2011)年度の調査区の北側部分で、隣接する範囲である。過年度のB地区の調査で、遺構は竪穴住居跡18軒、土坑25基、礫集中1か所、フレイク集中2か所を調査し、遺物は土器6,419点、石器等16,516点で合計22,935点出土した。また、土壌の水洗選別でフレイク・チップなどの微細遺物を18,634点回収した。遺構は全てⅢ層のもので、包含層の遺物もほとんどがⅢ層出土である。

今回の調査面積2,760㎡の内、1,240㎡(東側520㎡、西側720㎡)は遺構確認調査範囲であり、中央部分1,520㎡については包含層調査を含む通常の発掘調査を行った。また、今回の調査区は調査前の現状が道路であり、包含層は全体的に削平されていた。

今回の調査で確認された遺構・遺物については表I-1～3にまとめた。遺構位置図については、図I-1に示した。

遺構は、竪穴住居跡13軒、土坑32基、焼土5か所、フレイク集中3か所をⅢ層で確認した。遺構名は過年度調査のものに続けて、連番で付した。竪穴住居跡の内2軒(H-17・18)は平成23(2011)年度に部分的に調査しており、今回は続きとなる北側部分を調査した。遺構の時期は縄文時代前期前半が多く、ほかに縄文時代早期後半、後期前葉のものがある。また、詳細な時期が不明なものもみられる。遺構の分布は調査区中央付近から東側にかけて多く、調査区東側及び西側の遺構確認調査範囲で検出した遺構は少ない。

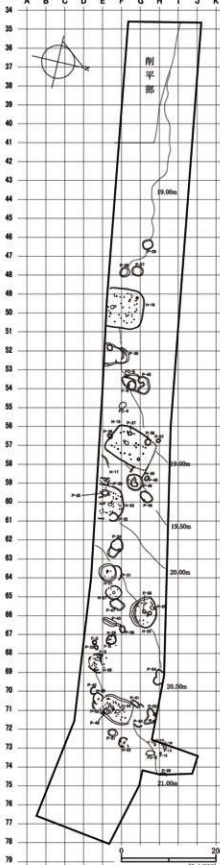
遺物は、土器等3,590点、石器等19,194点が出土し、合計は22,784点である。他に水洗選別で回収したフレイク・チップ等が17,594点ある。土器は、縄文時代早期～晩期、統縄文土器があり、中では縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉の時期のものが多い。定型的な石器では砥石が最も多く、他に石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、石鋸、磨製石斧などが比較的多く出土した。

今回のB地区の調査では、過年度の調査結果と同様に縄文時代前期・後期の遺構・遺物を確認したが、過年度調査では確認していない縄文時代早期の遺構や遺物の検出や、少量ではあるが縄文時代晩期や統縄文土器の出土など、様相が異なる点もみられる。

(広田良成)

平成26年度調査遺構位置図

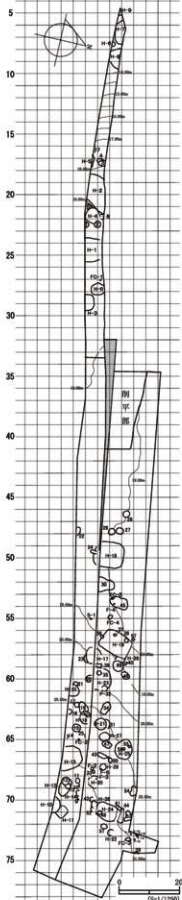
A B C D E F G H I J K



- H: 竪穴住居跡
- P: 土坑
- F: 焼土
- FC: フレイク集中

平成21～23年度調査遺構位置図

V A B C D E F G H I J K



- H: 竪穴住居跡
- 土坑(数字のみ)
- F: 焼土
- S: 礫集中
- FC: フレイク集中
- 工事立会範囲

図 I-1 B地区遺構位置図

表 I-1 遺構数一覧

種別	竪穴住居跡	土坑	焼土	フレイク集中
略号	H	P	F	FC
遺構名	H-17~29	P-26~57	F-1~5	FC-3~5
遺構数	13	32	5	3

表 I-2 遺物点数一覧

出土地点 /遺物種別	遺構	包含層	合計
I 群	130	1,025	1,155
II 群	662	1,191	1,853
III 群		3	3
IV 群	193	353	546
V 群		21	21
VI 群		10	10
土製品		2	2
土器等	985	2,605	3,590
石鏃	37	49	86
石槍またはナイフ	47	33	80
両面調整石器	21	15	36
石錐	12	11	23
つまみ付きナイフ	17	24	41
スクレイパー	80	87	167
U・Rフレイク	69	72	141
石核	2	2	4
フレイク	4,488	4,263	8,751
原石	2		2
磨製石斧	37	12	49
たたき石	6	6	12
すり石		2	2
石鋸	45	37	82
砥石	156	265	421
台石・石皿	4	3	7
加工・使用痕のある礫	34	32	66
礫	4,446	4,778	9,224
石器等	9,503	9,691	19,194
合計	10,488	12,296	22,784

表 I-3 遺物点数一覧 (水洗選別)

出土地点 /遺物種別	遺構	包含層	合計
I 群	6	3	9
II 群	8	1	9
IV 群	2		2
不明	10		10
土器等	26	4	30
石鏃	1		1
両面調整石器	5		5
スクレイパー	1		1
U・Rフレイク	1		1
石核	1		1
フレイク	16,437	1,106	17,543
磨製石斧	5		5
礫	4	3	7
石器等	16,455	1,109	17,564
合計	16,481	1,113	17,594

II章 遺跡の位置と環境

1. 位置と立地 (図II-1~3)

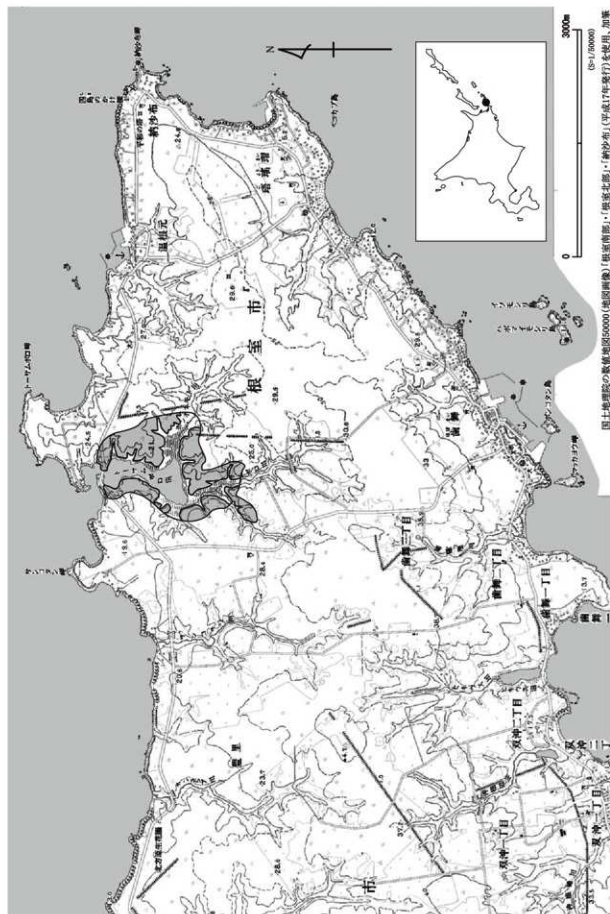
トーサムボロ湖周辺堅穴群は北海道根室市豊里44-1、82-1他に所在する。遺跡のある根室市は、北海道東部の根室半島に位置する北海道最東端の市である。また、根室振興局の所在地で、人口は約28,000人である。市の基幹産業は水産業で、夏の花咲ガニ、秋のサンマなどの水産物が全国的にも有名である。また、国後島などの北方領土に近接し、天気の良いよく晴れた日には間近に国後島を望むことができる。

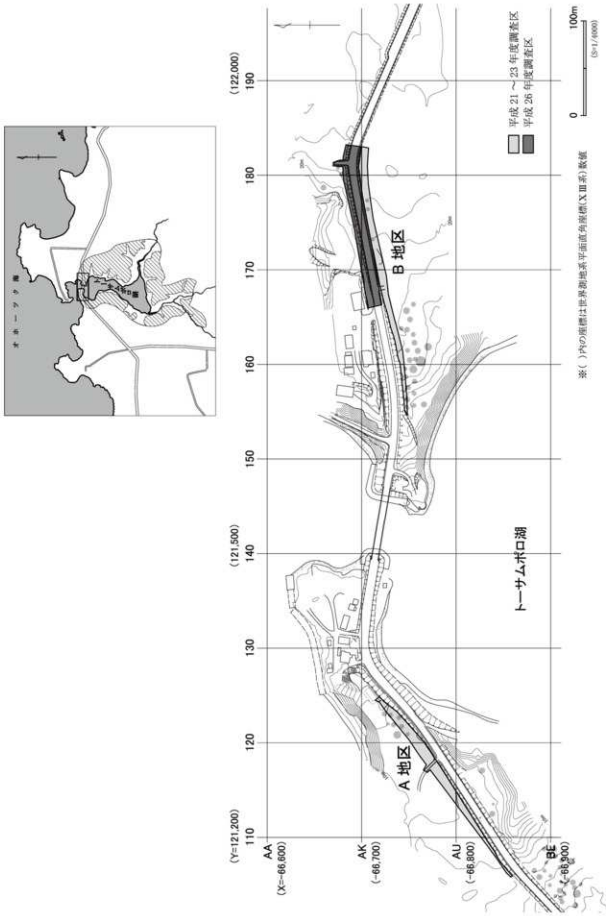
本遺跡の位置する根室半島は、半島の付け根にあたる温根沼から、幅5km内外、東に約30kmのびており、北側をオホーツク海、南側を太平洋に面し、東方には歯舞諸島が連なっている。地形の特徴は、高い山や大きな河川がなく、全体が低く平坦な台地からなる隆起海食台であり、高位の段丘面がほぼ全域にわたって分布する。また、半島の海岸線は多くが急崖を呈する。道東地域の海岸線沿いには多数の海跡湖がみられるが、遺跡名でもあるトーサムボロ湖もその一つである。松井信輝ほか(1987)は、根室半島の地形を、海抜60~80m、40~50m、30~40m、17~25m、10~15m高低5段の海岸段丘に区分し、段丘の境は極めてなだらかな斜面で転換していることを述べている。それによればトーサムボロ湖周辺を含む半島北側岸は10~15m、17~25メートルの低位段丘にあたり、当遺跡は標高約10~25mの海成段丘上に立地している。

本遺跡は根室半島先端の納沙布岬からは西に約5km、根室市街地からは東に約14kmの場所にあるオホーツク海に面するトーサムボロ湖周辺に広がる遺跡で、北海道内で最も東に位置する遺跡のひとつである。なお、「トーサムボロ」の地名については、平成26(2014)年度に当センターが刊行した『根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群(1)』の第二章3節に詳述しており、そちらを参照願いたい。トーサムボロ湖は、北側に湖口がある周囲約3.3km、面積約0.25km²の汽水湖で、縄文海進によって形成された海跡湖である。湖に流入する河川はボンオネモト川、トーサムボロ川の2つがみられる。台地から湖へは緩く傾斜する地形で、これは最終氷期の最寒冷期における流土作用により周水河性皿状谷が形成されたためと考えられている。湖の周囲の台地上(標高約10~25m)には湖岸を取り巻くように多数の堅穴住居跡と考えられる窪みが分布している。トーサムボロ湖周辺堅穴群はこれらを一括して総称した広大な集落跡遺跡で、総面積は60万㎡を超える。過去に東京教育大学(現筑波大学)が行った堅穴分布及び地形測量調査(図II-3参照)の結果、窪みは約1,300個を数えている。ただし、当センターの発掘調査では、地表からでは窪みとして確認できない浅い堅穴住居跡も多く検出したため、堅穴住居跡の総数は2,000軒を超えるものと推定される。遺跡の時期は、縄文時代早期前半から近世アイヌ文化期のほぼ各時期がみられ、この場所が7,000年以上前から近世にわたる長い期間、継続的に利用されていたことがわかる。現状は多くが草地であり、遺存状況は全体的に良好である。根室市内で約300か所ある遺跡の中でも最大の規模であり、根室半島の歴史を考える上でも重要な遺跡のひとつである。

2. 過去の調査 (図II-4・5、表II-1・2)

本遺跡は古くから知られており、昭和26年以降地元出身の研究者である北構保男氏や東京教育大学





図II-2 遺跡周辺の地形

(現筑波大学)、北地文化研究会などによる学術調査が断続的に行われている。その成果は昭和41(1966)年に根室市教育委員会により刊行された『北海道根室市の先史遺跡』(以下「1966年報告」)、及び昭和55(1980)年の筑波大学による『筑波大学先史学・考古学研究調査報告Ⅰ 北海道東部地区の遺跡研究』(以下「1980年報告」)としてこれら2冊の報告書にほぼまとめられている。また、当センターが行った道道の改良工事に伴う平成21～23(2009～2011)年の発掘調査については、平成27(2015)年に刊行した『根室市 トーサムボロ湖周辺堅穴群(Ⅰ)』(以下「2015年報告」)にまとめられている。

東京教育大学の調査は堅穴住居跡などの発掘調査だけではなく、遺跡範囲内に数多く分布する堅穴のくぼみの分布調査及び地形測量も行われている。堅穴分布図及び地形測量は、発掘調査などと並行して数年にわたって作成され、昭和45(1970)年に行われた航空写真による測量の成果と合わせて、最終的に1980年報告書の付図として刊行された(付図1「トーサムボロ湖周辺堅穴全体図」、当報告書の図Ⅱ-3として再掲載)。

東京教育大学は調査を行うにあたり、遺跡全体の地区分けを行っており、湖口より奥部に向かって左岸側を「L地区」、右岸側を「R地区」とし、湖北側の東西にみられる大きな半島状の突出部を「1地区」とした。そして、小湾入部で区分されている突出部に順次「2、3、4」という地区名を付けている。地区名はアルファベットと数字を組み合わせて呼称し、例えば「R-1地区」となる。当報告の「B地区」は「L-1」地区に位置する。また、過年度調査の「A地区」は「R-1地区」に位置する。また、L地区では地区名の数字はL-1地区の近くから付けられるが、L-1地区の北側は偶数、南側は奇数の数字を付けていることが、1966年報告から読み取れる。例えば、L-1地区の南側の地区名は近くから、「L-3、L-5、L-7、…」となり、北側は「L-2、L-4、L-6、…」となる。ただし、1966年報告や1980年報告の付図には、「L-1、L-3、L-5、L-7、L-8、R-1地区」以外の地区名が表記されていない。今回、地区名が推測できるものは図Ⅱ-3に地区名の最後に「?」を付けて表記した。また、地区名の表記はアルファベットと数字の間に「- (ハイフン)」があるもの(1980年報告など)とないもの(1966年報告)に分かれるが、本報告書の記述では便宜的に「-」を付けることで統一した。

本遺跡全体の過去の調査については2015年報告で述べたため、ここでは今回の報告対象であるB地区を含むL地区について地区ごとに述べる。L地区で発掘調査が行われているのはL-1、L-7、L-8地区の3か所である。L-1地区は湖口東側の半島状に突き出た部分で、当センターが調査し本報告の調査範囲であるB地区は、L-1地区の中央付近に位置する。L-7地区は湖東岸のほぼ中央に位置する。L-8地区は北側のオホーツク海に面する突き出した半島状の台地の部分である。

L-1地区は台地中央付近から南側斜面にかけて多数の堅穴がみられ、本遺跡内でも大規模なものである。昭和39(1964)年に東京教育大学により調査が行われ、縄文時代前期型文尖底土器の時期の堅穴住居跡4軒(「第1・25・29・30号堅穴」)を確認した。これらの遺構については第Ⅵ章3節で述べているので参照願いたい。また、L-1地区の西側突端部に位置するトーサムボロ沼2号チャシ(現在は道路工事により消滅)の壕について、1966年報告にトレンチ調査等を行った等の記述があるが詳細は不明である。また、上記の様にL-1地区は当センターにより、平成21～23(2009～2011)年と平成26(2014)年に調査が行われた。前者の内容は2015年報告に、後者は本報告書に掲載されている。これらの詳細はここでは省略する。

L-7地区は昭和43・45(1968・1970)年の2か年で、発掘調査が行われている。昭和43(1968)年は縄文時代前期より古い堅穴住居跡の検出を目的の一つとして、近接している小さなくぼみ2か所



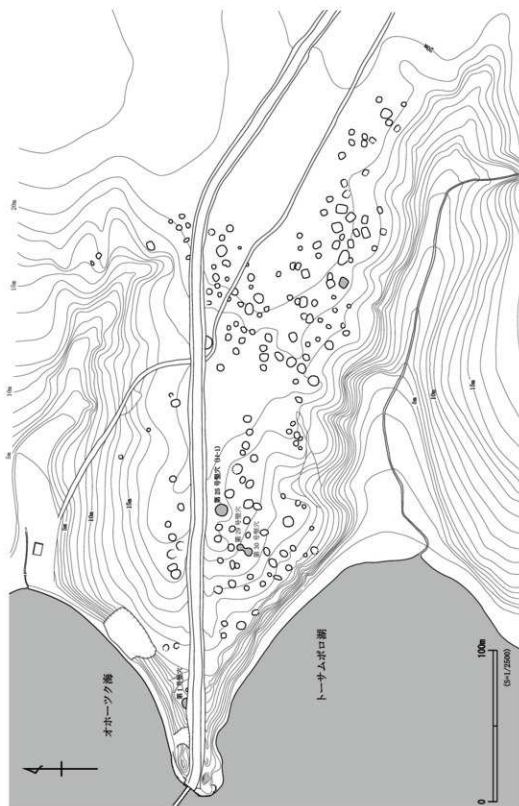
(この図は筑波大学歴史・人類学系 1980『筑波大学先史学・考古学研究室調査報告Ⅰ『北海道東部地区の遺跡研究』の付図1「トーサムボロ湖周辺竪穴全体図」をトレースし、縮小・加筆したものである)

図Ⅱ-3 トーサムボロ湖周辺竪穴群竪穴分布図



(この図は筑波大学歴史・人類学系 1980『筑波大学先史学・考古学研究室調査報告1 北海道東部地区の遺跡研究』の付図1「トーサムボロ湖周辺竖穴全体図」をトレースし、縮小・加筆したものである)

図Ⅱ-4 トーサムボロ湖周辺竖穴群L地区竖穴分布図



(この図は民族教育委員会1996『北海道根室の先史遺跡』第42図「L1地区堅穴分布図」を伴トレース・縮小し一部加筆したものである)

図II-5 L-1地区堅穴分布図

表Ⅱ-1 トーサムボロ湖周辺野穴群L地区調査一覧

調査年	調査主体	調査地点	調査要領	調査内容	主な時期	調査した遺構	出土遺物	文献
昭和30年	東京教育大学	L-1地区	-	発掘調査 野穴分佈、地形測量調査	縄文時代前期	縄文時代前期第Ⅵ住居跡4軒、 野穴くぼみ7か所	縄文早期赤瓦土器、前期厚板瓦土器、 中～後期北陸式土器、石器	関東府教育委員会 1966 『北海道野穴群の先史遺跡』
昭和43年	東京教育大学	L-8地区	-	発掘調査 地形測量	縄文文化期	縄文文化期高塚2基、 オホノツ文化期7 野穴19か所、小土器7か所 配石10か所	縄文土器(高塚)、オホノツ式土器、麻縄	
昭和45年	東京教育大学	L-7地区	-	発掘調査	縄文時代早期・晩期	縄文時代早期上住居、 晩期第Ⅵ住居跡1軒	早期赤瓦土器・麻縄、 晩期第Ⅵ住居跡土器、 石器	東京大学 歴史学、人類学系 1980 『筑波大学先史学・考古学研究所報告 第11 北海道東部地区の遺構研究』
昭和45年	東京教育大学	L-7地区	-	発掘調査	縄文時代前期・縄文時代	縄文時代前期第Ⅵ住居跡群、 縄文時代第Ⅵ住居跡群	早期赤瓦土器・麻縄、 縄文土器、石器	
平成21年	(財)北海道教育文化センター	0地区(L-1地区)	40㎡	発掘調査(航空写真)	縄文時代前期	野穴くぼみ	縄文時代前期～後期土器、石器	(58頁) 北海道教育文化センター 『筑波大学先史学・考古学研究所報告 第11 北海道東部地区の遺構研究』
平成22年	(財)北海道教育文化センター	0地区(L-1地区)	112㎡	発掘調査	縄文時代前期	野穴くぼみ、 野穴住居跡群、土坑7基、 野穴住居跡群、土坑1基、 野穴住居跡群、土坑1基、 野穴住居跡群、土坑1基	縄文時代前期～後期土器、石器	
平成23年	(財)北海道教育文化センター	0地区(L-1地区)	1,410㎡	発掘調査	縄文時代前期	野穴くぼみ、 野穴住居跡群、土坑1基、 野穴住居跡群、土坑1基	縄文時代前期～後期土器、石器	
平成26年	(財)北海道教育文化センター	0地区(L-1地区)	2,700㎡	発掘調査	縄文時代前期	野穴くぼみ、 野穴住居跡群、土坑1基、 野穴住居跡群、土坑1基	縄文時代前期～後期土器、石器	当報告

表Ⅱ-2 トーサムボロ湖周辺野穴群L地区調査遺構一覧

調査地点	調査年	遺構名	種別	時期	主な出土遺物	備考	文献
L-1地区	昭和39年	第1号野穴	野穴住居跡	縄文時代前期	赤瓦土器、神型瓦土器、北陶 式土器、石器	L-1地区西端の野穴、南側開平。	
		第25号野穴	野穴住居跡	縄文時代前期	神型瓦土器、石器	平成21年度に再調査(計-1)。	
		第29号野穴	土坑?	縄文時代前期	神型瓦土器、石器	張り出し部、「栴」5塊あり。土層2基層 出(小型瓦土器、骨片、赤色陶質出土)。	関東府教育委員会 1966 『北海道野穴群の先史遺跡』
		第30号野穴	野穴住居跡	縄文時代前期	神型瓦土器、北陶式土器、石器	床のトレンヌ調査、詳細は不明。	
		トーサムボロ湖上野穴チャレン	チャレン	アイヌ文化期	チャレン内に位置する第1号野穴表土より 灰部片、瓦片、骨角部、人骨出土。		
L-7地区	昭和43年	4号野穴	野穴住居跡	縄文時代晩期	晩期(母・同式)土器、石器	石依張り出し部あり。	
		5号野穴	土坑	縄文時代早期・中～ 後期・晩期?	赤瓦土器、北陶式土器、晩期土器、 石器(石片・形跡あり)	土坑4基(P1～P4)がみられる。 1号野穴(PP0～29)、5号野穴東方の拡張区、 第Ⅵ住居跡より新しい、古瓦張り出し部あり。	東京大学 歴史学、人類学系 1980 『筑波大学先史学・考古学研究所報告 第11 北海道東部地区の遺構研 究』
		ビツ群	野穴住居跡	縄文時代	縄文土器、石器(有角石あり)	外側野穴より新しい、古瓦張り出し部あり。	
		31号野穴(内側野穴)	野穴住居跡	縄文時代早期?	赤瓦土器	内側野穴より古い、厚板瓦ラ上上で検出。	
		第1号野穴(外側野穴)	土坑	縄文文化前期	縄文土器(高塚)2個体	平間:長方形、長軸210cm、短軸0.75m。 野間:長方形、長軸190cm、短軸0.55m。	関東府教育委員会 1966 『北海道野穴群の先史遺跡』
L-8地区	昭和49年	第2号野穴	土坑	縄文文化後期	環状銅製品		
		配石遺構	遺構不明	オホノツ文化期?	オホノツ式土器、縄	小土坑を伴う?	

※平成21～23(2009～2011)・26(2014)年調査の遺構については省略

の調査が行われた。調査の結果として、縄文時代晩期の竪穴住居跡1軒（「4号竪穴」）と複数の時期と考えられる土坑4基（「5号竪穴」）、また5号竪穴東側の拡張区で摩周テフラ下位より縄文時代早期の土坑15基からなる「ピット群」が検出されている。昭和45（1970）年は、表面観察で柄鏡状のくぼみ1か所の調査が行われ、重複する竪穴住居跡2軒（「31号竪穴」）であることが判明した。新しい竪穴住居跡（「内側竪穴」）は舌状の張り出しを有するもので、時期は続縄文時代である。古い竪穴住居跡（「外側竪穴」）の時期は不明だが、条痕文土器が出土していることから縄文時代早期の可能性が指摘されている。ただし、「外側竪穴」は摩周テフラを掘り込んで構築されており、当センターの調査では条痕文土器である浦幌式は、遺構も含めて摩周テフラの下位から検出しているため、条痕文土器より新しい時期のものと考えられる。

L-8地区はL-1地区と同じ昭和39（1964）年に発掘調査が行われ、縄文文化期後期の土坑墓2基（「第1・2号墓壇」）が検出されている。2基共に平面が長楕円形で、第1号墓壇からは縄文土器（高坏）2個体が、第2号墓壇からは環状の銅製品1点が出土している。また、これらに近接して礫集中1か所（「配石遺構」）がみられ、周辺出土のオホーツク式土器などからオホーツク文化期の土坑墓に伴う配石の可能性が報告書で指摘されている。当センターでは、平成23年度にA地区（「R-1地区」）の調査でオホーツク文化期、貼付文土器の時期の土坑墓を5基確認した。これらも配石を伴っており、礫の検出状況はL-8地区のそれと類似している。なお、現在L-8地区は、「トーサムボロ東岸墳墓群」という遺跡名が付けられ、本遺跡から分離されている（本章第3節参照）。

3. 周辺の遺跡（図II-6、表II-3）

根室市内では現在のところ306か所の遺跡が確認されており、北海道内でも遺跡数が非常に多い地域のひとつである。遺跡の分布傾向はオホーツク海に接する根室半島北側の台地に多くみられ、太平洋に接する南側には少ない。また、根室半島北側でも西側に多く、特に風連湖に注ぐ別賀川沿いは密である。遺跡の種類別では集落跡が全遺跡数の3分の2以上と多い。これは、開発行為等による削平などがあまりみられず、自然地形が良好に残る場所が多いため、冷涼な気候により埋まりきらない竪穴が、地表からくぼみとして確認しやすいことが大きな理由として挙げられる。時期は縄文時代からアイヌ文化期までの各時期がみられるが、今のところ旧石器時代の遺跡は確認されていない。国指定史跡としては、縄文文化期と考えられる大小約350個の竪穴が密集して分布している西月ヶ岡遺跡（4）と、アイヌ文化期のチャシ跡24か所からなる根室半島チャシ群跡（8～12・14・21～24・57・65・76・79・83～85ほか）がある。

当遺跡は根室半島先端付近、オホーツク海に面する北側台地に位置し、周辺には集落跡、チャシ跡、墳墓、遺物包含地などが、温根元、トーサムボロ湖、サンコタン川、ノッカマップ岬、コタンケシ川周辺といった地域ごとにとまらりをもって分布している。立地はオホーツク海に面する海岸段丘上や、小河川沿いの台地上に多い。遺跡の時期は縄文時代～アイヌ文化期まで各時期みられるが、時期別にみると縄文時代、アイヌ文化期が多く、続縄文時代及び縄文文化期は比較的少ない。また、アイヌ文化期の遺跡は多くがチャシ跡で国指定史跡のものが含まれている。表II-3として周辺の遺跡一覧表を示した。

縄文時代の遺跡は多く見られる。発掘調査が行われたものとして、コタンケシ遺跡（15）、ノッカマップ川東岸竪穴群（55）、サンコタン川東岸竪穴群（63）がある。コタンケシ遺跡では縄文時代早～前期の遺構、ノッカマップ東岸竪穴群では縄文時代後期の竪穴住居跡が検出された。

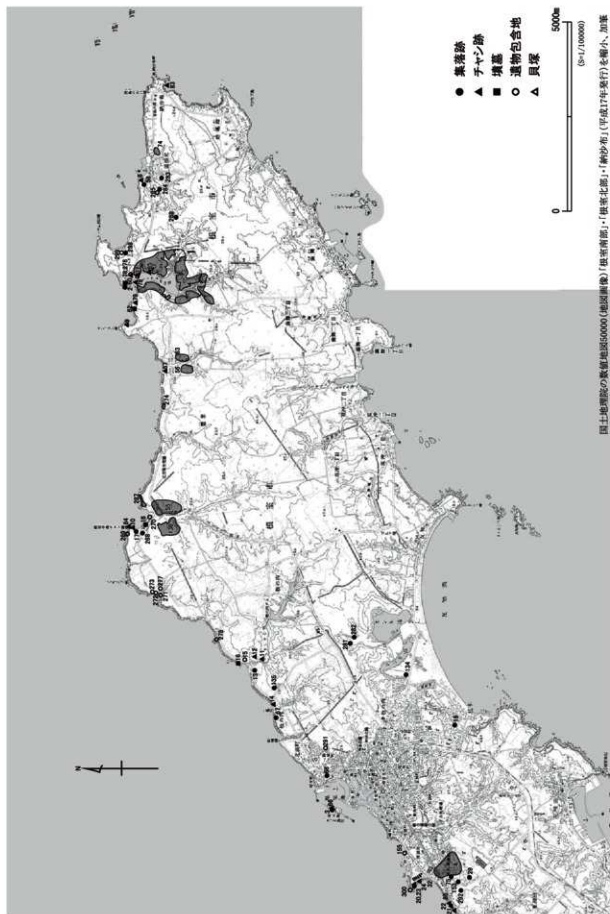


図 II-6 周辺の遺跡

表II-3 周辺の遺跡一覧

登録番号	遺跡名	種別	時代	所在地	標高	高さ	面積	文献	備考
1	トーマスボロ西岸壁穴群	集落跡	縄文、縄文後、オホホツテ、縄文、アイヌ	標高141.85-1.89-1.、 西約101-111	5-30m	○	表II-1参照		当報告
2	トーマスボロオホホツテ穴群	集落跡	オホホツテ	標高106.1,101-1,103	10m	○	北編保原ほか 1963 多編保原ほか 1984		
3	弁天島日原壁穴群	集落跡	オホホツテ	弁天島	10m	○	報告書教育委員会 1966 北編文化研究会 1968 北編文化研究会 1979 西本編 2003 北編文化研究会 2009		
4	西川1号壁穴群	集落跡	縄文	西河内63.4-1・2地	25m	○	報告書教育委員会 1965 報告書教育委員会 1983		
8	フナモトチヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高元50.60,60地先	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
9	コングワムイヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高37.26-1.34地先	15m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
10	フナマツ1号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	牧の内130,130-1,130-3・4地先	20m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
11	コングワム2号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	牧の内149-1,210-1	23m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
12	コングワム1号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	牧の内210	12m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
13	コングワム川西岸壁穴群	集落跡	不明	牧の内78-2,90-1	8m	-			
14	シナハラウチヤン跡	チヤン跡	アイヌ	牧の内75-2,75-2地先	-	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
15	コングワム遺跡	遺物包埋地	縄文早期・前期・中期、縄文後、オホホツテ、縄文、アイヌ	牧の内145-1,252	8-13m	○	北編文化研究会 1977 報告書教育委員会 1994		
16	コングワム墳墓群	墳墓	アイヌ	牧の内119地先	14m	-			
17	フナマツ西岸穴群	集落跡	縄文	牧の内127-1,130	7m	-			
18	フナマツ墳墓群	墳墓	アイヌ	牧の内127-84	10m	-			
19	コウラウシ塚群	集落跡	縄文、縄文後、縄文	標高106-1	20m	-	北編保原 1941		
20	キヤトイン壁穴群	集落跡	縄文	西河内15-191,192地	16m	-			
21	ムナツラウ5号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高7,15,5,13-5地先	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
22	ムナツラウ2号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高7,7地先	14m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
23	アツケスト1号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	西河内10-200地	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
24	アツケスト2号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	西河内10-200地先	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
29	東和田壁穴群	集落跡	不明	東和田70	25m	-			
32	キヤトイン塚	塚	不明	西河内10-300-302	15m	-			
35	フナマツ川東岸壁穴群	集落跡	縄文早期・後期、縄文	標高3-2	10m	○	筑波大学歴史・人類学系 1980		
36	フナマツ川西岸壁穴群	集落跡	縄文	標高74-1	16m	○	筑波大学歴史・人類学系 1980		
57	コングワムチヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高14-1地先	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
58	オホホツテ壁穴群	集落跡	オホホツテ	標高元55	20m	○	報告書教育委員会 1974		
60	トーマスボロ西岸墳墓群	墳墓	縄文	標高110.3,131.45,-1	10m	-	報告書教育委員会 1965		II-トーマスボロ1,3地
62	トーマスボロ西岸墳墓群	墳墓	不明	標高40.2・同地先	-	-			
63	フナマツ川東岸壁穴群	集落跡	縄文、縄文	標高18-1	10m	○	筑波大学歴史・人類学系 1980		
65	トウシュム1号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高96-1	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
66	弁天島チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	弁天島	-	-	子田川ほか編 1985		
67	スナボウシ壁穴群	集落跡	不明	北河内2-10-1,14	5m	-			
68	ベニケムシ壁穴群	集落跡	縄文早期・前期	標高471-5	10m	-	澤ほか 1963		
71	オホホツテ壁穴群	集落跡	縄文後、縄文	標高49,49-12	10m	-			
73	樺立壁穴群	集落跡	不明	標高89	15m	-			
76	ヒカサチヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高元145-3	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
77	トーマスボロ2号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高96-1	10m	○	報告書教育委員会 1966 子田川ほか編 1985 同上編 1985		消滅 1964年一部崩壊
78	トーマスボロ4号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高41・同地先	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		消滅
79	トウシュム2号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高96-1	15m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
83	ボウキチヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高布12・同地先	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
84	フナマツ2号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	牧の内130,130-1,130地先	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
85	ムナツラウ1号チヤン跡	チヤン跡	アイヌ	標高7,7地先	10m	-	子田川ほか編 1985 同上編 1985		国指定史跡
134	シラヒ遺跡	集落跡	不明	牧の内156-1	5m	-			
135	オホホツテ東岸墳墓群	集落跡	不明	牧の内17-1	20m	-			
138	フナマツ川西岸壁穴群	集落跡	不明	牧の内134-1地先	10m	-			
133	樺立壁穴群	集落跡	不明	標高92.8,80	20m	-			
135	西河内遺跡	遺物包埋地	不明	西河内10-4-2	10m	-			
268	フナマツ東岸穴群	集落跡	不明	牧の内127-1・8	25m	-			
309	フナマツ川東岸墳墓群	遺物包埋地	縄文	牧の内133-3地先	10m	-			
270	フナマツ川河口遺跡	遺物包埋地	不明	牧の内127-84,133	10m	-			
271	フナマツ川西1遺跡	遺物包埋地	縄文	牧の内126-2	5m	-			
272	フナマツ川西2遺跡	遺物包埋地	縄文	牧の内245-1	5m	-			
273	フナマツ川西3遺跡	遺物包埋地	縄文	牧の内252-2	5m	-			
274	コホウ河川遺跡	遺物包埋地	縄文	香里国府史跡群	5m	-			
276	ヒカサチヤン跡	遺物包埋地	縄文早期・中期	標高元145-3	10m	-	西河内ほか 1992		
277	フナマツ川西4遺跡	遺物包埋地	縄文	牧の内127-5-1	15m	-			
278	コングワム1号遺跡	遺物包埋地	縄文	牧の内115-1	5m	-			
281	オホホツテ壁穴群	集落跡	不明	牧の内164-6	20m	-			
283	オホホツテ壁穴群	集落跡	不明	牧の内146-7	20m	-			
283	オホホツテ東岸穴群	集落跡	不明	地蔵塚1丁目132-15	22m	-			
284	オホホツテ西1壁穴群	集落跡	不明	地蔵塚1丁目131-1	10m	-			
285	オホホツテ西2壁穴群	集落跡	不明	地蔵塚1丁目131-1	20m	-			
287	フナマツ東岸穴群	集落跡	縄文	香里国府史跡群	5m	-			
288	オホホツテ西2壁穴群	集落跡	不明	地蔵塚1丁目131-1	20m	-			
291	樺立壁穴群	遺物包埋地	縄文早期	樺立町3-25-8	22m	-			
292	樺立壁穴群	遺物包埋地	不明	標高9-10	20m	-			
298	トーマスボロ壁1壁穴群	集落跡	縄文	標高元157-7	20m	-			
298	トーマスボロ壁1遺跡	遺物包埋地	縄文	標高元155-1	19m	-			
300	キヤトイン遺跡	遺物包埋地	アイヌ	西河内10-213	10m	-			

縄文時代ではオンネモト東堅穴群(74)、サンコタン川西岸堅穴群(56)、コタンケシ遺跡、カツラムイ堅穴群(19)がある。サンコタン川西岸堅穴群はサンコタン川東岸堅穴群の対岸に広がる遺跡で、発掘調査が行われており、堅穴住居跡が1軒確認されている。

オホーツク文化期では、トーサムボロオホーツク堅穴群(2)、オンネモト堅穴群(58)、弁天島貝塚堅穴群(3)などがある。トーサムボロオホーツク堅穴群は昭和15(1940)年、56(1981)年に調査が行われ、昭和15年は貝塚10か所、昭和56年は6軒ある堅穴住居跡の内1軒が調査されている。共に遺構の時期は刻文期で、遺物は土器、石器、骨角器などが出土した。オンネモト堅穴群は昭和41・42(1966・1967)年に調査が行われ、貼付文期の堅穴住居跡2軒と貝塚1か所が調査されている。遺物は土器、石器、骨角器などが出土している。弁天島貝塚堅穴群は、根室港の北西側にある弁天島に立地し、明治時代以降多くの調査が行われている著名な遺跡で、刻文～貼付文期の堅穴住居跡や複数の貝塚などが確認されている。また、コタンケシ遺跡でも堅穴住居跡1軒が調査されている。

擦文文化期では、オンネモト東堅穴群、トーサムボロ岬1堅穴群(298)、サンコタン川東岸堅穴群、ノッカマップ川東岸堅穴群、ノッカマップ西堅穴群(17)、上述の国指定史跡である西月ヶ岡堅穴群(4)などがある。発掘調査はノッカマップ川東岸堅穴群とサンコタン川東岸堅穴群、西月ヶ岡遺跡で行われており、堅穴住居跡の調査が行われている。また、墳墓としてトーサムボロ東岸墳墓群(60)がある。2節でもふれたが、この遺跡は過去に東京教育大学により調査が行われており、その時点では当遺跡の一部(L-8地区)として扱われていたが、その後分離されたものである。東京教育大学の調査では土坑墓2基が確認されている。

アイヌ文化期は、チャシ跡が多くみられる。上述の様に根室半島はチャシ跡が多く分布しており、この地域の特徴となっている。その内24か所が「根室チャシ跡群」として国指定史跡になっている。当遺跡周辺にはボンモイチャシ跡(83)、ヨンネモトチャシ跡(8)、ヒリカヨタチャシ跡(76)、トウシャム1号チャシ跡(65)、トウシャム2号チャシ跡(79)、コンブウシムイチャシ跡(9)があり、多くのチャシ跡が分布している。他に、道路工事等で破壊されてしまったトーサムボロ沼2チャシ跡(77)、トーサムボロ沼4チャシ跡(78)がある。また、サンコタン川周辺にはサツコタンチャシ跡(57)、ノッカマップ岬周辺ではノッカマップ1号チャシ跡(10)、ノッカマップ2号チャシ跡(84)が分布している。墳墓としてはノッカマップ墳墓群(18)、コタンケシ墳墓群(16)があるが、詳細は不明である。また、コタンケシ遺跡では土坑墓が確認されている。

(広田)

Ⅲ章 調査の概要

1. 発掘区の設定 (図Ⅲ-1・2 表Ⅲ-1)

調査区はトーサムボロ湖が北側の海とつながる湖口部分にある大きな半島状の突出部に位置する。なお、平成21～23 (2009～2011) 年度 (以下「過年度」) には西側の突出部をA地区、東側をB地区と呼称し調査を行っており、今回の発掘区はB地区の過年度調査区の北側に接する場所である。過年度調査の発掘区設定などの詳細については平成26 (2014) 年度に当センターが刊行した北埋調報317『根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群 (1)』 (以下「北埋調報317」) 第Ⅲ章1節を参照願いたい。

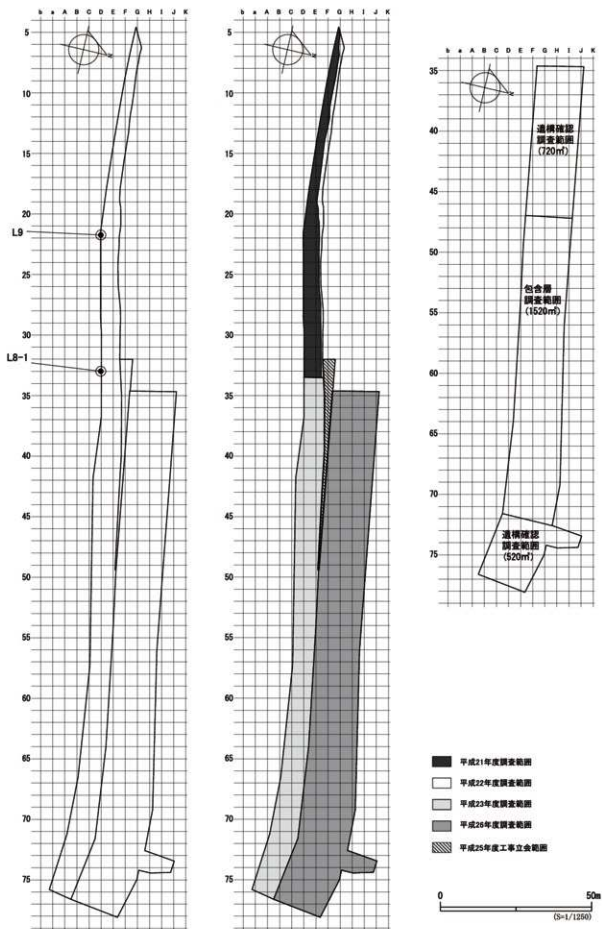
基図は北海道釧路土木現業所「平成21年度根室半島線 (雪-327) 交付金工事用地平面図 (現況平面図) 1:1000」の図葉2うち1号 (平成21年8月測量) 及び北海道釧路建設管理部「平成24年度根室半島線 (B改-664) 交付金工事仮設道路設計委託先行調査平面図」を主に使用した。

B地区の発掘区の設定は、過年度調査のものを踏襲した。工事用地内の直線部分である用地幅杭のL9～L8-1を結んだ部分を基線とし、これをアルファベット大文字のDラインとした。アルファベットラインは北方向へ昇順としKラインまで設定した。また、Aラインのさらに南側は小文字の「a」、「b」ラインを設けている。L8-1をD-33杭とし、この点を基準として、アルファベット基線に直交する数字ラインを設け、西方向へ降順とし、4～79ラインまでを設定した。アルファベットラインは東西方向、数字ラインは南北方向である。グリッドは4m単位で、その呼称は南西側の杭名とした。今回の調査範囲はアルファベットラインが「A～K」、数字ラインが「34～79」となる。

L8-1 (D-33杭) からL9への方向角は $256^{\circ}18'02''$ で、数字ラインの南から北方向のラインで整理すると、数字ラインは $13^{\circ}41'58''$ 座標北から西方向へずれる (方向角: $346^{\circ}18'02''$)。また、二点間の直線長は45.248mで、L8-1はD-33杭であるが、L9はグリッド杭とは一致しない。

B地区の年度ごとの調査区を図Ⅲ-1に示した。過年度は現道部分の南側で、道路沿いの長さ約300mの細長い範囲を調査した。その後、平成25年度に道路切り替えの工事が行われることになり、仮道にかかる現道の法面範囲190㎡ (調査区南西側のE・F-32～50区付近) について、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課により、遺構・遺物の有無を確認する工事立会が行なわれたが、遺構・遺物は検出されなかった。本報告である平成26 (2014) 年度は、仮道路切り替え後に、過年度調査区北側の現道部分を調査した。調査区は長さ約170m、幅約16mの細長い形状で、調査面積2,760㎡の内、調査区西側の概ね34～47ラインにあたる720㎡、東側520㎡の合計1,240㎡は遺構確認調査範囲である。なお、各年度・調査区の測量の概要は表Ⅲ-1にまとめた。

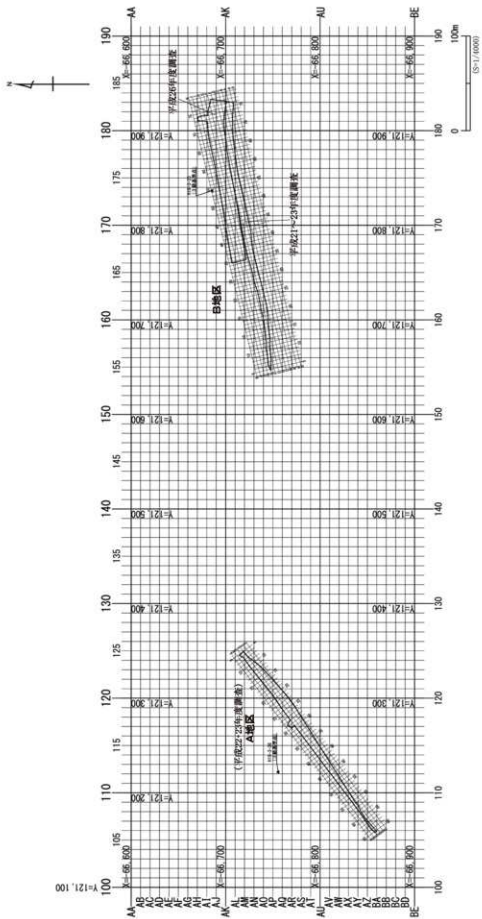
なお、本遺跡はトーサムボロ湖周囲はほぼ全体に広がる大規模な範囲であるため、過去の調査成果や将来的に行われる調査を統合するために、遺跡全体を網羅しうる世界測地系に基づく10m単位の大グリッドを設定した (北埋調報317 第Ⅷ章5節参照)。平面直角座標の $X=-66600.000\text{m}$ $Y=121100.000\text{m}$ (XⅢ系) を「仮の原点」とし、東西方向を区切るX座標は二つのアルファベットを組み合わせた記号 (アルファベットライン)、南北方向を区切るY座標は算用数字 (数字ライン) を付し、仮の原点は「AA」と「100」とした。グリッド名称は北西側の交点とし、これらをハイフンで結び「AA-100」とした。方向角は0度である。アルファベットラインは南方向へ昇順し、AA～AZ、BA～BZのように表記する。北方向に広がる場合はzz～zaのアルファベット小文字を付す。数字ラインは西から東へと昇順する。B地区の大グリッド上での位置は、過年度調査区がAJ～AO-154～183



図Ⅲ-1 B地区調査区設定図・年度別調査範囲図

表Ⅱ-1 B地区測量の概要

調査年度	基線 グリッドライン		グリッド杭		基線杭		基線杭の種類		地理座標 (°、′、″)		平面直角座標 (X、Y) m		備考
	南北方向	東西方向	D-22杭 近く	終点	L 9	用地幅杭 左側	43-23-21.7	145-45-08.5	X	Y			
平成21 (2009) ～ 平成23 (2011) ・平成25 (2013)	基線 二点間の距離 m (L 9→L 8-1)		43.248	基線 方向角 (°、′、″)		256-18-02		座標北との ずれ		南北磁字ライン 西へ 13-41-58			
平成21 (2009) 年度	基準点測量 与点		平成18年度 設置 既設基準点 2級「H-18-2-3」・3級「H-18-3-22-26」・工事用新設基準点「T 1～T 20」										
	水準測量 与点		上記基準点の測量で、新設した4級基準点T 6 (BM no.1) H=19.316m 設置したグリッド杭G-05をBM no.2とした。H=14.865m										
	概要 ・基準点測量はT S測量で、上記の各基準点網を設定し、これに含まれる工事用4級基準点「T 5」・「T 6」からグリッド杭を打設した。 ・水準測量は新設の4級基準点「T 6」(H=19.316)から、グリッド杭G-05まで水準路線を設定した。 ・測量成果に、「平成15年十勝沖地震対応成果」を踏まえている。												
	H-18-2-3		2級	平面直角座標 m	X = -66,991.594		Y = 121,064.366	標高 m	30.351				
	基準点 T 5		4級	平面直角座標 m	X = -66,724.097		Y = 121,773.152	標高 m	19.803	道路土木現業所 設置			
基準点 T 6		4級	平面直角座標 m	X = -66,714.305		Y = 121,723.011	標高 m	19.316	道路土木現業所 設置				
平成23 (2011) 年度	基準点測量 与点		西等三角点「三古丹」・「豊型」・「磨塞」・「最根元」 工事用既設 2・3級基準点「H-18-3-3」・「H-18-3-25」・「H-18-3-24」・「H-18-3-23」・「H-18-3-22」										
	水準測量 与点		工事用既設 3級基準点 H-18-3-23 (BM no.1) H=19.146m グリッド杭 E-33 (BM no.2) H=19.538m										
	概要 ・基準点測量は、T S測量を行い、上記の各基準点網を設定し、これに含まれる工事用3級基準点「H-18-3-25」から、グリッド杭を打設した。 ・水準測量は、3級基準点「H-18-3-23」(H=19.146m)から、グリッド杭 E-33まで水準路線を設定して行った。 ・測量成果に、「平成15年十勝沖地震対応成果」を踏まえている。												
	H-18-3-25		3級	平面直角座標 m	X = -66,735.606		Y = 121,221.994	標高 m	10.944				
	H-18-3-23		3級	平面直角座標 m	X = -66,695.764		Y = 121,836.526	標高 m	19.146				
平成26 (2014) 年度	基準点測量 与点		平成18年度 設置 既設基準点 3級「H-18-3-22・23」・新設基準点「T 1・T 2」										
	水準測量 与点		工事用既設 3級基準点 H-18-3-23 (BM no.1) H=19.146m グリッド杭 F-75 (BM no.2) H=20.846m										
	概要 ・基準点測量は、T S測量を行い、上記の各基準点網を設定し、これに含まれる工事用3級基準点「H-18-3-23」からグリッド杭を打設した。 ・水準測量は、3級基準点「H-18-3-23」(H=19.146m)から、グリッド杭 F-75まで水準路線を設定して行った。 ・測量成果に、「平成15年十勝沖地震対応成果」を踏まえている。												
	基準点 T 1		4級	平面直角座標 m	X = -66,721.663		Y = 121,758.186	標高 m	19.157	当センター設置			
	基準点 T 2		4級	平面直角座標 m	X = -66,698.729		Y = 121,364.755	標高 m	22.403	当センター設置			



※世界測地系グリッドは北西側の交点をグリッド名称とする

図III-2 トーサムボロ湖周辺堅穴群世界測地系グリッド設定図

区、平成26（2014）年度調査区がAH～AM-166～183区である。

2. 基本層序（図Ⅲ-3 表Ⅲ-2）

基本層序は、当センターが行った平成21～23（2009～2011）年度調査のものを踏襲し、必要に応じて一部改変した。各層の観察は『土壌調査ハンドブック』（ペドロジスト懇談会 1984）・『標準土色帖』（小山・竹原 1967）を参考に必要な項目を設けた。内容は基本層序模式図・柱状図（図Ⅲ-3）と表Ⅲ-2にまとめた。

「0層：現地表土」

現地表土で、調査前は道路として利用されていた。下位のⅠ層とは遺構・遺物の有無で区分した。近世アイヌ文化期～現代の層である。

「Ⅰ層：地表土 下位部分」

平成22・23（2010・2011）年度のA地区の調査で、近世アイヌ文化期の遺構・遺物を確認したので、地表土を二つに分けた。すなわち、上位を0層、下位をⅠ層とした。野外土性や色調は0層と同じである。B地区では遺構・遺物が出土していないため、「0・Ⅰ層」と表現している。

「Ⅱ層：黒褐色土層」

黒褐色のシルト質壤土で、本層の上位部分には灰黄褐色、下位では灰白色の火山灰層がみられる地点がある。これらは分析の結果、上位は1739年の樽前a降下火山灰層（Ta-a）、下位は1694年の駒ヶ岳c2火山灰層（Ko-c2）と判明した（北埋調報317 付篇6節参照）。B地区では全体的にⅡ層が不明瞭で、火山灰の堆積もほとんどみられない。

「Ⅲ層：黒色土層」

黒色のシルト質壤土～壤土で、約7,000年前～17世紀の層である。今回の調査では、主に縄文時代早期～後期の遺構・遺物を確認した。過年度調査では縄文時代、オホーツク文化期・糠文化期の遺構・遺物などを確認している。なお、今回の調査では主に調査区東側で、Ⅲ層の中で色調・摩周テフラの混入度に違いがみられたため、Ⅲ層を三つ（Ⅲ1～Ⅲ3層）に細分した。「Ⅲ1層」は過年度調査の「Ⅲ層」と同一のもので、調査区全体に広くみられるものである。他の細分層位が見られない場合、断面図等では「Ⅲ層」と表記している。「Ⅲ2層」は主に調査区中央付近から北東側にかけてみられるもので、色調は黒褐色土で粒径約2～3mmの摩周降下軽石（Ma-i）を少量含む土層である。また、調査区西側でもわずかにみられる。「Ⅲ3層」は調査区中央付近から北東側でみられるもので、色調は黒～黒褐色で粒径約2～4mmの摩周降下軽石（Ma-i）を少量含む土層である。

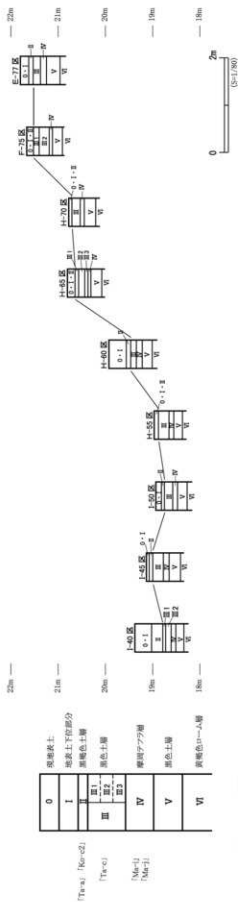
なお一部くぼみには、にぶい黄褐色の火山灰層がみられ、これは約2,000年前の樽前c降下火山灰層（Ta-c）である（前出 参照）。

「Ⅳ層：摩周テフラ層（Ma-i と Ma-j）」

約7,000年前（縄文時代早期）に降下した摩周カルデラの噴出物から構成される層である。上位は軽石層、下位は火山灰層である。上位の軽石層の分級は、下部分はやや粗粒で上部分へと細粒になる。これは摩周i降下軽石層（Ma-i）である。下位の火山灰層は、粒度区分は「砂」が多く、摩周j降下火山灰層（Ma-j）である（前出 参照）。なお、Ⅲ層とⅣ層の間には漸移的な層位がみられる部分もあったが、漸移層として区分するほどの層厚がなかったため、漸移層として区分はしていない。

表Ⅲ-2 基本層序

層名	細分層	名称	層厚 (cm)	層界	砂・シルト・粘土			礫 (長径2mm以上)			備考
					野外土性	マンゼル表色系	粘着性	堅固度	種類	混入割合 (体積割合)	
O層	I層	埋地表土 (牧草場)	平均: 10 最大: 30	粒状	黒色 10YR1.7/1他	中~強	軟~堅	無	無		
		地表土 下位部分	平均: 10 最大: 20	明瞭	黒色 10YR1.7/1他	中~強	軟~堅	無	無	アイス文化期の遺物も含んで、0層と区別	
II層	III層	黒褐色土層	平均: 5~7 最大: 15	明瞭 ~明瞭	黒褐色 10YR2.7/2.3	中~強	軟~堅	無	無	アイス文化期の遺物も含んで、0層と区別 上位: 「Ta-a」1739年 下位: 「Kc-e2」1894年 B地区ではほとんどみられない	
		III 1層	平均: 5~10 最大: 30	粒状	黒色 10YR1.7/1他	中~強	堅	Mo ₁ ・礫石 1~10%	大小: 3 平均: 2	卵行	■層中 黄褐色火山灰 の付着が認められる ・■I層は赤褐色の土層に 対応し、ほぼ最高区全体でみられる ・■II層、■III層は主に遺物区中央から 北側部のみみられる
		III 2層	平均: 5~10 最大: 30	粒状	黒褐色 10YR2.7/2.3	中~強	堅	Mo ₁ ・礫石 1~10%	大小: 3 平均: 2	卵行	
III 3層		平均: 10~15 最大: 30	粒状 ~漸変	黒色 10YR2.7/2.3	中~強	軟~堅	Mo ₁ ・礫石 1~10%	大小: 3 平均: 2	卵行		
IV層		黒褐色ローム層	平均: 10~20	粒状	全体的に (赤褐色) ~ 褐色 (7.5YR6/6) の色調 詳細は 火山噴出物層参照					約7000年前 かつては「Ma-e」と理解されていた層 上位: 「Ma-e」・下位: 「Ma-j」	
V層		黒色土層	平均: 10	漸変	シルト質粘土 ~壤土	中~強	堅	無	無		
V~VI層	VI層	漸移層	平均: 10	漸変	シルト質粘土 ~壤土	強	堅	無	無		
		黄褐色ローム層	—	—	シルト質粘土 ~壤土	強	堅	無	無		
火山噴出物層											
		Ta-a 降下火山灰層	平均: 0.5~1	面状 ~明瞭	■層中 アイヌ文化期の遺物の下位 灰褐色 10YR6/2 火山灰層 (長径1/8~1/6mm)					B地区ではほとんどみられない	
		Kc-e2 降下火山灰層	平均: 0.5~1	面状 ~明瞭	■層中 アイヌ文化期の遺物の下位 灰褐色 10YR7/1 火山灰層 (長径1/8~1/6mm)					B地区ではほとんどみられない	
		Ta-c 降下火山灰層	平均: 2 最大: 10	漸変	約2000年前 黒山山噴出の降下火山灰層 ■層中の遺物のくぼみ等に出現 にがい黄褐色 (10YR4/3) 火山灰層 (長径1/8~1/6mm)						
		Ma-i 降下粒石層	平均: 6	面状	IV層の上層部 粒石の色調 外形: (昏~明褐色) 内部: (黄褐色) 組織状劣化 風化 約7000年前 黒山山噴出の降下粒石層 約1000年前 黒山山噴出の降下粒石層 約7000年前 黒山山噴出の降下火山灰層 上位へと細粒 (1~2mm) で、下位はやや粗粒 (5mm)						
		Ma-j 降下火山灰層	平均: 0.5以下 最大: 0.5以下	粒状 ~明瞭 ~明瞭	IV層の下層部 黄褐色 (黄褐色) 砂質 約7000年前 黒山山噴出の降下火山灰層 IV層の下層部 (灰色) 砂質・重質・漸次					本遺跡では、降下粒石層のみならず、 黄褐色層と灰色層の 二つのユニットが認められた	



図Ⅲ-3 B地区基本層序模式図・柱状図

「V層：黒色土層」

黒色のシルト質壤土～壤土で、やや粘着性を帯びる。平成22・23（2010・2011）年度に調査を行ったA地区では縄文時代早期の遺構・遺物を確認したが、B地区では過年度調査を含め確認していない。

「V～VI層：漸移層」

上位の黒色土層と下位のVI層の間にあり、色調等の漸移的な変化がみられる。

「VI層：黄褐色ローム層」

黄褐色を呈する「ローム層」で、粘着性が強く、堅密度は堅である。本遺跡の「地山」と判断する。

土層断面は主に調査区北壁付近を観察し、I-40区から西側に約20mごとに柱状図を作成した（図Ⅲ-3）。II層は全体的に薄く、調査区東側ではほとんど確認できない部分もみられる。III層は、調査区全体ではIII 1層（過年度調査のIII層）が主体で、やや標高の高い調査区東側ではIII 1層に加え、III 2層・III 3層がみられる。

3. 調査の方法

今回の調査区は中央付近の包含層調査を含む通常発掘調査範囲（1,520㎡）と、その東西に位置する遺構確認調査範囲（1,240㎡）に分かれている。遺構確認調査範囲は、概ね34～47ラインの間の西側部分（720㎡）と、72～78ラインの間の東側部分（520㎡）の二か所に分かれる。B地区では、平成21～23（2009～2011）年度の調査及び試掘調査、また、今回のトレンチ調査で、V層以下の層から遺構・遺物を検出していないため、調査の最終面をIV層上面としている。

今回の調査範囲は調査前の現状が道路であったため、最初に建設機械で道路のアスファルトや砂利などの除去を行った。道路建設による攪乱は、全体的にIII層上位付近までみられ、道路の側溝部分などではVI層中まで攪乱されている部分もみられた。また、調査区東側と西側の遺構確認調査範囲については、最終面であるIV層上面まで建設機械で掘削し、その後人力で細かい攪乱等を除去した。また、G・H-72・73区付近で、III層中から焼土を確認したため、周辺を含めIII層を残し人力で調査を行った。西側の遺構確認調査範囲のうち、概ね35～41ライン南側はVI層中位まで道路工事により広く削平されていた。調査の順序は排土場所等の都合により、調査区の東西にある遺構確認調査範囲から優先して行った。遺構確認調査範囲では、IV層上面の清掃・精査を行い、遺構の検出に努めた。その後遺構確認調査に併行して、47ラインより東側から包含層調査を行った。調査期間後半には、49～72ラインの間の仮道（切り替え道路）の法面下部分の調査を行った。幅約3m、長さ約90mの範囲で、建設機械でIII層上面まで除去し、その後人力でIII層を掘り下げ、検出した遺構は随時調査を行った。安全確保のため、法面下部分は調査終了後速やかに埋戻しを行った。最終的に包含層全体をIV層上面まで掘り下げ、地形測量を行い、検出した遺構を調査した。

遺構調査は、検出後、トレンチ・半截等により土層断面の観察と、壁・床面あるいは底面の有無などから、遺構かどうかを判断した。遺構と判断した場合は、覆土の掘り下げ、遺物の取り上げ、土層断面の記録などを行い、最終的に全体を掘り下げ、平面図等の作成や写真撮影などを行った。竪穴住居跡等で付属施設がある場合、それらの調査も行った。竪穴住居跡などの付属遺構である柱穴・杭穴に関しては断面形状を4種類に分類した。まず、壁の形状を基に底面に向かって壁が収束するものと、底面に対し両壁が概ね直角で、前者に比べ比較的に太いもの二つに大きく分けた。さらに前者は、先端部が明瞭に尖るもの（以下「尖」）、やや丸みを帯びるもの（以下「丸」）に細分した。後者は、立

ち上がり部分が丸みを帯びるもの（以下「隅丸」）、丸みを帯びないもの（以下「平」）に細分した。遺物は、層ごとにまとめて取り上げたが、竪穴住居跡の床面や土坑の底面出土のものなどは、必要に応じて出土位置や出土状況を記録した。フレイクなどの遺物は出土状況などから、人為的な集中と判断したものもは遺構名を付し調査した。フレイク集中や遺構の覆土、包含層などで細かいフレイクなどのまとまりを確認した場合は、微細遺物の回収を目的として、必要に応じて土壌をビニール袋（36×50cm）に取り上げ、水洗選別を行った。

包含層調査は、4×4mのグリッド単位で行った。層ごとに移植ごてやスコップで掘り下げ、掘り下げた面では土色や遺物の出土状況を確認し、遺構の可能性のあるものはトレンチ調査等を行った。出土遺物はグリッド・層ごとに取り上げた。最終的にはIV層上面まで掘り下げ精査し、遺構がない場合そのグリッドは調査終了とした。

4. 整理の方法

(1) 一次整理の方法

現場での遺物の取り上げは「遺跡名・地区名（略号：トB）」、「出土地点（遺構名・グリッド）」、「出土層位」、「遺物種別（土器・剥片石器・礫石器・その他に大別）」、「取り上げ番号（出土位置記録のもの）」、「取り上げ年月日」の情報を記したビニール袋に遺物を収納した。遺物は「水洗」・「乾燥」し、設定した基準に従い「分類」した。次に出土地点・出土層位・遺物分類名等の遺物個別の情報を「遺物カード」に記し、遺物と共にチャック付ビニール袋に収納した。また、その遺物カードの記載事項を一覧表にまとめ、「遺物台帳」をパソコンの表計算ソフト（マイクロソフト・エクセル）により作成し、二次整理作業を進めるための基本情報とした。土器には、遺物カードの情報の一部を直接遺物に「注記」した。内容は遺構出土の場合「遺跡名 地区名・遺構名・遺物番号・出土層位」で、例えば「トB・H-18・I・フクド」となる。包含層出土の場合、「遺跡名 地区名・グリッド名・出土層位」で、例えば「トB・G55・Ⅲ」となる。なお、グリッド名はアルファベットと数字の間の「-」（ハイフン）を省略し、遺構名との混同を避けた。遺物番号がないものは省略し、原則的に遺存状態が「良好」（5節参照）の土器のみ注記している。また、フレイク集中などから取り上げた土壌サンプルは、水洗選別法により微細遺物を採取した。なおふるいは1mmメッシュを使用した。

(2) 二次整理の方法

・土器

遺構出土土器の接合は、遺構内、遺構が位置するグリッド、周辺のグリッドへと展開し、包含層出土のものは、破片数が多いグリッドから周囲へ広げるように進めた。接合により残存状況が良好で器形のわかるものなどを復原し、立面図等の実測図を作成した。破片は接合により大きくなったもの、複数の部位のもの、特徴的な口縁部や底部の破片を中心に選び出し、拓影図と垂直方向の断面図を組み合わせて図示した。また、掲載するものについては一覧表を作成した。

・石器等

定型的な石器については、接合作業を行った。また、分類の見直し、「完形」及び「準完形」のものを中心とした報告書掲載石器の選び出し、実測図の作成、一覧表作成などを行った。

5. 遺物の分類

(1) 土器等

・時期分類基準

I群 縄文時代早期に属する土器群

a類：貝殻複線文・条痕文・沈線文のある土器群。テンネル式・浦幌式などに相当するもの。

b類：捺糸文・絡条体瓦痕文・短縄文などが施される土器群。

東銅路式系土器群（東銅路Ⅱ式・東銅路Ⅲ式・コッタロ式・中茶路式・東銅路Ⅳ式）

II群 縄文時代前期に属する土器群

a類：縄文尖底土器・押型文尖底土器など。網文式・朱円式・温根沼式などに相当するもの。

b類：刺突文土器・押型文平底土器など。網走式・シュブノツナイ式などに相当するもの。

III群 縄文時代中期に属する土器群

a類：刺突文土器・押引文土器・押型文平底土器など。常呂川河口押型文Ⅰ群、智東式などに相当するもの。

b類：モコト式・北筒Ⅱ式の古段階に相当するもの。

IV群 縄文時代後期に属する土器群

a類：北筒Ⅱ式の新段階、北筒Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ式などに相当するもの。

b類：手稲式・虻瀬式・エリモB式などに相当するもの。

c類：堂林式・三ツ谷式・御殿山式などに相当するもの。

V群 縄文時代晩期に属する土器群

a類：大洞B・BC式及びそれに伴うもの。

b類：大洞C1・C2式、幣舞式などに相当するもの。

c類：大洞A・A'式、緑ヶ岡式などに相当するもの。

VI群 続縄文時代に属するもの。

VII群 擦文文化期に属するもの。

VIII群 オホーツク文化期に属するもの（トビニタイ式土器を含む）。

他に土製品（焼成粘土塊）がある。

・残存状態分類基準

「良好」：破片の表裏面及び割れ口の残存状態が良いもの

「剥離」：破片の表裏面のいずれか、あるいは両面が約1/2以上剥離・剥落しているもの

「磨耗」：破片が磨耗しているもの

「小破片」：大きさが長径2cm程度以下の小さな破片 （広田）

(2) 石器等

剥片石器では石鏃、石槍またはナイフ、両面調整石器、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、U・Rフレイク、石核、フレイク、原石がある。礫石器では磨製石斧、たたき石、すり石、石鋸、砥石、台石・石皿がある。その他に加工・使用痕のある礫（U・R礫）、礫がある。

（愛場和人）

IV章 B地区の遺構

1. 概要 (図IV-1)

平成26(2014)年度調査区は平成23(2011)年度調査区の北側にあたり、道路下部分ということもあり、長さ約170m、幅約16mの細長い形状である。調査区の地形は西・北西側へ下る緩斜面で、標高は19～21mである。

平成26年度にトーサムボロ湖周辺堅穴群B地区のⅢ層で確認した遺構は、堅穴住居跡13軒(H-17～29)、土坑32基(P-26～57)、焼土5か所(F-1～5)、フレイク集中3か所(FC-3～5)である。このうち堅穴住居跡2軒(H-17・18)は、平成23年度の北側部分の調査である。遺構の時期は縄文時代前期前半が多く、次いで縄文時代後期前葉、縄文時代早期後半がある。

遺構は、調査区の西側と東側では希薄で、グリッド46～75ラインにかけて多く分布する。堅穴住居跡と土坑は近接しており、重複するものも多い。

なおⅢ層調査後、V層についてトレンチ調査を行ったが、遺構、遺物とも検出しなかった。

(愛場)

2. Ⅲ層の遺構 (図IV-2～44 表IV-1～20 図版1～23)

(1) 堅穴住居跡

H-17 (図IV-2 図版4)

位置 D・E-57・58区 (平成23年度調査範囲も含む) 平面形態 不整な楕円形

規模 (6.74)×5.35/(6.25)×4.87/0.42m (平成23年度調査範囲も含めて計測)

確認・調査 調査区境周辺の包含層調査中、Ⅲ層でⅣ層が混ざる半円形の黒色土がみられた。平成23年度調査のH-17に隣接するグリッドであったため、東西方向に土層観察用のベルトを設定し、周囲を掘り下げた。V層中に床面と壁の立ち上がりを確認し、平面形や床面の標高が合致することからH-17の北側部分と判断した。平成23年度との調査区境は道路の攪乱により幅1m程の範囲が壊されていた。2か年合わせた平面形状は、北側がすぼまる不整な楕円形で、長径は7m近くと推定される。

覆土 5層に分けた。覆土1層はⅢ層黒色土主体層で、覆土2～5層は黒色土にⅣ層が少量混ざる土層である。覆土5層は壁際に堆積し、色調は黒色～黒褐色である。

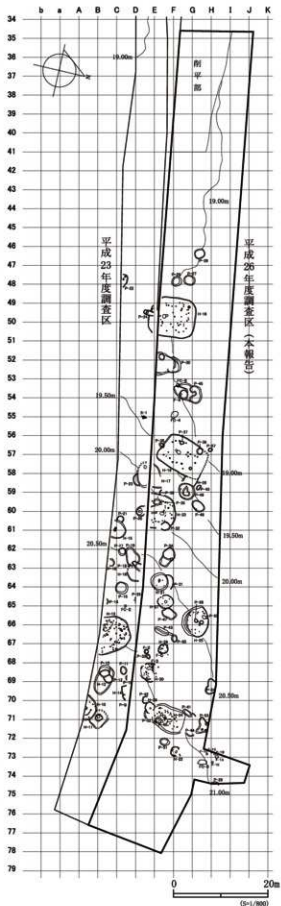
床面・壁 床面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 今年度の調査区では確認できなかった。平成23年度の調査では住居跡の南西壁近くに灰跡焼土(HF-1)があり、南東側では覆土中に礫集中が認められた。

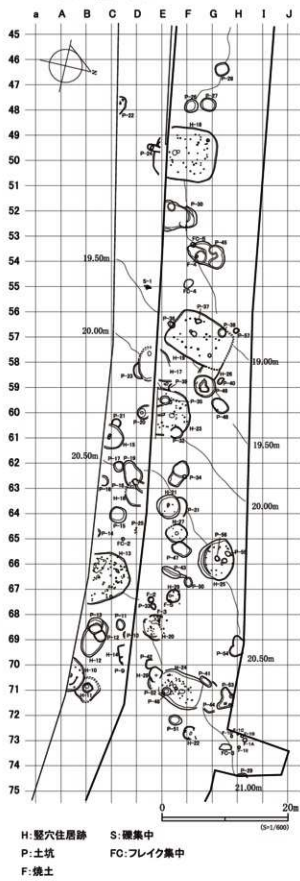
遺物出土状況 遺物は230点出土した。床面からはⅡ群a類土器70点、フレイク2点、砥石1点、石鏃1点、礫11点が出土した。床面の遺物は住居跡中央よりやや東側で約0.8×0.6mの範囲でまとまってみられた。覆土からはⅠ群b類土器2点、Ⅱ群a類土器43点、Ⅳ群a類土器1点、石鏃1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、フレイク45点、磨製石斧1点、砥石7点、加工・使用痕のある礫1点、礫42点が出土した。

時期 出土遺物から時期は縄文時代前期前半と考えられる。

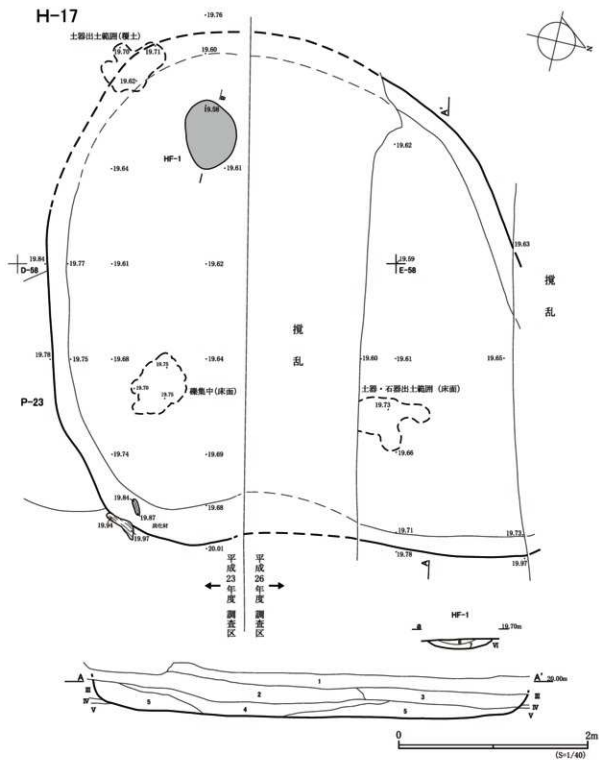
(愛場)



45～75ライン拡大図



図IV-1 B地区遺構位置図



遺構名 付録表番号	発掘層 番号	層名	層厚	砂・粘土・シルト(長径20cm未満)				礫(長径20cm以上)				遺物の 種類	遺物の 数量(個)	遺物の 形状	遺物の 長さの 範囲	埋入物	備考
				割合 %	シルト 割合%	粘り性	硬軟度	割合 %	長さ 範囲	形状	長さの 範囲						
H-17	1	褐色土(砂・砂礫)	流砂	粘土	高粘性	100%/2	中	強	細<1mm	1	2~3	10	磁片類	高化	—		
	2	褐色土(砂)	流砂	粘土	中粘性	100%/1	中~強	強	細<1mm	2	2~3	10	磁片類	高化	—		
	3	褐色土(砂)	流砂	粘土	中粘性	100%/1	中~強	強	細<1mm	1	2~3	10	磁片類	高化	—		
	4	褐色土(砂)	流砂	粘土	中粘性	100%/1	中~強	強	細<1mm	1	2~3	10	磁片類	高化	—		
H-17 HF-1	5	褐色土	—	—	高粘性	100%/1	中	強	細<1mm	1	2~3	10	—	—	—	—	—
	6	褐色土	—	—	高粘性	100%/2	中	強	—	—	—	—	—	—	—	—	—
HF-1	7	褐色土	—	—	高粘性	100%/1	中	強	—	—	—	—	—	—	—	—	—

図IV-2 H-17

H-18 (図IV-3~6 図版5)

位置 D-49・50、E・F・G-48・49・50区 (平成23年度調査範囲も含む)

平面形態 隅丸長方形

規模 9.92×8.55/9.47×8.03/0.28m (平成23年度調査範囲も含めて計測)

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層で炭化材や焼土を広い範囲で検出した。平成23年度調査のH-18に隣接するグリッドであったため、南北と東西方向にトレンチを設定し調査を行った。Ⅳ～Ⅴ層中に床面、壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と判断した。その後トレンチ沿いに土層観察用ベルトを設定し、ベルトを残して覆土を掘り下げた。覆土中では、焼土や炭化材が住居跡北側に分布しており、これらの位置を記録した。覆土を掘り下げた後、土層断面の図化等を行い、次に床面を精査し、確認した炉跡焼土や柱穴・杭穴については調査を行った。平面形や床面の標高が合致することからH-18の北側の主体部分と認定した。2か年合わせた平面形状は、南北に長軸をもつ隅丸長方形で、長径10m近くの大型の竪穴住居跡である。覆土中に焼土、炭化材が広範囲でみられることから焼失住居跡の可能性がある。炭化材は一部採取し、放射性炭素年代測定と炭化樹種同定を行った(付篇2・3節参照)。

覆土 16層に分けた。覆土Ⅰ・16層は黒色土に樽前c降下火山灰が混ざる土層で、住居跡の中央付近に少量みられた。それより下位はⅢ層黒色土にⅣ層が少量混ざる土層が主体で、炭化材層(覆土8)や焼土層(覆土11)も覆土中位から下位にかけて堆積する。住居跡の東側の床直上では、色調が暗赤褐色を呈する赤色土壌(覆土13)がみられる。

床面・壁 床面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。確認面からの深さは0.28mで、比較的浅い。

付属遺構 覆土中で焼土9か所(HF-3~11)、床面で炉跡焼土2か所(HF-1・2)、土坑1か所(HP-43)、柱穴・杭穴41か所(HP-2~42)を確認した。なおHP-1は平成23年度調査の土坑である。

HF-1・2は長軸の中央から南側に近接して認められた。平面はHF-1が0.49×0.48mの円形、HF-2が0.83×0.72mの楕円形で、被熱層厚はいずれも約0.10mである。土坑HP-43は北西壁際に位置し、平面は直径約0.50mの円形で、底面の断面形は曲線的である。柱穴・杭穴HP-32と重複するが、新旧関係は不明である。柱穴・杭穴は住居跡の西側(HP-11~18・34など)、北側(HP-2~7・20・21・24~27・31・32・35・36)、東側(HP-8・9・19・23・28・29・33・37~40)にまとまりがあり、壁に沿って直線状に並ぶ。住居跡南側部分は攪乱を受け不明瞭だが、柱穴・杭穴の位置をつなぐと、長方形の配列が想定できる。またHP-10は住居跡のほぼ中央に位置する。柱穴・杭穴の平面は円形が多く、楕円形も少数みられる。径は0.11~0.20mにほぼまとまる。深さは0.18~0.65mで、0.30m以上のものが主体である。断面形状は「丸」、「隅丸」が多い。

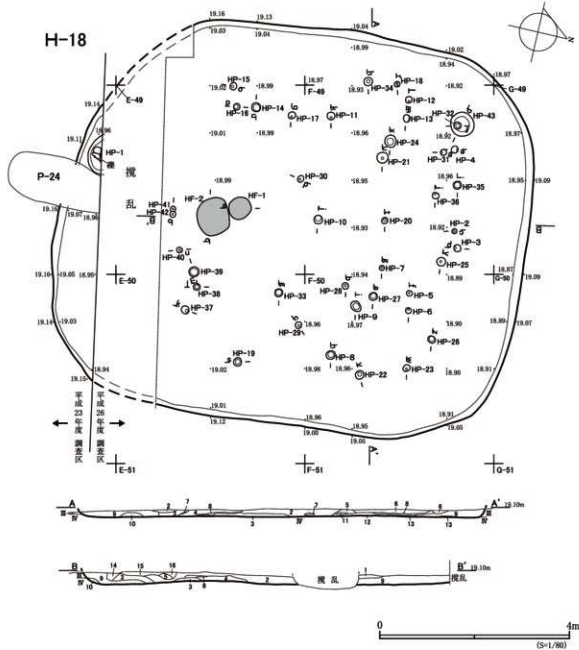
覆土中焼土(HF-3~11)は炭化材とともに住居跡北側部分に分布する。

遺物出土状況 遺物は307点出土した。床面・床面直上からはⅡ群a類土器2点、石錐1点、スクレイパー4点、U・Rフレイク1点、石鏝9点、砥石7点、加工・使用痕のある礫26点、礫75点が出土した。覆土からはⅠ群b類土器10点、Ⅱ群a類土器14点、Ⅳ群a類土器1点、石鏝1点、石槍またはナイフ2点、つまみ付きナイフ3点、スクレイパー5点、両面調整石器2点、フレイク56点、原石1点、磨製石斧3点、砥石14点、礫66点が出土した。

時期 出土遺物などから縄文時代前期前半と考えられる。放射性炭素年代測定では4,720±30 yr BPと、縄文時代前期末~中期という結果がでている。(愛場)

H-19 (図VI-7~9 図版6)

位置 E-55・56・57、F-55・56・57・58、G-56・57・58区 平面形態 隅丸長方形?

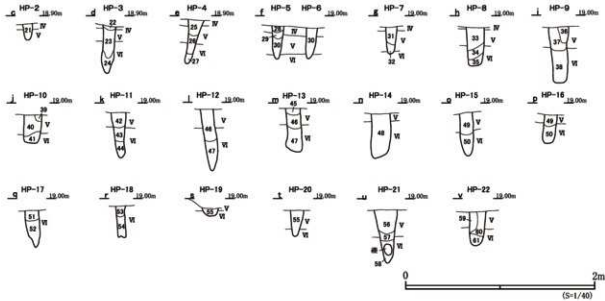


遺構名 行楽地区	探検 番号	層位名 主体層 遺存層	層別	層1-5(土)ト(長径20cm未満)				層6(長径20cm以上)								
				形状 色名	マンセル 濃色名	粘着性	堅固性	種類	数量 平均	最大	高さの 程度	投入物	備考			
H-18	1	埋戻	土	埋戻	シロト	埋戻色	10002/2	中	堅	---	---	---	---	---	---	---
	2	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10002/2	中	堅	8a-1層位	10	2-3	埋戻層	高低	---	---
	3	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10002/1	中	堅	8a-1層位	20	2-3	埋戻層	高低	---	---
	4	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10003/4	中	堅	8a-1層位	30	2-3	埋戻層	高低	---	---
	5	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10004/3	中	堅	8a-1層位	90以上	2-3	埋戻層	高低	---	---
	6	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10003/1	中	堅	8a-1層位	20	2-3	埋戻層	高低	---	---
	7	埋戻	砂層	埋戻	赤土	埋戻色	10002/1	中	堅	8a-1層位	100以上	1-2	埋戻層	高低	---	---
	8	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10003/2	中	堅	8a-1層位	20	2-3	埋戻層	高低	---	---
	9	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10002/1	中	堅	8a-1層位	3	3	埋戻層	高低	---	---
	10	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10002/1	中	堅	8a-1層位	3	3	埋戻層	高低	---	---
	11	埋戻	砂層	埋戻	赤土	埋戻色	10003/5	中	堅	---	---	---	---	---	---	---
	12	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10003/2	中	堅	8a-1層位	20	2-3	埋戻層	高低	---	---
	13	埋戻	砂層	埋戻	赤土	埋戻色	10003/3	中	アコシ	8a-1層位	10	2-3	埋戻層	高低	---	---
	14	埋戻	砂層	埋戻	シロト	埋戻色	10002/3	中	堅	8a-1層位	20	2-3	埋戻層	高低	---	---
	15	埋戻	砂層	埋戻	赤土	埋戻色	10003/3	中	堅	8a-1層位	10	2	---	---	---	---
	16	埋戻	土	埋戻	赤土	埋戻色	10003/3	中	堅	---	---	---	---	---	---	---

図IV-3 H-18 (1)

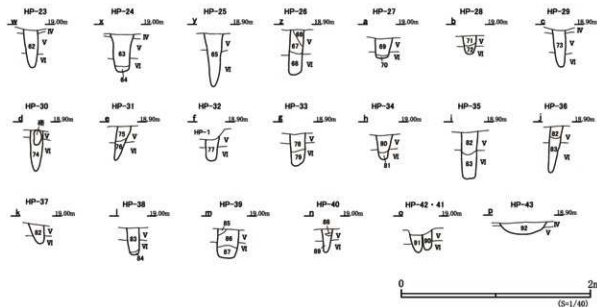


遺跡名 付属遺跡名	野跡番号	野跡名	遺跡 主跡跡 副跡跡	野跡・土性 土性			種類	面積(㎡) 面積(%)		形状	長化の 程度	掘入物	備考		
				野跡 土性	付属 土性	付属 土性		種類	平均 最大						
H-18	11	赤土上 片層	赤土	赤土	赤土	2000.0	中	野	野跡跡	20	2~3	2	野内跡	赤土	—
HP-1	18	赤土上 片層	赤土	赤土	赤土	1,000.0	中	野	野跡跡	10	2	2	野内跡	赤土	—
H-18	19	赤土上 片層	赤土	赤土	赤土	1,000.0	中	野	野跡跡	10	2~4	2	野内跡	赤土	—
HP-2	22	赤土上 片層	赤土	赤土	赤土	1,000.0	中	野	野跡跡	—	—	—	—	—	—



遺跡名 付属遺跡名	野跡番号	野跡名	遺跡 主跡跡 副跡跡	野跡・土性 土性			種類	面積(㎡) 面積(%)		形状	長化の 程度	掘入物	備考		
				野跡 土性	付属 土性	付属 土性		種類	平均 最大						
H-18 HP-2~22	21	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	10	2~4	2	野内跡	赤土	—
	22	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	10	2	2	野内跡	赤土	—
	23	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	24	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	3	2~3	2	野内跡	赤土	—
	25	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	26	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	27	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	28	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	3	2~3	2	野内跡	赤土	—
	29	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	20	2	2	野内跡	赤土	—
	30	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	3	2	2	野内跡	赤土	—
	31	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	10	2~4	2	野内跡	赤土	—
	32	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	33	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	30	2	2	野内跡	赤土	—
	34	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	35	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	36	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	37	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	38	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	39	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	10	2	2	野内跡	赤土	—
	40	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	41	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
	42	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—
43	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
44	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	3	2	2	野内跡	赤土	—	
45	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
46	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
47	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
48	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
49	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
50	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
51	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
52	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	3	2	2	野内跡	赤土	—	
53	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	30	2	2	野内跡	赤土	—	
54	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
55	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
56	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
57	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
58	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
59	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
60	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
61	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	
62	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	10	2	2	野内跡	赤土	—	
63	赤土上 片層	赤土	赤土上	赤土	1000.0	中	野	赤土	—	—	—	—	—	—	

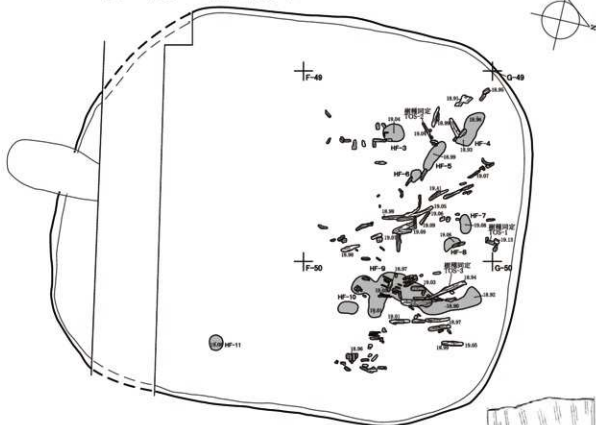
図-4 H-18 (2)



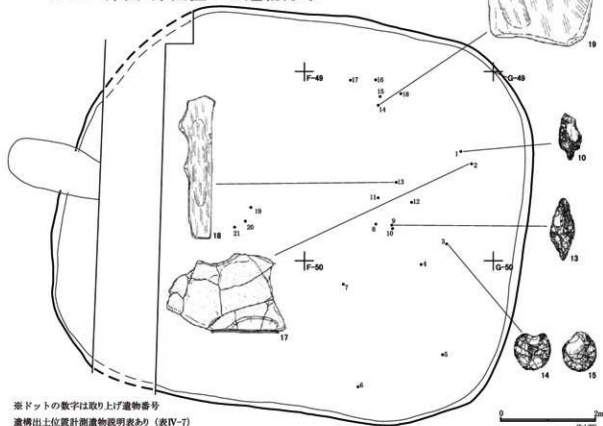
遺構名 行頭並列番号	新調査 番号	遺構名 古名称 所在層	形状 断面 之形状	地層・土質上の位置(断面図)			層(断面図)の 高さ			埋積 層別 割合(%)	形状 状況	記入物	備考
				地層 名称	ヤンセル 番号	地層性	階層	平均	最大				
62	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18902.9	0	堆	—	—	—	—	—	—	
63	遺構上 IV・V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.4	0	堆	無二層石	20	2	底内層	高低	—	
64	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
66	遺構上 砂層	断面 遺構上 砂層	断面図	18921.9	0	堆	—	—	—	—	—	—	
67	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.9	0	堆	無二層石	12	2-4	底内層	高低	—	
68	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
69	遺構上 IV・V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.4	0	堆	無二層石	20	2	底内層	高低	—	
70	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
71	遺構上 IV・V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.4	0	堆	無二層石	20	2	底内層	高低	—	
72	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
73	遺構上 砂層	断面 遺構上 砂層	断面図	18921.9	0	堆	無二層石	20	2	底内層	高低	—	
74	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
75	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.4	0	堆	—	—	—	—	—	—	
76	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	無二層石	20	2	底内層	高低	—	
77	遺構上 IV・V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.4	0	堆	無二層石	20	2	底内層	高低	—	
78	遺構上 IV・V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.4	0	堆	無二層石	20	2-4	底内層	高低	—	
79	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
80	遺構上 IV・V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.4	0	堆	無二層石	20	2	底内層	高低	—	
81	遺構上 IV・V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	無二層石	20	2	底内層	高低	—	
82	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	無二層石	20	2-4	底内層	高低	—	
84	遺構上 砂層	断面 遺構上 砂層	断面図	18921.9	0	堆	無二層石	20	2	底内層	高低	—	
86	V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
87	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
88	V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.4	0	堆	—	—	—	—	—	—	
89	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
90	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
91	遺構上 V層	断面 遺構上 堆積土	断面図	18921.2	0	堆	—	—	—	—	—	—	
92	遺構上 砂層	断面 遺構上 砂層	断面図	18921.9	0	堆	無二層石	20	2-4	底内層	高低	底内層・土層	

図IV-5 H-18 (3)

H-18 覆土中焼土・炭化材分布



H-18 床面・床面直上の遺物分布



図IV-6 H-18(4)

規模 10.28×7.22/10.16×6.90/0.46m

確認・調査 F・G-56区のIV層上面で、樽前c火山灰とその周囲に広がる黒色土のまとまりを確認した。周辺を含め精査を行ったところ、黒色土は長軸方向で10m以上に広がっていた。長軸及び短軸方向にトレンチを設定し調査した結果、床面、壁の立ち上がり、焼土等を確認したため大型の竪穴住居跡と判断した。北西側の壁付近は道路の攪乱により壊されていた。トレンチ沿いに土層観察用のベルトを設定し、ベルトを残して覆土を掘り下げた。覆土中から礫集中、フレイク集中などの付属遺構や、重複する土坑3基(P-36~38)を検出したため、順次調査した。覆土を掘り下げた後、土層断面の図化等を行い、次に床面を精査し、検出した炉跡焼土や柱穴・杭穴については調査を行った。確認面での長径約10m、短径約7mを測り、今回調査した竪穴住居跡の中で最も規模が大きい。重複する遺構との新旧関係は、P-36・38とは不明で、P-37より古い。また、P-36はH-19の付属遺構の可能性がある。炉跡焼土(HF-1・2)出土の炭化物については、放射性炭素年代測定を行った(付篇2節参照)。また、覆土出土の黒曜石製の石器1点(石槍またはナイフ)について産地推定分析を行った(付篇1節参照)。

覆土 9層に分けた。全体的に黒色土が主体で、IV層やVI層が混ざる土層である。色調は黒色～黒褐色を呈する。

床面・壁 床面はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは全体的に緩やかである。

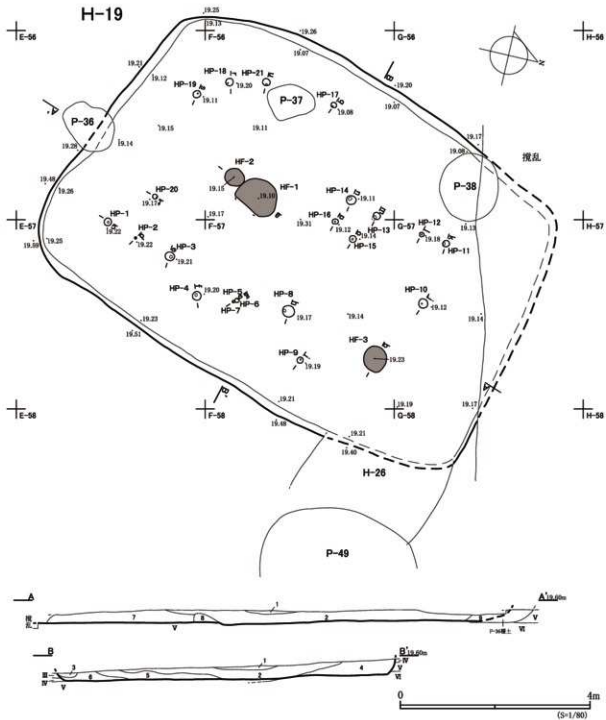
付属遺構 床面では炉跡焼土3か所(HF-1~3)、柱穴・杭穴21か所(HP-1~21)、礫集中1か所(HS-1)、赤色土壌集中1か所、炭化物集中1か所を確認した。

炉跡焼土は床面中央からやや南西側で2か所、北東側で1か所確認した。平面形は円ないし楕円で色調は褐色～赤褐色である。HF-1・2は隣接するもので、長径はHF-1が0.90mと大きく、HF-2が0.42mと小さい。柱穴・杭穴は、分布が南東～北東側(HP-1~9・20)、北西側(HP-10~16)、南西側(HP-17~19・21)の3か所に分かれる。配置はHP-1~3・5~8とHP-11~14がそれぞれほぼ直線状に並んでいる。規模は径が0.20m前後のやや大形のもの(HP-3・4・8・10・14)、0.15m前後のもの(HP-1・9・11・13・15~21)、0.10m以下の小型のもの(HP-2・5~7・12)がみられる。断面形は「尖」が最も多く、「丸」が次いで、「隅丸」がわずかにみられる。礫集中1(HS-1)は竪穴住居跡南東側で覆土下位～床面にかけて確認された。大型の礫が十数点まとまって出土したが、礫は非常に多く取り上げはできなかった。赤色土壌集中1は、南東側の覆土下位～床面にかけて赤色土壌のまとまりとして確認されたものである。分布範囲は長径1.90m、短径0.92mで西側がHS-1に重複する。炭化物集中1は竪穴住居跡中央からやや北東側の覆土下位～床面にかけて、細かい炭化物のまとまりとして確認された。

覆土中位ではフレイク集中を2か所(HFC-1・2)確認した。HFC-1は竪穴住居跡中央からやや東側、HFC-2は中央からやや北西側に位置する。確認面の規模はHFC-1が長径1.14m、短径0.96m、HFC-2が長径0.76m、短径0.40mである。小型のフレイクが多数出土したため、土壌ごと取り上げ水洗選別を行った。

遺物出土状況 床面からフレイク9点、磨製石斧4点、砥石8点、礫40点が出土した。覆土からはI群b類土器23点、II群a類土器43点、IV群a類土器21点、石鏃7点、石槍またはナイフ9点、両面調整石器2点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー7点、U・Rフレイク16点、フレイク321点、原石1点、磨製石斧6点、石鋸2点、砥石34点、石錘1点、礫638点が出土した。また、HFC-1・2の土壌水洗で、土器16点、両面調整石器5点、スクレイパー1点、フレイク6,729点を採取した。

時期 出土遺物などから縄文時代前期前半もしくは後期前葉と考えられる。放射性炭素年代測定ではHF-1が4,530±30yrBPと縄文時代中期前葉、HF-2が4,120±30yrBPと縄文時代中期中葉～後葉という結果がでている。(広田)

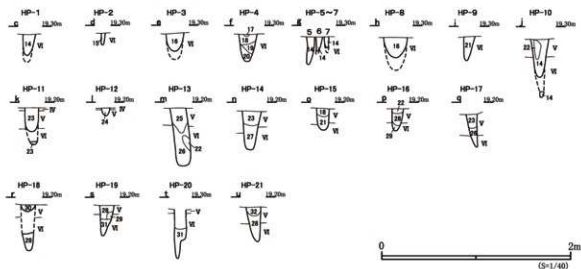


遺構名 (付属遺構名)	発掘層 番号	層位名 (土層別) 遺構名	層別	壁・底・土・シロトシ(土質)(mm単位)				壁(土質)(mm)				遺入物	備考					
				野外 土質	断面 土質	シロトシ 土質	粘着性	堅固性	層別	断面 厚さ(平均)	形状			残存の 程度				
H-19	1																	
	2	褐色土 2F・19層	雑状	シロトシ 硬質土	黒黄～ 黒褐色	1000(7)	硬～中	堅	細	細	約1層位	約10	2	3	底片層	焼成	—	
	2	褐色土 2F層	均質	シロトシ 硬質土	褐色	1000(7)	硬～中	堅	細	細	約1層位	約10	3	2	底片層	焼成	—	
	4	褐色土 2F・19層	雑状	シロトシ 硬質土	黒褐色	1000(7)	硬～中	堅	細	細	約1層位	約10	2	2	底片層	焼成	—	
	5	褐色土 2F層	雑状	シロトシ 硬質土	褐色	1000(7)	硬～中	堅	細	細	約1層位	約10	7	2	4	底片層	焼成	—
	6	褐色土 2F層	雑状	シロトシ 硬質土	黒褐色	1000(7)	硬～中	堅	細	細	約1層位	約10	2	2	底片層	焼成	—	
	7	褐色土 2F・19層	雑状	シロトシ 硬質土	黒褐色	1000(7)	硬～中	堅	細	細	約1層位	約10	2	2	底片層	焼成	—	
	8	褐色土 2F層	雑状	シロトシ 硬質土	褐色	1000(7)	中	硬	細	細	約1層位	約10	2	2	底片層	焼成	—	
	9	褐色土 2F・19層	雑状	硬質土	黒褐色	1000(7)	中	硬	細	細	約1層位	約10	2	2	底片層	焼成	灰化神楽盆	

図IV-7 H-19 (1)



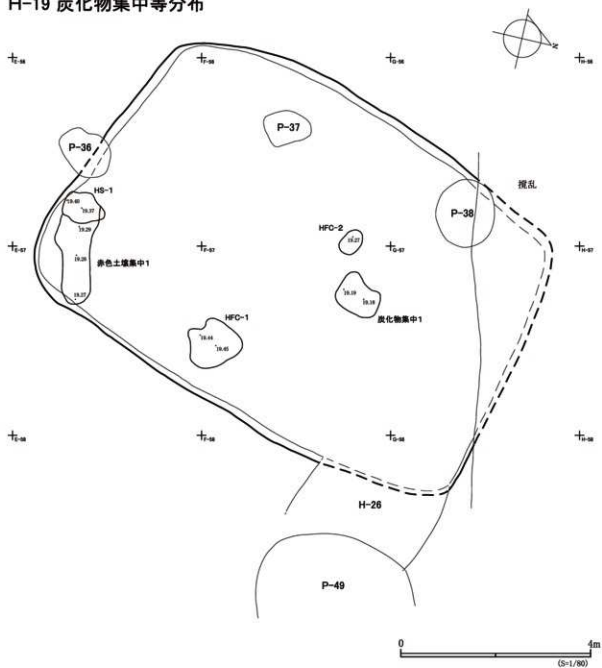
遺構名 付属遺構名	調査順 番号	層位名	層厚	HP-19に付した調査(2m未満)				層位名(2m以上)				埋入物	備考	
				野上 土質	色名	マンデル 硬度値	粘着性	堅硬度	種類	層厚 約値(m)	形状			硬化の 程度
H-19 HP-1	10	表土上・表土	約10 cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	1	2	表内縁	黄褐色	—
H-19 HP-2	12	表土	約10 cm	シルト 質黄土	褐色	7.000/0.6	中	堅	白色点	1	2	表内縁	黄褐色	—
H-19 HP-3	13	表土	約10 cm	シルト 質黄土	黄褐色	2000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	2	2	表内縁	黄褐色	—



遺構名 付属遺構名	調査順 番号	層位名	層厚	HP-19に付した調査(2m未満)				層位名(2m以上)				埋入物	備考		
				野上 土質	色名	マンデル 硬度値	粘着性	堅硬度	種類	層厚 約値(m)	形状			硬化の 程度	
H-19 HP-1-21	14	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	3	2	表内縁	黄褐色	—	
	15	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	—	—	—	—	—	—	
	16	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	1	2	表内縁	黄褐色	—	
	17								10cm以上の層						
	18	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	中	堅	約1.0m	10	3	4	表内縁	黄褐色	—
	19	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	中	堅	約1.0m	1	2	表内縁	黄褐色	—	
	20	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	中	堅	—	—	—	—	—	—	
	21	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	1	2	表内縁	黄褐色	—	
	22	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	中	堅	約1.0m	1	2	表内縁	黄褐色	—	
	23	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	10	3	3	表内縁	黄褐色	—
	24	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	2	2	4	表内縁	黄褐色	—
	25	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	0	2	3	表内縁	黄褐色	—
	26	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	1	2	2	表内縁	黄褐色	—
	27	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	—	—	—	—	—	—	
28	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	1	3	3	表内縁	黄褐色	—	
29	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	中	堅	—	—	—	—	—	—		
30	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	1	2	2	表内縁	黄褐色	—	
31	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	—	—	—	—	—	—		
32	表土上	約10cm	シルト 質黄土	黄褐色	1000/1.0	弱～中	堅	約1.0m	1	2	2	表内縁	黄褐色	—	

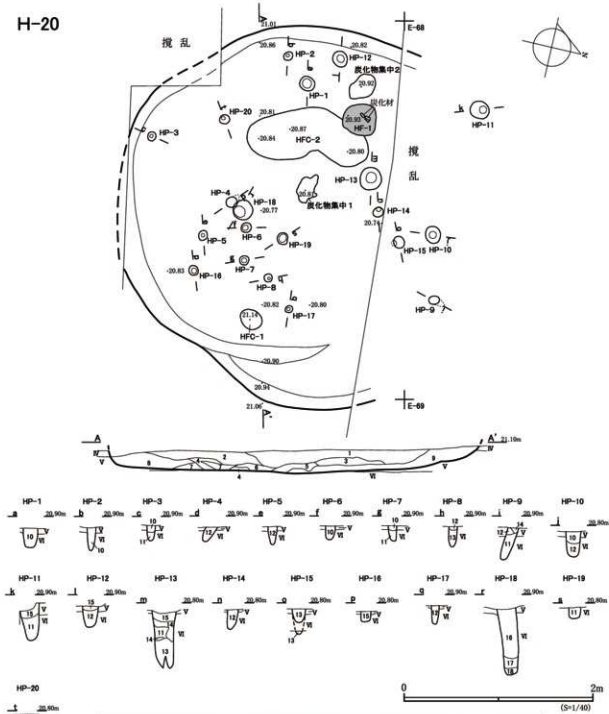
図IV-8 H-19(2)

H-19 炭化物集中分布



図IV-9 H-19 (3)

H-20



遺構名 付属品番号	断面 番号	断面名	形状	用途	層(基準点±)と(基準点±)2m以内				層(基準点±)上					
					約 色名	成分 色名	粘着性	硬さ	層 番号	厚さ (cm)	形状	底の 傾度	出土物	備考
H-20	1	壁跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	2	壁跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	3	壁跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	4	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	40	2-3	底円筒	焼成	—
	5	壁跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	6	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	7	壁跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	8	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	9	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	10	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
HP-10 HP-1~20	11	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	12	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	13	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	14	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	15	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	16	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	17	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—
	18	溝跡	円筒	焼物	黄褐色	H202.0	中	堅	8a-1層位	20	2-3	底円筒	焼成	—

図IV-10 H-20

H-20 (図IV-10 図版7)

位置 D・68・69、E・68区 平面形態 不整な楕円形

規模 4.08×(3.36)/3.85×(3.11)/0.30m

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で円形の黒褐色土がみられた。東西方向にトレンチ調査を行った結果、V層中で床面、壁の立ち上がりを確認した。その後トレンチ沿いに土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げた。住居跡の西側の覆土上面ではF-3を確認したが、本遺構とは関連しないものと考えた。覆土中では焼土(HF-1)や炭化材、フレイク集中を検出し、順次調査した。炭化材は一部採取し、放射性炭素年代測定を行った(付篇2節参照)。床面で柱穴・杭穴を確認したため竪穴住居跡と判断した。住居跡の北側部分は覆乱により壊されていた。平面は、円形または楕円形で、径は5m未満と推定される。覆土中に焼土、炭化材がみられることから焼失住居跡の可能性はある。

覆土 9層に分けた。黒色土にIV層が混ざる黒褐色土が主体で、中央の下位の覆土にはVI層主体の褐色土層(覆土5・7)が堆積する。

床面・壁 床面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。住居跡の東側では、わずかに段構造がみられる。

付属遺構 覆土中で焼土1か所(HF-1)、フレイク集中2か所(HFC-1・2)、炭化物集中、床面で柱穴・杭穴20か所(HP-1~20)を確認した。HF-1は住居跡西側の覆土中位に位置する。規模は長径0.35m、短径0.30mで、焼土上位や西側などには炭化物集中がみられる。フレイク集中はHFC-1が住居跡東側の覆土中位、HFC-2が住居跡中央からやや西側の覆土下位で確認した。規模はHFC-1が長径0.25m、短径0.20m、HFC-2が長径1.30m、短径0.63mである。細かなフレイクが多数出土したため、土壌ごと取り上げ、水洗選別を行った。

柱穴・杭穴HP-13・18は、住居跡の中央を挟んで約1.2m離れて位置する。いずれも平面が円形で、規模は直径が0.20m以上、深さ0.60m以上である。これらは支柱穴と考えられる。それ以外の柱穴・杭穴は平面が直径0.10m前後の円形で、断面形状は「丸」、「隅丸」のものが多く、分布に規則性はみられない。

遺物出土状況 遺物は281点出土した。床面・床面直上からはフレイク4点、磨製石斧1点、台石・石皿1点が出土した。覆土からはI群b類土器1点、II群a類土器3点、石鏃4点、両面調整石器1点、スクレイパー5点、U・Rフレイク2点、フレイク215点、たたき石1点、石鏃3点、砥石2点、礫38点が出土した。また水洗選別では上記とは別にHFC-1からはフレイク330点、HFC-2からは石鏃1点、フレイク933点、磨製石斧2点を採取した。

時期 出土遺物から時期は縄文時代前期前半と考えられる。放射性炭素年代測定では5,230±30 yr BPと、縄文時代前期中葉という結果がでている。(愛媛)

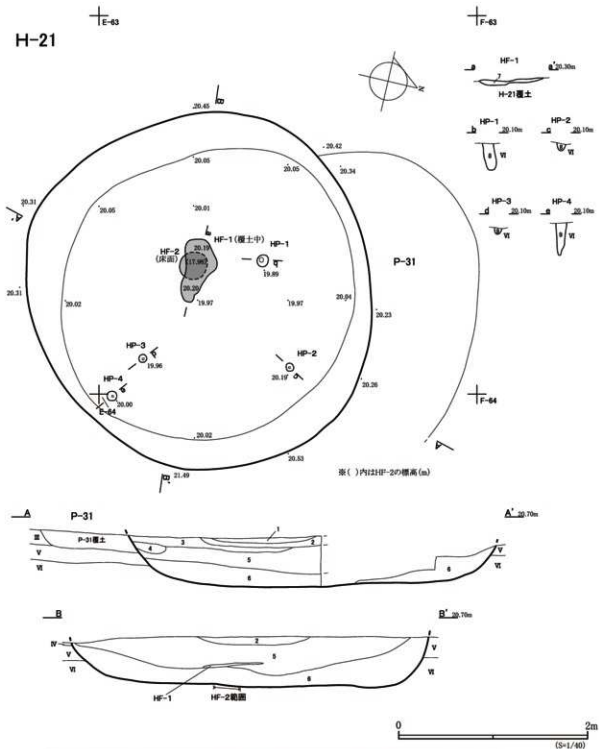
H-21 (図IV-11 図版8)

位置 D・E-63・64区 平面形態 円形

規模 3.80×3.66/3.10×3.10/0.54m

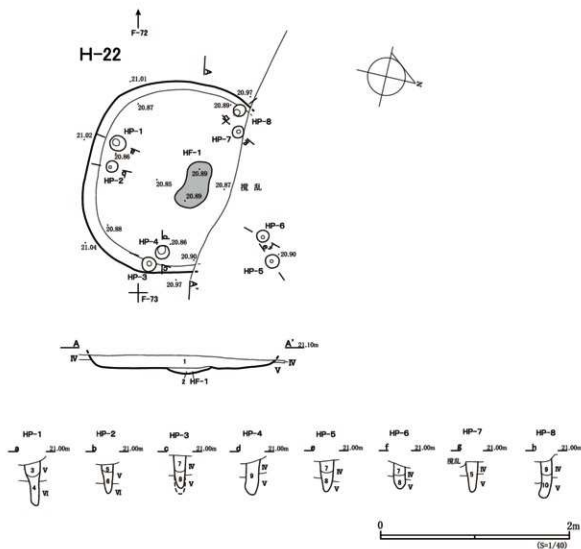
確認・調査 E-63区付近でIII層調査中に、樽前c火山灰とその周囲に広がる黒色土のまとまりを確認した。南北方向にトレンチ調査を行った結果、竪穴住居跡(H-21)と土坑(P-31)の重複を確認した。新旧関係は、土層の観察からH-21が新しい。南側の覆土は覆乱されており、深い部分では床面直上まで及んでいる。南北及び東西方向に土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げたが、覆土中で焼土(HF-1)を確認した。床面では炉跡焼土、杭穴・柱穴を確認し、調査した。

覆土 6層に分けた。覆土1層はIII層主体、覆土2層は樽前c火山灰主体の土層である。上~中位の覆土3・5層は黒色土主体で、下位の6層は黒色土とVI層が主体の暗褐色土である。



遺構名 付属遺構名	明瞭度 番号	層位名	層別	層外 工物	土質				土質(実尺20cm未満)				土質(実尺20cm以上)				遺物の 種別	遺物の 数量	平均 最大	形状	高さの 程度	採人物	備考
					色名	マンネム 質	粘着性	堅固度	色名	マンネム 質	粘着性	堅固度	色名	マンネム 質	粘着性	堅固度							
H-21	1	遺構	遺跡	シロト 瓦葺上	褐色	1000/0	粘-中	堅	粘-硬固	3	3	4	遺片類	高古	採人物	---	---	---	---	---	---	---	
	2								7a=土層の境														
	3	褐色土	砂・砂礫	粘砂	シロト 瓦葺上	褐色	1000/0	粘-中	堅	粘-硬固	3	3	4	遺片類	高古	採人物	---	---	---	---	---	---	
	4	砂礫	砂・砂礫	粘砂	遺跡	褐色	1000/0	粘-中	堅	粘-硬固	3	3	4	遺片類	高古	---	---	---	---	---	---	---	
	5	褐色土	砂・砂礫	粘砂	シロト 瓦葺上	褐色	1000/0	粘-中	堅	粘-硬固	7	3	4	遺片類	高古	---	---	---	---	---	---	---	
	6	砂・砂礫	砂礫	粘砂	遺跡	褐色	1000/0	粘-中	堅	粘-硬固	7	3	4	遺片類	高古	---	---	---	---	---	---	---	
HP-1	3	遺土	遺跡	シロト 瓦葺上	褐色	1000/0	粘-中	堅	粘-硬固	3	3	4	遺片類	高古	採人物	---	---	---	---	---	---		
HP-2	---	遺土	遺跡	シロト 瓦葺上	褐色	7.000/0	粘-中	堅	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---		
HP-3	8	褐色土	砂・砂礫	粘砂	シロト 瓦葺上	褐色	1000/0	粘-中	堅	粘-硬固	3	3	3	遺片類	高古	---	---	---	---	---	---		
HP-1~4	9	褐色土	砂礫	粘砂	遺跡	褐色	1000/0	粘-中	堅	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---		

図IV-11 H-21



造幣名 材料製造場名	製造 番号	製造名	原料	第一製造工程(1)系(厚さ2mm未満)				第二製造工程(2)系(厚さ2mm以上)				製造 場所	備考			
				製法	製法 名称	製法 条件	製法 特徴	製法	製法 条件	製法 特徴	製法					
H-22	1	銀色上	厚箔	焼箔	硬箔工	銀色	1992/1	銀-中	焼	銀-1焼箔	7	2	5	焼箔焼	純正	—
H-22	2	銀色上	銀+銅	厚箔	硬箔工	銀褐色	1992/9	銀-中	焼	銀-1焼箔	1	2	5	焼箔焼	純正	—
HP-1	3	銀+銅	厚箔	焼箔	硬箔工	銀褐色	1992/2	銀-中	焼	銀-1焼箔	20	1	5	焼箔焼	純正	—
	4	銀箔	銀+銅	厚箔	硬箔工	銀褐色	1992/9	銀	焼	銀-1焼箔	1	2	5	焼箔焼	純正	—
	5	銀色上	銀+銅	厚箔	硬箔工	銀色	1992/1	銀-中	焼	銀-1焼箔	1	2	5	焼箔焼	純正	—
	6	銀+銅	厚箔	焼箔	硬箔工	銀褐色	1992/2	銀	焼	銀-1焼箔	1	2	5	焼箔焼	純正	—
	7	銀+銅	厚箔	焼箔	硬箔工	銀褐色	1992/2	銀	焼	銀-1焼箔	10	1	5	焼箔焼	純正	—
	8	銀+銅	厚箔	焼箔	硬箔工	銀褐色	1992/2	銀	焼	銀-1焼箔	3	1	5	焼箔焼	純正	—
	9	銀+銅	厚箔	焼箔	硬箔工	銀褐色	1992/2	銀	焼	銀-1焼箔	20	1	5	焼箔焼	純正	—
	10	銀箔	銀+銅	厚箔	硬箔工	銀褐色	1992/2	銀	焼	銀-1焼箔	3	2	5	焼箔焼	純正	1177-1焼箔焼 =銀箔焼

図IV-12 H-22

床面・壁 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに曲線状に立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土1か所（HF-1）、床面で炉跡焼土1か所（HF-2）、柱穴・杭穴4か所（HP-1~4）を確認した。HF-1は中央付近に位置し、覆土中位で確認した。炭化物及び骨片を微量含む。HF-2は床面ほぼ中央に位置し、平面は円形である。あまり赤化せず、土層断面は不明瞭であったため図化していない。柱穴・杭穴は、位置が壁際のもの（HP-4）と壁からやや内側にあるもの（HP-1~3）がみられる。規模は、HP-1・4は深さが約30cmと深く、HP-2・3は7~8cmと浅い。

遺物出土状況 床面からはU・Rフレイク1点、フレイク16点が出土した。覆土からⅡ群a類土器10点、Ⅳ群a類土器5点、石礫1点、石錐1点、スクレイパー3点、U・Rフレイク5点、フレイク307点、石鋸1点、砥石4点、礫1,972点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の時期の可能性がある。（広田）

H-22（図IV-12 図版9）

位置 E・F-72区 **平面形態** 楕円形？

規模 (2.32)×2.20/ (2.20)×1.90/0.14m

確認・調査 遺構確認調査範囲のF-72区で、Ⅳ層上面の精査を行ったところ、黒色土のまとまりを確認した。長軸方向にトレンチを設定し掘り下げ、焼土、床面及び壁の立ち上がりを確認したため堅穴住居跡と判断した。北側約1/4を床面下まで擾乱で壊されている。全体の平面形は不明だが、擾乱範囲にある柱穴・杭穴の位置から楕円形の可能性がある。P-51が南西側約1mに位置する。

覆土 1層のみで、黒色土が主体でⅣ層が混ざる土層である。

床面・壁 床面はほぼ平坦で、Ⅴ層中に構築される。壁は緩やかに曲線状に立ち上がる。

付属遺構 炉跡焼土1か所（HF-1）、柱穴・杭穴8か所（HP-1~8）を確認した。HF-1は床面中央付近で確認した。平面形は不整な楕円形で、色調は黒褐色である。柱穴・杭穴は壁際に位置するものが多く、2個一对でほぼ等間隔に4か所みられる。規模は径12~17cm、深さ27~47cmでやや深いものが多い。断面形は「丸」が多く、「尖」もみられる。

遺物出土状況 覆土からⅡ群a類土器1点、つまみ付きナイフ1点、フレイク2点、礫6点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。（広田）

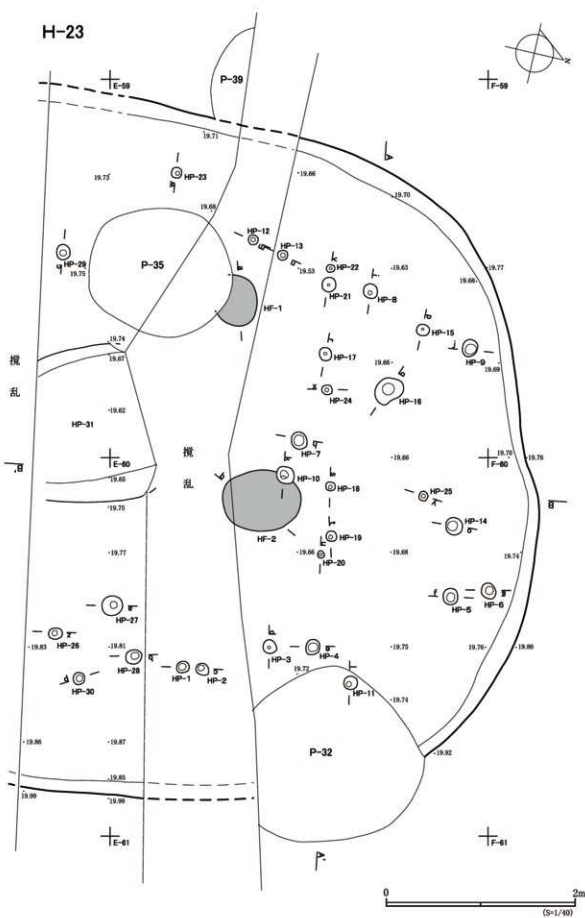
H-23（図IV-13~15 図版10）

位置 D・E・F-59・60区 **平面形態** 楕円形？

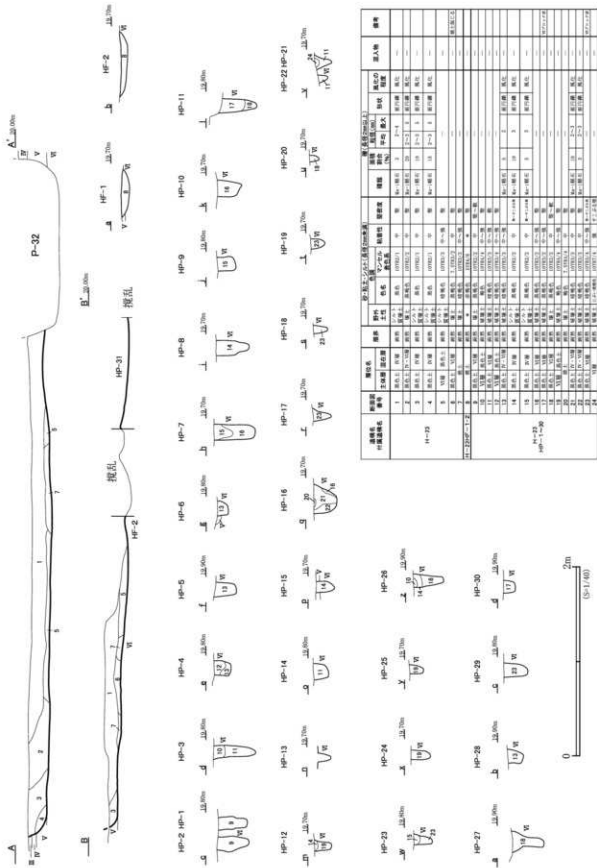
規模 7.52×(5.41)/7.21×(5.30)/0.27m

確認・調査 包含層調査中、Ⅳ層上面で平成23年度調査区側へ続く半円形の黒色土がみられた。南北・東西方向のトレンチ調査を行い、Ⅴ~Ⅵ層中で床面、壁の立ち上がりを確認した。その後トレンチ沿いに土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げた。覆土中では焼土や炭化材、礫集中、フレイク集中などの付属遺構や、重複する土坑（P-32・35・39）を検出したため、順次調査した。床面では焼土、柱穴・杭穴を確認し、堅穴住居跡と判断した。住居跡の南側は平成23年度の調査区であるが、平成23年度の調査では遺構は確認できなかった。平面は隅丸長方形に近い楕円形で、規模は長径8mを超えると推測される。重複する土坑との新旧関係はP-32・35が新しく、P-39は不明である。覆土中に焼土、炭化材がみられることから焼失住居跡の可能性がある。

覆土 7層に分けた。覆土上位は黒色土主体層であるが、覆土下位ではⅥ層主体層（覆土5）や焼土層（覆土7）がみられる。



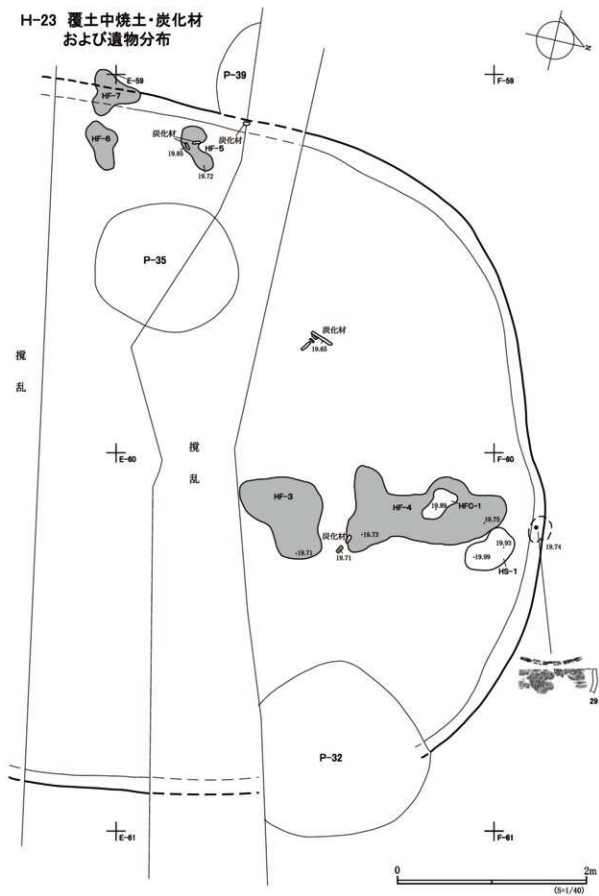
图IV-13 H-23 (1)



遺構名	遺構番号	層別	層高	構造	用途	土質		土質		土質		遺構名	遺構番号	層別	層高	構造	用途	土質		土質		遺構名	遺構番号	層別	層高	構造	用途		
						色	硬さ	色	硬さ	色	硬さ							色	硬さ	色	硬さ								
HP-23	1	1	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	HP-20	18	1	1	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	HP-22 HP-21	17	1	1	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m
		2	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				2	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	2	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		3	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				3	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	3	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		4	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				4	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	4	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		5	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				5	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	5	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		6	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				6	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	6	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		7	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				7	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	7	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		8	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				8	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	8	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		9	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				9	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	9	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		10	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				10	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	10	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		11	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				11	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	11	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m		
		HP-25	2	1	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				0.00m	HP-19	19	1	1	0.00m	0.00m				0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	HP-18
2	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	2	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				2	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
3	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	3	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				3	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
4	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	4	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				4	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
5	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	5	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				5	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
6	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	6	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				6	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
7	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	7	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				7	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
8	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	8	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				8	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
9	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	9	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				9	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
10	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	10	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				10	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
11	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	11	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				11	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						
12	0.00m			0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m	12	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m				12	0.00m	0.00m	0.00m	0.00m						

図IV-14 H-23 (2)

H-23 覆土中焼土・炭化材
および遺物分布



図IV-15 H-23 (3)

床面・壁 床面は概ね平坦で、壁は緩やかで曲線的に立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土5か所（HF-3～7）、礫集中1か所（HS-1）、フレイク集中1か所（HFC-1）、床面で炉跡焼土2か所（HF-1・2）、土坑1か所（HP-31）、柱穴・杭穴30か所（HP-1～30）を確認した。

HF-1は西壁側、HF-2は住居跡の長軸上、中央からやや北側に位置する。HF-1は長径0.54m、HF-2は長径0.83mで、いずれも平面は楕円形である。土坑HP-31は住居跡の中央付近に位置する。北側を削平されるが、平面形状は長径2mを超える楕円形と推定する。深さは0.13mと浅く、壁の立ち上がりは曲線的である。柱穴・杭穴は住居跡の西側（HP-8・12・13・21～23・29）、北側（HP-7・10・17～20）、東側（HP-1～4・11・26～28・30）で壁に沿って直線状に並び、それをつなぐと平成23年度調査区へ続く長方形の配列が想定できる。住居跡北側壁際ではHP-5・6・9・14～16・25が不規則に分布する。柱穴・杭穴の平面は円形が多く、確認面の径は0.08～0.32mで、0.15m未満のものが多い。深さは0.10～0.45mとばらつきがあり、断面形状は「丸」や「隅丸」が多い。

覆土中焼土は住居跡西側の壁際（HF-5～7）、北側（HF-3・4）に位置し、周囲には炭化材が散布する。HF-4の上位にはHFC-1があり、長径0.41m、短径0.24mの範囲から小型の石槍またはナイフ片、フレイクが出土した。HS-1は住居跡北側の壁際に位置し、細かく割れた礫が数十点まとまって出土した。

遺物出土状況 遺物は713点出土した。床面からはⅡ群a類土器4点、スクレイパー1点、礫4点、覆土からはⅠ群b類土器2点、Ⅱ群a類土器106点、Ⅳ群a類土器5点、石鏃1点、石錐1点、スクレイパー2点、フレイク162点、磨製石斧3点、石鋸3点、砥石16点、加工・使用痕のある礫1点、礫376点出土した。またHFC-1からは石槍またはナイフ3点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、フレイク22点出土した。

時期 出土遺物などから縄文時代前期前半と考えられる。

（愛場）

H-24（図IV-16～18 図版11）

位置 D・E・F-70・71区 **平面形態** 楕円形

規模 (7.01)×5.48/6.84×4.66/0.47m

確認・調査 包含層調査中、Ⅳ層上面で楕円形の黒色土がみられた。南北・東西方向のトレンチ調査を行い、Ⅴ～Ⅵ層中で床面、壁の立ち上がりを確認した。その後トレンチ沿いに土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げた。覆土中では焼土（HF-5・6）と炭化材が住居跡の南側部分でみられ、位置を記録した。また重複する土坑（P-41、44、48）を確認したため順次調査した。床面では焼土、柱穴・杭穴等を確認し、墜穴住居跡と判断した。平面は南北に長軸がある楕円形で、やや南側がすぼまる形状である。住居跡の南側には焼土層と炭化材がみられることから焼失住居跡の可能性がある。重複する土坑との新旧関係は、P-41、48が本遺構より新しく、P-44は不明である。炭化材は一部採取し、放射性炭素年代測定と炭化材樹種同定を行った（付篇2・3節参照）。また、床面出土の黒曜石製の石器4点（石槍またはナイフ・石錐）について産地推定分析を行った（付篇1節参照）。

覆土 10層に分けた。覆土は黒色土層と黒褐色土層が主体で、住居跡の中央から南側の覆土下位では焼土層がみられる。

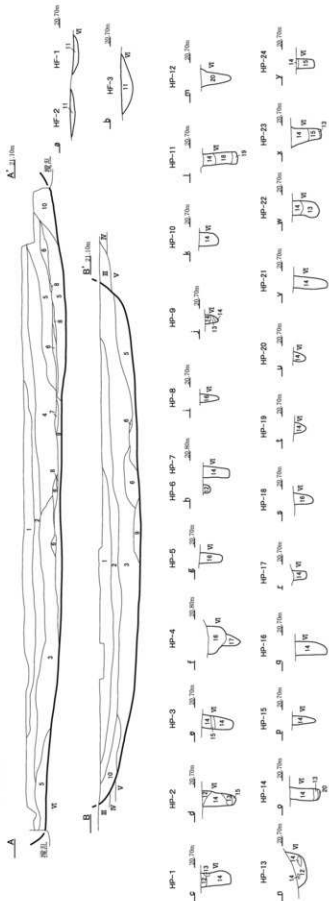
床面・壁 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかで曲線的に立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土2か所（HF-5・6）、床面で炉跡焼土4か所（HF-1～4）、土坑2か所（HP-13・32）、柱穴・杭穴36か所（HP-1～12・14～31・33～38）を確認した。

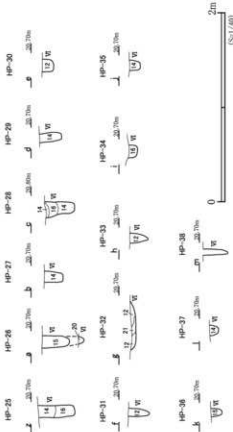


図IV-16 H-24 (1)

H-24

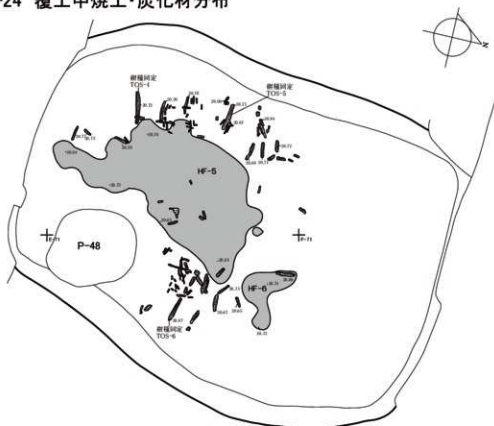


中層遺構番号	遺構名	階級	用途	形状	構造	面積 (㎡)	埋没深さ (cm)		遺構の状況	調査年度	調査者
							最大	平均			
1	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
2	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
3	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
4	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
5	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
6	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
7	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
8	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
9	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
10	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
11	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
12	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
13	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
14	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員
15	溝	溝	溝	溝	溝	1000.0	10	10	溝	昭和30年	調査員

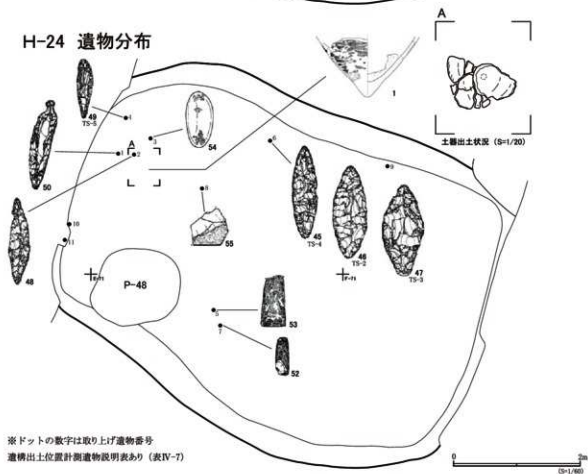


図IV-17 H-24 (2)

H-24 覆土中焼土・炭化材分布



H-24 遺物分布



※ ドットの数字は取り上げ遺物番号
遺構出土位置計画遺物説明表あり (表IV-7)

図IV-18 H-24 (3)

炉跡焼土はHF-3がほぼ住居跡の中央に位置し、HF-4、HF-2、HF-1が長軸上の南側へ並ぶ。平面はいずれも楕円形で、長径はHF-1が0.53m、HF-2が0.61m、HF-3が0.97m、HF-4が0.43mである。HF-2・4はHP-32に壊される。土坑HP-13・32は平面が楕円形で、長径はそれぞれ0.43mと0.53mである。底面から壁の立ち上がりは曲線的である。

柱穴・杭穴は住居跡の西側（HP-1～3・8・9・14・15・21～24・29・31・36）、東側（HP-5～7・10～12・16・19・25～27）、南側（HP-4・17・28・34・35）に分布し、壁に沿って直線状に並ぶ。HP-2・3、HP-10・11、HP-16・27など、2基単位となるものがある。またHP-30は住居跡のほぼ中央にあり、HF-3と重複するが、HF-3より新しい。柱穴・杭穴は平面が円形で、確認面の径は0.15m未満のものが多く、断面形は「丸」が多く、「隅丸」や「尖」もある。

遺物出土状況 遺物は426点出土した。床面からは石槍またはナイフ3点、石錐2点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、フレイク1点、磨製石斧2点、たたき石1点、石鋸3点、礫1点が出土し、覆土からはⅡ群a類土器85点、Ⅳ群a類土器64点、石鏃1点、石槍またはナイフ1点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ3点、スクレイパー10点、フレイク73点、磨製石斧3点、石鋸4点、砥石28点、礫125点が出土した。Ⅳ群a類土器の多くはP-48の土器と接合する。

時期 出土遺物などから縄文時代前期前半と考えられる。放射性炭素年代測定では4,980±30 yr BPと、縄文時代前期後半という結果がでている。（愛場）

H-25（図VI-19～21 図版12）

位置 F・G-65・66区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 6.64×5.67/6.25×5.09/0.64m

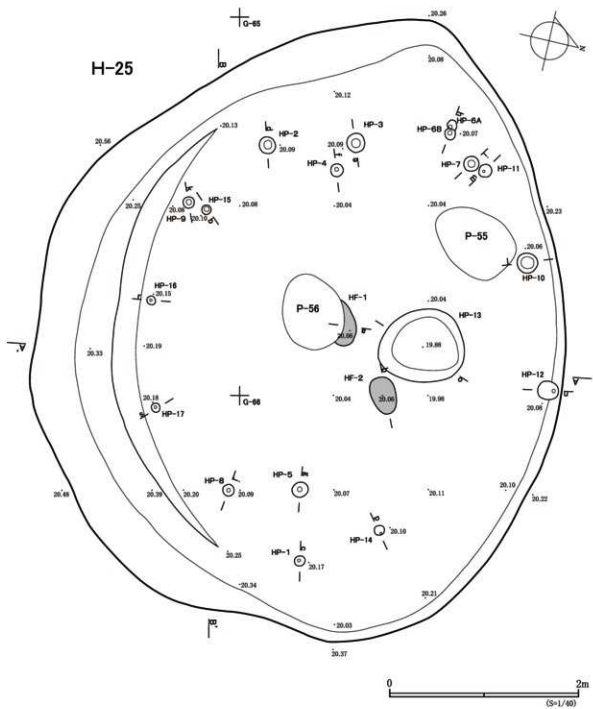
確認・調査 G-65区のⅢ層調査中、樽前c火山灰と黒～黒褐色土の楕円形のまとまりを検出したため、トレンチ調査を行った。その結果、床面及び壁の立ち上りを確認したため竪穴住居跡と判断し、調査した。住居跡北側の上部は覆土中～下位まで擾乱を受けている。H-25はP-55・56と重複し、新旧関係はH-25が古い。また、床面出土の黒曜石製の石器1点（石槍またはナイフ）について産地推定分析を行った（付篇1節参照）。

覆土 10層に分けた。黒色土が主体でⅣ・Ⅵ層が混ざる土層である。色調は黒～暗褐色である。

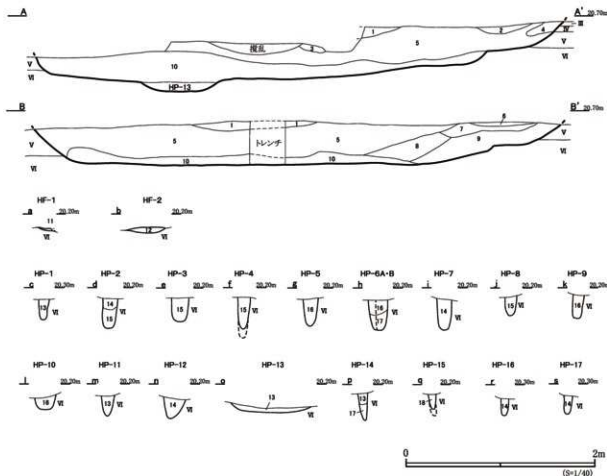
床面・壁 床面はほぼ平坦だが、南壁付近で段構造がみられる。壁は緩やかに曲線状に立ち上がる。

付属遺構 床面から炉跡焼土2か所（HF-1・2）、土坑1基（HP-13）、柱穴・杭穴17か所（HP-1～5、6A・B、7～12、14～17）、段構造を確認した。炉跡焼土はどちらも竪穴住居跡のほぼ中央に位置し、炭化物と骨片が微量混ざる。また、HF-1は南側をP-56に壊されている。土坑HP-13はHF-1・2の北西側に近接する。平面は楕円形で、確認面の長径は0.91m、深さは約0.1mと浅い。柱穴・杭穴は全体的に壁側に分布している。HP-7・11、HP-9・15は近接し、HP-6A・6Bは重複するが新旧は不明である。柱穴・杭穴の規模は径約0.1～0.2m、深さは約0.2～0.4mで、断面形状は「丸」が最も多く、「隅丸」、「尖」もみられる。また、段構造は床面の南壁沿いにみられる。

遺物出土状況 床面からⅡ群a類土器21点、石鏃1点、石槍またはナイフ2点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー1点、U・Rフレイク1点、フレイク5点、磨製石斧2点、石鋸6点、砥石1点、礫1点が出土した。Ⅱ群a類土器は北西壁際の床面からまとめて出土した（図IV-21、図V-1-5）。石器は床面中央よりやや北側でまとめて出土している（図IV-21）。覆土からはⅠ群b類土器2点、Ⅱ群a類土器64点、Ⅳ群a類土器2点、石鏃6点、石槍またはナイフ11点、両面調整石器10点、石錐1点、スクレイパー14点、U・Rフレイク15点、石核2点、フレイク392点、磨製石斧6点、た



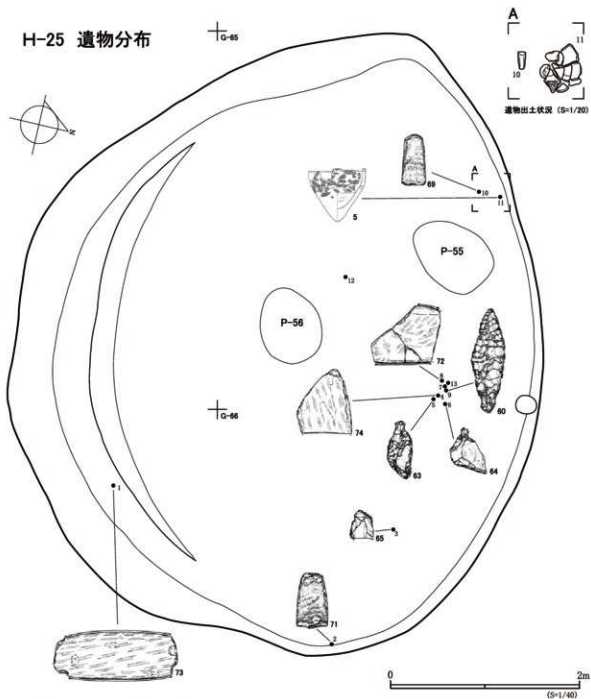
图IV-19 H-25 (1)



遺構名 柱状穴遺構	遺構番号	開口 形状	開口 直径	開口 深さ	開口 形状	埋土(長径20cm)		埋土(長径20cm以上)				埋入物	備考		
						色	層位	層位	層位	層位	層位			層位	層位
H-25	1	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	1	2	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	2	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	3	2	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	3	円形	30	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	3	2	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	4	円形	30	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	3	2	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	5	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	10	2	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	6	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	2	2	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	7	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	3	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	8	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	3	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	9	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	10	2	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	10	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	7~10	2	3	灰片	高土
H-25 HP-1	11	円形	30	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	3	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2
H-25 HP-2	12	円形	30	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	3	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2
H-25 HP-1~17	13	円形	30	0.8	円形	褐色	1000/2	中	黄	8~1層位	3	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	14	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	3	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	15	円形	30	0.8	円形	褐色	1000/2	緑~中	黄	8~1層位	3	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2
	16	円形	30	0.8	円形	褐色	1000/2	中	黄	8~1層位	3	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2
17	円形	30	0.8	円形	褐色	1000/2	中	黄	8~1層位	3	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2	
18	円形	30×100	0.8	円形	褐色	1000/2	中	黄	8~1層位	10	2	3	灰片	高土	2~3層位 1000/2

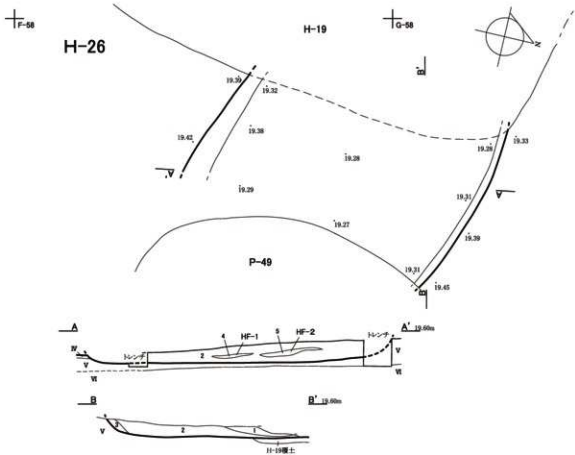
図IV-20 H-25(2)

H-25 遺物分布

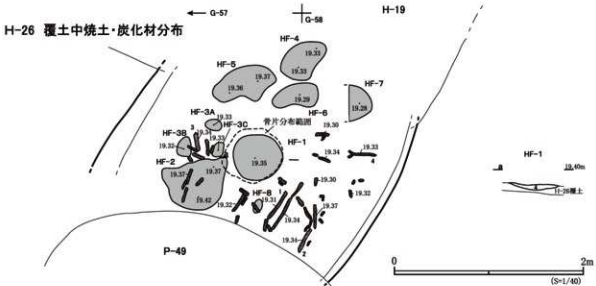


※ドットの数字は取り上げ遺物番号
遺構出土位置計画遺物説明表あり (表IV-7)

図IV-21 H-25 (3)



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名	層状 土質	骨・炭土・土器土(具類)埋藏状況				骨(具類)埋藏状況							
				野内 土色	骨 色	フッセル 陽色	粘着性	埋藏 層位	埋藏 深度 (cm)	傾斜	炭土の 埋藏	遺人物	備考		
H-26	1	赤色土 19.34	粘状 シルト 状土	褐色	19YR2/1	弱～中	粘	埋-1層位	7	2	1	東方側	炭土	炭化無残骸	
	2	赤色土 19.32	粘状 シルト 状土	褐色	19YR2/1	弱～中	粘	埋-1層位	2	2	2	東方側	炭土	炭化無残骸	
	3	赤色土 19.38	粘状 シルト 状土	褐色	19YR2/1	弱～中	粘	埋-1層位	15	2	5	東方側	炭土	—	
H-19	4	黄土	粘状 シルト 状土	褐色	7.5YR4/9	弱～中	粘	埋-1層位	1	2	4	東方側	炭土	骨片残骸	
HF-2	5	黄土	粘状 シルト 状土	褐色	6.5Y4/9	弱～中	粘	埋-1層位	1	2	4	東方側	炭土	—	



図IV-22 H-26

たき石2点、石鋸4点、砥石7点、台石・石皿1点、加工・使用痕のある礫1点、礫58点が出土した。
時期 床面出土の遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(広田)

H-26 (図IV-22 図版13)

位置 F・G-58区 平面形態 楕円形?

規模 (2.84)×(2.27)/(2.58)×(2.09)/0.24m

確認・調査 H-19調査中に隣接する黒色土のまとまりを確認したため、トレンチ調査を行ったところ、焼土及び炭化材を検出したため、H-19と別の遺構と判断し調査した。ベルトを設定し、焼土と炭化材を残しながら床面まで掘り下げた。出土状況の記録作成後、床面の精査を行ったが灰跡焼土や柱穴・杭穴などは確認できなかった。覆土中から焼土及び炭化材が出土していることから焼失住居跡の可能性が高い。H-19、P-49と重複するが、土層観察や焼土の分布などから、P-49より古く、H-19より新しい。覆土出土の炭化材1点について、放射性炭素年代測定を行った(付篇2節参照)。
覆土 3層に分けた。黒色土主体で、IV層が混ざる土層が多い。また覆土2層から焼土、炭化材が出土している。

床面・壁 床面はほぼ平坦だが、南側がやや高くなる。壁の立ち上がりは緩やかである。

付属遺構 覆土中で焼土を10か所(HF-1・2・3A~C・4~8)確認した。HF-1は平面形が円形で骨片を伴うため、灰跡焼土の可能性が高い。他は不整な形状が多く、長径が0.15~0.71mと大小みられ、焼失に伴う焼土の可能性が高い。

遺物出土状況 床面からII群A類土器11点、フレイク6点が出土している。覆土からはII群A類土器3点、IV群A類土器1点、石錐1点、スクレイパー1点、U・Rフレイク1点、フレイク33点、礫1点が出土した。

時期 床面出土遺物から縄文時代前期前半と考えられる。放射性炭素年代測定では3,880±30 y r B Pと、縄文時代後期前葉という結果がでている。(広田)

H-27 (図IV-23 図版14)

位置 E-64・65、F-64区 平面形態 楕円形

規模 3.44×2.90/3.26×2.61/0.24m

確認・調査 E-64区でIII層調査中、楕円形の黒色土のまとまりを確認した。長軸及び短軸方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、焼土、床面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断した。土層観察用のベルトを残して覆土を掘り下げたところ、覆土中位~床面にかけて焼土及び炭化材を検出した。それらの出土状況の記録後、床面の精査を行い、灰跡焼土、杭穴・柱穴を確認し調査した。北東側の壁がP-47とわずかに重複するが新旧関係は不明である。

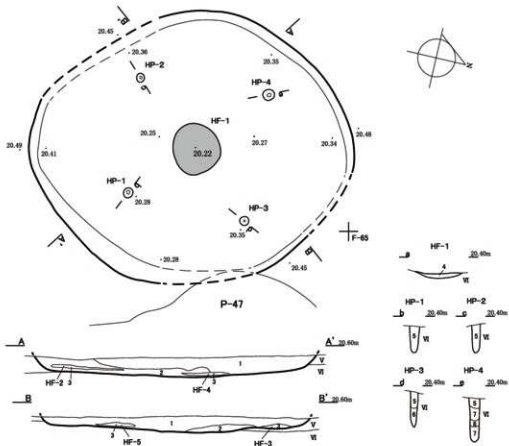
覆土 2層に分けた。どちらも黒色土が主体でIV・VI層が混じる土層である。

床面・壁 床面はやや凹凸がみられる。壁の立ち上がりは緩やかである。

付属遺構 床面で灰跡焼土1か所(HF-1)、杭穴・柱穴4か所(HP-1~4)を確認した。HF-1は床面ほぼ中央に位置し、平面は円形で色調は暗赤褐色を呈する。HP-1~4はHF-1と壁の間に位置し、方形状の配置がみられる。規模は確認面の径が9~12cmで、深さは29~46cmである。

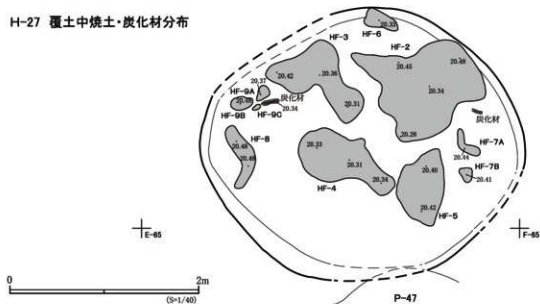
覆土中位~床面にかけて焼土11か所(HF-2~6・7A・7B・8・9A~C)を確認した。平面形は不整な楕円形が多い。規模は大小あり、HF-2~5は長径1m前後と大型で、HF-6・7A・7B・8・9A~Cは長径0.7m以下で小型のもので、これらはすべて焼失に伴う焼土と考えられる。

H-27



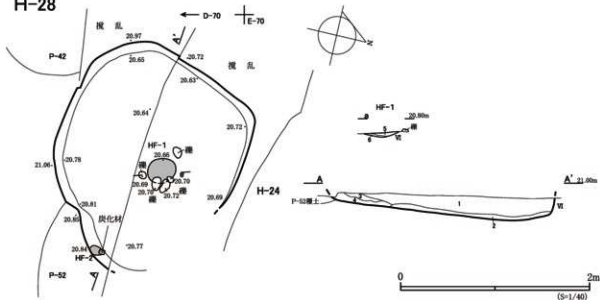
遺構名 作業区番号	埋没 深さ(m)	埋没 層	土質	埋-掘土・シルト(土質) (mm未満)				埋没 深さ(m)	形状 (m)	形状 (%)	炭化の 程度	埋入物	備考	
				野内 土質	埋 土質	埋-掘 土質	埋-掘 土質							
H-27	1	赤色土	中・硬	硬質	シルト 質土	赤色土	1070/1	埋-中	埋-掘式	1	2	3	埋戸跡 炭化	埋-中(埋) →埋(1)
H-27	2	赤色土	中・硬	硬質	シルト 質土	赤色土	1070/1	埋-中	埋-掘式	2	2	3	埋戸跡 炭化	埋-中(埋) →埋(2)
HP-1	3	硬土	硬質	シルト 質土	硬質土	硬質土	1.070/0	埋-中	埋-掘式	2	2	3	埋戸跡 炭化	埋-中(埋) →埋(3)
H-27	4	硬土	硬質	シルト 質土	硬質土	硬質土	1070/0	埋-中	埋-掘式	—	—	—	埋戸跡 炭化	埋-中(埋) →埋(4)
HP-1	5	赤色土	中・硬	硬質	シルト 質土	赤色土	1070/0	埋-中	埋-掘式	1	2	3	埋戸跡 炭化	埋-中(埋) →埋(5)
H-27	6	硬土	硬質	シルト 質土	硬質土	硬質土	1070/1	中	—	—	—	—	埋-中(埋) →埋(6)	
HP-1	7	硬土	硬質	硬質土	硬質土	硬質土	1070/1	中	—	—	—	—	埋-中(埋) →埋(7)	
HP-1	8	硬土	硬質	シルト 質土	硬質土	硬質土	1070/1	中	—	—	—	—	埋-中(埋) →埋(8)	

H-27 覆土中焼土・炭化材分布

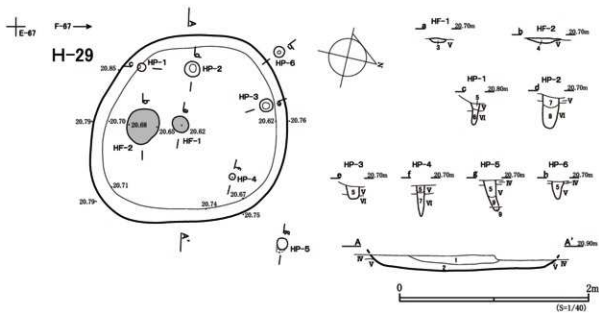


図IV-23 H-27

H-28



遺跡名 付属遺跡名	発掘調査 番号	主体層	遺存層	層序	土質			土質			層厚 [m]	面積 [㎡]	形状	掘削の 程度	掘入物	備考
					野外地 土質	色名	100g/100g 水分率	粘着性	塑性指数	層厚 [m]						
H-28	1	黒色土	砂	黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	2	掘削跡	黒化跡	少	---
	2	黒色土	砂層	黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
	3	砂層	黒色土	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
	4	砂層	黒色土	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
H-28	5	砂層	黒色土	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
HP-1	6	黒色土	砂層	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---



遺跡名 付属遺跡名	発掘調査 番号	主体層	遺存層	層序	土質			土質			層厚 [m]	面積 [㎡]	形状	掘削の 程度	掘入物	備考
					野外地 土質	色名	100g/100g 水分率	粘着性	塑性指数	層厚 [m]						
H-29	1	黒色土	砂層	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
	2	黒色土	砂層	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
H-29 HP-1-2	3	砂層	粘り強い 黒色土	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
	4	砂層	粘り強い 黒色土	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
H-29 HP-1-6	5	黒色土	砂層	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
	6	黒色土	砂層	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
	7	黒色土	砂層	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
	8	黒色土	砂層	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---
	9	黒色土	砂層	粘り強い 黒色	粘り強い 黒色	1000/100	中	粘	No-1級土	10	2	10	掘削跡	黒化跡	少	---

図IV-24 H-28・29

遺物出土状況 床面からはⅡ群a類土器2点、U・Rフレイク1点、フレイク17点が出土している。覆土からは1群b類土器1点、Ⅱ群a類土器2点、スクレイパー2点、U・Rフレイク1点、フレイク80点、磨製石斧1点、礫10点が出土している。

時期 床面出土の遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(広田)

H-28 (図IV-24 図版15)

位置 D・E-70区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 (2.44)×(1.96)／(2.26)×1.82／0.30m

確認・調査 包含層調査中、道路の側溝の攪乱土を掘り下げたところ、Ⅶ層中で楕円形の黒色土がみられた。土層観察用のベルトを設定し、周囲の覆土を掘り下げた。Ⅶ層中で床面と焼土、壁の立ち上がりを確認したため、竪穴住居跡と判断した。平面は東西方向に長軸がある不整な楕円形で、規模は約2.5mと小型である。土層断面から住居跡の東側に土坑(P-52)があり、本遺構が新しいことがわかった。またH-24とも重複するが、住居跡の間には攪乱があり、新旧関係は不明である。

覆土 4層に分けた。壁際にはⅦ層主体の褐色・暗褐色土層が堆積する。

床面・壁 床面は西～東側へ傾斜し、壁は住居跡西側では急角度、それ以外は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 覆土下位で焼土1か所(HF-2)、床面で炉跡焼土1か所(HF-1)を確認した。HF-1の平面は楕円形で、長径が0.31m、厚さが0.06mである。焼土の東側では拳大の礫が4点出土し、西側からも同様の礫が1点出土したことから、石組炉の可能性もある。礫は被熱し、取り上げできなかったものがある。HF-2は住居跡西側壁の覆土中にあり、上位には炭化材が少量みられた。

遺物出土状況 遺物は10点出土した。床面からは礫が2点出土し、覆土からはⅡ群a類土器3点、石槍またはナイフ1点、フレイク3点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から時期は縄文時代前期前半と考えられる。(愛場)

H-29 (図IV-24 図版16)

位置 E-67区 **平面形態** 楕円形

規模 2.28×2.03／2.01×1.80／0.17m

確認・調査 包含層調査中、Ⅳ層面で楕円形の黒色土がみられた。黒色土の中央部に東西方向のトレンチを設定し調査した結果、Ⅴ層中に床面、壁の立ち上がりを確認した。トレンチ沿いに土層観察用ベルトを設定し、周囲を掘り下げた。覆土上位ではF-5を検出したが、本遺構とは関連しないものと考えた。床面で焼土と柱穴・杭穴を確認したため竪穴住居跡と判断した。住居跡は平面が不整な楕円形で、確認面の長径は2.28mと小型である。

覆土 2層に分けた。いずれも黒色土に少量のⅣ層が混ざる土層で、覆土の上位は黒色土層、下位は黒褐色土層である。

床面・壁 床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 炉跡焼土2か所(HF-1・2)、柱穴・杭穴6か所(HP-1～6)を確認した。

炉跡焼土はHF-1が住居跡の中央よりやや南側、HF-2が南壁近くに位置する。平面はいずれも楕円形で、長径はHF-1が0.19m、HF-2が0.39mである。柱穴・杭穴はHP-1～4が住居跡の南西から北東側の壁際にあり、HP-5・6は住居外北側に位置する。平面はすべて円形で、直径は0.06～0.17mである。断面形状は「丸」が多い。

遺物出土状況 遺物は48点出土した。床面直上からはⅡ群a類土器4点、HP-3覆土からは石錐1

点、覆土からはⅡ群a類土器6点、石錐1点、スクレイパー1点、石鋸1点、フレイク21点、礫13点が出土した。

時期 出土遺物から時期は縄文時代前期前半と考えられる。(愛場)

(2) 土坑

P-26 (図IV-25 図版17)

位置 E・F-47・48区 平面形態 楕円形

規模 2.23×2.05/1.70×1.36/0.44m

確認・調査 遺構確認調査範囲であるE-48区で、IV層上面の精査を行ったところ、楕円形の黒色土のまとまりを確認した。楕円形の中央付近を通るように東西方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断し、調査した。北側にP-27が近接する。

覆土 6層に分けた。覆土1層は樽前c火山灰主体の土層である。覆土3・4層は、黒色でIV層が混ざり、5・6層は黒褐色でIV・VI層が混ざる土層である。

底面・壁 底面は緩やかな凹凸がみられ、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 覆土中から礫が17点出土した。

時期 周辺包含層出土の遺物や遺構の時期から縄文時代早期後半～前期前半の可能性がある。

(広田)

P-27 (図IV-25 図版17)

位置 F・G-47・48区 平面形態 楕円形

規模 2.44×2.06/1.97×1.68/0.42m

確認・調査 P-26周辺を精査中にP-26に近接する楕円形の黒色土のまとまりを確認した。楕円形の中央付近を通るように長軸方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断し、調査した。南側1.6mに規模や覆土の堆積状況が類似するP-26が位置している。

覆土 4層に分けた。覆土1層は樽前c火山灰主体の土層である。覆土2～4層は黒色土が主体で、IV層が少量混ざる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物出土状況 覆土中からI群b類土器1点、礫19点出土した。

時期 覆土出土の遺物、周辺包含層出土の遺物などから縄文時代早期後半～前期前半の可能性がある。

(広田)

P-28 (図IV-26 図版17)

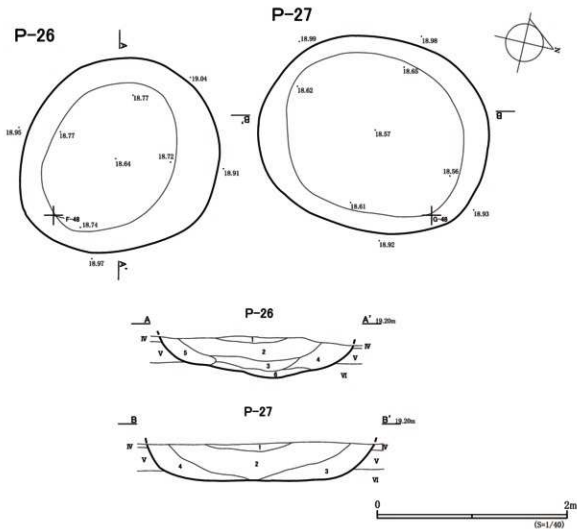
位置 G-46区 平面形態 楕円形

規模 2.19×1.99/1.92×1.62/0.32m

確認・調査 遺構確認調査範囲であるG-46区のIV層面で、中央に樽前c降下火山灰のまとまりがある楕円形の黒色土がみられた。南側半分を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断した。西側4mに規模や覆土の堆積状況が類似するP-26・27が位置する。

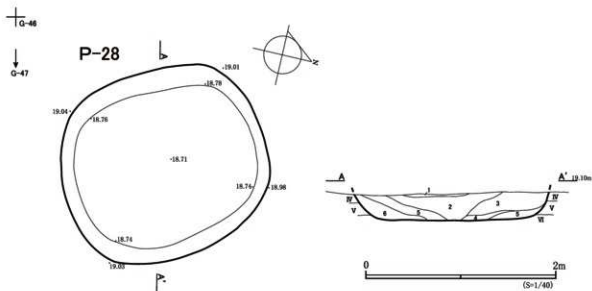
覆土 6層に分けた。覆土1層は樽前c降下火山灰主体である。覆土2～6層はいずれも黒色土主体で、IV層が少量混ざる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

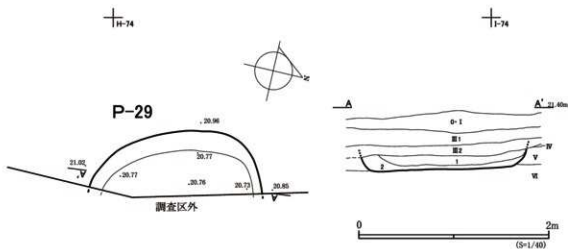


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名 土層層 遺位層	層別	計-断面(1/40)(基準20m未満)				横(基準20m以上)				遺人物	備考		
				野村 土物	色名	ワシシカ 割合%	粘着性	腐敗度	種類	面積 割合 (%)	平均			最大	形状
P-26	1														
	2	赤褐色土	粘着	硬質土	赤褐色	100%	中	弱	中-硬土	3	2	3	近円筒	炭化	---
	3	赤褐色土	粘着	硬質土	赤褐色	100%	中	弱	中-硬土	10	3	3	近円筒	炭化	炭化物層
	4	赤褐色土	粘着	硬質土	赤褐色	100%	中	弱	中-硬土	10	3	3	近円筒	炭化	炭化物層
	5	赤褐色土	粘着	硬質土	赤褐色	100%	中	弱	中-硬土	10	3	3	近円筒	炭化	炭化物層
	6	赤褐色土	粘着	硬質土	赤褐色	100%	中	弱	中-硬土	1	2	3	近円筒	炭化	---
P-27	1														
	2	赤褐色土	粘着	硬質土	赤褐色	100%	中	弱	中-硬土	3	2	3	近円筒	炭化	---
	3	赤褐色土	粘着	硬質土	赤褐色	100%	中	弱	中-硬土	10	3	3	近円筒	炭化	---
	4	赤褐色土	粘着	硬質土	赤褐色	100%	中	弱	中-硬土	10	3	3	近円筒	炭化	---

図IV-25 P-26・27

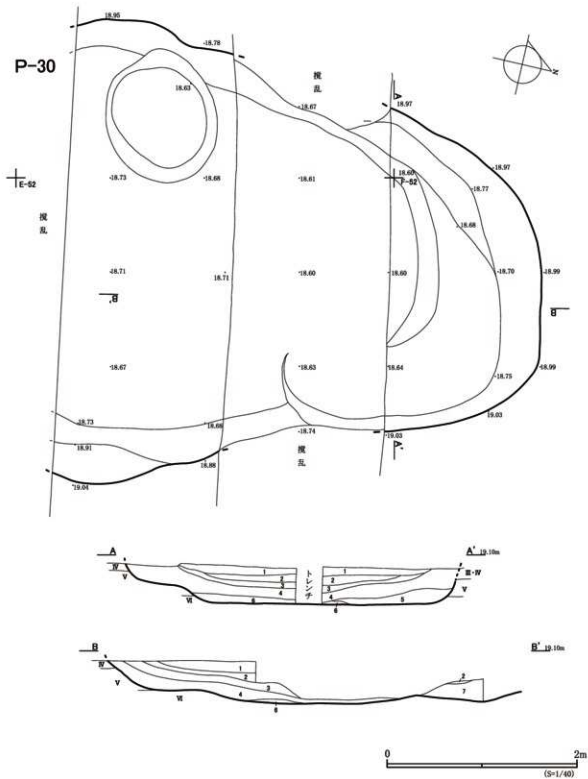


調査区 村名調査番号	調査区 番号	層位名 調査層	層名	砂-粘土-シルト (調査2mm未満)				礫 (調査2mm以上)				埋入物	備考		
				層内 土質 色名	平均粒径 色名	粘着性	層構成	層厚	調査 割合 (%)	調査 層厚 (m)	形状			風化の 程度	
P-28	1	表土	Te=	シルト 質表土	黄褐色	1000/2	粘	粘							
	2	表層	中層	シルト 質表土	褐色	1000/1.5	粘-弱	粘							
	3	表層	中層	シルト 質表土	黄褐色	1000/2	粘-弱	粘	細-礫土	40	2~3	5	層付層	風化	
	4	表土	中層	シルト 質表土	褐色	1000/1.5	粘-弱	粘	細-礫土	10	2~3	2	層付層	風化	
	5	表土	中層	シルト 質表土	黄褐色	1000/2	粘-弱	粘	細-礫土	20	2~3	2	層付層	風化	
	6	表土	中層	シルト 質表土	黄褐色	1000/2	粘-弱	粘	細-礫土	50	2~3	8	層付層	風化	



調査区 村名調査番号	調査区 番号	層位名 調査層	層名	砂-粘土-シルト (調査2mm未満)				礫 (調査2mm以上)				埋入物	備考		
				層内 土質 色名	平均粒径 色名	粘着性	層構成	層厚	調査 割合 (%)	調査 層厚 (m)	形状			風化の 程度	
P-29	1	表土	表層	粘土 質表土	灰色	1000/1	粘	粘							
	2	表土	中層, 下層	粘土 質表土	黄褐色	1000/1	粘	粘	細-礫土	5	1	1	層付層	風化	

図IV-26 P-28・29



遺構名 付属遺構名	断面番号	層位名	層厚	砂・粘土・シルト(系砂)の構成				層(厚径20cm以上)						
				割合 %	色	粘着性	層厚	割合 %	厚径 cm	形状	硬化の程度	侵入物	備考	
P-30	1	表層	20~21	砂	100%	1/1	中~強	塊	—	—	—	—	—	—
	2	赤土	10	赤土	100%	—	中	塊	10~15cm	0	2~3	底内層	硬化	—
	3	赤土	10	赤土	100%	—	中	塊	10~15cm	10	2~3	底内層	硬化	—
	4	赤土	10	赤土	100%	—	中	塊	10~15cm	—	—	底内層	硬化	—
	5	赤土	10	赤土	100%	—	中	塊	10~15cm	—	—	底内層	硬化	—
	6	赤土	10	赤土	100%	—	中	塊	10~15cm	—	—	底内層	硬化	—
	7	赤土	10	赤土	100%	—	中	塊	—	—	—	—	—	—

図IV-27 P-30

遺物出土状況 覆土からフレイク2点が出土した。

時期 周辺包含層出土の遺物や遺構の時期から縄文時代早期後半～前期前半の可能性ある。

(愛場)

P-29 (図IV-26 図版17)

位置 G・H-74区 **平面形態** 楕円形?

規模 (1.77)×(0.70)／(1.48)×(0.49)／(0.25)m

確認・調査 遺構確認区であるH-74区で、IV層上面を精査したところ、調査区東壁際で黒色土のまとまりを確認した。調査区東壁に沿ってトレンチ調査をした結果、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断し、調査した。東側の調査区外に広がるため、部分的な調査にとどまる。

覆土 2層に分かれ、どちらも黒色土が主体の土層である。

底面・壁 底面は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 覆土からフレイク2点、礫4点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物などから縄文時代～続縄文時代の可能性ある。(広田)

P-30 (図IV-27 図版17)

位置 E・F-51・52区 **平面形態** 不整な楕円形?

規模 (5.07)×4.92／(4.64)×4.03／0.46m

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で楕円形の黒色土がみられた。南北・東西方向のトレンチ調査を行い、VI層中に底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断した。トレンチ沿いに土層観察用ベルトを設定し、周囲の覆土を掘り下げた。焼土や柱穴・杭穴がみられないため土坑と判断した。南側は平成23年度調査区に続くが、平成23年度の調査では確認できなかった。土坑の平面は不整な楕円形と推測され、長径は6mを超える可能性がある。

覆土 7層に分けた。覆土1層はIII層主体、覆土2層は樽前c降下火山灰主体である。それ以下は概ね黒褐色土が堆積するが、土坑東側壁際には暗褐色土層がみられる。

底面・壁 底面は凹凸があり、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 北側の壁際には段構造がみられ、約5cm高くなる部分がある。

遺物出土状況 遺物は108点が出土した。坑底面からは礫が15点出土し、覆土からはI群b類土器8点、II群a類土器2点、IV群a類土器1点、スクレイパー2点、両面調整石器1点、フレイク40点、磨製石斧1点、石鋸1点、石錐36点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉の可能性ある。

(愛場)

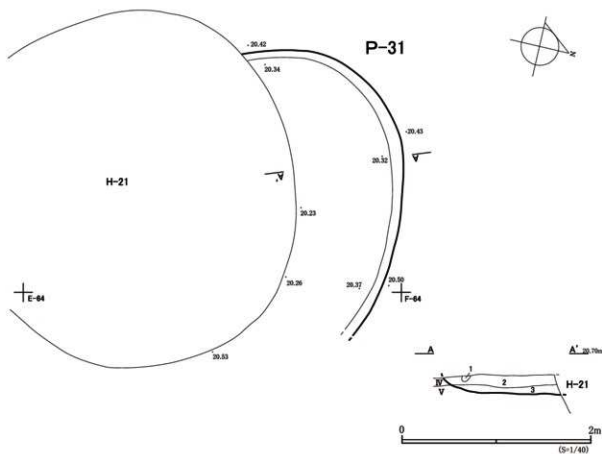
P-31 (図IV-28 図版17)

位置 E-63・64区、F-63区 **平面形態** 楕円形?

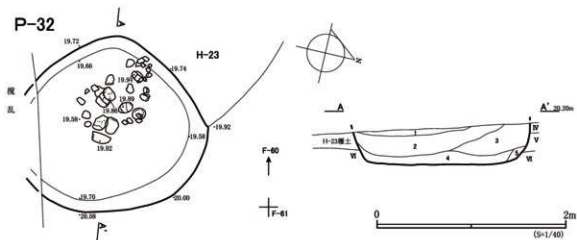
規模 (3.03)×(1.70)／(2.88)×(1.52)／(0.23)m

確認・調査 竪穴住居跡H-21のトレンチ調査中に、重複する遺構の覆土、底面及び壁を確認したため、別の土坑と判断して調査した。H-21より古く、半分以上壊されている。また、東側の壁が不明瞭で確認できなかった。覆土中からフレイクがややまとまって出土した範囲は、土壌ごと取り上げて水洗選別し、フレイク等を採取した。

覆土 3層に分けた。全体的に黒色土主体で、覆土1層のみVI層主体の暗褐色土である。



遺構名 付属遺構名	断面 番号	層位名 土体層 浮き層	層厚	地-粘土(シルト)(基準200cm未満)				礫(基準200cm以上)				遺入物	備考		
				野外地 土性	色相	マンガン 含有率	粘着性	層構成	種類	数量 割合(%)	平均 径大			形状	風化の 程度
P-31	1	浮き	20.52	褐色	粘着土	褐色	10YR5/1	中	層	無	—	—	—	—	—
	2	褐色土	20.48	粘着	粘着土	褐色	10YR5/1	中	層	8a-硬砂	7	2~4	球形礫	風化	—
	3	褐色土	20.47	粘着	粘着土 浮き層上	褐色	10YR5/1	中	層	8a-硬砂	+	2	3	球形礫	風化 褐色物残骸



遺構名 付属遺構名	断面 番号	層位名 土体層 浮き層	層厚	地-粘土(シルト)(基準200cm未満)				礫(基準200cm以上)				遺入物	備考			
				野外地 土性	色相	マンガン 含有率	粘着性	層構成	種類	数量 割合(%)	平均 径大			形状	風化の 程度	
P-32	1	浮き	19.92	褐色	粘着土	褐色	10YR5/1	中	層	無	—	—	—	—		
	2	褐色土	19.88	粘着	粘着土 浮き層上	褐色	10YR5/1	中	層	8a-硬砂	3	2~4	球形礫	風化	—	
	3	褐色土	19.88	粘着	粘着土 浮き層上	褐色	10YR5/1	中	層	8a-硬砂	20	2~3	8	球形礫	風化	—
	4	褐色土	19.88	粘着	粘着土 浮き層上	褐色	10YR5/1	中	層	8a-硬砂	10	2~3	8	球形礫	風化	—
	5	褐色土	19.88	粘着	粘着土 浮き層上	褐色	10YR5/1	中	層	8a-硬砂	10	2~3	8	球形礫	風化	—

図IV-28 P-31・32

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線状で緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 覆土中からⅡ群 a 類土器 1 点、Ⅳ群 a 類土器 2 点、石鏃 3 点、石槍またはナイフ 2 点、スクレイパー 3 点、U・R フレイク 1 点、フレイク 165 点、石鏃 3 点、砥石 4 点、礫 62 点が出土した。また、覆土の土壌水洗により、U・R フレイク 1 点、フレイク 338 点を回収した。

時期 覆土出土の遺物や周辺の遺構などから縄文時代前期前半もしくは後期前葉と考えられる。

(広田)

P-32 (図Ⅳ-28 図版17)

位置 E-60・61区 **平面形態** 楕円形

規模 (1.91)×1.91/(1.70)×1.65/0.44m

確認・調査 H-23 確認時、西側付近で H-23 とは別の円形の黒色土がみられた。竪穴住居跡と土坑の重複が予想されたため、この部分にかかるよう東西方向のトレンチを設定し、掘り下げた。竪穴住居跡の床面より低いⅥ層中で底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。土層断面から H-23 より新しい。南壁際は攪乱により削平される。

覆土 5 層に分けた。土坑東側に黒褐色土がみられるほかは、黒色土が堆積する。覆土 2 層では礫がまとまって出土した。

底面・壁 底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土から 150 点出土した。内訳はⅣ群 a 類土器 2 点、つまみ付きナイフ 1 点、フレイク 88 点、砥石 5 点、礫 54 点である。礫は拳大のものが多く、覆土 2 層でまとまって出土した。

時期 覆土出土の遺物や周辺の遺構などから縄文時代前期前半もしくは後期前葉と考えられる。

(愛場)

P-33 (図Ⅳ-29 図版17)

位置 D-67区 **平面形態** 楕円形

規模 1.07×(0.78)/0.66×(0.51)/0.27m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層で楕円形のⅣ層混じりの黒色土がみられた。長軸で半載したところ、壁と坑底面を確認し土坑と判断した。土層断面を記録した後完掘した。平面は北東-南西に長軸がある長径約 1 m の楕円形である。南西側には F-2 が近接し、本遺構と関連する可能性がある。

覆土 2 層に分けた。いずれも黒色土にごく少量のⅣ層が混ざる土層である。

底面・壁 底面から壁の立ち上がりまで曲線的である。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

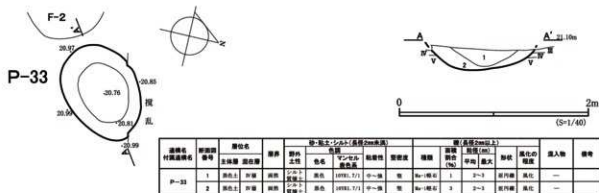
時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物などから縄文時代前期前半、後期前葉の可能性ある。(愛場)

P-34 (図Ⅳ-29 図版18)

位置 E-61・62、F-62区 **平面形態** 不整な楕円形

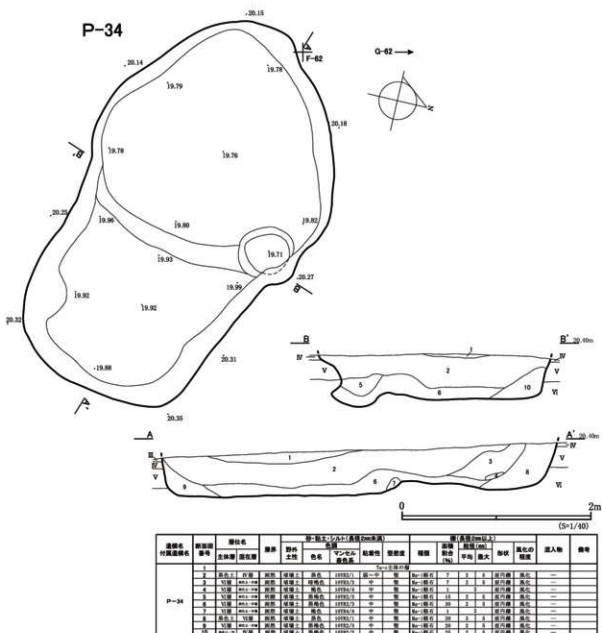
規模 4.31×2.66/3.93×2.50/0.58m

確認・調査 E-62区のⅣ層上面で精査を行い、樽前 c 火山灰と黒色土の楕円形のまとまりを確認した。黒色土の中央付近を通るように長軸及び短軸方向にトレンチを設定、掘り下げて底面と壁の立ち上がりを確認した。当初は規模などから竪穴住居跡と考えていたが、底面で跡跡焼土や柱穴・杭穴がみられないことや、段構造があることなどから土坑と判断した。



←D-00

↑E-00



図IV-29 P-33・34

覆土 10層に分けた。覆土1層は樽前c火山灰主体の土層で、覆土2・8層は黒色土主体の土層である。他の土層はVI層が主体で、色調は褐色～黒褐色を呈する。

底面・壁 底面はほぼ平坦だが、南東側は一段高くなる。また、北壁際の中央付近がくぼむ。壁の立ち上がりは全体的に急角度である。

付属遺構 中央付近から南東側に段構造がみられ、南東側の底面は北西側より約10～20cm高くなる。

遺物出土状況 覆土からII群a類土器25点、IV群a類土器3点、石鍬4点、石錐1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー7点、U・Rフレイク4点、フレイク307点、石鋸3点、砥石5点、加工・使用痕のある礫1点、礫529点が出土している。

時期 覆土出土の遺物や周辺包含層出土の遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の可能性はある。(広田)

P-35 (図IV-30 図版18)

位置 D・E-59区 **平面形態** 楕円形

規模 1.52×1.36/1.14×0.84/0.45m

確認・調査 竪穴住居跡H-23調査中、覆土下位で円形の黒色土と樽前c火山灰がみられた。中央に土層観察用のベルトを残し、両側を掘り下げた。H-23床面より深いVI層中で、壁と底面を確認し、土坑と判断した。H-23のHF-1を壊して構築されるため、H-23より新しい。

覆土 5層に分けた。覆土1層は樽前c降下火山灰主体土層である。覆土4層はVI層主体土層で土坑東側に堆積する。

底面・壁 底面は北側に向かって傾斜し、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は54点出土した。坑底面直上から石鋸1点、礫2点、覆土からはII群a類土器2点、石槍またはナイフ1点、フレイク41点、礫7点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半の可能性はある。(愛場)

P-36 (図IV-30 図版18)

位置 E-56区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 1.20×0.91/0.87×0.57/0.16m

確認・調査 竪穴住居跡H-19のトレンチ調査で、土層断面の観察により重複する小型の土坑を確認した。そのため、別の遺構名を付し調査を行った。新旧関係は不明でH-19の付属遺構の可能性もある。

覆土 3層からなる。いずれも黒色土が主体で、IV・VI層が混ざる土層である。

底面・壁 底面と壁の境は不明瞭で、底面は全体的に浅くくぼむ形状である。壁は曲線的に緩く立ち上がる。

遺物出土状況 覆土からII群a類土器1点、フレイク4点、礫1点が出土した。

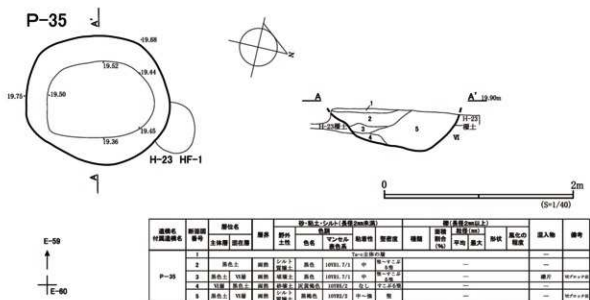
時期 覆土出土の遺物から縄文時代前期前半の可能性はある。(広田)

P-37 (図IV-31 図版18)

位置 F-56区 **平面形態** 不整な楕円形

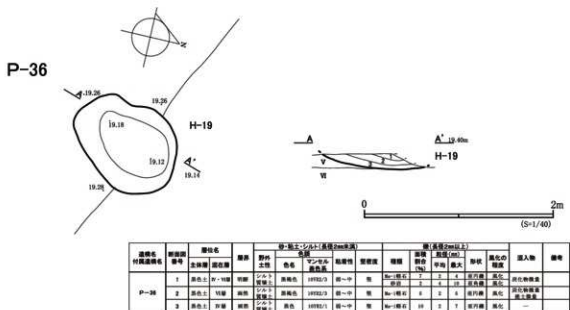
規模 1.04×0.81/0.79×0.57/0.10m

確認・調査 竪穴住居跡H-19の覆土を掘り下げ中に、IV群a類土器が器形を保ったまま出土した。H-19の床面を検出した時点で精査を行ったところ、土器周辺で不整な楕円形の黒色土のまとまりを確認した。南西側約半分を掘り下げたところ底面と壁の立ち上がりを確認したため、H-19と重複す



E-58

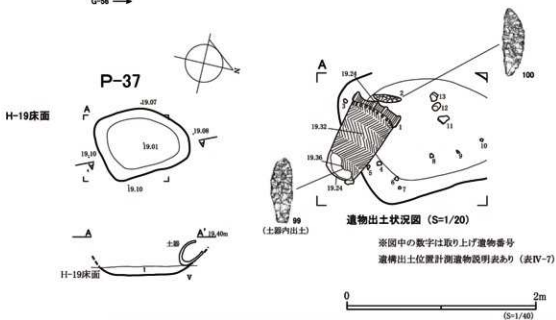
F-56



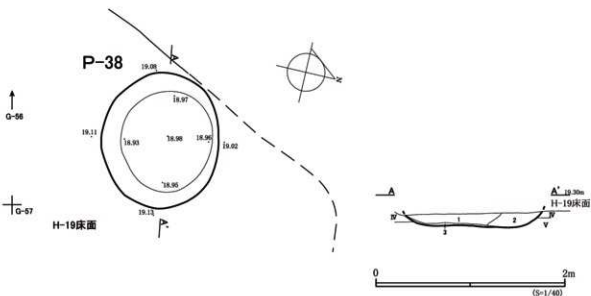
図IV-30 P-35・36

↑ F-56

G-56 →



遺構名 付属遺構名	発掘 番号	層位名	層別	野外 土性	土質			磁器	骨(長径2cm以上)				遺物の 埋没 状況	遺物の 埋没 状況	埋入物	備考
					色名	ワシカム 値色名	粘着性		塑性状	硬質	硬質 割合 (%)	形状 平均				
P-37	1	表土	砂層	黄砂	黄褐色	10YR7/3	粘-中	粘	粘-硬粒	1	2	4	近円盤	黄化	黄化特徴表	



遺構名 付属遺構名	発掘 番号	層位名	層別	野外 土性	土質			磁器	骨(長径2cm以上)				遺物の 埋没 状況	遺物の 埋没 状況	埋入物	備考
					色名	ワシカム 値色名	粘着性		塑性状	硬質	硬質 割合 (%)	形状 平均				
P-38	1	表土	砂層	黄砂	黄褐色	10YR7/3	粘	粘	粘-硬粒	1	1	1	近円盤	黄化	—	
	2	表土	砂層	黄砂	黄褐色	10YR7/3	粘	粘	粘-硬粒	1	1	1	近円盤	黄化	—	
	3	表土	砂層	黄砂	黄褐色	10YR7/3	粘-中	粘	粘-硬粒	1	2	3	近円盤	黄化	—	

図IV-31 P-37・38

る土坑と判断し調査した。原則的に遺物は残しながら坑底面まで掘り下げ、最終的に出土地点を計測して取り上げた。平面形は確認面、坑底面共に不整の楕円形である。新旧関係は土層の観察や遺物の出土状況などから、H-19より新しい。また、覆土及び坑底面出土の黒曜石製の石器2点（石槍またはナイフ）について産地推定分析を行った（付篇1節参照）。

覆土 1層のみで、黒色土を主体としIV層が少量混ざる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に緩く立ち上がる。

遺物出土状況 坑底面からIV群a類土器31点、石槍またはナイフ1点、フリイク1点が出土した。坑底～覆土中からIV群a類土器がまとめて出土している（図IV-31、図V-2-7）。この土器は器形を保っており、口縁部がやや低い横倒しに近い状態で出土した。底部を欠き、土器内からは石槍またはナイフとフリイクが1点ずつ出土している。覆土からはI群b類土器1点、IV群a類土器2点、石槍またはナイフ1点、フリイク23点、礫3点が出土した。

時期 坑底面出土の遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。（広田）

P-38（図IV-31 図版18）

位置 G-56・57区 **平面形態** 円形

規模 1.44×1.24/1.07×0.96/0.18m

確認・調査 竪穴住居跡H-19の北西側壁際を精査時に、円形の黒色土のまとまりを確認した。東西方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断した。覆土の堆積状況や規模などから、H-19の付属遺構ではなく、重複する遺構と判断して調査した。新旧関係は不明である。

覆土 3層に分けた。いずれも黒色土が主体でIV層が少量混ざる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に緩く立ち上がる。

遺物出土状況 覆土からフリイク4点、砥石1点、礫2点が、坑底面からたき石1点、台石・石皿1点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から、縄文時代早期～後期の可能性がある。（広田）

P-39（図IV-32 図版19）

位置 E-58・59区 **平面形態** 楕円形？

規模 (1.06)×(0.39)/(0.92)×(0.30)/0.13m

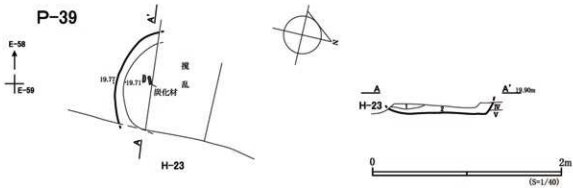
確認・調査 竪穴住居跡H-23調査中、住居外西側のIV層面で半円形の黒褐色土がみられた。北側は攪乱により壊されており、この攪乱土を掘り下げ、土層断面を確認した。H-23と重複するが、新旧関係は不明である。土層断面記録後、南側を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。全体の半分以上は削平されるが、平面は楕円形と推定する。

覆土 2層に分けた。覆土1層は黒色土、覆土2層は黒褐色土で、覆土2層では炭化材がみられた。

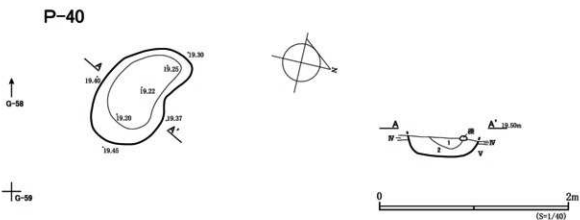
底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土からつまみ付きナイフ1点、加工・使用痕のある礫1点が出土した。加工・使用痕のある礫は炭化物が全面に付着する。

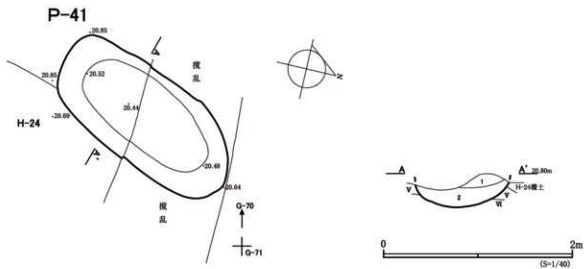
時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から、縄文時代早期～後期の可能性がある。（愛場）



遺構名 付属遺構名	調査区 番号	層位名	層別	地-地工(シロト)基礎(2m未満)				溝(基礎(2m以上))				埋人物	備考			
				形状	色名	材質性	基礎深	基礎 形状	基礎 幅(1)	基礎 幅(2)	形状			溝口の 幅		
P-39	1	黒色土	焼跡	シロト 焼土	黒色	100E1/2/3	中	壁	地-地	18	2-3	2-3	直円筒	高さ	—	
	2	黒色土	砂層	シロト 焼土	黒褐色	100E2/3	中	壁	地-地	45	2-3	1	直円筒	高さ	10cm程	



遺構名 付属遺構名	調査区 番号	層位名	層別	地-地工(シロト)基礎(2m未満)				溝(基礎(2m以上))				埋人物	備考			
				形状	色名	材質性	基礎深	基礎 形状	基礎 幅(1)	基礎 幅(2)	形状			溝口の 幅		
P-40	1	黒色土	砂層	シロト 焼土	黒色	100E2/3	弱-中	壁	地-地	18	2	4	直円筒	高さ	—	
	2	黒色土	砂層	焼土	黒色	100E1/3	弱-中	壁	地-地	30	1	1	直円筒	高さ	—	



遺構名 付属遺構名	調査区 番号	層位名	層別	地-地工(シロト)基礎(2m未満)				溝(基礎(2m以上))				埋人物	備考		
				形状	色名	材質性	基礎深	基礎 形状	基礎 幅(1)	基礎 幅(2)	形状			溝口の 幅	
P-41	1	砂層	Ta-V	焼土	シロト 焼土	黒褐色	100E2/2	中	壁	—	—	—	—	—	
	2	黒色土	砂層	焼土	シロト 焼土	黒褐色	100E2/3	中	壁	—	—	—	—	—	10cm程

図IV-32 P-39~41

P-40 (図IV-32 図版19)

位置 G-58区 平面形態 不整な楕円形

規模 $1.24 \times 0.79 / 0.91 \times 0.58 / 0.22\text{m}$

確認・調査 G-58区でIV層上面の精査を行ったところ、楕円形の黒色土のまとまりを確認した。黒色土の南東側部分を掘り下げたところ、底面及び壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断し、調査した。

覆土 2層に分けた。どちらも黒色土主体で覆土1層はVI層、覆土2層はIV層が混ざる土層である。

底面・壁 底面は平坦である。壁は南東側が緩やかで、他は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 覆土から礫8点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から、縄文時代早期～後期の可能性がある。(広田)

P-41 (図IV-32 図版19)

位置 F-70区 平面形態 楕円形

規模 $2.16 \times 0.99 / 1.56 \times 0.68 / 0.36\text{m}$

確認・調査 竪穴住居跡H-24調査中、住居跡外の北西側に楕円形の黒色土と一部に樽前c火山灰がみられた。黒色土の北側半分を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。土坑の北側の上位は攪乱により壊される。H-24、P-44と重複し、いずれも本遺構が新しい。平面は北東-南西方向に長軸がある楕円形で、削平の影響のない南側では隅丸長方形に近い形状である。

覆土 2層に分けた。覆土1層は樽前c降下火山灰主体層、覆土2層は黒褐色土層である。

底面・壁 底面と壁の立ち上がりは曲線的である。

遺物出土状況 遺物は覆土からII群a類土器2点、フレイク1点、礫2点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(愛場)

P-42 (図IV-33 図版19)

位置 D-69・70区 平面形態 楕円形

規模 $1.57 \times (0.90) / 1.27 \times (0.74) / 0.21\text{m}$

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で楕円形の暗褐色土がみられた。北側は道路の側溝で壊されており、攪乱土を掘り下げ、土層を確認した。土層断面を記録した後、南側を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。北東側には竪穴住居跡H-28があり、わずかに重複するが、新旧関係は不明である。

覆土 3層に分けた。暗褐色土層の覆土1層が主体である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土からII群a類土器1点、フレイク2点、礫4点が出土した。

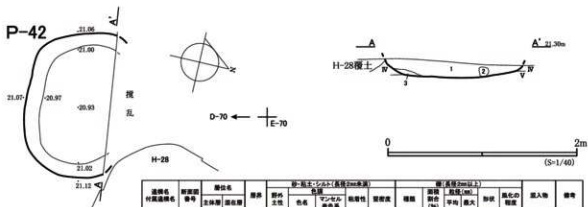
時期 出土遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。(愛場)

P-43 (図IV-33 図版19)

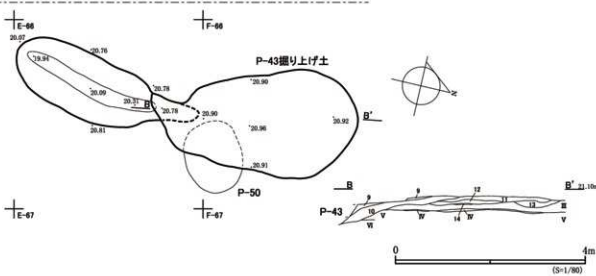
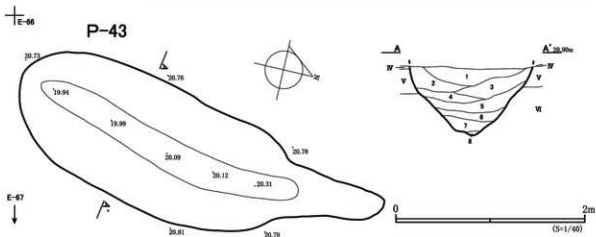
位置 E-66区 平面形態 不整な長楕円形

規模 $4.03 \times 1.33 / 2.94 \times 0.52 / 0.89\text{m}$

確認・調査 E-66区でIV層上面を精査したところ、楕円形の黒色土のまとまりを確認した。楕円形の短軸方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断し調査した。また、P-43の北側に接する楕円形の褐色土のまとまりを確認し、長軸方向にトレンチ調



遺構名 付属遺構名	発掘 番号	層位名 土層別 遺物層	層別	土質		磁器性	瓦葺成	種類	断面 形状		形状	築成の 順位	埋入物	備考
				野村 土質	色名				断面 形状	断面 最大				
P-42	1	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	28	2-1	10	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	2	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	28	2-1	10	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	3	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	28	2-1	10	表行跡	高低約10cm	瓦葺成



遺構名 付属遺構名	発掘 番号	層位名 土層別 遺物層	層別	土質		磁器性	瓦葺成	種類	断面 形状		形状	築成の 順位	埋入物	備考
				野村 土質	色名				断面 形状	断面 最大				
P-43	1	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	2	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	3	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	4	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	5	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	6	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	7	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	8	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	9	瓦	砂質	硬質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	10	瓦	砂質	硬質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
P-43 掘り上げ土	11	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	12	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	13	表土上	砂質	シロト土質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成
	14	瓦	砂質	硬質上	黒色	中	瓦	瓦葺成	18	2	1	表行跡	高低約10cm	瓦葺成

図IV-33 P-42・43

査を行い、褐色～黒褐色土層の堆積を確認した。位置関係や土層の堆積状況からP-43に伴う掘り上げ土と判断した。平面形はP-43、掘り上げ土共に南北に長い不整な長楕円形である。調査手順は、先にP-43を完掘し、次に掘り上げ土の調査を行った。掘り上げ土はP-50と重複し、新旧関係は掘り上げ土がP-50の上に位置するため、掘り上げ土が新しい。

覆土 8層に分けた。黒色土にIV・VI層が混じる土層が多く、色調は暗褐色～黒色を呈する。

底面・壁 底面は北端が最も高く、南側に向かって傾斜して低くなる形状である。壁の立ち上がりは全体的に急角度で、北側はごく緩やかである。

付属遺構 北側に掘り上げ土がみられ、規模は長軸4.4m、厚さ0.3mである。Ⅲ層上位に堆積し、VI層ないし黒色土主体の褐色～黒褐色の土層で構成される。

遺物出土状況 覆土からⅡ群a類土器4点、Ⅳ群a類土器1点、石鏃1点、U・Rフレイク1点、フレイク19点、礫4点が出土した。また、掘り上げ土からⅡ群a類土器1点、石槍またはナイフ1点、両面調整石器1点、スクレイパー3点、U・Rフレイク6点、フレイク46点、磨製石斧1点、礫11点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉と考える。(広田)

P-44 (図IV-34 図版19)

位置 F・G-70・71区 **平面形態** 楕円形?

規模 4.96×(1.78)/4.67×(1.78)/0.22m

確認・調査 包含層調査中、竪穴住居跡H-24の北側で、攪乱で壊された楕円形の黒褐色土がみられた。東西方向に土層観察用のベルトを残し、周囲の覆土を掘り下げた。底面と壁の立ち上がりを確認し、焼土や柱穴がみられないため、土坑と判断した。H-24、P-41と重複し、新旧関係はP-41が新しく、H-24とは不明である。

覆土 2層に分けた。覆土1層は樽前c降下火山灰主体層、覆土2層は黒褐色土層である。

底面・壁 底面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅠ群b類土器1点、Ⅱ群a類土器1点、Ⅳ群a類土器1点、石鏃1点、フレイク3点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉の可能性がある。(愛場)

P-45 (図IV-35 図版20)

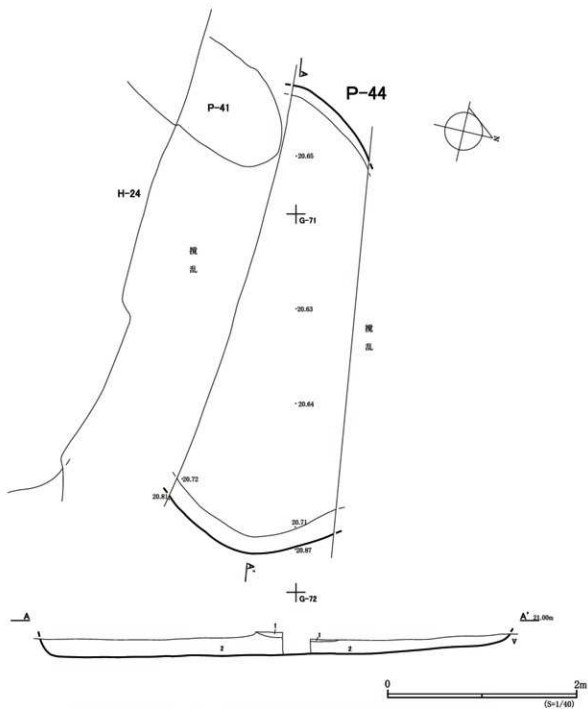
位置 F・G-53・54区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 6.24×3.63/5.83×3.03/0.51m

確認・調査 包含層調査中、Ⅳ層上面で不整形の黒色土がみられた。東西・南北方向のトレンチ調査を行い、V～VI層中で底面と壁の立ち上がりを確認した。トレンチに沿って土層観察用ベルトを設定し、周囲を掘り下げた。土坑の覆土上面では南東側でF-4、南西側でFC-4がみられたが、本遺構とは関連しないものと考えた。底面に焼土や杭穴・柱穴がないことから土坑と判断した。平面形状はほぼ南北に長軸がある不整の楕円形で、規模は長径6.24mと大型である。

覆土 13層に分けた。覆土1層はⅢ層主体、覆土2・3層は樽前c降下火山灰主体土である。それ以下は覆土5・11層がVI層主体となる以外は黒色土が主体である。覆土中位の覆土13層では厚さ約4cmの赤色土壌が堆積する。

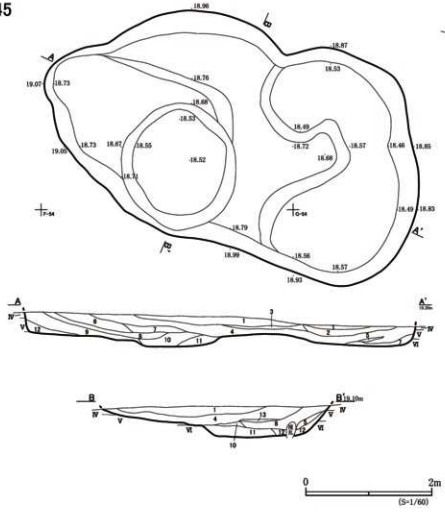
底面・壁 底面は凹凸が激しく、中央部は高くなる。また中央東側の壁際では土坑状にくぼむ部分がある。壁は南北では直立気味で、東西では斜めに立ち上がる。



建設年度 付属番号	断面番号	断面名	構造	基礎土質(地質調査結果)					断面構造(断面)				設計者	備考	
				野村 土質	色名	含水率 (%)	粘着性	塑性指数	液性指数	平均	最大	形状			風化の 程度
P-44	1														
	2	基礎土質(地質調査結果)	砂質土	黄褐色	17.5%	1-2	低	0.1-0.2	1	1-1	x	傾斜面	風化		設計者

図IV-34 P-44

P-45



遺構名 付属遺構名	順路 番号	層位名		層序	層位 名称	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					埋入物	備考	
		表層部	底層部			色相	質	含有率	粘着性	層厚	種類	数量 割合(%)	分布	最大			層位の 程度
P-45	1	砂層	砂層	シルト 底層部	褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	2	砂色土	砂色土	シルト 表層部	褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	3	砂色土	砂色土	シルト 底層部	褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	4	砂色土	砂層	シルト 底層部	褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	5	砂層	砂色土	砂層部	砂褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	6	砂色土	砂層	シルト 底層部	褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	7	砂色土	砂・シルト	シルト 底層部	褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	8	砂色土	砂層	シルト 底層部	褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	9	砂色土	砂層	シルト 底層部	褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	10	砂色土	砂層	シルト 底層部	砂褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	11	砂層	砂色土	砂層部	砂褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	12	砂色土	砂・シルト	シルト 底層部	褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無
13	砂色土	砂層	シルト 底層部	砂褐色	100%	中	粘	無	無	無	無	無	無	無	無	無	

図IV-35 P-45

付属遺構 南側、北側の壁際は段構造があり、約20cm低くなる。

遺物出土状況 遺物は覆土から84点出土した。内訳はI群b類土器2点、II群a類土器7点、IV群a類土器11点、石槍またはナイフ1点、両面調整石器1点、フレイク32点、磨製石斧1点、砥石7点、礫42点である。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉の可能性がある。(愛場)

P-46 (図IV-36 図版20)

位置 F-59、G-59・60区 **平面形態** 楕円形

規模 2.88×1.99/2.54×1.77/0.34m

確認・調査 G-59区のIV層上面で精査を行ったところ、楕円形の黒色土のまとまりを確認した。楕円形の短軸方向でトレンチ調査を行ったところ、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断した。覆土を掘り下げ底面を精査し、壁際付近で柱穴・杭穴を検出したため、調査した。

覆土 4層に分けた。黒色土が主体でIV層やVI層が混ざる土層である。

底面・壁 底面はVI層中に構築され、やや凹凸がみられる。壁は全体的に急角度に立ち上がる。

付属遺構 底面南側の壁際付近で柱穴・杭穴9か所(S P-1~9)を確認した。配置はS P-1~4が南西壁際、S P-5~9が南東壁際でそれぞれ近接し、平面は円形が多い。断面形は土坑内側に向かってやや傾くものが多く、底部は「尖」が多く「丸」もみられる。規模は、確認面の径が8~11cmと全体的に小型で、深さは14~25cmとややばらつきがみられる。

遺物出土状況 全て覆土出土で、I群b類土器50点、II群a類土器11点、石槍またはナイフ1点、フレイク10点、磨製石斧1点、礫18点が出土している。

時期 出土遺物などから縄文時代早期後半と考えられる。(広田)

P-47 (図IV-36 図版20)

位置 E・F-65区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 3.21×2.22/2.80×1.80/0.35m

確認・調査 E-65区周辺でIV層上面の精査を行ったところ、樽前c火山灰とその外側に広がる楕円形の黒色土のまとまりを確認した。トレンチ調査を行ない、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断し、調査した。平面形は確認面、坑底面共に不整な楕円形で、南西側の壁が竪穴住居跡H-27とわずかに重複するが、新旧関係は不明である。

覆土 4層に分けた。覆土1層は樽前c火山灰が主体の層で、覆土2・3層は黒色土主体の黒~黒褐色土層である。覆土4層はVI層主体の黒褐色土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 全て覆土出土で、II群a類土器23点、IV群a類土器6点、石礫2点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー2点、U・Rフレイク2点、フレイク58点、台石・石皿1点、礫30点が出土した。

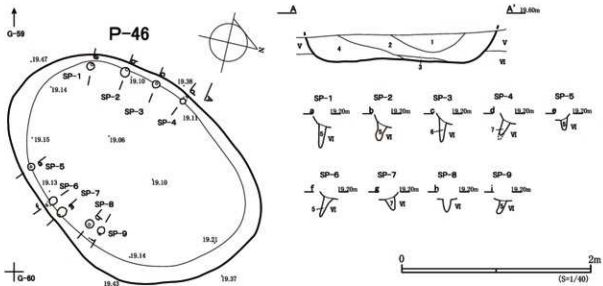
時期 出土遺物や、周辺の遺構から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の可能性がある。(広田)

P-48 (図IV-37 図版20)

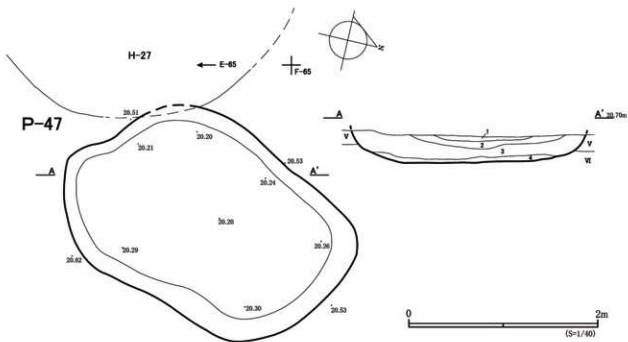
位置 D-71、E-70・71区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 1.49×1.26/0.79×0.71/0.13m

確認・調査 竪穴住居跡H-24調査中、住居跡の床面でIV群土器のまとまりと楕円形の黒色土がみら

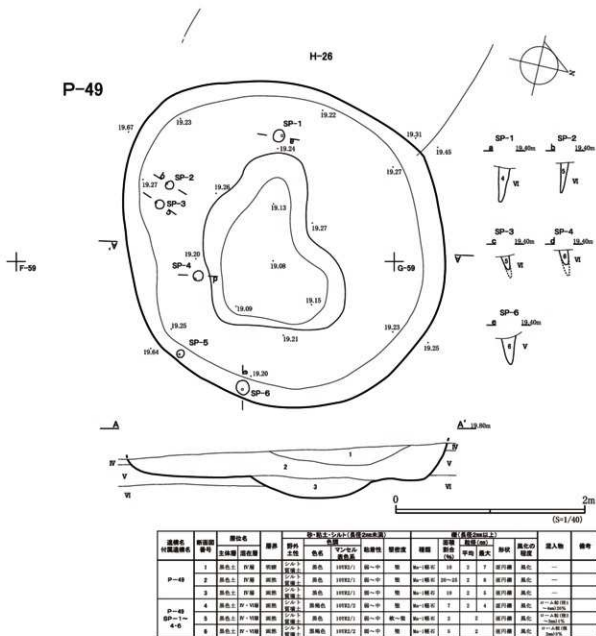
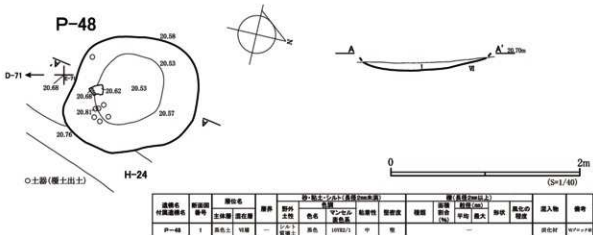


遺構名 付属遺構名	調査 番号	層位名 土体層 遺存層	層別	野外 土色	土質			層厚	層(長径2m以上)			層位の 高さ	掘入物	備考	
					マンデル 色色	粘着性	層別度		層別 割合 (%)	平均	最大				形状
P-46	1	褐色土	砂層	砂層上 灰層上	褐色	砂-中	堅	約10cm	1	2	3	散在溝	高さ	—	—
	2	褐色土	砂層	砂層上 灰層上	褐色	砂-中	堅	約10cm	2	2	2	散在溝	高さ	約10cm(埋) 約10cm(露)	—
	3	褐色土	砂層	砂層上 灰層上	褐色	砂-中	堅	—	—	—	—	—	高さ	約10cm(埋) 約10cm(露)	—
	4	褐色土	砂層	砂層上 灰層上	褐色	砂-中	堅	—	—	—	—	—	高さ	約10cm(埋) 約10cm(露)	—
SP-46 SP-1~9	5	砂層	砂層	砂層上	褐色	砂-中	堅	—	—	—	—	—	高さ	約10cm(埋) 約10cm(露)	—
	6	砂層	砂層	砂層上	褐色	砂-中	堅	約10cm	2	2	2	散在溝	高さ	約10cm(埋) 約10cm(露)	—
	7	砂層	砂層	砂層上	褐色	砂-中	堅	約10cm	1	2	2	散在溝	高さ	約10cm(埋) 約10cm(露)	—

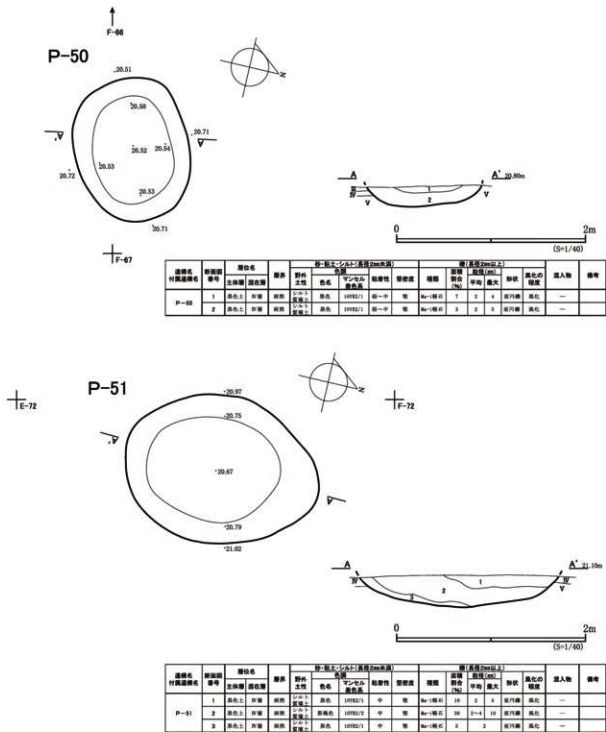


遺構名 付属遺構名	調査 番号	層位名 土体層 遺存層	層別	野外 土色	土質			層厚	層(長径2m以上)			層位の 高さ	掘入物	備考	
					マンデル 色色	粘着性	層別度		層別 割合 (%)	平均	最大				形状
P-47	1	—	—	—	—	—	—	Tn-35の層			—	—	—		
	2	褐色土	砂層	砂層上	褐色	砂-中	堅	約10cm	3	2	3	散在溝	高さ	Tn-35 Tn-37 Tn-38 Tn-39	—
	4	砂層	砂層	砂層上	褐色	砂-中	堅	約10cm	1	2	4	散在溝	高さ	約10cm(埋) 約10cm(露)	—

図IV-36 P-46・47



図IV-37 P-48・49



図IV-38 P-50・51

れた。西側を半截したところ底面と壁の立ち上がりを確認し、規模から土坑と判断した。覆土からIV群a類土器が出土することから、H-24より新しい。

覆土 覆土は1層である。黒色土層で炭化材が混ざる。

底面・壁 底面から壁にかけて曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土からIV群a類土器10点、加工・使用痕のある礫1点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(愛場)

P-49 (図IV-37 図版21)

位置 F・G-58・59区 **平面形態** 円形

規模 3.70×3.32/3.30×3.04/0.40m

確認・調査 F-58・59区付近のIV層上面の精査時に、円形の黒色土のまとまりを確認した。南北方向と東西方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、底面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。調査当初は竪穴住居跡と考えていたが、灰跡焼土がみられないことなどから土坑と判断した。坑底面の中央付近が一段低くなる構造で、坑底面まで掘り下げた後、柱穴・杭穴の調査を行った。西側は竪穴住居跡H-26と重複するが、新旧関係は土層観察などからP-49が新しい。

覆土 3層に分けた。全て黒色土が主体でIV層が混ざる土層である。

底面・壁 底面はV～VI層中に構築され、ほぼ平坦であるが中央付近は段構造になっている。壁の立ち上がりは全体的に急角度である。

付属遺構 底面で柱穴・杭穴6か所(S P-1～6)、段構造1か所を確認した。柱穴・杭穴は中央より南側で、段の外側に位置する。また、S P-5・6は壁柱穴である。平面は全て円形である。断面形はやや傾くものも多く、底部は全て「尖」の形状である。規模は確認面の径が8～15cm、深さが21～37cmと小型でやや深いものが多い。段構造は坑底面中央付近が一段低くなるもので、平面は不整形である。

遺物出土状況 坑底面からII群a類土器10点、フレイク4点、礫1点が出土した。覆土からはI群b類土器24点、II群a類土器52点、石鏃1点、石槍またはナイフ5点、石錐1点、スクレイパー1点、U・Rフレイク5点、フレイク124点、砥石4点、加工・使用痕のある礫1点、礫18点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(広田)

P-50 (図IV-38 図版21)

位置 E・F-66区 **平面形態** 楕円形

規模 1.50×1.20/1.12×0.84/0.24m

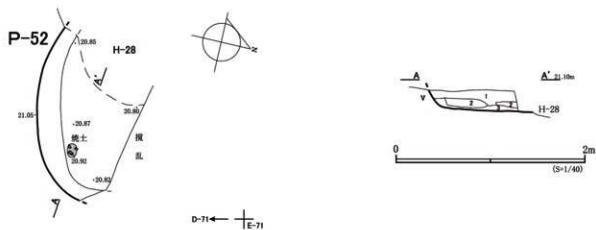
確認・調査 P-43掘り上げ土のトレンチ調査を行った時にIV層上面で黒色土のまとまりとして確認した。西側がP-43掘り上げ土と重複していたため、P-43調査終了後に黒色土範囲の西側部分を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。P-43との新旧関係は、P-43掘り上げ土がP-50の上位にあるため、P-50が古い。

覆土 2層に分けた。どちらも黒色土が主体でIV層が少量混じる土層である。

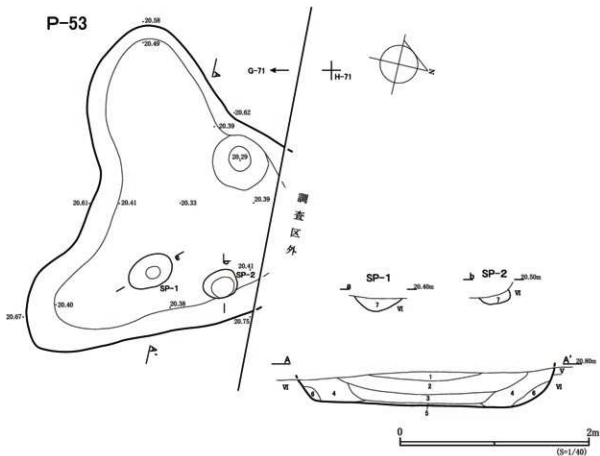
底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は全体的に緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 覆土から両面調整石器1点、フレイク56点、礫2点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の可能性がある。(広田)



遺構名 付属遺構名	調査目録 番号	発出名 主体層 遺存層	層状 階内 土層	壁-筋土(筋土+基礎の厚み)			壁-基礎(2m以上)				透入物	備考		
				色名	厚さ	傾斜度	種類	基礎 形状(%)	平均 長さ	傾斜			基礎の 程度	
P-52	1	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物少量	
	2	1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物少量	
	3	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物少量	



遺構名 付属遺構名	調査目録 番号	発出名 主体層 遺存層	層状 階内 土層	壁-筋土(筋土+基礎の厚み)			壁-基礎(2m以上)				透入物	備考		
				色名	厚さ	傾斜度	種類	基礎 形状(%)	平均 長さ	傾斜			基礎の 程度	
P-53	1	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物	
	2	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物	
	3	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物	
	4	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物	
	5	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物	
	6	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物	
P-52	7	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物	
SP-1-2	7	黄土上 1層	筋土	筋土	黄土色	0.05-0.1	0°	壁-筋土	1.0	2	2	筋土層	透入物	

図IV-39 P-52・53

P-51 (図IV-38 図版21)

位置 E-71・72区 平面形態 楕円形

規模 2.10×1.60/1.40×1.10/0.34m

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で楕円形の黒色土・黒褐色土がみられた。西側を半載し、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。土層断面を記録した後完掘した。

覆土 3層に分けた。いずれも黒色土にIV層が少量混ざる土層である。

底面・壁 底面は中央にむかって浅くくぼみ形状で、壁の立ち上がりは曲線的である。

遺物出土状況 覆土からII群a類土器21点、石鏃1点、スクレイパー1点、フレイク5点、礫3点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。(愛場)

P-52 (図IV-39 図版21)

位置 D-70区 平面形態 楕円形?

規模 (1.73)×(1.13)/(1.57)×(0.93)/0.24m

確認・調査 竪穴住居跡H-28に設定した東西方向のベルトの土層断面西側で、別の遺構の底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。土層断面からH-28が新しい。北側は攪乱で壊れており、土坑の南西側部分のみを調査し、東壁付近では覆土から炭化物和焼土を少量確認した。

覆土 3層に分けた。覆土1・3層は黒褐色土で、覆土1層では炭化材と焼土がみられた。覆土2層はVI層主体の褐色土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構から縄文時代前期前半、もしくは後期前葉の可能性がある。(愛場)

P-53 (図IV-39 図版21)

位置 G-70・71区 平面形態 不整形

規模 3.60×(2.43)/3.14×(2.25)/0.43m

確認・調査 包含層調査中、V～VI層で不整形の樽前c降下火山灰と黒褐色土がみられた。南側を半載し、底面と壁の立ち上がりを確認し、規模から土坑と判断した。土層断面を記録した後完掘した。北側は調査区外へ続いており、全体の約7割を調査した。

覆土 6層に分けた。上位は樽前c降下火山灰と黒色土主体層が堆積し、底面や壁際にはVI層が多く混ざる暗褐色土が堆積する。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

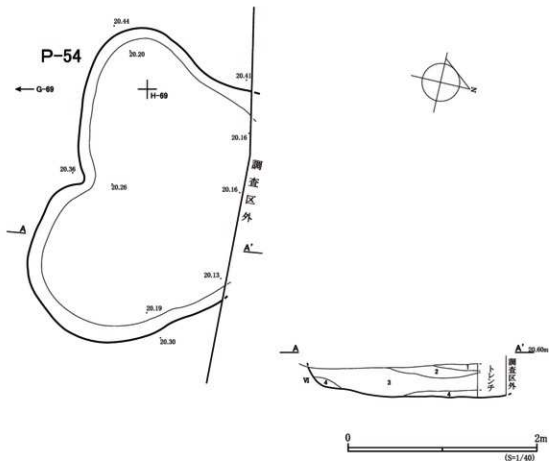
付属遺構 土坑2か所(SP-1・2)を確認した。SP-1・2は土坑東側の壁近くに位置し、平面は楕円形である。SP-1は底面が曲線的で斜めに立ち上がり、SP-2は底面が平坦である。

遺物出土状況 遺物は覆土から33点出土した。内訳はIV群a類土器14点、スクレイパー1点、フレイク2点、たたき石1点、加工・使用痕のある礫1点、礫14点である。

時期 出土遺物などから縄文時代後期前葉の可能性がある。(愛場)

P-54 (図IV-40 図版21)

位置 G・H-68・69区 平面形態 不整形?



遺構名 村民通称名	経緯度 番号	階位名 土壌層 遺存層	層厚	第一層(シロト) [全層200cm未満]				第二層(赤土)				掘入物	備考		
				土質 色名	サンセル 黄色名	粘着性	層構成	層厚 (%)	厚均	最大	層状			掘込の 程度	
P-54	1	赤色土	硬質	シロト 黄赤土	赤色	1000/1	硬→中	堅						Te=16	1a=7 1b=10 1c=15 の高低
	2														
	3	赤色土	中→100	硬質	シロト 黄赤土	赤褐色	1000/2	硬→中	堅	約10%赤土	1	2	層状層	掘込	1000赤土 →1000/2 →1000/3
	4	100	赤色土	硬質	シロト 黄赤土	暗褐色	1000/3	硬→中	堅						1000赤土 →1000/2

図IV-40 P-54

規模 3.33×2.17/3.02×2.02/0.36m

確認・調査 H-68・69区の包含層調査中に、樽前c火山灰のまとまりを確認した。そのため、調査区北壁沿いにトレンチ調査を行ったところ、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断し、調査した。

覆土 4層に分けた。覆土2層は樽前c火山灰主体の土層で、覆土1層にも少量混ざる。覆土3層は黒色土主体で、覆土4層はVI層主体の土層である。

底面・壁 底面は中央にむかって浅くくぼみ形状で、壁の立ち上がりは全体的に急角度である。

遺物出土状況 覆土からフレイク474点、礫5点が出土した。

時期 周辺包含層出土の遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の可能性はある。(広田)

P-55 (図IV-41 図版22)

位置 G-65区 平面形態 楕円形

規模 一×一/0.90×0.67/0.02m

確認・調査 竪穴住居跡H-25の調査中に、覆土から被熱した礫がまとまって出土する範囲がみられた。床面まで掘り下げた段階で、礫出土範囲の直下に楕円形の黒色土のまとまりが確認された。そのため、別の遺構と判断し調査した。P-55は坑底面直上で確認したため、平面図は坑底面の範囲のみ図示した。新旧関係は確認状況や遺物出土状況からH-25より新しい。また、坑底出土の黒曜石製の石器1点(石槍またはナイフ)について産地推定の分析を行った(付篇1節参照)。

覆土 坑底面直上の1層のみである。黒色土主体でIV層が少量混ざる土層で、炭化物も微量みられる。

底面・壁 底面はほぼ平坦である。坑底面のみ確認したため、壁の状況は不明である。

遺物出土状況 坑底面からIV群A類土器3点、石槍またはナイフ1点、礫16点が出土した。覆土からはフレイク1点が出土した。礫は被熱により非常にもろく、取り上げできないものもあり、実際の点数はもっと多い。

時期 坑底面出土の遺物から縄文時代後期前葉である。(広田)

P-56 (図IV-41 図版22)

位置 G-65区 平面形態 楕円形

規模 0.82×0.64/0.70×0.52/0.06m

確認・調査 竪穴住居跡H-25の調査中にP-55と同様に、覆土から被熱した礫がまとまって出土する範囲がみられた。床面まで掘り下げた段階で、H-25の炉跡焼土HF-1と重複する楕円形の黒色土のまとまりを確認した。トレンチ調査を行い、H-25HF-1を壊して構築されている土坑であると判断した。

覆土 覆土はごく浅く1層のみである。黒色土主体で炭化物が少量混じる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦である。壁は確認できた部分がごく浅く、状況は不明である。

遺物出土状況 坑底面から礫6点が出土した。

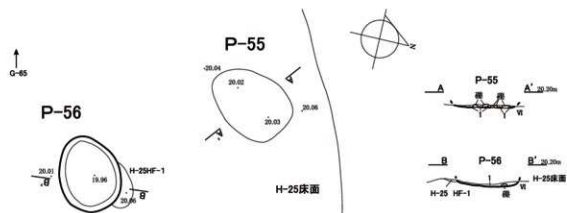
時期 周辺の類似する遺構などから縄文時代後期前葉の可能性はある。(広田)

P-57 (図IV-41 図版22)

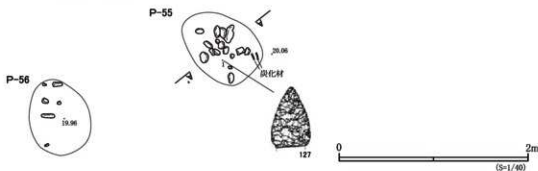
位置 G・H-56区 平面形態 楕円形

規模 0.96×0.80/0.72×0.56/0.10m

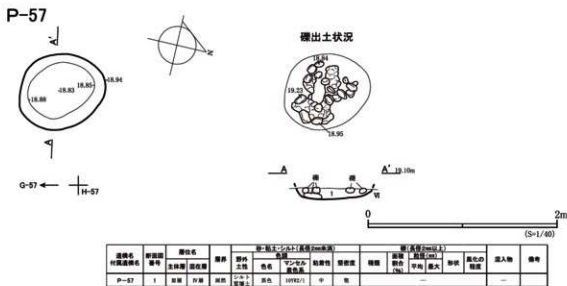
確認・調査 包含層調査中、IV層上面で礫のまとまりと円形の黒色土がみられた。中央に土層観察用ベルトを設定し、礫を残しながら黒色土を掘り下げた。土層断面と礫の出土状況を記録した後発掘した。



礫・炭化材出土状況



遺構名 付属遺構名	調査区 番号	発見名 主発見 副発見	層位	埋土(シルト) (長径2m未満)				埋土(長径2m以上)				遺人物	備考	
				埋土 性状	色名	シルト 含有率 %	粘着性	層位	埋土 割合(%)	埋土 平均	埋土 最大			形状
P-55	1	炭化土 灰層	第1	シルト 埋土	褐色	100%	中	弱	第1層位	1	2	第1層位	炭化物少量 100-100(100 11-200(112)	
P-56	1	炭化土	第1	シルト 埋土	褐色	100%	中	弱	第1層位				炭化物少量	



遺構名 付属遺構名	調査区 番号	発見名 主発見 副発見	層位	埋土(シルト) (長径2m未満)				埋土(長径2m以上)				遺人物	備考	
				埋土 性状	色名	シルト 含有率 %	粘着性	層位	埋土 割合(%)	埋土 平均	埋土 最大			形状
P-57	1	灰層 灰層	第1	シルト 埋土	褐色	100%	中	弱						

図IV-41 P-55~57

覆土 覆土は黒色土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 覆土からフレイク1点、礫9点が出土した。礫は脆く、崩れて取り上げできないものがあった。

時期 周辺の遺構や包含層出土遺物などから縄文時代後期前葉である。 (愛場)

(3) 焼土

F-1 (図IV-42 図版22)

位置 F-1A: H-72・73区 F-1B: H-72区 F-1C: G・H-72区
F-1D: G-72区 F-1E: H-73区

平面形態 F-1A: 円形 F-1B: 不整な円形 F-1C: 円形
F-1D: 楕円形 F-1E: 円形

規模 F-1A: 0.65×0.60/0.13m F-1B: 0.42×0.42/0.10m
F-1C: 0.23×0.22/0.04m F-1D: 0.40×0.32/0.07m
F-1E: 0.40×0.38/0.10m

確認・調査 調査区東側の遺構確認調査範囲のⅢ層を重機によりIV層上面まで掘削していたところ、Ⅲ層中で焼土を確認したため、その周辺は重機による掘削をせず、人力でⅢ層の調査を行うことにした。焼土周辺を精査し、5か所の焼土を確認した。近接して検出されたため、焼土群として捉え、遺構名はひとつ(F-1)とした。色調は赤褐色～褐色で、規模は長径23～65cm、最大厚4～13cmである。南東側にF-C-3が位置する。

遺物出土状況 全て焼土から出土した。F-1Aではフレイク2点、F-1Bではフレイク4点、F-1Dでは石槍またはナイフ1点、フレイク5点、F-1Eではフレイク2点、礫1点出土した。F-1Cは出土していない。また、F-1Aに関しては、土壌ごと取り上げて水洗選別を行い、フレイク11点を採取した。

時期 検出層位や周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代～続縄文時代と考えられる。(広田)

F-2 (図IV-42 図版22)

位置 D-67区 **平面形態** 楕円形

規模 0.71×0.62/0.12m 掘り方0.99×0.90/0.76×0.71/0.08m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層で炭化材と円形の黒褐色土がみられた。中央に土層観察用のベルトを設定し、炭化材を残して周囲を掘り下げた。長径約1mで深さ約8cmの掘り込みがあり、その底面で焼土を確認した。焼土の色調は褐色で、層厚は約12cmである。北東側にはP-33が近接するため、本遺構と関連する可能性がある。

遺物出土状況 焼土上位の覆土1からフレイク3点が出土し、炭化材も多くみられた。

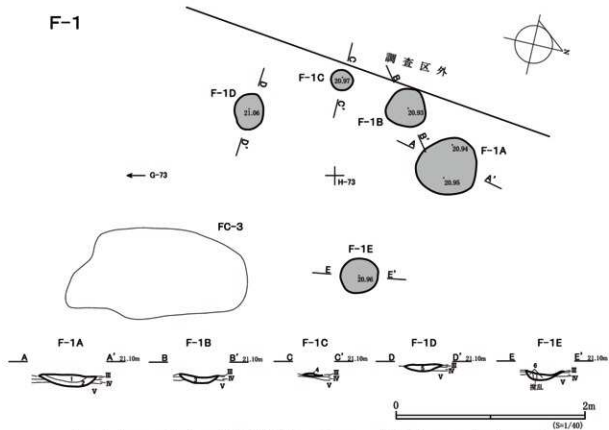
時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半、後期前葉の可能性はある。(愛場)

F-3 (図IV-43 図版22)

位置 D-68区 **平面形態** 円形?

規模 0.33×(0.18)/0.08m

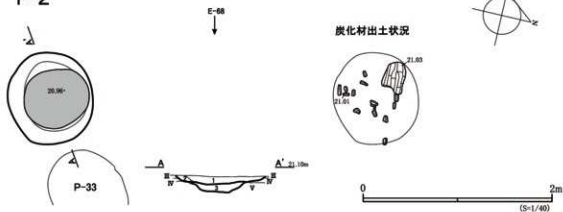
確認・調査 竅穴住居跡H-20調査中、覆土上位で焼土を確認した。焼土の色調は褐色で、層厚は8



遺構名 発掘 番号	層位名	層別	地-粘土層(深さ20cm未満)				地(深さ20cm以上)				埋人物	備考			
			野方 土質	色名	マンガン 含有率	磁質物	磁質物 含有率	磁質物 平均	磁質物 最大	形状			埋入の 状況		
F-1A	1	粘土	硬質 シロト灰層土	赤褐色	0.014/9	中	無	無	100	2	2	4	底片層	灰土層 埋入	
	2	粘土	硬質 シロト灰層土	赤褐色	0.015/9	中	無	無	100	2	2	4	底片層	灰土層 埋入	
F-1B	3	粘土	硬質	黄土	1.0124/9	弱	無	無	100	2	2	4	底片層	灰土層 埋入	
F-1C	4	粘土	硬質	黄土	赤褐色	0.014/9	弱	無	無	100	2	2	4	底片層	灰土層 埋入
F-1D	5	粘土	硬質 黄トシロト 灰層土	黄土	1.0124/9	弱	無	無	100	2	2	4	底片層	灰土層 埋入	
F-1E	6	粘土	硬質	黄土	赤褐色	0.014/9	弱	無	無	100	2	2	4	底片層	灰土層 埋入

E-67

F-2



遺構名 発掘 番号	層位名	層別	地-粘土層(深さ20cm未満)				地(深さ20cm以上)				埋人物	備考		
			野方 土質	色名	マンガン 含有率	磁質物	磁質物 含有率	磁質物 平均	磁質物 最大	形状			埋入の 状況	
F-2	1	硬質	硬質	黄土	赤褐色	0.0172/2	中-強	無	無	2	—	—	灰土層	—
	2	硬質	硬質	黄土	赤褐色	0.0172/2	中-強	無	無	2	—	—	灰土層	—
	3	硬質	硬質	黄土	赤褐色	1.0124/9	弱	無	無	10	2	2	底片層	灰土層 埋入

図IV-42 F-1・2

cmである。北側半分は削平される。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半より新しい。

(愛場)

F-4 (図IV-43 図版23)

位置 F-53区 **平面形態** 円形

規模 0.36×0.35/0.11m

確認・調査 土坑P-45検出時、覆土上位で焼土を確認した。焼土の色調は褐色で、層厚は11cmである。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半、後期前葉～続縄文時代の可能性がある。

(愛場)

F-5 (図IV-43 図版23)

位置 E-67区 **平面形態** 楕円形

規模 0.42×0.35/0.12m

確認・調査 竪穴住居跡H-29検出時、覆土上位で焼土を確認した。焼土の色調は褐色で、層厚は12cmである。焼土の上位には炭化物や2mm以下の骨片がみられた。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半より新しい。

(愛場)

(4) フレイク集中

FC-3 (図IV-44)

位置 G-73区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 1.82×0.87m

確認・調査 G-73区のⅢ層を調査中に、黒曜石製のフレイクがまとまって出土したため、フレイク集中と判断し調査した。微細なフレイクが多かったため土壌ごと取り上げ、水洗選別を行った。

遺物出土状況 黒曜石製のフレイクが826点出土した。また土壌の水洗選別によりフレイク664点、礫1点を採取した。

時期 検出層位や周辺包含層出土の遺物などから縄文時代～続縄文時代と考えられる。

(広田)

FC-4 (図IV-44)

位置 E・F-54・55区 **平面形態** 楕円形

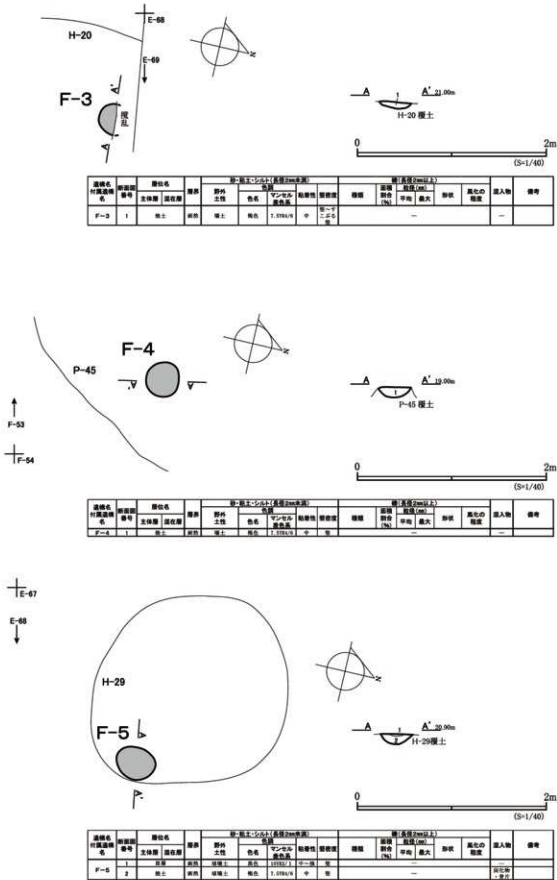
規模 1.66×1.20m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層で黒曜石製のフレイクがまとまって出土したことから、フレイク集中と判断し調査した。遺物や比較的大きなフレイクは手取りし、それ以外は土壌ごと採取し、水洗選別により遺物を回収した。

遺物出土状況 遺物は236点出土した。内訳はI群b類土器2点、IV群a類土器1点、石鏃1点、U・Rフレイク1点、フレイク223点、磨製石斧1点、砥石1点、礫6点である。また土壌水洗選別では上記とは別に、I群b類土器1点、II群a類土器7点、IV群a類土器2点、フレイク4,045点、磨製石斧片3点、礫3点を採取した。

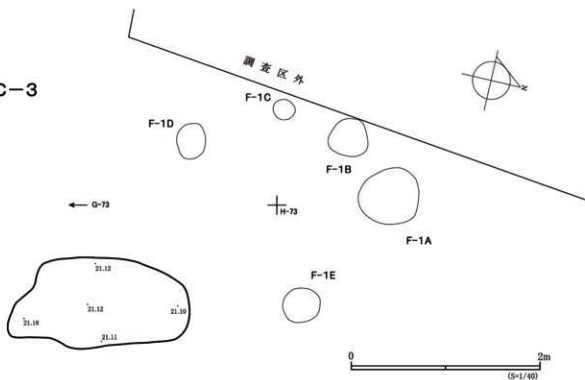
時期 周辺の遺構から縄文時代早期後半～後期前葉と考えられる。

(愛場)

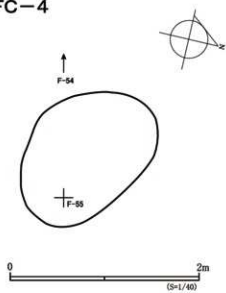


図IV-43 F-3~5

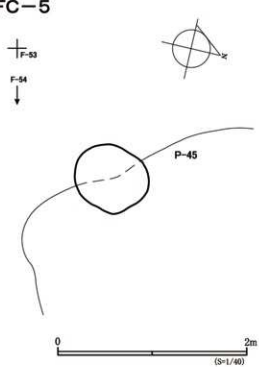
FC-3



FC-4



FC-5



图IV-44 FC-3~5

FC-5 (図IV-44)

位置 F-53区 平面形態 楕円形

規模 0.80×0.69m

確認・調査 P-45覆土上位の黒色土を調査中、黒曜石製のフレイクがまとまって出土したことからフレイク集中と判断し調査した。遺物や比較的大きなフレイクは手取りし、それ以外は土壌ごと採取し、水洗選別により遺物を回収した。

遺物出土状況 遺物は39点出土した。内訳はスクレイパー1点、U・Rフレイク1点、フレイク37点である。また土壌水洗選別では上記とは別に石核1点、フレイク1,318点を採取した。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半、後期前葉～続縄文時代の可能性がある。(愛場)

表V-1 竪穴住居跡一覽

遺跡名	期	図例	グリッド	平面形状	規模 (m)			柱礎構造			主な出土遺物			備考		
					柱礎間		扉高	種類	記号	番号	位置	材質	葺土			
					長さ	幅									長さ	幅
H-17	W-2	4	D+E-37 37-38E	不整形 楕円形	(6.74)	3.35	(0.25)	0.87	0.42	—	—	—	非貫入型土器、 フレイタ、 石皿、磁石、鏝	—	平成23年度調査	
H-18	W-3~6	5	E・F・G-48 (D-49)30E	扇形 長方形	0.92	0.55	0.47	0.03	0.28	半埋土中 土灰	H F H P	1+2 3~11	非貫入型土器、 石皿、スライバー、 石皿、磁石、 U・Rフレイタ、 加工・使用痕のある鏝	—	平成23年度調査 放射性炭素年代測定 TGS-1 炭化材組成分析 TGS-1~3	
H-19	W-7~9	6	E-33~37 F-33 G-34~38 K	扇形 長方形	10.28	7.22	10.16	0.30	0.48	埋土中 フレイタ集中	H S H F C	1 1+2	フレイタ、 磨製石片、 磁石、鏝	HFC-1・2: フレイタ、 磨製石片、 磁石、鏝	1貫入型土器、 非貫入型土器、 石皿、磁石、 U・Rフレイタ、 フレイタ、鏝	P-30-38土層 (P-37より下)、 P-30-38層目録 TGS-2、3 放射性炭素年代測定 TGS-2、3 埋土石部材組成分析 TS-1
H-20	W-10	7	D・E・F-49 49E	不整形 楕円形	4.08	(3.30)	3.85	(3.11)	0.30	埋土中 フレイタ集中	H F C	1+2	フレイタ、 磨製石片、 台石・石皿	HFC-1: フレイタ HFC-2:石皿、 磨製石片、 フレイタ	1貫入型土器、 非貫入型土器、 石皿、磁石、 U・Rフレイタ、 フレイタ、 たたき石、石皿、 磁石、フレイタ、鏝	埋土上にF-3 焼失片 放射性炭素年代測定 TGS-4
H-21	W-11	8	D+E-50 50E	円形	3.80	3.66	3.10	3.10	0.54	埋土中 柱穴・柱穴	H F H P	1 1+4	U・Rフレイタ、 フレイタ	HFC-1: フレイタ	1貫入型土器、 非貫入型土器、 石皿、磁石、 U・Rフレイタ、 フレイタ、石皿、 磁石、	埋土中出土 焼出、P-31土 層層 (P-31 より厚い)
H-22	W-12	9	E-F-52E	楕円形	(2.32)	2.29	(2.20)	1.90	0.14	半埋土中 柱穴・柱穴	H F H P	1 1+2	—	—	1貫入型土器、 つまみ付きナイフ、 フレイタ、鏝	北側壁まで 壊れる。 P-32連続
H-23	W-13~15	10	D+E・F-59 59E	楕円形	7.52	0.43	7.21	0.30	0.27	土灰 柱穴・柱穴	H P H P	Ⅲ 1~30	非貫入型土器、 スライバー、 鏝	HFC-1: (深さ約10cm) スライバー、 フレイタ	1貫入型土器、 非貫入型土器、 石皿、 U・Rフレイタ、 フレイタ、磨製石片、 石皿、磁石、 加工・使用痕のある鏝、 鏝	P-32・35-38土 層層 (P-32・35が 厚い)、P-38E 目録(焼失片) 焼失片
H-24	W-16~18	11	D+E・F-70 70E	楕円形	(7.01)	5.48	6.84	4.06	0.47	半埋土中 土灰	H F H P	1+4 13+20	石皿、たたき石、 スライバー、 フレイタ、 磨製石片、 たたき石、 石皿、鏝	HFC-20: フレイタ HFC-22: フレイタ	1貫入型土器、 非貫入型土器、 石皿、 つまみ付きナイフ、 U・Rフレイタ、 フレイタ、磨製石片、 石皿、磁石、 加工・使用痕のある鏝、 鏝	H-25-P-41・44土 層層 (H-25、P- 41は石部材不 なり、P-44は 石部材不 なり) 放射性炭素年代測定 TGS-5 炭化材組成分析 TGS-6 埋土石部材組成分析 TS-2
H-25	W-19~21	12	F・G-60 60E	不整形 楕円形	0.64	0.67	0.25	0.09	0.04	土灰 柱穴・柱穴	H P H P	Ⅲ 1+15 14~17	非貫入型土器、 石皿、 つまみ付きナイフ、 スライバー、 U・Rフレイタ、 フレイタ、磨製石片、 石皿、磁石、 鏝	—	1貫入型土器、 非貫入型土器、 石皿、 つまみ付きナイフ、 U・Rフレイタ、 フレイタ、磨製石片、 石皿、磁石、 加工・使用痕のある鏝、 鏝	P-35-56土層層 (H- 25より厚い) 埋土石部材組成分析 TS-7 石皿、たたき石
H-26	W-22	13	F・G-68E	楕円形	(2.84)	(2.27)	(2.58)	(2.09)	0.24	半埋土中 土灰	H F	1+8	非貫入型土器、 スライバー、 フレイタ、 フレイタ、鏝	HFC-1: フレイタ	1貫入型土器、 非貫入型土器、 石皿、 つまみ付きナイフ、 U・Rフレイタ、 フレイタ、 磨製石片、 石皿、磁石、 加工・使用痕のある鏝、 鏝	埋土中出土 焼出、放射性炭素年代測定 TGS-6
H-27	W-23	14	E-61-60 F-68E	楕円形	3.44	2.90	3.26	(2.61)	0.24	半埋土中 柱穴・柱穴	H F H P	1 1+4	非貫入型土器、 U・Rフレイタ、 フレイタ	—	1貫入型土器、 非貫入型土器、 石皿、 つまみ付きナイフ、 U・Rフレイタ、 フレイタ、 磨製石片、 鏝	埋土中出土・炭化材 焼出、P-42土層層 (新目録参照)
H-28	W-24	15	D+E-78E	不整形 楕円形	(2.40)	(2.90)	(2.20)	1.82	0.30	石皿 埋土中	H F H F	1 2	—	—	1貫入型土器、 石皿、 つまみ付きナイフ、 スライバー、 フレイタ、鏝	P-52土層層 (P-52 より厚い)
H-29	W-24	16	E-78E	楕円形	2.38	2.03	2.01	1.80	0.17	半埋土中 柱穴・柱穴	H F H P	1+2 1+6	非貫入型土器	HFC-3:石皿	1貫入型土器、 非貫入型土器、 石皿、 スライバー、 フレイタ、鏝	埋土上に F-3、埋穴内に 柱穴・柱穴

表IV-2 竪穴住居跡付属遺構一覧(1)

遺構名	付属遺構名	種別	部	区画	形制・色調	幅 横 (m)				主な出土遺物	備考									
						埋没部	露出部	最大	最小											
H-10	中階地上		IV-3-4	--	円形	埋没部	露出部	最大	最小	--	--									
						0.49	0.48	0.11	--											
						0.63	0.72	--	0.09			--								
						0.29	0.25	--	--			--								
						0.23	0.24	--	--			--								
						0.46	0.15	--	--			--								
						0.17	0.13	--	--			--								
						0.26	0.15	--	--			--								
						0.25	0.13	--	--			--								
						1.27	0.63	--	--			--								
						0.27	0.15	--	--			--								
						0.21	0.18	--	--			--								
	露上中階上			IV-3-4	--	円形	埋没部	露出部	最大	最小	--	--								
							0.11	0.04	0.18	--										
							0.15	0.05	0.26	--										
							0.16	0.05	0.47	--										
							0.08	0.03	0.36	--										
							0.13	0.03	0.33	--										
							0.11	0.04	0.26	--										
							0.19	0.12	0.43	--										
							0.25	0.19	0.14	0.12										
							0.18	0.13	0.30	--										
							0.17	0.02	0.49	--										
							0.15	0.02	0.65	--										
	柱穴・杭穴			IV-3-4	5	円形	埋没部	露出部	最大	最小	--	内堀								
							0.16	0.16	0.47	--										
							0.19	0.19	0.48	--										
							0.15	0.05	0.48	--										
							0.14	0.09	0.30	--										
							0.16	0.02	0.40	--										
							0.11	0.08	0.34	--										
							0.17	0.11	0.08	--										
							0.14	0.06	0.28	--										
							0.14	0.03	0.56	礎										
							0.19	0.09	0.37	--										
							0.16	0.04	0.41	--										
	0.27	0.24	0.40	--																
	0.19	0.02	0.57	--																
	0.17	0.14	0.11	0.48																
	0.18	0.11	0.22	--																
	0.19	0.05	0.25	--																
	0.15	0.04	0.40	--																
	0.15	0.12	0.03	0.44																
	0.13	0.03	0.36	--																
	0.15	0.08	0.25	--																
	0.18	0.12	0.35	--																
	0.07	0.27	--	--																
	0.18	0.12	0.50	--																
0.15	0.04	0.30	--																	
0.17	0.06	0.21	--																	
0.15	0.09	0.29	--																	
0.22	0.16	0.30	--																	
0.13	0.04	0.25	--																	
0.12	0.04	0.20	--																	
0.13	0.04	0.19	--																	
土版			IV-3-5	--	円形	埋没部	露出部	最大	最小	--	H-P-22と重畳(新旧不明)									
						0.51	0.50	0.53	0.31											
						中階地上			IV-7-8			--	不整形な楕円形?	赤褐色	0.90	0.76	--	0.12	フレイク 炭化物	放射性炭素年代測定TC8-2
														0.42	0.38	--	0.06	炭化物	放射性炭素年代測定TC8-3	
														0.58	0.48	--	0.06	--	--	
														0.16	0.04	0.30	--	--	--	
														0.04	--	0.12	--	--	小型	
														0.20	0.06	0.28	--	--	--	
														0.19	0.05	0.29	--	--	--	
														0.07	--	0.29	--	--	小型、H-P-6+7と重畳	
														0.08	--	0.18	--	--	小型、H-P-5+7と重畳	
														0.05	--	0.17	--	--	小型、H-P-5+4と重畳	
0.28	0.05	0.25	--	--	--															
0.13	--	0.26	--	--	--															
0.20	--	0.41	--	--	--															
0.14	0.03	0.30	--	--	--															
0.12	--	0.58	--	--	小型															
0.15	0.09	0.61	--	--	家屋にやや傾く															
0.21	0.07	0.40	--	--	--															
0.14	0.04	0.23	--	--	--															
0.12	--	0.24	--	--	--															
0.12	--	0.24	--	--	--															
0.16	--	0.48	--	--	--															
0.16	--	0.22	--	--	--															
0.11	--	0.31	--	--	--															
0.16	--	0.36	--	--	--															
H-10	H-S-1	礎石中	IV-9	6	不整形	埋没部	露出部	最大	最小	--	礎 露上下面・体面出土。 礎が埋めためり上げせず									
						0.92	0.68	--	--											
H-P-C-1	フレイク集中		IV-9	--	不整形	埋没部	露出部	最大	最小	--	1層目層土面 2層目層土面 両層間層石若 スライイバー フレイク									
						1.11	0.96	--	--											
						H-P-C-2	炭化物集中		IV-9			--	楕円形	埋没部	露出部	最大	最小	--	フレイク 露上中階出土	
0.76	0.40	--	--																	
H-P-C-3	炭化物集中		IV-9	--	不整形	埋没部	露出部	最大	最小	--	炭化物 露上下面・体面出土									
						0.96	0.40	--	--											
H-P-C-4	炭化物集中		IV-9	--	不整形な楕円形	埋没部	露出部	最大	最小	--	露上下面・体面出土									
						1.00	0.92	--	--											

表IV-2 竪穴住居跡付属遺構一覧(3)

遺構名	付属遺構名	種別	面	面積	形状・色調	幅 (cm)				主な出土遺物	備考				
						埋没部		露出部							
						長さ	幅値	長さ	幅値						
H-24	H F-1	中層土上	西-16-17	—	楕円形	0.53	0.43	—	—	0.07	—	瓦軸上			
			西-16-17	—	楕円形	赤褐色	0.61	0.51	—	—	0.05	—	瓦軸上		
			西-16-17	—	楕円形	赤褐色	0.97	0.64	—	—	0.13	—	瓦軸上		
	H F-4	中層土上	西-16-17	—	楕円形	赤褐色	0.43	(0.19)	—	—	*	—	瓦軸上		
			西 F-5	—	不整形	*	3.56	2.17	—	—	*	灰化物	土層面図なし		
			西 F-6	—	不整形	*	1.64	0.77	—	—	*	灰化物	土層面図なし		
	H F-1	柱穴・杭穴	西-16-17	—	円形	瓦丸	0.13	—	0.08	—	0.32	—			
			西 F-2	—	円形	瓦丸	0.17	—	0.08	0.37	—	—			
			西 F-3	—	円形	瓦丸	0.15	—	0.09	0.34	—	—			
			西 F-4	—	円形	瓦	0.31	—	0.01	0.37	—	—			
			西 F-5	—	円形	瓦	0.12	—	0.05	0.35	—	—			
			西 F-6	—	円形	瓦	0.09	—	0.05	0.36	—	—			
			西 F-7	—	円形	瓦丸	0.12	—	0.09	0.28	—	—			
			西 F-8	—	円形	瓦	0.09	—	0.03	0.29	—	—			
			西 F-9	—	円形	瓦	0.11	—	0.02	0.15	—	—			
			西 F-10	—	円形	瓦	0.15	—	0.07	0.21	—	—			
			西 F-11	—	円形	瓦丸	0.12	—	0.09	0.37	—	—			
			西 F-12	—	楕円形	瓦	0.30	0.18	0.05	0.50	—	—			
	H F-13	土坑	西-16-17	—	楕円形	底面: 直線的	0.43	0.39	0.25	0.24	0.23	—			
			西-16-17	—	円形	瓦丸	0.12	—	0.08	0.32	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦	0.09	—	0.02	0.25	—	—			
	H F-16	柱穴・杭穴	西-16-17	—	円形	瓦	0.14	—	0.07	0.34	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦丸	0.11	—	0.08	0.16	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦	0.15	—	0.04	0.27	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦	0.12	—	0.04	0.13	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦	0.09	—	0.04	0.13	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦	0.19	—	0.06	0.37	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦	0.16	—	0.11	0.29	—	—			
			西-16-17	—	楕円形	瓦丸	0.21	0.19	0.09	0.32	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦丸	0.12	—	0.07	0.19	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦丸	0.13	—	0.07	0.29	—	—			
			西-16-17	—	円形	瓦	0.14	—	0.05	0.41	—	—			
	H F-27	土坑	西-16-17	—	円形	平	0.11	—	0.06	0.20	—	—			
西 F-28			—	円形	瓦丸	0.18	—	0.08	0.31	—	—	非露出物土層 フレイク			
西-16-17			—	円形	平	0.11	—	0.07	0.24	—	—				
H F-30	柱穴・杭穴	西-16-17	—	円形	瓦丸	0.14	—	0.08	0.13	—	—				
		西-16-17	—	円形	瓦	0.08	—	0.02	0.22	—	—				
		西 F-32	—	楕円形	底面: 平	0.53	0.46	0.34	0.28	0.07	フレイク 灰化物	H F-2・4と重複(新しい)			
		西 F-33	—	円形	瓦	0.11	—	0.02	0.20	—	—				
		西 F-34	—	円形	瓦丸	0.16	—	0.09	0.19	—	—				
		西 F-35	—	円形	瓦丸	0.13	—	0.08	0.12	—	—				
		西 F-36	—	円形	瓦	0.11	—	0.04	0.12	—	—				
		西 F-37	—	円形	瓦丸	0.13	—	0.06	0.19	—	—				
		西 F-38	—	円形	瓦	0.06	—	0.01	0.20	—	—				
		H-25	中層土上	西 F-1	—	楕円形? *	暗赤褐色 (0.40)	(0.30)	—	—	(0.94)	灰化物 骨片	F-36と重複 (F-36より古い)		
				西 F-2	—	楕円形	褐色	0.40	0.26	—	—	0.06	灰化物 骨片		
西 F-1	—			円形	瓦	0.12	—	0.03	0.22	—	—				
西 F-2	—			円形	瓦丸	0.16	—	0.09	0.33	—	—				
西 F-3	—			円形	瓦丸	0.20	—	0.19	0.26	—	—				
H F-6 A	柱穴・杭穴		西 F-4	—	円形	瓦	0.14	—	0.04	0.43	—	—			
			西 F-5	—	円形	瓦	0.18	—	0.05	0.30	—	—			
			西 F-6 A	—	楕円形? *	瓦? *	(0.10)	(0.04)	(0.32)	—	—	H F-8 Bと重複(新しい不明)			
			西 F-6 B	—	円形? *	瓦? *	(0.13)	(0.05)	(0.32)	—	—	H F-8 Aと重複(新しい不明)			
			西 F-7	—	円形	瓦丸	0.16	—	0.07	0.25	—	—			
			西 F-8	—	円形	瓦	0.12	—	0.04	—	—	—			
			西 F-9	—	円形	瓦丸	0.12	—	0.06	0.25	—	—			
			西 F-10	—	円形	瓦丸	0.22	—	0.14	0.16	—	—			
			西 F-11	—	円形	瓦	0.14	—	—	0.22	—	—			
			西 F-12	—	楕円形	瓦	0.22	—	—	0.23	—	—			
			H F-13	土坑	西-19-20	—	円形	底面: 直線的	0.91	0.78	0.69	0.69	0.10	—	
					西-19-20	—	円形	瓦	0.11	—	—	0.20	—	—	
西-19-20	—	円形			瓦	0.19	—	0.08	0.25	—	—				
西-19-20	—	円形			瓦	0.19	—	0.03	0.19	—	—				
西-19-20	—	円形			瓦	0.10	—	0.03	0.20	—	—				
H F-17	竪溝	西-19-20	—	—	—	—	—	4.43	1.14	4.41	0.87	0.14	—		
		西-22	13	円形	褐色~赤褐色	0.53	0.51	—	—	0.09	フレイク 骨片 灰化物	骨片分布範囲: 50×0.58m			
H-26	中層土上	西 F-1	—	不整形	褐色~明褐色	0.71	0.53	—	—	—	—	層土中検出			
		西 F-2	—	楕円形	*	0.17	0.12	—	—	*	—	土層面図なし			
		西 F-3 A	—	不整形	*	0.25	0.18	—	—	*	—	土層面図なし			
		西 F-3 B	—	不整形	*	0.25	0.18	—	—	*	—	土層面図なし			
		西 F-3 C	—	不整形	*	0.16	0.11	—	—	*	—	土層面図なし			
		西 F-4	—	不整形	*	0.53	0.36	—	—	*	—	土層面図なし			
		西 F-5	—	不整形	*	0.68	0.40	—	—	*	—	土層面図なし			
		西 F-6	—	不整形	*	0.50	0.28	—	—	*	—	土層面図なし			
西 F-7	—	楕円形? *	(0.38)	(0.25)	—	—	—	*	—	土層面図なし、南側削平					
西 F-8	—	楕円形	*	0.55	0.39	—	—	*	—	土層面図なし					

表IV-2 竪穴住居跡付属遺構一覧(4)

遺構名	付属遺構名	種類	面	形状・色調	規模 (m)					主な出土遺物	備考		
					礎石部		壁部		最大深				
					長さ	幅	高さ	幅					
H-27	竪土中壁土	H F-1	IV-23	円形	0.53	0.50	-	-	0.06	-	炭化物		
		H F-2	IV-23	不整形	楕円	1.20	1.11	-	-	0.06	-	-	
		H F-3	IV-23	不整形	楕円	1.06	0.99	-	-	0.06	-	-	
		H F-4	IV-23	不整形楕円形	楕円	1.11	0.81	-	-	0.04	-	-	
		H F-5	IV-23	不整形楕円形	楕円	0.83	0.51	-	-	0.06	-	-	
		H F-6	IV-23	不整形楕円形	*	0.28	0.20	-	-	*	-	土断前面なし	
		H F-7 A	IV-23	不整形楕円形	*	0.26	0.16	-	-	*	-	土断前面なし	
		H F-7 B	IV-23	不整形楕円形	*	0.16	0.14	-	-	*	-	土断前面なし	
		H F-8	IV-23	不整形楕円形	*	0.66	0.32	-	-	*	-	土断前面なし	
		H F-8 A	IV-23	不整形楕円形	*	0.18	0.12	-	-	*	-	土断前面なし	
		H F-8 B	IV-23	不整形楕円形	*	0.24	0.14	-	-	*	-	土断前面なし	
		H F-8 C	IV-23	不整形楕円形	*	0.13	0.05	-	-	*	-	土断前面なし	
H-28	石組範囲	H F-1	IV-24	15	-	-	0.51 (0.36)	-	-	-	-	内西側石組無し	
		H F-2	IV-24	15	楕円形	赤褐色	0.21	0.26	-	-	0.06	-	-
		H F-3	IV-24	16	楕円形	赤褐色	0.19	0.10	-	-	0.05	-	土断前面なし
		H F-4	IV-24	16	楕円形	赤褐色	0.19	0.16	-	-	0.05	-	任意方向
H-29	竪穴・竪穴	H F-1	IV-24	16	楕円形	赤褐色	0.39	0.34	-	-	0.06	-	任意方向
		H F-2	IV-24	16	円形	丸	0.09	0.03	0.03	0.24	-	-	壁きまり
		H F-3	IV-24	16	円形	丸	0.17	0.07	0.07	0.36	-	-	-
		H F-4	IV-24	16	円形	丸	0.14	0.07	0.07	0.14	石組	-	-
		H F-5	IV-24	16	円形	丸	0.06	0.01	0.01	0.23	-	-	-
		H F-6	IV-24	16	円形	丸	0.13	0.04	0.04	0.23	-	-	竪穴内
H F-6	IV-24	16	円形	丸	0.11	0.03	0.03	0.19	-	-	竪穴内		

表IV-3 土坑一覧(1)

遺構名	面	図録	グリッド	平面形状	規模 (m)					付属遺構	出土遺物			備考
					礎石部		底面・坑底面		最大深		土器	石器等	その他	
					長さ	幅	長さ	幅						
P-26	IV-25	17	E・F・G・47-48E	楕円形	2.23	2.05	1.70	1.36	0.44	-	-	-	-	遺構確認調査範囲、P-27と近接
P-27	IV-25	17	F・G・47-48E	楕円形	2.44	2.06	1.97	1.68	0.42	-	I群b類	礎	-	遺構確認調査範囲、P-25と近接
P-28	IV-26	17	G-46E	楕円形	2.19	1.99	1.82	1.62	0.32	-	-	フレイク	-	遺構確認調査範囲
P-29	IV-26	17	G・H-74E	楕円形?	(1.77)	(0.70)	(1.48)	(0.49)	(0.25)	-	-	フレイク、礎	-	遺構確認調査範囲、調査区外に広がる
P-30	IV-27	17	E・F・51・52E	不整形楕円形?	(0.77)	4.92	(4.64)	4.03	0.46	設	I群b類 II群a類 IV群a類	両面磨製石函、スレイブ、フレイク、磨製石斧、石皿、石、	-	南側部分、平成23年度調査では確認できず
P-31	IV-28	17	E-63・64、F-62E	楕円形?	(3.03)	(1.70)	(2.88)	(1.33)	(0.23)	-	II群a類 IV群a類	石積またはナイフ、スレイブ、U・I系フレイク、フレイク、石皿、磁石、礎	-	H-21と重複(H-21より古い)
P-32	IV-28	17	E-60・61E	楕円形	(1.91)	1.91	(1.70)	1.65	0.44	-	IV群a類	つまみ付きナイフ、フレイク、磁石、礎	-	H-23と重複(H-23より新しい)
P-33	IV-29	17	D-67E	楕円形	1.07	(0.78)	0.66	(0.51)	0.27	-	-	-	-	F-2と近接
P-34	IV-29	18	E-61・62E、F-62E	不整形楕円形	4.31	2.66	3.95	2.50	0.58	設	II群a類 IV群a類	石積またはナイフ、スレイブ、U・I系フレイク、フレイク、石皿、磁石、礎、加工・使用痕のある礎、礎	-	H-21、P-31と近接 北西隅やぐらひ
P-35	IV-30	18	D・E-50E	楕円形	1.52	1.38	1.14	0.84	0.45	-	II群a類	石積またはナイフ、フレイク、石皿、礎	-	H-23と重複(H-23より新しい)
P-36	IV-30	18	E-58E	不整形楕円形	1.20	0.91	0.87	0.57	0.16	-	II群a類	フレイク、礎	-	H-19と重複(新国法不明)
P-37	IV-31	18	F-56E	不整形楕円形	1.04	0.81	0.79	0.57	0.10	-	I群b類 IV群a類	石積またはナイフ、フレイク、礎	-	IV群a類土器が形状を保った状態で出土、H-19と重複(H-19より新しい)
P-38	IV-31	18	G-56・57E	円形	1.44	1.24	1.07	0.96	0.18	-	-	フレイク、たたき石、磁石、片石、石皿、礎	-	H-19と重複(新国法不明)
P-39	IV-32	19	E-58・59E	楕円形?	(1.05)	(0.39)	(0.92)	(0.30)	0.13	-	-	つまみ付きナイフ、加工・使用痕のある礎	-	炭化材
P-40	IV-32	19	G-58E	不整形楕円形	1.24	0.79	0.91	0.58	0.22	-	-	礎	-	H-26、P-49と近接
P-41	IV-32	19	F-70E	楕円形	2.16	0.99	1.56	0.68	0.36	-	II群a類	フレイク、礎	-	H-24、F-44と重複(両遺構より新しい)
P-42	IV-33	19	D-69・70E	楕円形	1.57	(0.90)	1.27	(0.74)	0.21	-	II群a類	フレイク、礎	-	H-28と近接

表IV-3 土坑一覽(2)

遺構名	図	図番	グリッド	平面形態	層 積 (m)				付属遺構	出土遺物			備考		
					礎部		産部・坑底部			最大深	土層	石器等		その他	
					長径	短径	長径	短径							
P-43	IV-33	19	E-66E	不整形 長楕円形	4.03	1.33	2.94	0.52	0.89	掘り 上げ土	II群a層 IV群a層	石函、石製石函、 両面調整石函、 ステンレイベー、 U・Rフレイク、 フレイク、 磨製石斧、鏃	-	掘り上げ土がP-50 と重複(P-50より 新しい)	
P-44	IV-34	19	F・G- 70-71E	楕円形?	4.96	(1.78)	4.67	(1.78)	0.22	-	I群b層 II群a層 IV群a層	石函、フレイク、 鏃	-	H-24と重複 (新開関係不明)	
P-45	IV-35	20	F・G- 53-54E	不整形 楕円形	6.24	3.63	5.83	3.03	0.51	段	I群b層 II群a層 IV群a層	石函またはナイフ、 両面調整石函、 フレイク、 磨製石斧、砥石、 鏃	-	覆土上面にF-4 ・PC-5	
P-46	IV-36	20	F-39、 G-39-60E	楕円形	2.88	1.99	2.54	1.77	0.34	柱穴・ 杭穴	I群b層 II群a層	石函またはナイフ、 フレイク、 磨製石斧、鏃	-	P-49近接	
P-47	IV-36	20	E・F-65E	不整形 楕円形	3.21	2.22	2.80	1.80	0.35	-	II群a層 IV群a層	石函、 つまみ付きナイフ、 ステンレイベー、 U・Rフレイク、 フレイク、 谷石・石函、鏃	-	H-27と重複 (新開関係不明)	
P-48	IV-37	20	D-71、 E-70-71E	不整形 楕円形	1.49	1.26	0.79	0.71	0.13	-	IV群a層	加工・使用痕のある鏃、 鏃	-	H-24と重複 (H-31より新しい)	
P-49	IV-37	21	F・G- 18・19E	円形	3.70	3.32	3.30	3.04	0.40	柱穴・ 杭穴、 段	I群b層 II群a層	石函、石製 石函またはナイフ、 ステンレイベー、 U・Rフレイク、 フレイク、砥石、 加工・使用痕のある鏃、 鏃	-	H-26と重複 (H-30より新しい)	
P-50	IV-38	21	E・F-66E	楕円形	1.50	1.20	1.12	0.84	0.24	-	-	両面調整石函、 フレイク、鏃	-	P-45掘り上げ土下 に位置(P-45より 古い)	
P-51	IV-38	21	E-71・72E	楕円形	2.10	1.60	1.40	1.10	0.34	-	II群a層	石函、 ステンレイベー、 フレイク、鏃	-	-	
P-52	IV-39	21	D-70E	楕円形?	(1.73)	(1.12)	(1.57)	(0.93)	0.24	-	-	-	-	炭化材	H-28と重複 (H-29より古い)
P-53	IV-39	21	G-70-71E	不整形	3.60	(2.43)	3.14	(2.25)	0.43	土坑	IV群a層	ステンレイベー、 フレイク、 たたき石、 加工・使用痕のある鏃、 鏃	-	調査区外に広がる	
P-54	IV-40	21	G・H- 68・69E	不整形?	3.33	2.17	3.02	2.02	0.36	-	-	フレイク、鏃	-	調査区外に広がる	
P-55	IV-41	22	G-65E	楕円形	-	-	0.90	0.67	0.02	-	IV群a層	石函またはナイフ、 フレイク、鏃	炭化材	坑底面のみ、H-25 と重複(H-25より 新しい)、 思峰石原村産地分析 TOS-6; 石函または ナイフ	
P-56	IV-41	22	G-65E	楕円形	0.82	0.64	0.79	0.52	0.06	-	-	鏃	-	H-25と重複 (H-25より新しい)	
P-57	IV-41	22	G・H-56E	楕円形	0.96	0.80	0.72	0.56	0.10	-	-	フレイク、鏃	-	-	

表IV-4 土坑付属遺構一覽(1)

遺構名	付属遺構名	種別	図	図番	形態・色調	層 積 (m)				主な 出土遺物	備考		
						礎部		産部				最大深	
						平面	断面	長径	短径				
P-30	段	段構造	IV-27	-	不整形	-	2.60	1.19	2.60	0.67	0.15	*	北側壁跡
P-34	段	段構造	IV-29	-	不整形	-	2.36	2.22	1.80	1.90	0.18	*	-
P-43	掘り上げ土	掘り上げ土	IV-34	19	不整形 長楕円形	-	4.40	1.17	-	-	0.30	II群a層上層、 石函またはナイフ、 両面調整石函、 ステンレイベー、 U・Rフレイク、 フレイク、磨製石斧、 鏃	E・F-66E区、 P-50土坑に位置する (P-50より新しい)
P-45	段	段構造	IV-35	-	不整形	-	3.52	2.41	3.20	1.92	0.24	*	南側
			IV-35	-	不整形	-	3.78	2.53	3.23	2.03	0.23	*	北側
	S P-1		IV-36	30	円形	尖	0.08	-	-	-	0.25	-	-
	S P-2		IV-36	30	円形	丸	0.10	-	0.03	-	0.20	-	-
	S P-3		IV-36	30	円形	尖	0.08	-	-	-	0.26	-	-
	S P-4		IV-36	30	円形	尖	0.06	-	-	-	0.22	-	-
	S P-5		IV-36	-	円形	丸	0.08	-	0.02	-	0.14	-	-
	S P-6		IV-36	-	楕円形	尖	0.09	-	-	-	0.21	-	-
	S P-7		IV-36	-	楕円形	尖	0.11	-	-	-	0.14	-	-
	S P-8		IV-36	-	円形	尖	0.09	-	-	-	0.16	-	土層断面面なし
	S P-9		IV-36	-	円形	丸	0.08	-	0.03	-	0.14	-	-

表V-4 土坑付属遺構一覧(2)

遺構名	付属遺構名	種類	面	面版	形態・色調	規模(m)			最大厚	主な出土遺物	備考		
						長さ	幅	高さ					
P-49	柱穴・杭穴	設	IV-37	—	円形	断面	—	—	—	—	—		
						平面	0.14	—	—	0.37	—		
						断面	0.09	—	—	0.32	—		
						断面	0.10	—	—	0.23	—		
						断面	0.10	—	—	0.28	—		
						断面	0.08	—	—	0.23	—		
P-52	土坑	設	IV-39	—	楕円形	底面:曲線の	0.50	0.33	0.13	0.16	0.16	—	土層断面図なし
						底面:曲線の	0.37	0.29	0.25	0.21	0.17	—	土層断面図なし

表V-5 焼土一覧

遺構名/柱番号	焼土種別	面	面版	グリッド	確認層位	平面形態	焼土色調			規模(m)			主な出土遺物	関連する遺構	備考	
							赤褐色～褐色	マンセル褐色	長さ	幅	最大厚					
F-1	F-1A	—	IV-42	22	H-72D区	直壁	不整な円形	褐色	5~7.5YR4/6	0.65	0.6	0.13	—	フレイク	F-C-3 近接	水洗選別
								褐色	7.5YR4/6	0.42	0.42	0.10	—	フレイク		
								赤褐色	5YR4/6	0.23	0.22	0.04	—	—		
								褐色	7.5YR4/6	0.40	0.32	0.07	—	石楕またはナイフ、フレイク		
								赤褐色～褐色	5~7.5YR4/6	0.40	0.38	0.10	—	フレイク、燻		
F-2	—	IV-42	22	D-47区	直壁	楕円形	褐色	7.5YR4/6	0.71	0.62	0.12	—	フレイク、炭化材	P-33近接	縦り方0.90×0.90/0.76×0.71/0.00m	
F-3	—	IV-43	23	D-48区	H-29層土	円形?	褐色	7.5YR4/6	0.53	(0.18)	0.08	—	—	H-29上位		
F-4	—	IV-43	23	F-53区	H-45層土	円形	褐色	7.5YR4/6	0.36	0.35	0.11	—	—	P-45上位		
F-6	—	IV-43	23	E-47区	H-29層土	楕円形	褐色	7.5YR4/6	0.42	0.35	0.12	炭化材・骨片	—	H-29上位		

表V-6 フレイク集中一覧

遺構名	面	面版	グリッド	確認層位	平面形態	規模(m)			主な出土遺物	付属遺構関連する遺構	備考
						長さ	幅	最大厚			
F-C-3	IV-44	—	G-73区	直壁	不整な楕円形	1.82	0.87	—	フレイク、燻	F-1と近接	水洗選別
F-C-4	IV-44	—	E・F-54・53区	直壁	楕円形	1.66	1.30	—	1群b類土器・日野a類土器・青群a類土器、石楕、U・Rフレイク、フレイク、磨製石斧、燻石、燻	—	水洗選別
F-C-5	IV-44	—	F-53区	直壁	楕円形	0.80	0.69	—	スタイルバー、石楕、U・Rフレイク、フレイク	P-45 層土上位	水洗選別

表V-7 遺構出土位置計測遺物説明表

遺構名	遺物番号	土器	時期	形状	確認層位	高さ	長さ	幅	高さ	備考
P-18	1	石楕	ナチュ	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	2	石楕	仰形	片	3	1.00	1.00	—	—	
	3	U・Rフレイク	燻石	片	1	1.00	1.00	—	—	
	4	スタイルバー	燻石	定形	3	1.00	1.00	—	—	
	5	石楕	仰形	片	1	1.00	1.00	—	—	
	6	燻	仰形	片	1	1.00	1.00	—	—	
	7	土器	土器群a類	燻	2	1.00	1.00	—	—	
	8	燻	楕円状定形	片	2	1.00	1.00	—	—	
	9	スタイルバー	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	10	スタイルバー	ナチュ	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	11	燻	楕円状定形	片	1	1.00	1.00	—	—	
	12	燻	楕円状定形	片	1	1.00	1.00	—	—	
	13	燻	楕円状定形	片	1	1.00	1.00	—	—	
	14	石楕	仰形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	15	石楕	仰形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	16	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	17	燻	楕円状定形	片	1	1.00	1.00	—	—	
	18	燻	楕円状定形	片	5	1.00	1.00	—	—	
19	加工・使用部のみを燻	燻	2	1.00	1.00	—	—	—		
20	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—		
21	加工・使用部のみを燻	燻	3	1.00	1.00	—	—	—		
22	U・Rフレイク	燻	3	1.00	1.00	—	—	—		
P-24	1	石楕	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	確認計測 72-1
	2	石楕	定形	1	1.00	1.00	—	—	—	
	3	石楕	定形	1	1.00	1.00	—	—	—	
	4	磨製石斧	磨製石斧	定形	1	1.00	1.00	—	—	確認計測 72-1
	5	石楕またはナイフ	燻石	定形	3	1.00	1.00	—	—	—
	6	磨製石斧	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	—
P-25	1	石楕	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	確認計測 72-1
	2	石楕	定形	1	1.00	1.00	—	—	—	
	3	石楕	定形	1	1.00	1.00	—	—	—	
	4	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	—
	5	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	—
	6	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	—

遺構名	遺物番号	土器	時期	形状	確認層位	高さ	長さ	幅	高さ	備考
P-27	1	石楕	仰形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	2	磨製石斧	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	3	スタイルバー	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	4	石楕	仰形	片	1	1.00	1.00	—	—	
	5	U・Rフレイク	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	6	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	7	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	8	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	9	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	10	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	11	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	12	燻	楕円状定形	定形	1	1.00	1.00	—	—	
P-28	1	石楕またはナイフ	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	確認計測 72-1
	2	フレイク	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	3	石楕またはナイフ	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	4	フレイク	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	5	フレイク	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	
	6	フレイク	燻石	定形	1	1.00	1.00	—	—	

表IV-11 土坑出土石器点数表

遺物種別/層位	F-1		F-2		合計
	F-1A	F-1B	F-1D	F-1E	
群	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土
制片石器群	石槍またはナイフ	残存状態 片	1		1
		焼土 片			0
礫	礫	焼土 片	2	4	6
		焼土 片	2	4	6
礫石器群合計		4	8	12	
礫合計		0	1	0	1
合計		2	5	6	3

表IV-12 焼土出土石器点数表

遺物種別/層位	F-1		F-2		合計
	F-1A	F-1B	F-1D	F-1E	
群	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土
制片石器群	石槍またはナイフ	残存状態 片	1		1
		焼土 片			0
礫	礫	焼土 片	2	4	6
		焼土 片	2	4	6
礫石器群合計		4	8	12	
礫合計		0	1	0	1
合計		2	5	6	3

表IV-13 フレイク集中出土石器点数表

遺物種別/層位	FC-3		FC-4		FC-5		合計
	皿層	皿層	皿層	皿層	皿層	皿層	
群	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土	焼土
制片石器群	スクレイパー	残存状態 片	1		1		2
		焼土 片					0
礫石器群	礫石器群合計	焼土 片	826	223	37	1086	
		焼土 片	826	223	39	1088	
礫石器群合計		0	2	0	2		
礫合計		0	6	0	6		
合計		826	233	39	1088		

表IV-14 フレイク集中出土土器点数表

遺構名			FC-4 目録	合計
時期	遺物種別/層位 部位	残存状態		
I群b類	口縁部	良好	1	1
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		1	1
	腹部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
胴部	良好		0	
	剥離		0	
	摩耗		0	
	小破片	1	1	
小計		1	1	
I群b類合計			2	2
I群a類	口縁部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
	腹部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
胴部	良好	1	1	
	剥離		0	
	摩耗		0	
	小破片		0	
小計		1	1	
I群a類合計			1	1
合計			3	3

表IV-15 竪穴住居跡出土土器点数表(水洗選別)

遺構名			FC-1 目録	合計
時期	遺物種別/層位 部位	残存状態		
I群b類	口縁部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
	腹部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
胴部	良好	2	2	
	剥離		0	
	摩耗		0	
	小破片	1	1	
小計		3	3	
I群b類合計			3	3
I群a類	口縁部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
	腹部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
胴部	良好		0	
	剥離		0	
	摩耗		0	
	小破片	1	1	
小計		1	1	
I群a類合計			1	1
不明	口縁部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
	腹部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
胴部	良好		0	
	剥離		0	
	摩耗		0	
	小破片	10	10	
小計		10	10	
不明合計			10	10
合計			16	16

表IV-16 フレイク集中出土土器点数表(水洗選別)

遺構名			FC-4 目録	合計
時期	遺物種別/層位 部位	残存状態		
I群b類	口縁部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
	底部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
胴部	良好	1	1	
	剥離		0	
	摩耗		0	
	小破片		0	
小計		1	1	
I群b類合計			1	1
II群a類	口縁部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
	底部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
胴部	良好	2	2	
	剥離		0	
	摩耗		0	
	小破片	5	5	
小計		7	7	
II群a類合計			7	7
IV群a類	口縁部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
	底部	良好		0
		剥離		0
		摩耗		0
		小破片		0
	小計		0	0
胴部	良好	1	1	
	剥離	1	1	
	摩耗		0	
	小破片		0	
小計		2	2	
IV群a類合計			2	2
合計			10	10

表IV-17 竪穴住居跡出土石器点数表（水洗選別）

遺構名			H-19			H-20			H-29		合計	
遺物種別/層位			HFC-1	HFC-2	小計	HFC-1	HFC-2	小計	覆土	小計		
群	器種	残存状態	覆土	覆土		覆土	覆土					
剥片石器群	石鏃	完形			0			1	1	0	1	
		準完形			0			0	0	0	0	
		半形			0			0	0	0	0	
		片			0			0	0	0	0	
	小計			0	0	0	0	1	1	0	1	
	両面調整石器	完形				0			0	0	0	0
		準完形				0			0	0	0	0
		半形				0			0	0	0	0
		片		5		5			0	0	0	5
	小計			5	0	5	0	0	0	0	0	5
	スクレイパー	完形		1		1			1	0	0	1
		準完形				0			0	0	0	0
		半形				0			0	0	0	0
		片				0			0	0	0	0
小計			1	0	1	0	0	0	0	0	1	
フリイク			5499	1230	6729	330	933	1263	2069	2069	10061	
剥片石器群合計			5505	1230	6735	330	934	1264	2069	2069	10068	
礫石器群	磨製石斧	完形			0			0	0	0	0	
		準完形			0			0	0	0	0	
		半形			0			2	2	0	2	
		片			0			2	2	0	2	
小計			0	0	0	0	2	2	0	0	2	
礫石器群合計			0	0	0	0	2	2	0	0	2	
合計			5505	1230	6735	330	936	1266	2069	2069	10070	

表IV-18 土坑出土石器点数表（水洗選別）

遺構名			P-31	
遺物種別/層位			覆土	合計
群	器種	残存状態		
剥片石器群	フリイク		338	338
	U・R フリイク		1	1
合計			339	339

表IV-19 焼土出土石器点数表（水洗選別）

遺構名			F-1	
遺物種別/層位			F-1A	合計
群	器種	残存状態	焼土	
剥片石器群	フリイク		11	11
合計			11	11

表IV-20 フリイク集中出土石器点数表（水洗選別）

遺構名			FC-3	FC-4	FC-5	合計
遺物種別/層位			III層	III層	III層	
群	器種	残存状態				
剥片石器群	石核		0	0	1	1
	フリイク		664	4045	1318	6027
剥片石器群合計			664	4045	1319	6028
礫石器群	磨製石斧	完形				0
		準完形				0
		半形				0
		片		3	0	3
礫石器群合計			0	3	0	3
礫	礫	完形				0
		片	1	3	0	4
礫合計			1	3	0	4
合計			665	4051	1319	6035

V章 B地区の遺構・包含層出土の遺物

1. 遺構・包含層出土の土器 (図V-1~14 表V-1・3~18 図版24~33)

(1) 遺構出土の土器 (図V-1~7 図版24~29)

・遺構出土の復原土器

H-24 (図V-1-1)

1は覆土出土のⅡ群a類土器の深鉢である。部位は胴部下半～底部で、口縁～胴部上半を欠失する。底部から胴部にかけて直線的に大きく開く器形で、底部の厚さは約5cmである。文様は幅のある格子目状押型文が施され、一部矢羽状押型文もみられる。また、尖底部外面には文様は施されない。胎土には繊維が多量に含まれる。

H-24・P-48 (図V-1-2・3)

2・3はⅣ群a類土器の深鉢で、H-24とP-48の覆土出土のものが接合している。2の部位は口縁～胴部下位で、底部を欠失する。器形は口縁部がわずかに外反し、胴部上半は直線的で、中位から下位にかけて緩やかにすぼまる。口縁部は肥厚帯がみられ、縦位の捺糸文が施される。肥厚帯下位には円形刺突文が施される。地文はLRないしRL縄文と、縦位の捺糸文の組み合わせである。また、口縁部内面にもLR縄文が施される。3は胴部中位～底部で、口縁部～胴部上位を欠失する。胴部から底部にかけて緩やかにすぼまる器形で、底部はやや張り出す。地文はRL縄文で、補修孔が1か所みられる。全体的に器面に摩擦する。

H-24・P-51 (図V-1-4)

4はⅡ群a類土器の深鉢で、H-24とP-51の覆土出土のものが接合している。部位は胴部上位～底部で口縁部を欠失する。器形は底部から胴部にかけて直線的に開く。文様は矢羽状押型文が縦位に浅く施される。内面の調整はミガキである。胎土には繊維が多量に含まれる。

H-25 (図V-1-5)

5はⅡ群a類土器の深鉢で、H-25の床面から出土した。小型の押型文尖底土器で、全体の約2/3が残存している。器形は底部から胴部までは直線的に広がり、口縁部はほぼ直立する。口唇部には突起があり、上部には刻みが施される。口縁～胴部上半には斜格子状押型文が横位に施され、一部矢羽状になるところもある。内面は全体的に黒色化し、炭化物の付着部分もみられる。

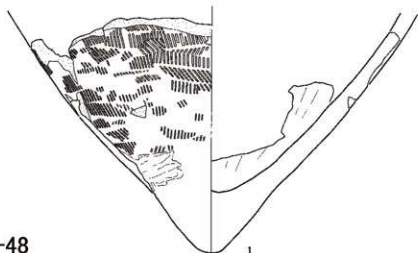
P-31 (図V-2-6)

6はⅣ群a類土器の深鉢で、P-31覆土とE-64区Ⅲ層出土が接合している。部位は口縁～胴部下位で、底部を欠失する。器形は円筒形に近く、胴部下位から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる。文様は、口唇部には刻みが施される。口縁部にはやや幅のある肥厚帯がみられ、RL縄文と縦位の沈線文が施される。肥厚帯の下位には円形刺突文が施される。胴部はRL・LR縄文が交互に施され、羽状縄文となる。全体的に補修孔が多く、11か所施されている。

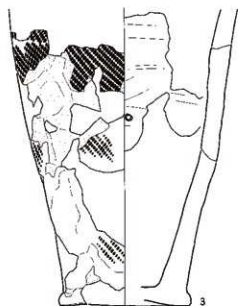
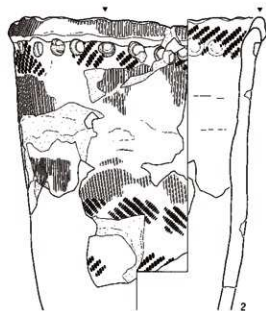
P-37 (図V-2-7)

7は坑底出土のⅣ群a類土器である。底部を欠失するが、形状を保ったまま出土した。器形は円筒形に近く、胴部下位から口縁部にかけてわずかにふくらみながら立ち上がる。文様は、口唇部には刻みが施される。口縁部には肥厚帯がみられ、貼付による棒状突起、沈線文、LR縄文が施される。肥厚帯の下位には円形刺突文が施される。地文はRL・LR縄文が交互に施され、羽状縄文となる。

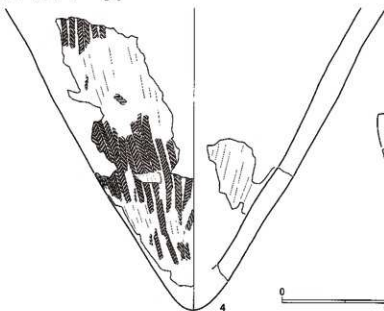
H-24



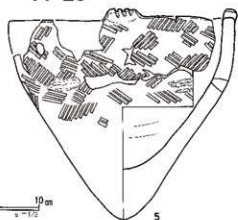
H-24・P-48



H-24・P-51

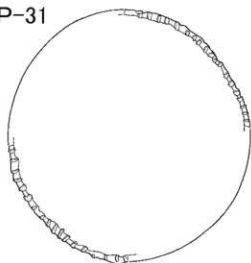


H-25

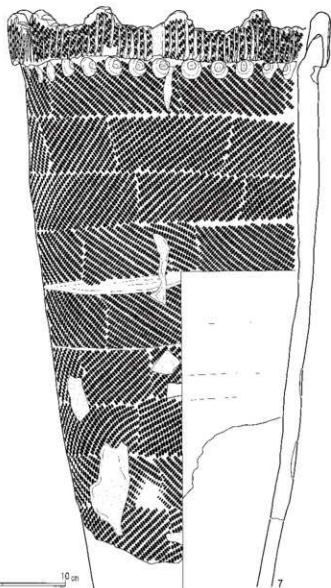
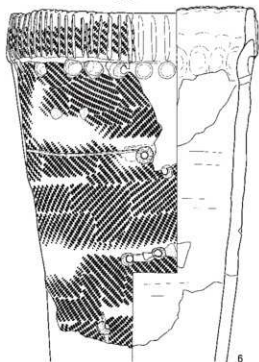
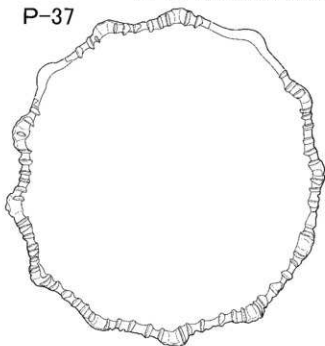


図V-1 遺構出土の土器(1)

P-31



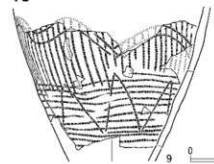
P-37



P-46・P-49



P-49



図V-2 遺構出土の土器(2)

P-46・P-49 (図V-2-8)

8はI群b類土器の深鉢で、P-46、P-49覆土と周辺包含層出土のものが接合した。部位は胴部下位～底部で、口縁～胴部中位を欠失する。器形は底部が少し上げ底になり、底部から胴部にかけて大きく開く。文様は貼付帯が1条みられ、その上位にRL縄文、下位にLR縄文が施される。

P-49 (図V-2-9)

9はI群b類土器の深鉢で、P-49覆土と周辺包含層出土のものが接合した。部位は胴部中位で、文様は縦位及び横位、さらに山形や曲線的な形状が絡条体瓦痕文により施される。

・竪穴住居跡出土の破片土器

H-17 (図V-3-1~6)

1・4は覆土と床面出土が接合したもので、他は全て覆土出土である。1~5はII群a類土器の深鉢で胎土に繊維を多量に含む。1は口縁部で口唇上に突起が付けられている。突起には上から刺突文が施される。地文には矢羽状押型文が施される。内面はミガキが施される。2は口縁部の突起部で、全体的に器面が摩耗している。横及び上から刺突文が施される。3は口縁部下位～胴部で矢羽状押型文が横位に施される。上位には貼付帯がみられ、貼付帯には刺突文が施される。4・5は胴部である。4は矢羽状押型文が横位に施される。5は沈線文が施される。6はI群b類土器で貼付文、絡条体瓦痕文、短縄文が施される。

H-18 (図V-3-7~10)

7・8・10は覆土出土で、9は覆土とF-52区III層出土のものが接合した。7・8はII群a類土器の深鉢である。7は口縁部下位～胴部で肥厚帯下端に刻みが施される。8は胴部で、文様は縦位の燃糸文が施される。9・10はI群b類土器の深鉢で、部位は胴部である。9は横位の絡条体瓦痕文による文様帯がみられ、間には縦位の絡条体瓦痕文や横位の貼付帯が施される。10は斜位の貼付文及び絡条体瓦痕文が施される。

H-19 (図V-3・4-11~20)

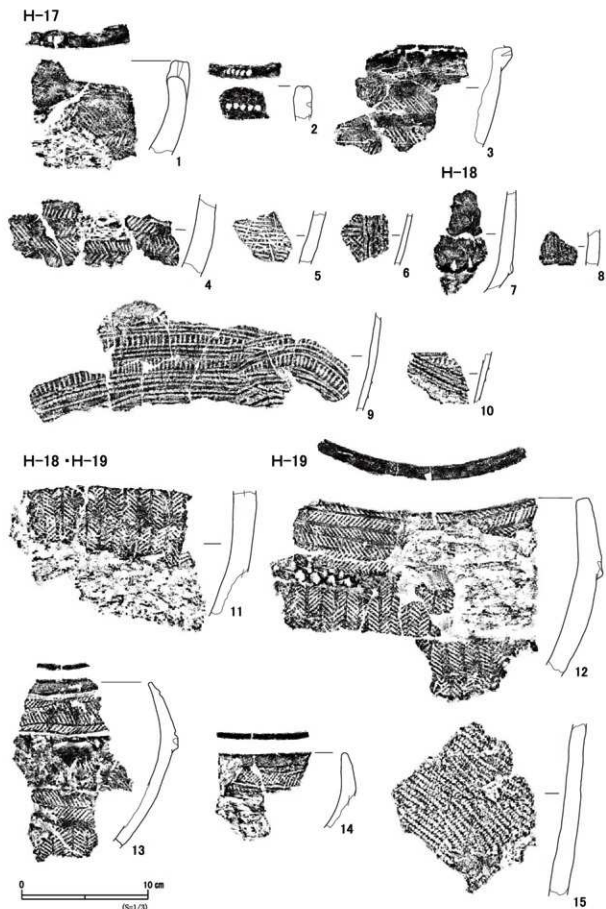
11~14はII群a類土器の深鉢である。11はH-18覆土出土と接合し、12~14は覆土出土と周辺包含層出土のものが接合した。11と12、13と14はそれぞれ非接合の同一個体である。11・12は共に外面に剥落部分がみられ、内面には多量の炭化物が付着する。胴部の文様は縦位の矢羽状押型文である。12は口縁～胴部で肥厚帯下位に刺突文と刻みが施される。また肥厚帯には横位の矢羽状押型文がみられる。13は肥厚帯がみられ、矢羽状押型文、沈線文、刺突文が施される。15・16は覆土出土のIV群a類土器の胴部である。15はRL縄文、16はLR縄文が施される。17~20は覆土出土のI群b類土器である。17・18は貼付帯がみられるもので、貼付帯の間に17はLR、RL縄文が、18は短縄文が施される。19・20は絡条体瓦痕文と短縄文が施されるもので、19は燃糸文がみられる。

H-20 (図V-4-21・22)

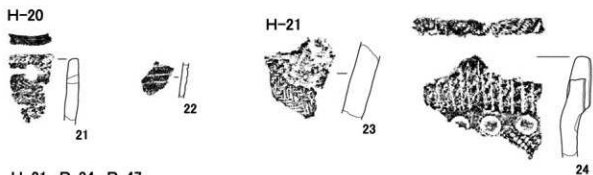
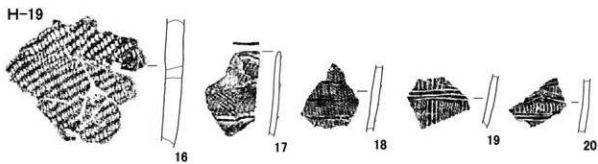
21・22は共に覆土から出土した。21はII群a類土器の口縁部で斜格子状押型文が施される。補修孔が1か所みられる。22はI群b類土器の胴部で、横位に絡条体瓦痕文が施される。

H-21 (図V-4-23~26)

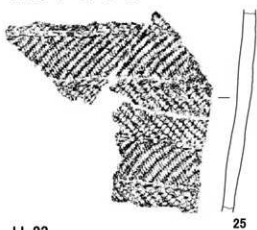
23は覆土出土のII群a類土器である。胴部で矢羽状押型文が斜位に施される。24~26はIV群a類土器である。出土層位は24が覆土、25は覆土出土とP-34、P-47覆土出土のものが接合している。26は覆土出土のもの、H-19覆土出土、包含層出土のものが接合している。24は北筒II式の口縁部で肥厚帯がみられ、肥厚帯にはLR縄文と沈線文が施される。肥厚帯の下には円形刺突文が施される。



図V-3 遺構出土の土器(3)



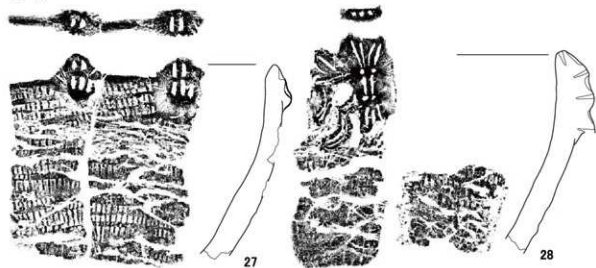
H-21・P-34・P-47



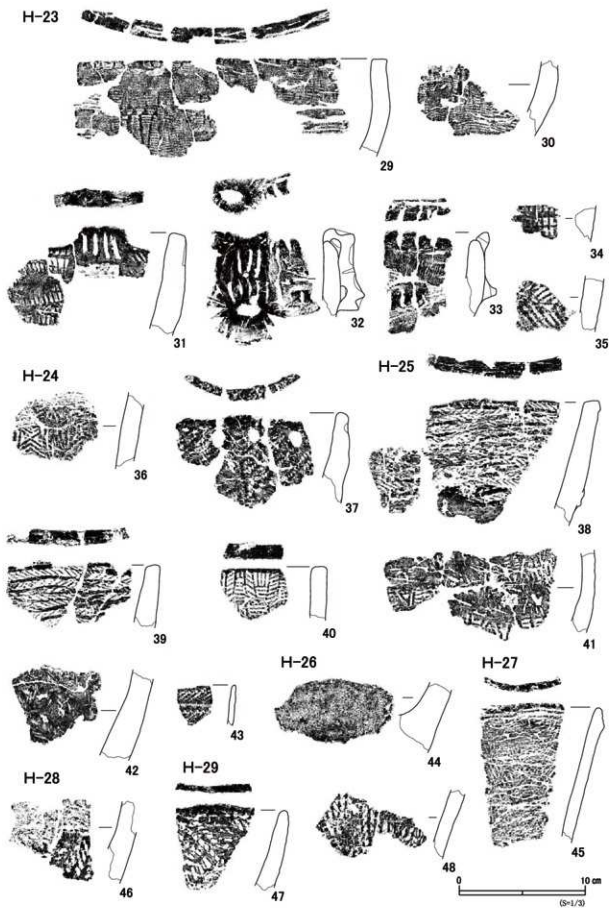
H-21・H-19



H-23



図V-4 遺構出土の土器(4)



図V-5 遺構出土の土器(5)

25・26は胴部で、L R・R L縄文が羽状に施される。

H-23 (図V-4・5-27~35)

出土層位は29が床面、覆土、F-60区Ⅲ層出土が接合し、30・33は覆土とF-60区Ⅲ層が接合している。他は全て覆土出土である。27~34はⅡ群a類土器である。27・28は同一個体の口縁~胴部である。口縁部には貼付による突起部が付けられ、突起部には刺突文が施される。28の突起は大型で沈線文もみられる。地文には格子目状押型文が横位に施される。内面には細かいミガキが施される。29・30は同一個体で、29は口縁~胴部、30は胴部である。口唇部は平坦で、口縁部下半がやや膨らむ器形である。口縁~胴部にかけて縦位の格子目状押型文が施される。31は口縁部で、口唇部には貼付による突起部が作り出される。突起部には短い沈線文が施される。地文は格子目状押型文と斜格子状押型文がみられる。32・33は同一個体の口縁部で横位の貼付帯がみられる。口唇部及び貼付帯には刻みが施される。32は貼付による突起部が施され、細長い刻みや刺突文が施される。34は胴部で内面が剝離している。文様は格子目状押型文が施される。35はⅣ群a類土器の胴部で、L R・R L縄文が羽状に施される。

H-24 (図V-5-36・37)

36は覆土出土のⅡ群a類土器である。胴部で、文様は「く」の字状の押型文が部分的に施される。器面が摩耗しているため不明瞭だが、格子目状押型文も施されていると考えられる。37は覆土出土のⅣ群a類土器である。胎土に繊維が混じり、L R縄文が施される。明瞭な肥厚帯はなく、口縁部には円形刺突文がみられる。

H-25 (図V-5-38~43)

38~42はⅡ群a類土器である。出土層位は全て覆土出土である。38は口縁~胴部で下位に貼付帯が施される。地文は横位の矢羽状押型文が施される。内面はミガキで調整される。39・40は口縁部である。39は矢羽状押型文が施され、内面はミガキで調整される。40は格子目状と斜格子状の押型文の組み合わせによる文様がみられる。41・42は胴部である。41は格子目状押型文が縦位に施される。42は胴部下位で厚みがあり、矢羽状押型文が縦位に浅く施される。43は覆土出土のⅠ群b類土器である。口縁部で、絡条体圧痕文とL R縄文が施される。

H-26 (図V-5-44)

44は床面出土のⅡ群a類土器である。無文の底部で内外面が摩耗している。

H-27 (図V-5-45)

45は床面出土のⅡ群a類土器である。口縁~胴部で外面に繊維痕が多くみられ、口縁部には肥厚帯がある。地文が施されているが、ごく浅く不明瞭である。

H-28 (図V-5-46)

46はⅡ群a類土器で、覆土出土の胴部である。外面が大きく剝離し、文様は矢羽状押型文が縦位に施される。

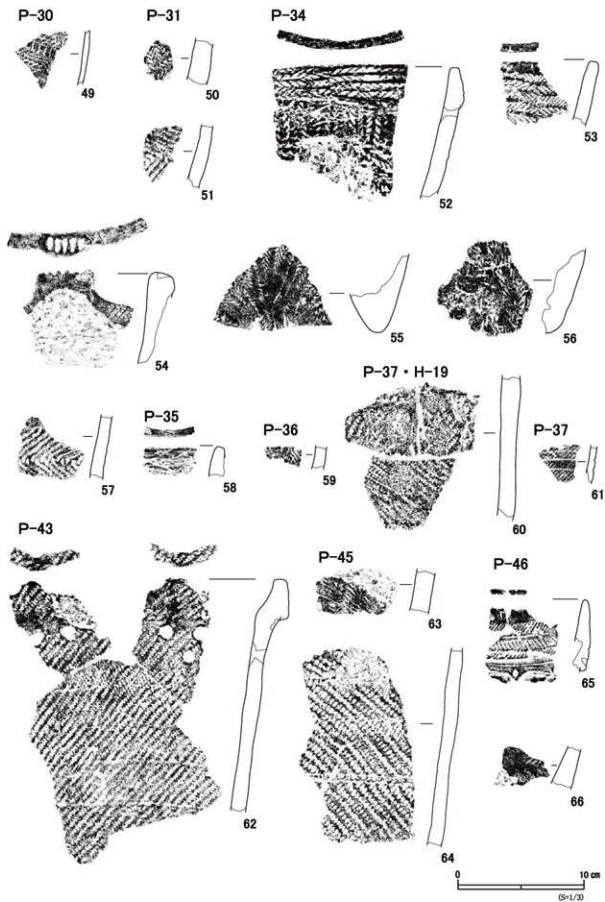
H-29 (図V-5-47・48)

47・48はⅡ群a類土器である。47は覆土出土の口縁部で、斜格子状押型文が斜位に施される。48は覆土出土とE-68区Ⅲ層出土のものが接合している。胴部で、矢羽状押型文が縦位に施される。

・土坑出土の破片土器

P-30 (図V-6-49)

49は覆土出土のⅠ群b類土器である。胴部で、文様は絡条体圧痕文、短縄文、L R縄文が施される。



図V-6 遺構出土の土器(6)

P-31 (図V-6-50・51)

50はⅡ群a類土器の胴部である。覆土出土で矢羽状押型文が施される。51はⅣ群a類土器で覆土出土である。胴部で結束第一種の羽状縄文が施される。

P-34 (図V-6-52~57)

全て覆土出土である。52~56はⅡ群a類土器である。52は口縁~胴部で、肥厚帯があり、横位の矢羽状押型文が施される。また、補修孔がみられる。53・54は口縁部で、矢羽状押型文が施される。54は突起部がみられ、上位から刺突文が施される。55・56は底部で、どちらも内面が剥離する。文様は矢羽状押型文が縦位に施される。57はⅣ群a類土器である。胴部で、地文は結束第一種羽状縄文が施される。

P-35 (図V-6-58)

58は覆土出土のⅡ群a類土器である。口縁部で、文様はないが外面に縦維痕がみられる。

P-36 (図V-6-59)

59は覆土出土のⅡ群a類土器の胴部である。内外面が摩耗し、摺糸文と思われる文様がみられる。

P-37 (図V-6-60・61)

60は覆土出土とH-19覆土出土が接合したものである。Ⅳ群a類土器の胴部で、L R・R L縄文が羽状に施される。61は覆土出土のⅠ群b類土器の胴部で、絡条体圧痕文とL R縄文が施される。

P-43 (図V-6-62)

62はⅣ群a類土器である。覆土出土とE-64区、E-65区Ⅲ層出土が接合した。口縁~胴部で口縁部には肥厚帯が施され、肥厚帯上には貼付、L R縄文が施される。肥厚帯の下位には円形刺突文が施される。地文はL R縄文で、口唇部にもみられる。

P-45 (図V-6-63・64)

63は覆土出土のⅡ群a類土器である。文様は斜格子状押型文が縦位に施される。64は覆土出土のⅣ群a類土器である。胴部でR L縄文が施される。

P-46 (図V-6・7-65~69)

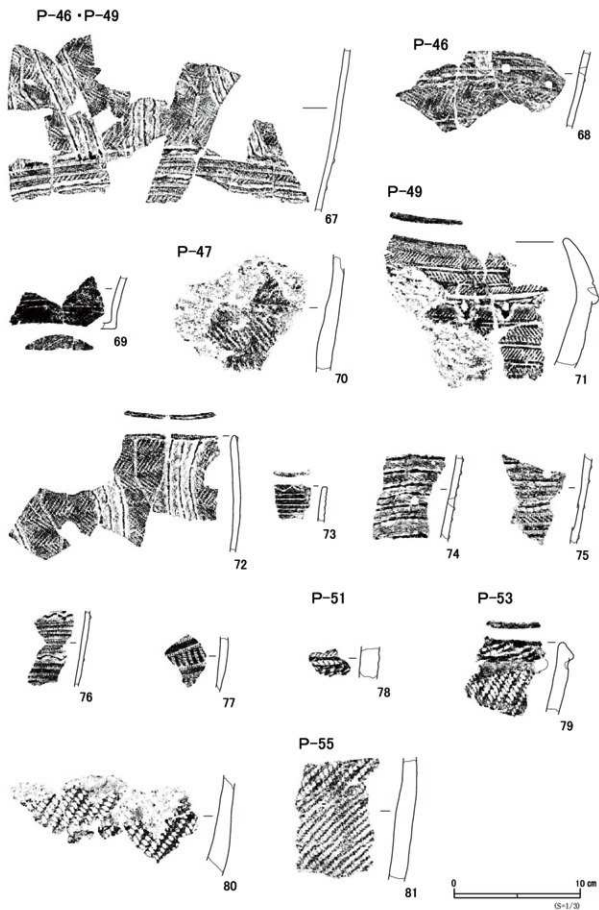
65・66はⅡ群a類土器である。65は口縁部で、覆土出土とG-59区Ⅲ層出土ほか接合した。肥厚帯がみられ、矢羽状押型文、沈線文、刺突文が施される。66は覆土出土の胴部で、やや間隔のあいた矢羽状押型文が施される。67~69はⅠ群b類土器である。67・68・72は同一個体で、67は覆土出土とP-49覆土出土が接合している。68は覆土出土である。共に胴部で、67の下位と68は貼付帯が横位に巡り、間に絡条体圧痕文が施される。67の上位には、斜位に貼付文が施され、絡条体圧痕文やL R・R Lの結束第一種羽状縄文が施される。また、68には補修孔が2か所みられる。69は底部で、横位の絡条体圧痕文が施される。

P-47 (図V-7-70)

70は覆土から出土したⅣ群a類土器である。胴部で外面が大きく剥離し、L R・R L縄文が羽状に施される。

P-49 (図V-7-71~77)

71は覆土出土のⅡ群a類土器である。口縁~胴部で口縁部には肥厚帯がみられる。肥厚帯には矢羽状押型文、沈線文が施され、肥厚帯下位には小さな貼付があり、刺突文が施される。胴部には矢羽状押型文が施される。72~77はⅠ群b類土器である。72は67・68と同一個体で、覆土出土とG-59・60区、H-60区Ⅲ層出土が接合した。口縁~胴部で、口縁部上端に貼付帯が施され、貼付帯には絡条体圧痕文がみられる。口縁~胴部上位には結束第一種の羽状縄文が施され、さらに縦位の貼付文、絡条



図V-7 遺構出土の土器(7)

体疋痕文がみられる。73は覆土出土の口縁部で、直線及び曲線の絡条体疋痕文が施される。74～77は胴部である。74～76は覆土出土と周辺包含層（Ⅲ層）出土が接合している。74・75は貼付帯がみられるもので、74はR縄文が、75はRL縄文と絡条体疋痕文が施される。76は曲線状の貼付文が施され、間に絡条体疋痕文がみられる。77は覆土出土で、縦位、横位に絡条体疋痕文が施される。

P-51 (図V-7-78)

78は覆土出土のⅡ群a類土器である。胴部で、文様は矢羽状押型文が施される。

P-53 (図V-7-79・80)

79・80は覆土出土のⅣ群a類土器である。79は口縁部で、肥厚帯がみられるものである。地文はL R縄文で肥厚帯上にも施される。肥厚帯の下位には円形刺突文が施される。80は胴部で、L R縄文が施される。

P-55 (図V-7-81)

81は坑底出土のⅣ群a類土器である。胴部で、文様はL R縄文が施される。

(2) 包含層出土の土器 (図V-8~14 図版30~33)

包含層から土器は2,603点出土している。時期別ではⅡ群(縄文時代前期)が1,191点と最も多く、次いでⅠ群(早期)1,025点、Ⅳ群(後期)353点である。他に縄文時代中期・晩期、統縄文時代の土器があるが、いずれも30点に満たない点数である。層別では、Ⅲ層2,577点、0層26点で、ほとんどがⅢ層出土である。土器の分布は、遺構がみられる46～75ラインの間にほぼ重なる。

平成21～23(2009～2011)年度調査区(以下「過年度調査区」)も含めた分布は、今回の調査区同様土器の分布と遺構の分布がほぼ重なる。点数の多いⅠ群、Ⅱ群土器の分布は土器全体の分布傾向とほぼ同じであるが、Ⅰ群土器は47～65ラインの間、Ⅱ群土器は49～74ラインの間に多く分布しており、Ⅰ群土器は分布範囲がやや西寄りである。また、Ⅳ群土器はⅡ群土器の分布範囲にほぼ重なっている。

また、土製品として焼成粘土塊がH-73区から2点出土している。

Ⅰ群土器 (図V-10~12)

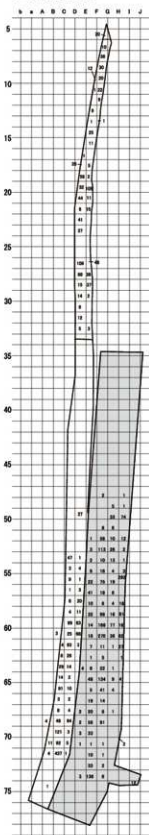
縄文時代早期ではⅠ群b類の中茶路式が出土している。器種は全て深鉢で、器形は、口縁部はあまり傾かず垂直に近いものが多い。また、底部から急角度に立ち上がるものが多い。器壁は薄い。文様は絡条体疋痕文や貼付帯が施されるものが多く、斜行縄文がみられるものもある。

過年度調査区での出土点数は少量だったが、今回の調査では1,025点と比較的多く、包含層出土土器の約40%を占めている。分布は47～65ラインの間で、調査区中央付近が多く、東側にもわずかにみられる。残存状態は良好、小破片が多く、摩耗、剥離が少ない。

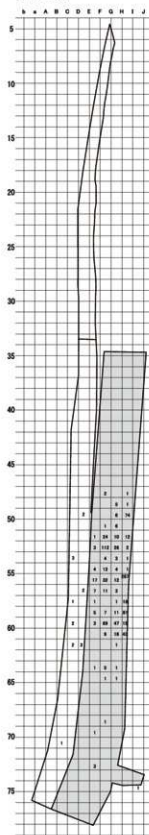
・復原土器 (図V-10-1~4)

1～4は深鉢である。1は小型で、胴部がやや膨らむ器形である。文様は地文にL R縄文が施され、口縁部上端に刻みと貼付帯が、口縁～胴部にかけて横位の絡条体疋痕文が連続的に施される。焼成は良好で、内外面に二次焼成と考えられる赤色化範囲がみられる。2は胴部中位～底部で、胴部がやや膨らみ、底部がわずかに張り出す器形である。文様は横位の絡条体疋痕文が数条単位で、胴部中位と底部付近に施され、その間に縦位や斜位、または山形に絡条体疋痕文が施される。3は胴部下位～底部で、器形はやや上げ底で胴部にかけて直線的に開く。文様は、横位の絡条体疋痕文とL R・R L縄文が施され、羽状縄文もみられる。4は胴部下位～底部で、器形は上げ底で、胴部にかけて直線的に開く。文様は、地文にL R縄文が施され、他にごく低い貼付帯が横位に1条みられる。

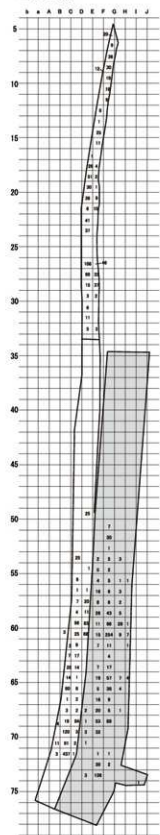
土器総点数



I 群b類

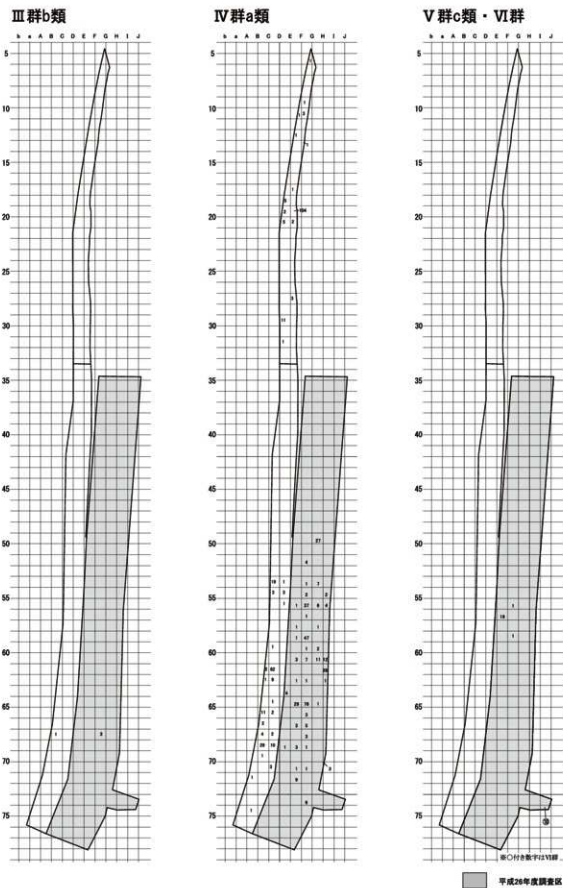


II 群a類

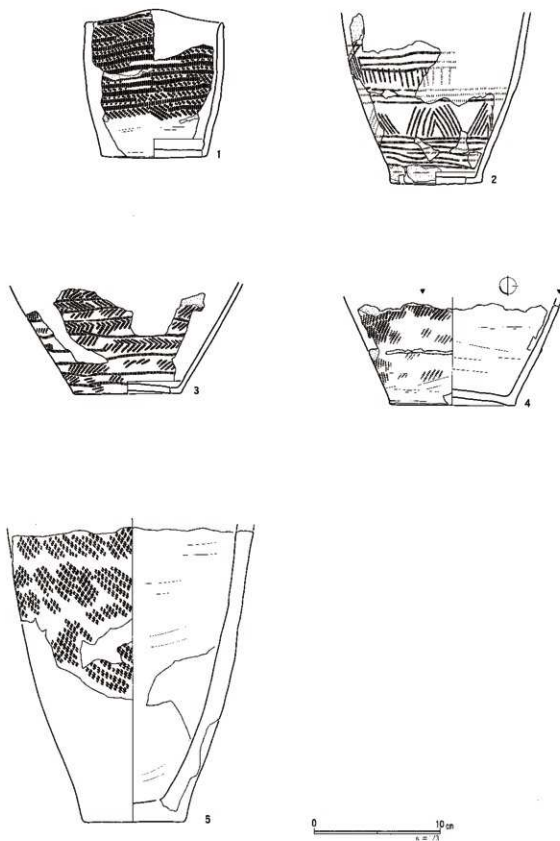


平成26年度調査区

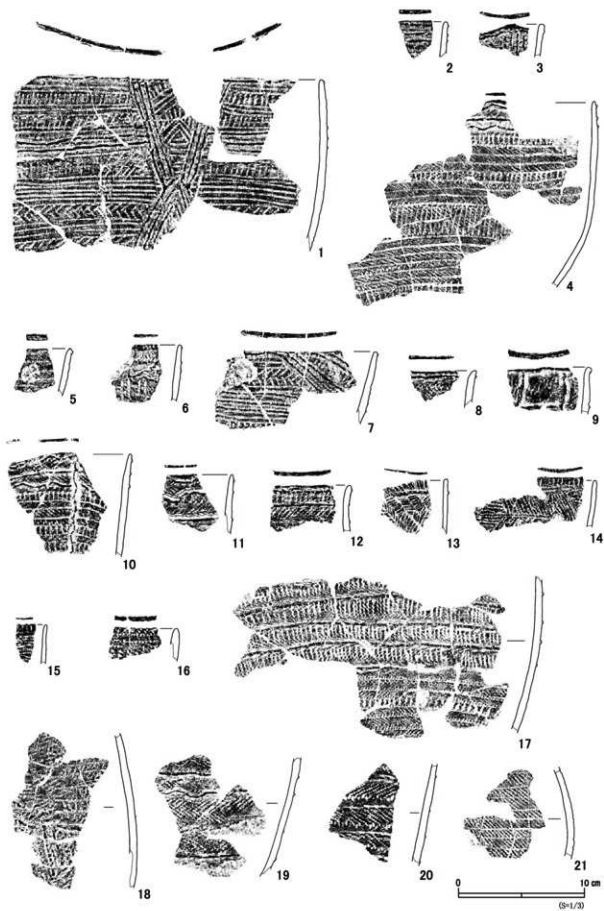
図V-8 包含層出土土器点数分布図(1)



图V-9 包含層出土土器点分布图(2)



図V-10 包含層出土の土器(1)



図V-11 包含層出土の土器(2)

・破片土器 (図V-11・12-1~29)

全てI群b類土器の深鉢である。1~16は口縁部ないし口縁~胴部である。1~13は貼付帯が施されるもので、貼付帯は口縁部上位に1~数条施されるものが多い。1~7は絡条体圧痕文が施されるものである。1は斜位の貼付文と絡条体圧痕文との組み合わせで細かい文様が作り出されている。2は貼付帯の間に横位の絡条体圧痕文が施される。3は突起状の口縁部で、貼付帯と縦位の貼付文が施される。4・5は縄文が施されるものである。4は上位に貼付帯が施され、下位には縦位・横位の絡条体圧痕文が施される。地文はLR・RL縄文である。5は口縁部上端に貼付文が施され、下位には横位の絡条体圧痕文が複数施される。6は口縁部上位に短縄文が施される。7は斜位に貼付文が施される。8~11は縄文が施されるものである。8はRL縄文、9は縦位に貼付文がみられ、縦定気味のLR縄文が施される。10・11は口縁部上位に複数の貼付帯がみられ、地文はLR・RL縄文が施される。10は貼付帯下位に縦位、横位に絡条体圧痕文が施される。12は短縄文が縦位及び斜位に施される。13は緩い波状口縁で地文には貝殻腹線圧痕文と考えられる文様が施される。14~16は貼付帯がなく、絡条体圧痕文が施されるものである。14・15は同一個体で、絡条体圧痕文と並行して部分的に縄線文が施される。

17~23は胴部である。17~20は貼付帯がみられるものである。地文にLR・RL縄文が施されるものが多い。17は複数の貼付帯が施されるもので、貼付帯の間には短縄文がみられる。18は縦位の貼付文が施され、全体的に横位、縦位の絡条体圧痕文が施される。地文はLR縄文が施される。19・20は複数の貼付帯の間にLR、RL縄文が施される。21は絡条体圧痕文とRL縄文が施される。22は絡条体圧痕文が斜位に2~3本1組で施され、間には縦位の絡条体圧痕文が連続的に施される。23は27と同一個体で、横位の綾絡文が全体的に施される。

24~29は胴~底部ないし底部である。24・25は貼付帯と縄文が施される。24は底部の断面がやや張り出す器形で、地文はLR縄文が施される。25はR縄文が施される。26は横位の絡条体圧痕文が施される。27は綾絡文とRL縄文が施されるもので、23と同一個体である。28・29は無文のものである。

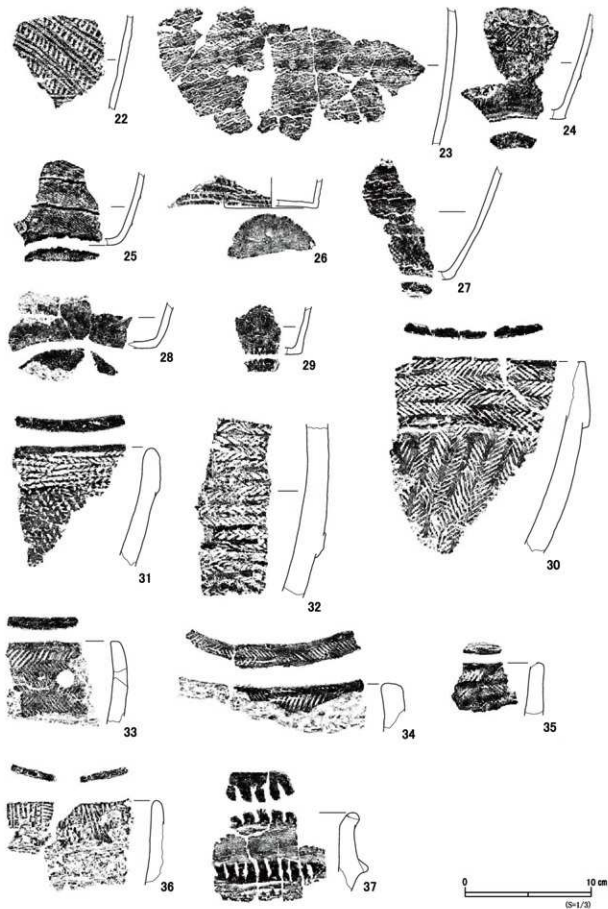
II群土器 (図V-12~14)

縄文時代前期はII群a類の押型文尖底土器が出土している。今回の調査では最も多く出土した。II群a類土器の特徴は器厚が分厚く、胎土に大量の繊維痕がみられるものが多い。尖底で、口縁部から底部にかけて大きくすぼまる器形である。文様はほとんどの土器に押型文が施されるが、撫糸文などが施されるものも少数ある。押型文は口縁部付近では横位、胴部は縦~斜位に矢羽状押型文が施文されるものが多い。調整は内面にナデが施されるものが多いが、ミガキが施されるものもみられる。

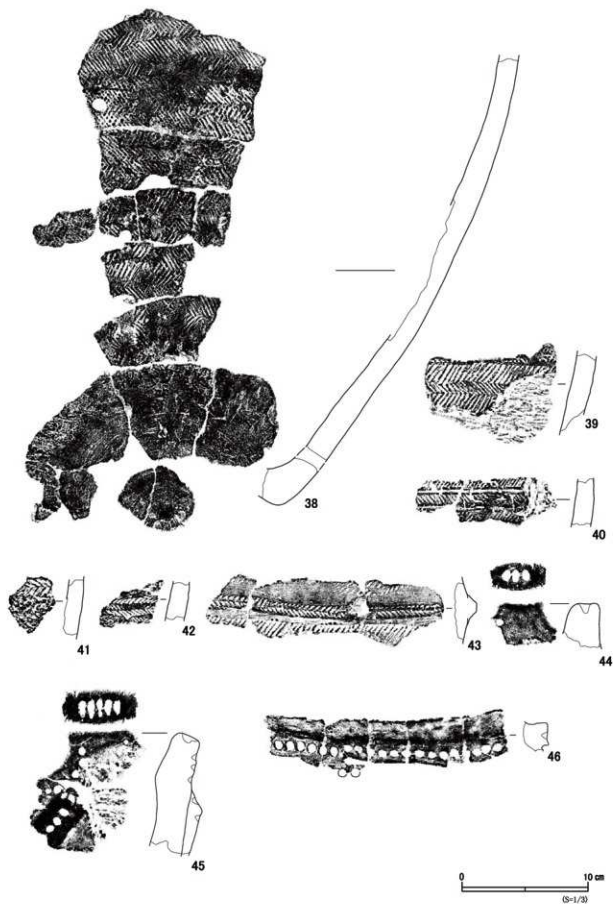
出土点数は1,191点で、時期別の点数では最も多い。分布は50~76ライン間に広がり、前期の遺構の分布とはほぼ重なる。残存状態は剝離、小破片が多く、良好、摩耗が少ない。

・破片土器 (図V-12-14-30~51)

全てII群a類の深鉢である。30~43は押型文が施されるもので、温根沼式土器である。30~37は口縁部ないし口縁~胴部である。30~34は矢羽状押型文が施されるものである。30~32は肥厚帯がみられ、肥厚帯には横位の、胴部には縦~斜位に矢羽状押型文が施される。32の押型文は一部斜格子状の部分のみみられる。33・34は肥厚帯のみみられないものである。33は補修孔が施され、34は口唇部にも矢羽状押型文が施される。35は斜格子状押型文が横位に施される。36は格子目状と斜格子状押型文が組み合わされた文様が施される。37は貼付帯があり、口唇部と貼付帯に刻みが施される。下位には格子目状と考えられる押型文が施される。38~42は胴部ないし胴~底部で、矢羽状押型文が施される。矢



図V-12 包含層出土の土器(3)



図V-13 包含層出土の土器(4)

羽状押型文は横位に施され、38・39はやや幅が広く、40～42は幅が狭い。38は胴部上位～底部で横位の矢羽状押型文が施され、補修孔がみられる。43は貼付帯の部分のみで表面は剥離している。

44・45は口縁部の突起で、上位から刺突文が施される。45は口縁部沿いに円形の刺突文が施される。また、貼付がみられ、貼付帯にも円形の刺突文が連続して施される。46は貼付帯で表面は剥離している。貼付帯には連続して円形の刺突文が施される。

47～51は捻糸文が施されるもので、47～50は胴部である。47と48は同一個体で、縦～斜位の捻糸文が施される。49は捻糸文が横位と斜位に、50は縦位に施される。51は底部で表面を剥離しており、捻糸文は縦位に施される。

Ⅲ群土器 (図V-14)

縄文時代中期はⅢ群b類土器が出土している。ごく少数で、F-67区から3点出土している。過年度調査区でも少量しか出土していない。

・破片土器 (図V-14-52)

52は深鉢の胴部で、上位に細い沈線文が施される。地文は付加条縄文である。

Ⅳ群土器 (図V-10・14)

縄文時代後期は主にⅣ群a類土器の北筒Ⅱ～Ⅲ式が出土している。胴部が多く、口縁部、底部の破片は少量である。文様はLR・RL縄文を地文とするものが多い。胎土に繊維を含むものは少量で、岩片や鉾物が比較的多く含まれている。出土点数は353点で、土器の分布は49～75ラインの間に散漫にみられる。過年度調査区と比較すると分布がやや東側に広がる。残存状態は良好、小破片が多い。

・復原土器 (図V-10-5)

5はⅣ群a類の深鉢である。口縁部を欠失し、全体的に器面が摩耗する。器形は胴部がやや張り出す。文様は地文にRLR縄文が施される。胎土は繊維を含まず、鉾物や岩片の細粒を多量に含む。

・破片土器 (図V-14-53～58)

53～55は深鉢の胴部である。地文は53・54がLR・RL縄文で羽状になり、55はLR縄文が施される。56～58は底部である。56はRL・LR縄文が、57・58はRL縄文が施される。また、56・57は細い沈線文が縦位に施される。

Ⅴ群土器 (図V-14)

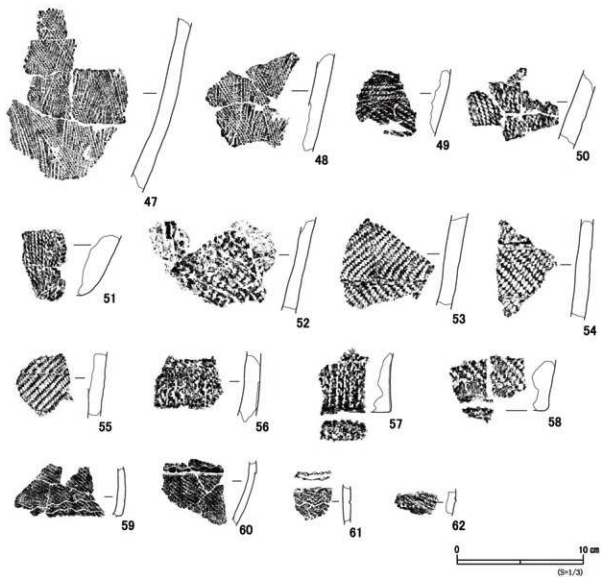
縄文時代晩期はⅤ群c類土器が出土している。点数は20点と少量で、調査区中央付近に近接して分布する。過年度調査区では出土していない。

・破片土器 (図V-14-59～61)

59・60は同一個体で、口縁部と胴部の間に段がみられる。どちらも外面に赤色物質がわずかに付着している。59は口縁部で、沈線文とRL縄文が施される。60は口縁部下位～胴部で、胴部にはRL縄文が施される。61は胴部で沈線文とRL・LR縄文が施される。

Ⅵ群土器 (図V-14)

統縄文時代の土器が少量出土している。調査区西側のI-74区から10点出土した。過年度調査区では出土していない。



図V-14 包含層出土の土器(5)

・破片土器 (図V-14-62)

62は深鉢の胴部で、内面が剥離している。文様は微隆起線文、列点文、LR縄文が施される。

2. 遺構・包含層出土の石器 (図V-15~36 表V-19・20 図版34~41)

(1) 遺構出土の石器 (図V-15~26 図版34~39)

・竪穴住居跡出土の石器

H-17 (図V-15-1~6)

1~4は覆土出土、5・6は床面出土である。1は黒曜石製の石鏃である。無茎で、基部はやや内湾する。2は黒曜石製のつまみ付きナイフである。主に表面の周縁に急角度の二次加工が施される。3は黒曜石製のスクレイパーである。左側縁から下端部に急角度の刃部が作出される。4は泥岩製の磨製石斧である。全面が研磨され、刃縁右側には剥落痕がみられる。5は砂岩製の石鋸である。下端部の断面形状は尖り、表面側には平坦なすり痕が全面にみられる。6は砂岩製の砥石である。扁平な素材の表裏面に砥面がある。表面には直径約13mm、深さ約5mmの2つのくぼみがあり、内部には回転痕が認められる。

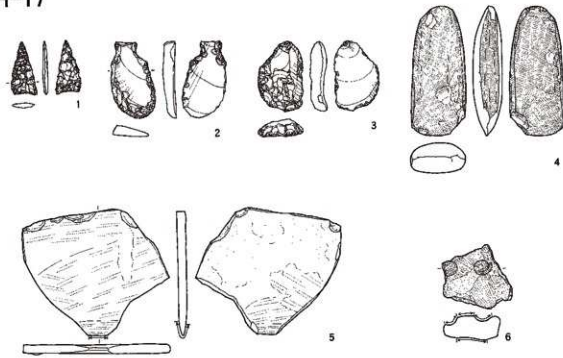
H-18 (図V-15・16-7~19)

7~9・11・12・16は覆土出土、13・18・19は床面直上出土、10・14・15・17は床面出土である。7は黒曜石製の石鏃である。小型で、菱形に近い形状である。基部下端が破損する。8・9は石槍またはナイフである。五角形に近い形状で、基部下端は8では外湾し、9では直線的である。石材は8が黒曜石、9が頁岩である。10はチャート製の石錐である。錐部は表裏側縁から二次加工されるが、上部は広く素材面が残る。11・12はつまみ付きナイフである。石材は11が頁岩、12がチャートで、いずれも表面にのみ二次加工が施される。13~15はスクレイパーである。13はチャート製で、全体に煤が付着する。表面両側縁から急角度の剥離が施され、上下端は尖る形状である。14・15は黒曜石製で、形状が円形に近いものである。上端部を除く周縁に急角度の二次加工が施され、厚みのある刃部が作出される。16は泥岩製の磨製石斧である。片刃で、表面には大きな剥離があり、剥離後研磨されている。裏面の刃部の稜中央付近には溝状のすり痕が縦位に1条みられる。17は砂岩製の石鋸である。9点が接合し、下端部側縁にはすり痕が認められる。18・19は砂岩製の砥石である。18は細長い板状の素材が利用され、表裏面と右側縁には平坦な砥面がある。19は表裏両面に砥面があり、表面の砥面は緩やかにくぼむ。

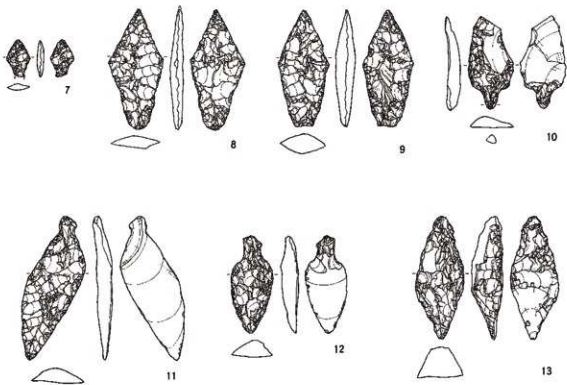
H-19 (図V-17-20~30)

20~29は覆土出土、30は床面と覆土出土のものが接合した。20~22は黒曜石製の石鏃である。いずれも側縁が張り出すもので、20・21は五角形、22は菱形に近い形状である。23・24は黒曜石製の石槍またはナイフで、身部と茎部の境がみられないものである。いずれも尖頭部は錯向剥離により側縁がねじれる。23は基部に厚みがあり、基部の右側縁には原礫面が残る。24は長さが22cmの大型のものである。黒曜石原産地分析を行ったところ所山産という結果が出た。25はチャート製の石錐である。下端部裏面には下方からの階段状剥離がみられる。26はチャート製のつまみ付きナイフである。右側縁下半には急角度の二次加工が施される。下端部は欠損する。27は頁岩製のスクレイパーである。左側縁に外湾する刃部があり、表面の上下端部には原礫面が残る。28は緑色泥岩製の磨製石斧である。小型で、左側縁に擦り切り痕が残る。29・30は砥石である。29は凝灰岩製で、表裏面にわずかにくぼむ砥面とたたき痕がある。30は砂岩製の砥石で、6点が接合し、表裏面にややくぼむ砥面がある。

H-17



H-18



図V-15 遺構出土の石器(1)

H-18

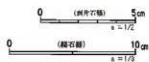
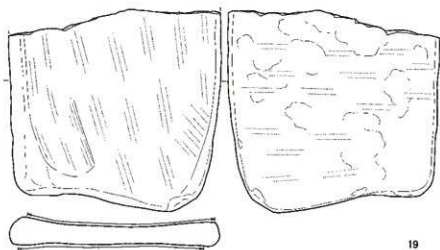
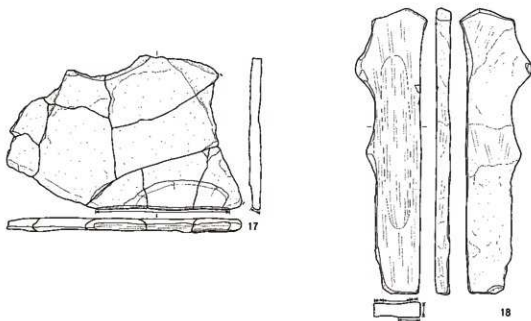
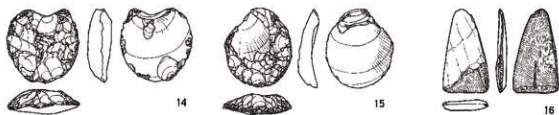
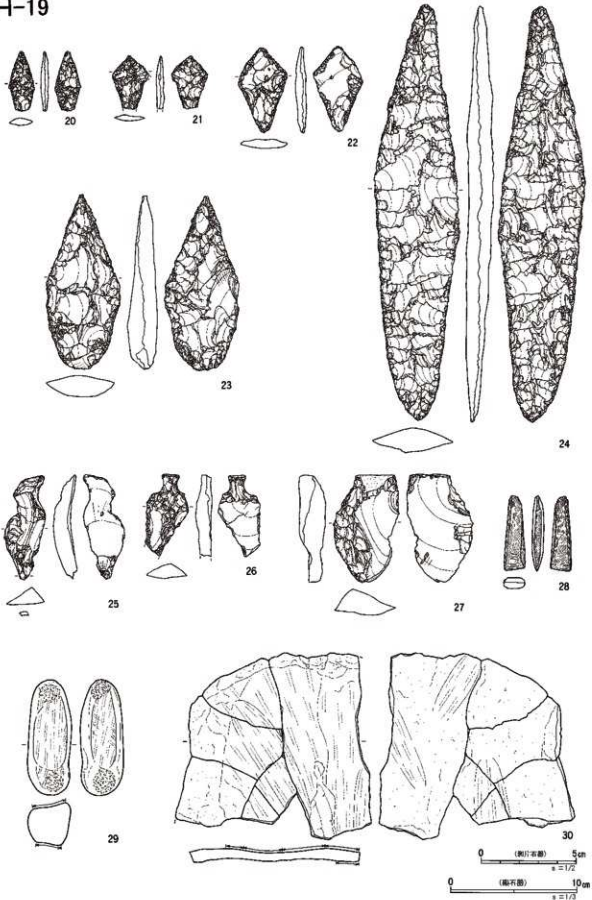


図 V-16 遺構出土の石器 (2)

H-19



図V-17 遺構出土の石器(3)

H-20 (図V-18-31~35)

31~33は覆土出土、34・35は床面直上出土である。31は黒曜石製の石鏃である。無茎で側縁がやや外湾し、基部左側を欠損する。32・33は黒曜石製のスクレイパーである。いずれも縦長素材を利用し、表面左側縁から下端部にかけ二次加工が施される。32は下端部に急角度の刃部が作出される。34は緑色泥岩製の磨製石斧である。刃部は外湾し、表面側の刃縁には縦位の溝が連続して刻まれる。溝は摩滅する。35は砂岩製の石皿で、表裏面にややくぼむすり面がある。

H-21 (図V-18-36~38)

36~38は覆土出土で、石材は黒曜石である。36は石鏃である。有茎で左右非対称な形状である。37・38はスクレイパーである。37は周縁に二次加工が施され、左側縁上部では急角度の刃部が作出される。上端には原礫面が残る。38は右側縁部に急角度の刃部が作出される。

H-22 (図V-18-39)

39は覆土出土の黒曜石製のつまみ付きナイフである。つまみ部を除き表裏面とも素材面を大きく残り、主に右側縁に二次加工が施される。下半部は欠損する。

H-23 (図V-19-40~44)

40・43・44は覆土出土、41はHFC-1出土、42は床面出土である。40は黒曜石製の石鏃である。無茎で基部は内湾する。41は黒曜石製の石槍またはナイフである。覆土中のHFC-1(フレイク集中)から3点に割れた状態で出土した。表面はやや急角度、裏面は平坦な剥離が施され、基部下端部には原礫面が残る。42は黒曜石製のスクレイパーである。裏面の右側縁部に刃部が作出され、表面には微細剥離痕や原礫面がみられる。43は泥岩製の磨製石斧である。両側縁は直線的で、上端は折損後、再加工されている。44は砂岩製の石鋸である。厚さは約5mmと薄く、下端部の断面形状は尖る。

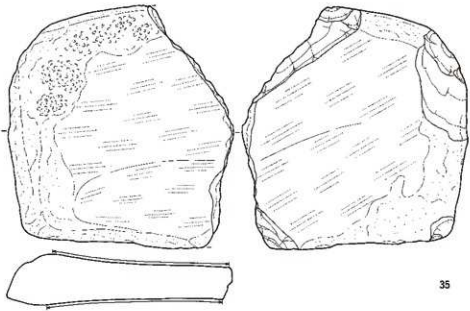
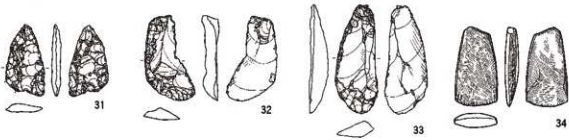
H-24 (図V-20-45~56)

45~55は床面出土、56は覆土出土である。45~47は黒曜石製の石槍またはナイフで、3点が重なって出土した。長さは9.6~9.8cmとほぼ同じで、いずれも身部と茎部の境がみられない形状である。45はやや細身で、表面はやや角度がある剥離、裏面は平坦な剥離が施される。46は表裏全面に二次加工がみられるもので、黒曜石材質はいわゆる梨肌状である。47は表裏面にやや粗い二次加工が施され、上下両端部には原礫面が残る。48・49は石錐である。石材は48が黒曜石、49が頁岩で、いずれも表面は急角度、裏面は平坦な剥離が施される。48は上端の右側縁に槌状の剥離がみられ、両側縁上部には挟りが入られる。49は両面加工により錐部が作出される。なお45~48について黒曜石原産地分析を行ったところ、いずれも白滝産という結果が出た。50は頁岩製のつまみ付きナイフである。表面に急角度の二次加工が施される。全体に煤が付着する。51は黒曜石製のスクレイパーである。縦長剥片素材が利用され、表面の右側縁下半に細かな二次加工が施される。52・53は磨製石斧である。52は泥岩製で、上端部にも刃部が作出されている。53は緑色泥岩製で、上端部に敲打痕が残る。54は泥岩製のたたき石で、浅いたたき痕が散発的にみられる。55・56は砂岩製の石鋸である。55は3点が接合したもので、刃部の断面形状は丸みを帯びる。56は上下端および表裏全面にすり痕がみられ、刃部の断面は尖る形状となる。表面左上には直径約2mmの孔が、表裏両面から穿孔されている。

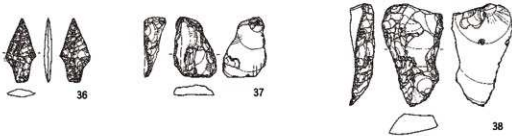
H-25 (図V-21・22-57~75)

57~59・61・62・66~68・70・75は覆土出土、60・63~65・69・71~74は床面出土である。57・58は黒曜石製の石鏃である。いずれも小型で、57は有茎、58は無茎である。58の両側縁下部はやや張り出す形状である。59~61は黒曜石製の石槍またはナイフである。59は両側縁の中央に挟りがあるもので、全体に厚みがあり、下端部には原礫面と打面が残る。60・61は身部と茎部の境がみられないもの

H-20



H-21

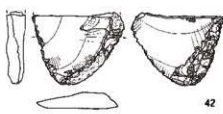
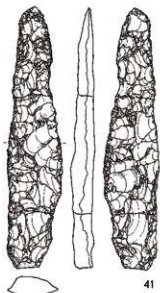


H-22



図V-18 遺構出土の石器(4)

H-23

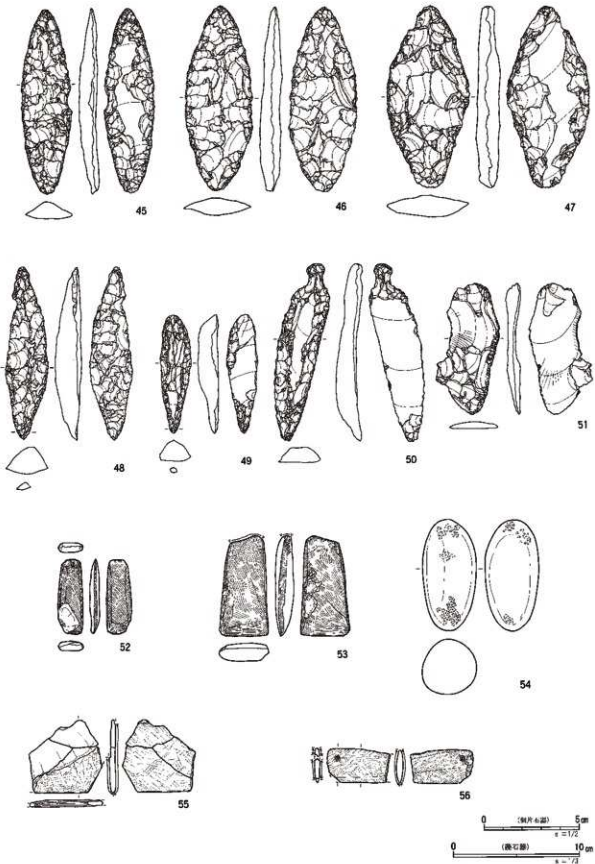


0 (銅片厚) 5cm
n=172

0 (磨石質) 10cm
n=173

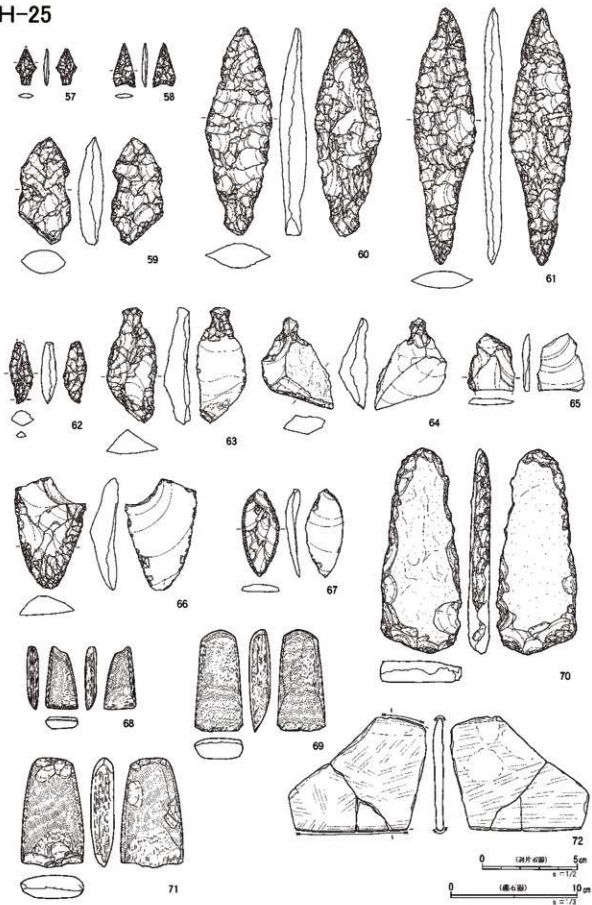
図V-19 遺構出土の石器(5)

H-24



図V-20 遺構出土の石器(6)

H-25



図V-21 遺構出土の石器(7)

である。60は下端近くの両側縁に抉りを有し、左側縁上部には尖頭部からの櫛状の剥離がある。黒曜石原産地分析を行ったところ、所山産という結果が出た。61は両側縁に微細な剥離痕がみられる。62はチャート製の石錐である。両面加工により棒状に整形され、下端部は破損後、再加工されている。63・64はチャート製のつまみ付きナイフである。63は左側縁に急角度の剥離が施され、64はつまみ部と表面下部に細かい二次加工がみられる。65～67は黒曜石製のスクレイパーである。65は上端部と左側縁に急角度の刃部があり、66・67は両側縁に外湾する刃部がある。68～71は磨製石斧で、68・69は緑色泥岩製、70・71は砂岩製である。68は長さ5.3cmと小型のもので、片刃である。刃部表面側には縦位の刻みが連続して施され、刃縁は鋸歯状を呈する。左側縁には擦り切り痕が認められる。69は刃縁が直線的で、複数の剥落痕がみられる。70は未成品で、扁平な砂岩の周縁を打ち欠き、整形し、刃部は表裏面から薄く加工される。71は表面に刃部再生の剥離が連続して施されるが、研磨はされていない。72・73は砂岩製の石鋸である。72は3点接合したもので、上下端部に直線的な刃部があり、断面形状は丸みを帯びる。73は幅が約21cmと大型で、全面にすり面がある。上下端部の断面形状は尖り、表裏面には炭化物が付着する。74は砂岩製の砥石で、板状の薄い素材が利用される。75は砂岩製の石皿である。表面に緩やかにくぼむすり面があり、線状のすり痕もみられる。すり面には炭化物が付着する。

H-26 (図V-22-76・77)

76・77は覆土出土である。76は黒曜石製の石錐である。縦長剥片の主に表面側を二次加工し、錐部を作出している。77は頁岩製のスクレイパーである。両側縁に急角度の剥離が施され、表裏面には焼けはじけの痕がみられる。

H-27 (図V-22-78)

78は覆土出土の黒曜石製のスクレイパーである。主に下部に二次加工が施される。

H-28 (図V-22-79)

79は覆土出土の黒曜石製の石槍またはナイフである。身部と茎部の境がみられないもので、尖頭部は折損する。

H-29 (図V-22-80)

80はHP-3覆土出土の頁岩製の石錐である。両面調整により棒状に加工される。

・土坑出土の石器

土坑出土の掲載石器は98が坑底面直上出土、99・101・102・127が坑底面出土、104～106は掘り上げ土出土で、それ以外はすべて覆土出土である。

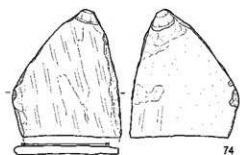
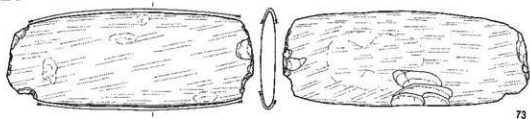
P-30 (図V-23-81～83)

81は黒曜石製のスクレイパーである。縦長剥片の表面側縁に二次加工が施され、下端部には微細な剥離がみられる。82は片岩製の磨製石斧で、上端部は折損する。83は凝灰岩製の石鋸である。下端部が使用され、断面形状は尖る。

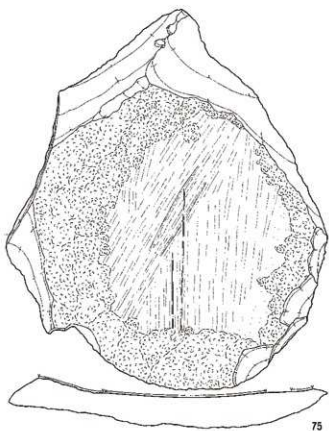
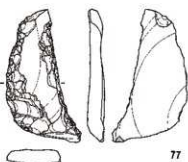
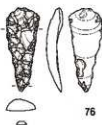
P-31 (図V-23-84～88)

84は黒曜石製の石鋸である。両側縁の張り出しから基部にかけて内湾する形状で、基部下端は直線的である。85は頁岩製の石槍またはナイフである。左右非対称で、身部と茎部の境がみられないものである。86は黒曜石製のスクレイパーである。両側縁から下端部にかけ急角度の刃部が作出され、上端部は折損後、厚みをとる再加工がなされている。87・88は砂岩製の石鋸である。いずれも破損し、下端部の断面形状は尖る。

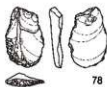
H-25



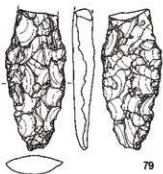
H-26



H-27



H-28



H-29

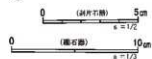
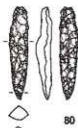
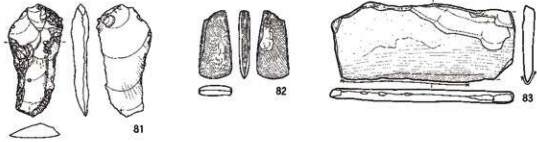
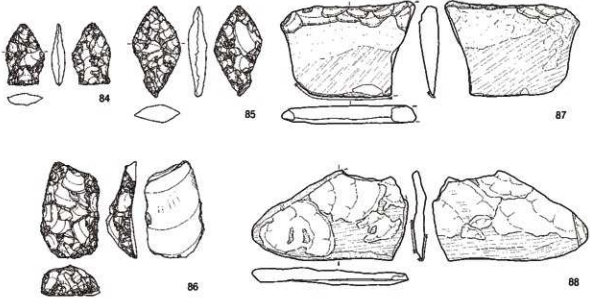


図 V-22 遺構出土の石器 (8)

P-30



P-31



P-34

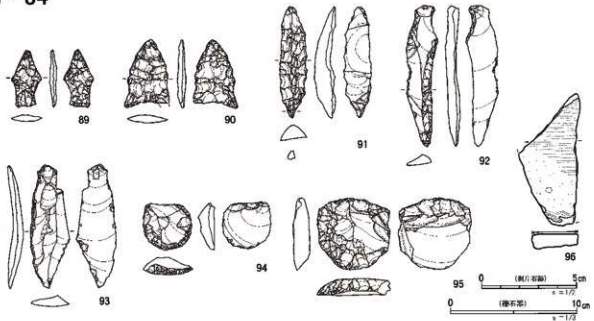


図 V-23 遺構出土の石器 (9)

P-34 (図V-23-89~96)

89・90は黒曜石製の石鏃である。89は有茎で、五角形に近い形状である。90は無茎で、両側縁下半はやや内湾する。91は頁岩製の石鏃である。表面は急角度の二次加工が施される。裏面は大きく破損するが、鏃部付近では細かな調整がなされている。92は頁岩製のつまみ付きナイフで、主に右側縁と下端部に二次加工が施される。全面に煤が付着する。93~95は黒曜石製のスクレイパーである。93は縦長剥片の右側縁に細かな二次加工が施される。94・95は形状が楕円形で、周縁に曲線的な刃部が作出されるものである。94は上部を除く周縁に細かな二次加工が施され、95は左側縁から下端部にかけて刃部が作出される。上端は両面から薄く加工される。96は砂岩製の砥石で、表面には線状の擦痕がみられる。

P-35 (図V-24-97・98)

97は黒曜石製の石槍またはナイフである。有茎で、茎部が長い形状である。98は坑底面直上出土の砂岩製の石鏃である。上下端の縁辺部は表裏面から薄く加工され、下端部にはすり面がみられる。

P-37 (図V-24-99・100)

99・100は黒曜石製の石槍またはナイフである。99は2点が接合したもので、基部側が図IV-31の土器の中から、尖頭部側がH-19覆土から出土した。身部と茎部の境は不明瞭だが、わずかに返しとみられる段差がみられる。上部は欠損し、下端部には原礫面を残す。100は身部と茎部の境がみられないものである。左側縁には直線的、右側縁には外湾する刃部がある。99・100について黒曜石原産地分析を行ったところ、99は所山産、100は白滝産という結果が出た。

P-38 (図V-24-101・102)

101・102は坑底面出土である。101は泥岩製のたたき石で、下端部にたたき痕、剥落痕がある。側面には全周に炭化物が付着する。102は砂岩製の台石・石皿で、扁平礫の表裏面にたたき痕とすり痕がみられる。

P-39 (図V-24-103)

103は黒曜石製のつまみ付きナイフである。下部は折損し、つまみ部上端には打面を残す。

P-43 (図V-25-104~106)

104~106はP-43掘り上げ土出土である。104・105は黒曜石製のスクレイパーで、いずれも縦長剥片の両側縁に二次加工が施される。106は泥岩製の磨製石斧で、側縁部は整形の剥離痕が残り、刃部には剥落痕がある。

P-44 (図V-25-107)

107は黒曜石製の石鏃である。無茎で基部下端は直線的で、全面被熱により、光沢がない。

P-45 (図V-25-108)

108は砂岩製の砥石である。表裏面に緩やかにくぼむ砥面がある。

P-46 (図V-25-109・110)

109は黒曜石製の石槍またはナイフである。有茎で、全体的にやや幅広である。110は片岩製の磨製石斧である。片刃で、刃縁は直線的である。

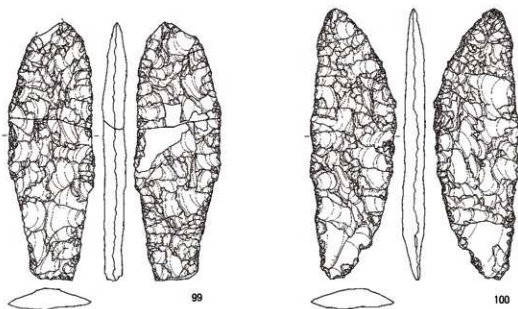
P-47 (図V-25-111~115)

111・112は黒曜石製の石鏃である。111は先端部分の破片で、裏面には素材面が広く残る。112は無茎で、基部下端は内湾する。113は黒曜石製のつまみ付きナイフである。風化し曇りガラス状となった素材の周縁に加工が施され、主に右側縁に刃部が作出される。114は黒曜石製のスクレイパーで、縦長剥片の右側縁にやや内湾する刃部がある。115は砂岩製の台石・石皿である。扁平素材の表面に

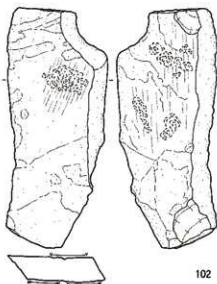
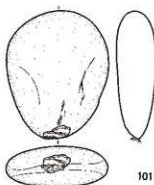
P-35



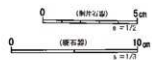
P-37



P-38

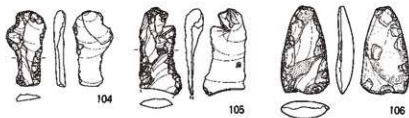


P-39



図V-24 遺構出土の石器(10)

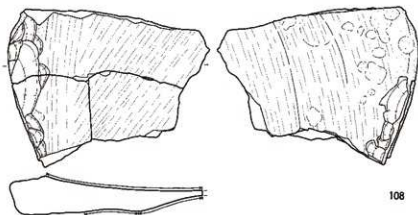
P-43



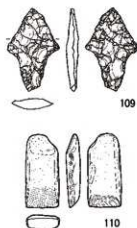
P-44



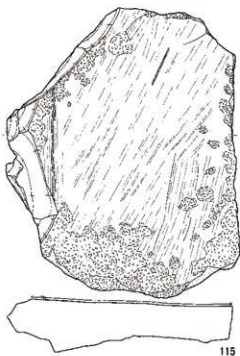
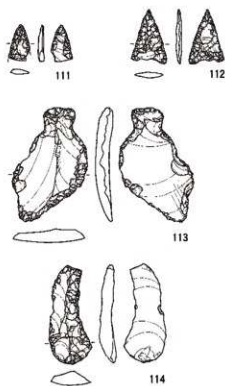
P-45



P-46



P-47



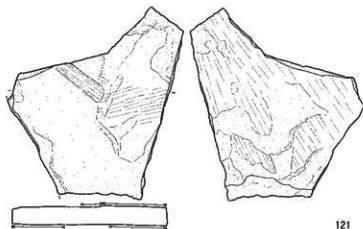
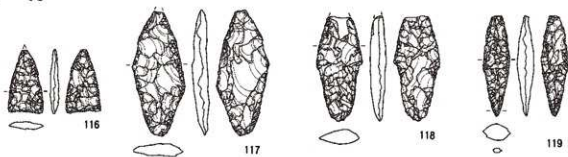
0 10cm
s=17/4

0 (北行距離) 5cm
s=7/2

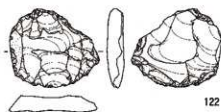
0 (南行距離) 10cm
s=17/8

図V-25 遺構出土の石器 (11)

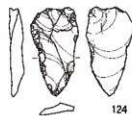
P-49



P-50



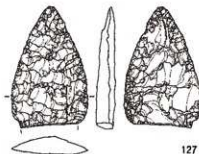
P-51



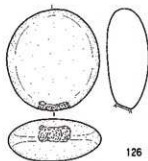
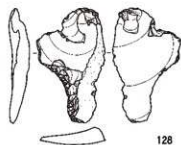
P-53



P-55



FC-5



図V-26 遺構出土の石器(12)

平坦なすり面と線状のすり痕があり、たたき痕もみられる。

P-49 (図V-26-116~121)

116は黒曜石製の石鏃である。無茎で両側縁は曲線的である。117・118は石槍またはナイフである。117は黒曜石製で、身部と茎部の境がみられず、左右非対称の形状である。118は頁岩製で、身部と茎部の境にわずかながら返しがみられ、尖頭部は折損している。119は黒曜石製の石錐である。急角度の両面加工により棒状に整形され、両側縁下半には刃潰れ痕がみられる。120は黒曜石製のスクレイパーである。形状は楕円形で、左側縁から下端部に急角度の刃部が作出される。121は砂岩製の砥石で、表裏面に平坦な砥面がある。

P-50 (図V-26-122)

122は黒曜石製の両面調整石器である。両面の側縁から粗い調整が施され、下端部には微細剥離痕がみられる。

P-51 (図V-26-123・124)

123は黒曜石製の石鏃である。基部は破損後、微細な剥離で再加工されている。124は黒曜石製のスクレイパーで、左側縁に刃部が作出される。

P-53 (図V-26-125・126)

125は黒曜石製のスクレイパーである。上部は破損し、両側縁から下端部に外湾する刃部がある。126は砂岩製のたたき石である。扁平円盤の下端部にたたき痕がみられる。

P-55 (図V-26-127)

127は黒曜石製の石槍またはナイフである。やや幅広く、身部と茎部の境に丸みのある返しがみられる。黒曜石原産地分析を行ったところ置戸山産という結果が出た。

・フレイク集中出土の石器

FC-5 (図V-26-128)

128は黒曜石製のスクレイパーである。左側縁にやや内湾する刃部があり、表面には原礫面が残る。

(2) 包含層出土の石器 (図V-27~36 図版40・41)

包含層から石器は9,691点出土した。主な出土層位はⅢ層で、0層からも少量出土した。石器の内訳は、剥片石器は石鏃49点、石槍またはナイフ33点、両面調整石器15点、石錐11点、つまみ付きナイフ24点、スクレイパー87点、U・Rフレイク72点、石核2点、フレイク4,263点である。礫石器は磨製石斧12点、たたき石6点、すり石2点、石鏃37点、砥石265点、台石・石皿3点、加工・使用痕のある礫32点、礫4,778点である。

剥片石器はフレイクが主体で、ついでスクレイパー、U・Rフレイク、石鏃が多い。礫石器は礫が主体で、次いで砥石、石鏃が多くみられる。礫、砥石、石鏃とも破損するものが多い。

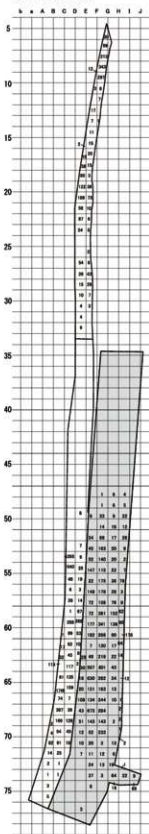
石器の分布は、47~74ラインにまとまっており、これは遺構の分布と一致する。

石器の石材は、剥片石器では黒曜石が最も多く、他に頁岩、チャートなどが少量みられる。礫石器では砂岩が最も多く、他に泥岩、凝灰岩などがみられる。

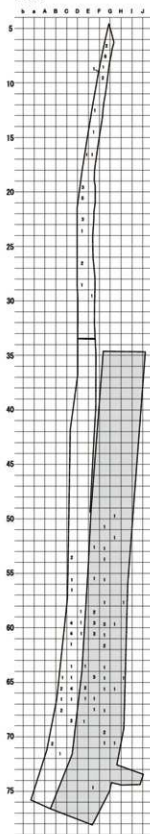
なお包含層からは水洗選別により、上記とは別にフレイク1,106点、礫3点が出土している。

1~14は石鏃である。石材はすべて黒曜石である。1・2は側縁が外湾するもので、1は基部が外湾し、2は直線的である。2は尖頭部が細く加工される。3~9は平面形状が三角形を呈するもので、

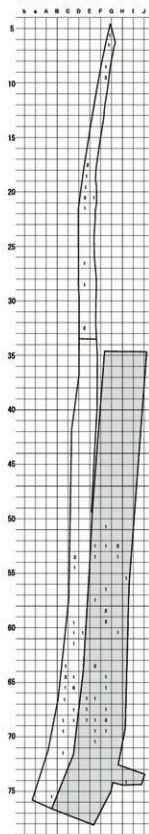
石器総点数



石鏃



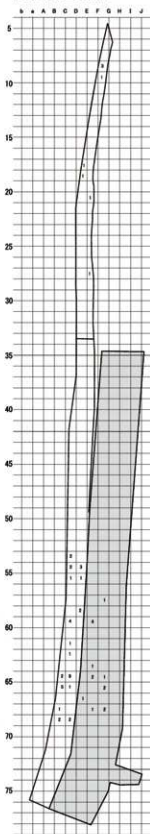
石槍またはナイフ



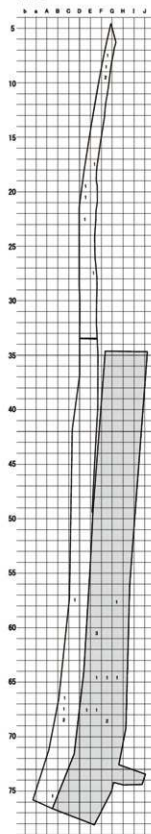
平成26年度調査区

図V-27 包含層出土石器点数分布図(1)

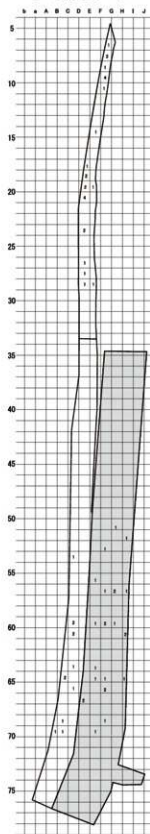
両面調整石器



石錐



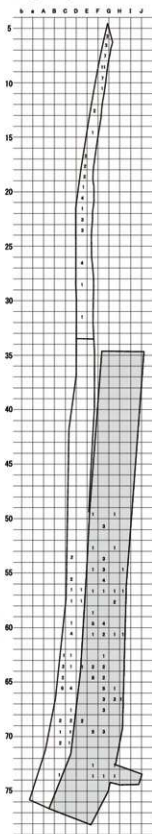
つまみ付きナイフ



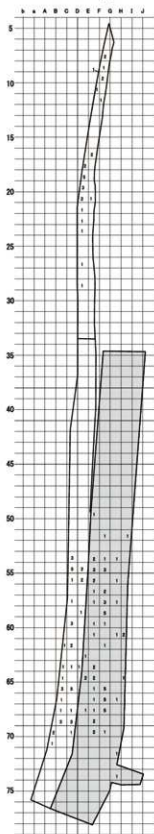
平成26年度調査区

図 V-28 包含層出土石器点数分布図 (2)

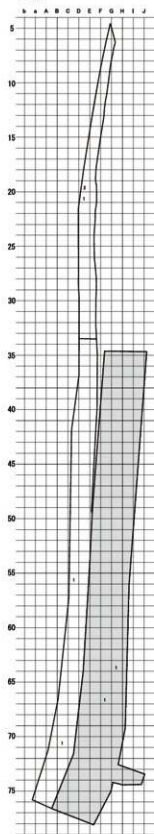
スクレイパー



U・Rフレイク



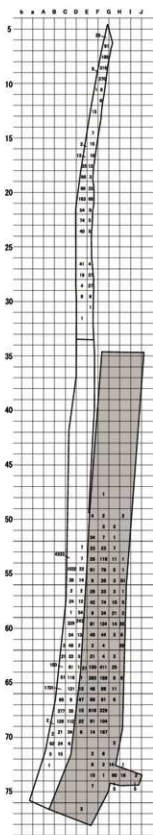
石核



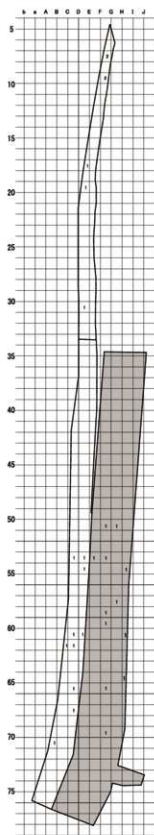
平成20年度調査区

図V-29 包含層出土石器点数分布図(3)

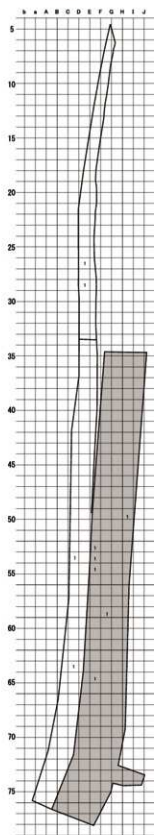
フレイク



磨製石斧

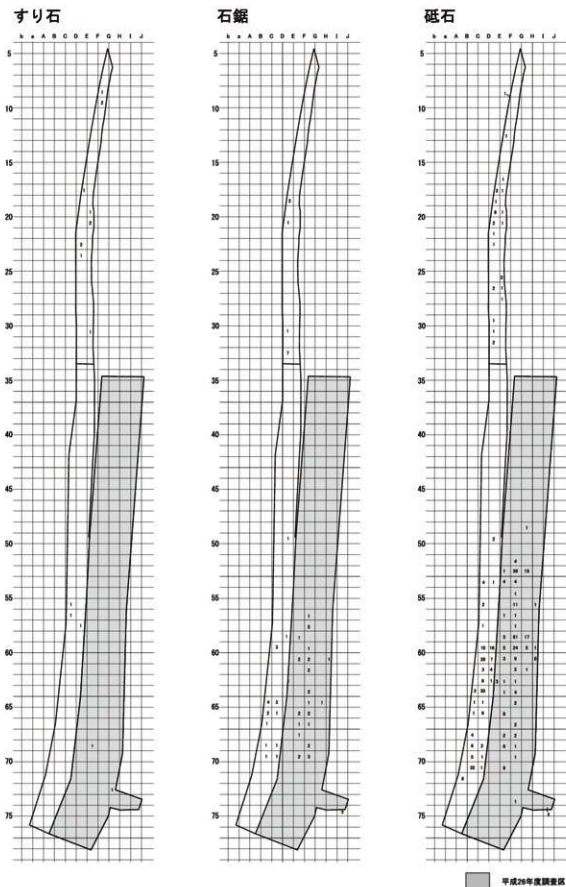


たたき石



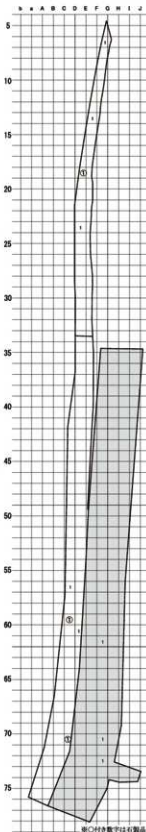
平成20年度調査区

図V-30 包含層出土石器点数分布図(4)

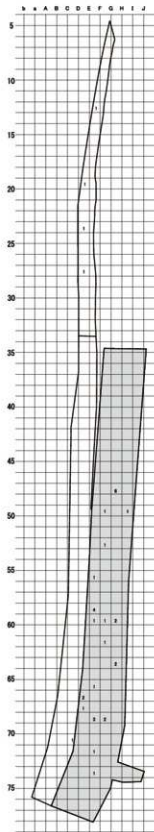


図V-31 包含層出土石器点数分布図(5)

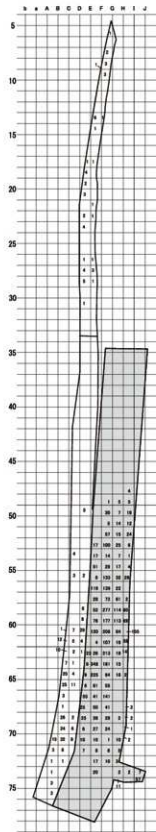
台石・石皿
石製品



加工・使用痕のある礫

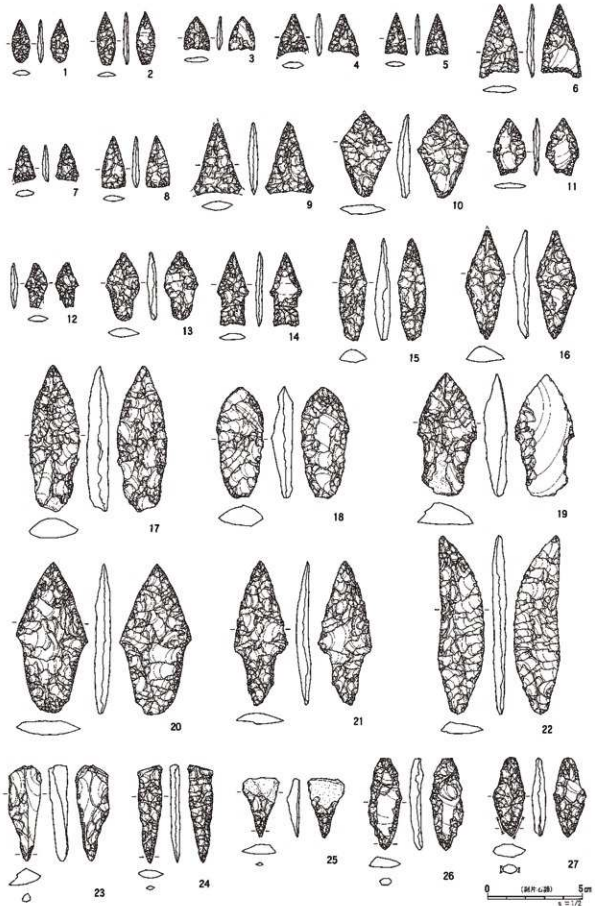


礫



平成24年度調査区

図 V-32 包含層出土石器点数分布図 (6)



図V-33 包含層出土の石器(1)

基部は3～5・9は緩く内湾し、6～8は直線的な形状である。3は長さ1.7cmと小型で、両側縁は外湾する。4は左右非対称で、右下端部は欠損する。5は2.1cmと小型である。6は基部が直線的で、左側縁が突出する形状である。裏面は下半に素材面を大きく残す。7は基部破損後、再加工されている。8は熱を受け、全体が白色化する。9は基部の両端が突出する形状だが、左右とも欠損する。10は菱形に近い形状で、最大幅は中央より上部にある。11～13は身部と茎部の境が不明瞭だが、わずかに返しがみられるものである。11は基部が内湾する。12・13は左側縁に返しがあり、右側縁は身部と茎部の境が不明瞭である。14は有茎で、茎部が長く、幅広である。

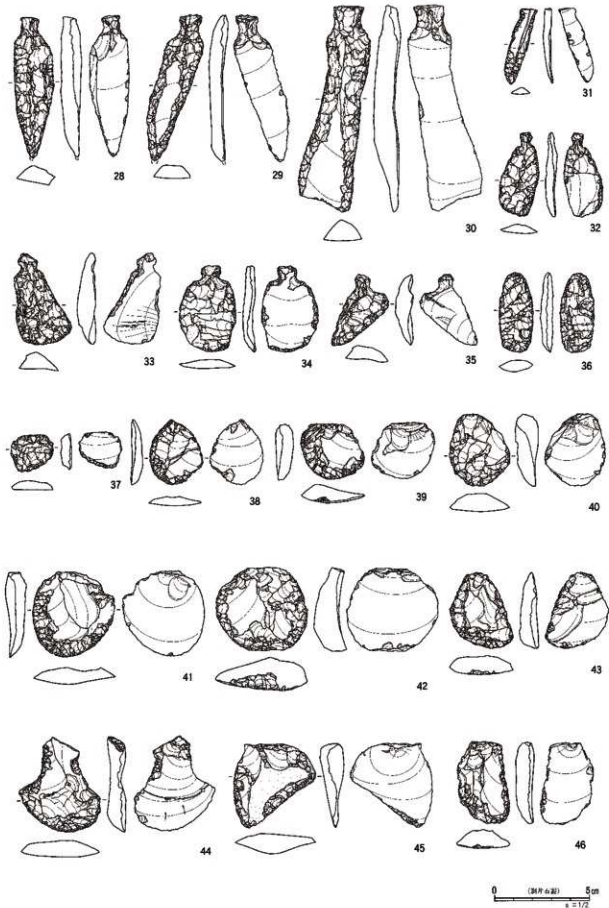
15～22は石槍またはナイフである。石材は15～17・19～21が黒曜石、18・22が頁岩である。15・17・22は身部と茎部の境がみられないもの、16・18は身部と茎部の境が不明瞭なもの、19～21は有茎のものである。15はやや幅が狭い形状で、基部から中央部は厚みがあるが、尖頭部は薄く加工される。16は菱形に近い形状で、左右非対称である。表面側は急角度、裏面側は平坦な剥離が施される。17は柳葉形に近い形状で、全体に厚みがある。基部側縁ではやや挟れて内湾する部分がある。18は左側縁にわずかに返しがみられ、尖頭部側縁はやや外湾する。19は表面はほぼ全体に急角度な二次加工が施されるが、基部中央には原礫面が残る。裏面は素材面が広くみられる。20は刃部が直線的で、基部は外湾する。21は返しが明瞭である。22は左右非対称な形状である。左側縁は表面側に比較的高角度な剥離が施され、刃部はやや内湾し、右側縁では刃部は外湾する。

23～27は石錐である。石材はすべて黒曜石である。23は両面調整素材の側縁部破片が利用され、錐部下端には細かな加工が施される。24は両側縁上部に挟りがみられる。25は錐部のみ作出され、上位は表裏面とも風化面が残る。26は縦長剥片の周縁に二次加工が施される。上端は折損しているが、上下両端に錐部があった可能性がある。27は石槍またはナイフが転用されるもので、錐部の両側縁が摩滅する。

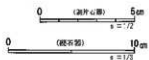
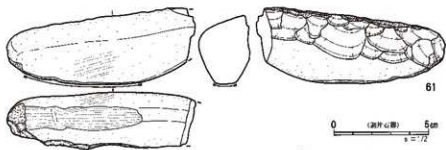
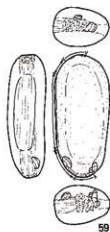
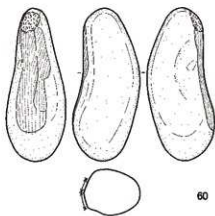
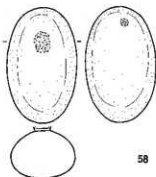
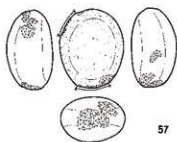
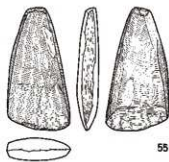
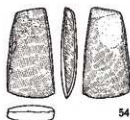
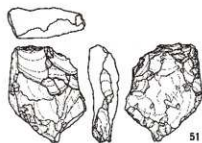
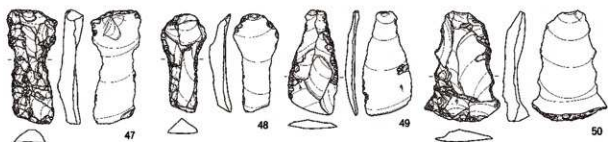
28～35はつまみ付きナイフである。石材は28～30・32・35は頁岩、31・33は黒曜石、34はチャートである。いずれも主に表面に二次加工が施され、裏面はつまみ部などのわずかな部分に細かな調整が施される。28・29は下端部がやや尖る形状である。30は両側縁に急角度の剥離が施され、やや内湾する刃部がみられる。全体に煤が付着する。31は縦長の剥片の側縁から下端部に細かな剥離が施される。33は主に右側縁から下端部に急角度の刃部が作出される。34は裏面の両側縁に細かな剥離が施された後、表面に長い平坦な剥離が施される。35は下端部が尖り、右側縁に刃部が作出される。

36～50はスクレイパーである。石材は37～44・46～50が黒曜石、36・45が頁岩である。36は両面が調整されるものである。37～42は円形もしくはそれに近い形状で、外湾する刃部を有するものである。37・38は比較的薄い素材が利用され、37は下端部にやや鋸歯状の刃部、38は左側縁から下端部に刃部がある。39～42は表面に急角度の剥離により分厚い刃部が作出される。39は左側縁から下端部、40～42は両側縁から下端部に刃部がある。43は左側縁から下端部にかけて外湾する急角度の刃部、右側縁には直線的な刃部がある。44は下端部に外湾する刃部があり、両側縁にも細かな調整がみられる。45は緑色の頁岩が利用され、両側縁に刃部が作出される。46・47は縦長剥片の両側縁から下端部にかけて二次加工が施され、下端部には急角度の刃部が作出される。47は両側縁の中央付近に挟りがみられる。48～50は縦長剥片素材の側縁に刃部が作出されるものである。48・49は両側縁に二次加工が施される。48は右側縁下半に急角度の刃部があり、下端部には原礫面が残る。50は右側縁に鋸歯状の刃部が作出される。

51は石核である。石材は頁岩で、表面左側縁側には風化面がある。主に上部や裏面の左側縁からの剥離痕が残る。



図V-34 包含層出土の石器(2)



図V-35 包含層出土の石器(3)

52～56は磨製石斧である。全面が研磨され、刃縁は外湾する。石材はすべて泥岩で、53以外は緑色泥岩である。52・53は小型のものである。52は左側面が平坦に研磨され、溝が横位に2条刻まれる。線刻後、表面では左側縁からの剥離が施され、再研磨されている。53は片刃である。54は右側縁が直線的である。55は形状が撥形で、熱を受け、全体に赤色化する。56は両側縁が直線的で、側面は平坦である。52・54・56は側縁が直線的で、擦り切り手法が用いられた可能性がある。

57～59はたたき石である。石材はすべて砂岩で、扁平な楕円礫が利用される。57は下端部や左上側面、58は表裏の平坦面にたたき痕がみられる。59は上下両端にたたき痕があり、左側縁にすり痕がみられる。

60・61はすり石である。石材は60が砂岩、61が凝灰岩である。60は左側面にややくぼむすり面がみられるものである。61は断面が三角形の礫の1側縁にすり面があり、もう1側縁では片面から加工が施される。

62～64は石鋸である。石材はすべて砂岩で、扁平な礫を素材とする。刃部は直線的で、刃縁部のほか、平坦面にもすり痕が残るものが多い。62は上下端部と平坦面にすり痕があり、上下端の断面は丸みを帯びる。63は全面にすり痕がみられる。左右両端が折れており、さらに長い形状であったと考えられる。上下端部の断面は尖る。64は下端部付近にすり痕がみられ、下端部断面は尖る。

65～68は砥石である。石材は65が凝灰岩、66～68が砂岩である。65は薄い板状の礫を素材とする。表面にわずかにくぼむ砥面や溝状の擦痕があり、裏面は線状の擦痕がみられる。66は破片で表面右側に大きくくぼむ砥面がある。67は両面に平坦な砥面と溝状の擦痕が認められる。68は表裏面に緩やかにくぼむ砥面があり、右側面の割れ面にも平滑な砥面がみられる。

69は台石・石皿である。石材は比較的礫を多く含む砂岩である。周縁は打ち欠かれ、表面には平坦なすり面のほか、たたき痕がみられる。

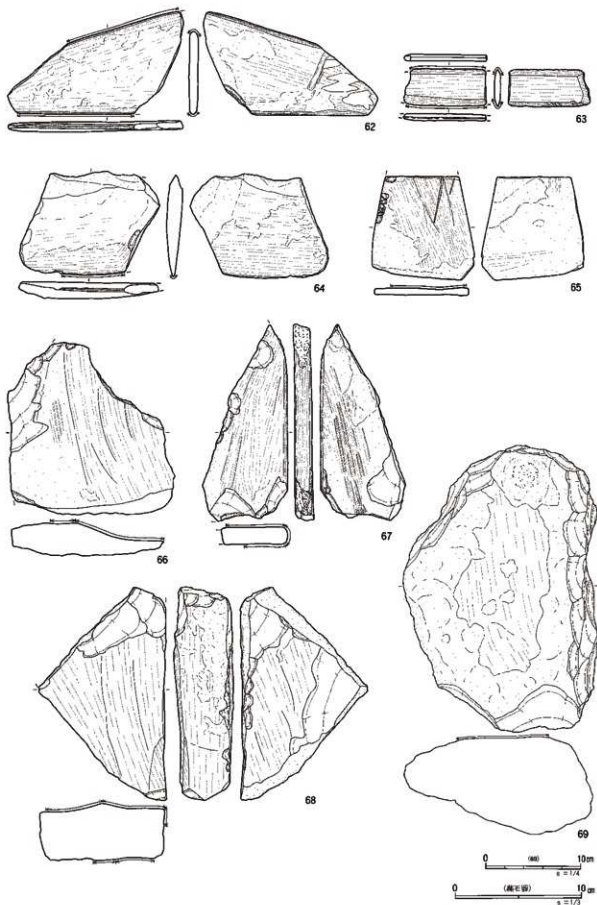
(愛場)

3. 遺構等出土の微細遺物について (表V-21)

フレイク集中等、微細遺物が多量に出土した遺構などでは、その検出を目的として土壌ごと採取し、水洗選別により微細遺物の選別を行った。土壌の採取を行った遺構は、堅穴住居跡内のフレイク集中(HFC)、堅穴住居跡や土坑の覆土、フレイク集中、焼土である。また、石器等が多く含まれるⅢ層の土壌も採取した。遺物の選別は、1mmメッシュを用いた水洗選別法で行った。

土壌の水洗選別の結果、遺構からは16,481点、包含層からは1,113点、合計17,594点の遺物を回収した。器種別の内訳は土器30点、石器等17,564点である。土器はI群b類、II群a類、IV群a類が少量出土している。石器等で最も多いものはフレイク17,543点で、他に石鋸、両面調整石器、スクレイパー、石核、U・Rフレイク、磨製石斧、礫が少量出土している。遺構別でみると、H-19HFC-1出土が5,521点と最も多く、次いでH-29の覆土から2,069点出土している。

(広田)



図V-36 包含層出土の石器(4)

表V-1 包含層出土土器点数表

遺物種別/層位		0層	Ⅰ層	合計
I群b類	口縁部	良好	小計 34	小計 34
		割腹	2	2
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	底部	良好	小計 33	小計 33
		割腹	3	3
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	胴部	良好	小計 524	小計 524
		割腹	86	86
		摩耗	2	2
		小破片	4	4
小計	4	1021	1025	
II群a類	口縁部	良好	小計 31	小計 31
		割腹	13	13
		摩耗	2	2
		小破片	1	1
	底部	良好	小計 2	小計 2
		割腹	1	1
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	胴部	良好	小計 165	小計 170
		割腹	411	411
		摩耗	3	3
		小破片	10	18
小計	20	1171	1191	
III群b類	口縁部	良好	小計 0	小計 0
		割腹	0	0
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	底部	良好	小計 0	小計 0
		割腹	0	0
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	胴部	良好	小計 2	小計 2
		割腹	1	1
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
小計	0	3	3	
IV群a類	口縁部	良好	小計 6	小計 6
		割腹	1	1
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	底部	良好	小計 8	小計 8
		割腹	4	4
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	胴部	良好	小計 131	小計 132
		割腹	68	69
		摩耗	0	0
		小破片	2	133
小計	2	361	363	
V群c類	口縁部	良好	小計 0	小計 0
		割腹	0	0
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	底部	良好	小計 0	小計 0
		割腹	0	0
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	胴部	良好	小計 15	小計 15
		割腹	1	1
		摩耗	0	0
		小破片	0	21
小計	0	21	21	
VI群	口縁部	良好	小計 2	小計 2
		割腹	0	0
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	底部	良好	小計 0	小計 0
		割腹	0	0
		摩耗	0	0
		小破片	0	0
	胴部	良好	小計 2	小計 2
		割腹	1	1
		摩耗	0	0
		小破片	0	8
小計	0	10	10	
土器合計	26	2577	2603	
土製品	土製品	完形	小計 0	小計 0
		準完形	0	0
		片形	0	0
		小破片	0	2
土製品合計	0	2	2	
総計	26	2579	2605	

表V-2 包含層出土石器点数表

遺物種別/層位		0層	Ⅰ層	合計
I群b類	石鏃	完形	小計 21	小計 21
		準完形	12	12
		半形	4	10
		片	2	45
	石鏃またはナイフ	完形	小計 13	小計 13
		準完形	1	9
		半形	5	4
		片	1	28
	両面調整石器	完形	小計 1	小計 1
		準完形	1	1
		半形	1	14
		片	1	9
II群a類	石鏃	完形	小計 7	小計 7
		準完形	2	2
		半形	0	11
		片	0	0
	つまみ付きナイフ	完形	小計 21	小計 23
		準完形	2	2
		半形	2	22
		片	3	9
	スクレイパー	完形	小計 56	小計 61
		準完形	7	10
		半形	4	83
		片	1	5
U・Rフレイク	完形	小計 61	小計 72	
	準完形	1	2	
	半形	0	2	
	片	201	4962	
石核	0	2	2	
フリイク	0	2	2	
割片石量群合計	228	4328	4556	
III群b類	磨製石斧	完形	小計 6	小計 6
		準完形	0	0
		半形	1	11
		片	1	2
	たたき石	完形	小計 4	小計 5
		準完形	1	1
		半形	1	5
		片	0	0
	すり石	完形	小計 1	小計 1
		準完形	1	1
		半形	0	2
		片	0	0
石鏃	完形	小計 7	小計 8	
	準完形	1	3	
	半形	2	35	
	片	1	25	
砥石	完形	小計 2	小計 2	
	準完形	2	3	
	半形	5	260	
	片	5	254	
台石・石皿	完形	小計 1	小計 2	
	準完形	1	0	
	半形	1	2	
	片	1	3	
備石量群合計	10	315	325	
備	備	加工・使用済のある備	小計 21	小計 893
		完形	1	31
		準完形	20	862
		片	96	117
備合計	118	4692	4810	
総計	356	9335	9691	

表V-3 H-24出土復元土器観察表

図番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)		重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						高さ	口径					底径
V-1	1	24	H-24	層上	19	(18.5)	—	2.0	1,993	胴部下～底部	深鉢	群番号 蓋部形式
総合破片総点数		19	適合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)		—							
胎土 (泥和材)		繊維	多量	粒径	細粒	種類	灰物主体	量	中量	備考	漂白灰物	
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	胎土 (泥和材)	
											灰褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (10YR6/2)
裏	ナゾ	灰褐色 (10YR6/4)	灰化物付着	—	—	—	—	—	—	—	胎土 (泥和材)	
											褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (10YR6/2)

表V-4 H-24・P-48復元土器観察表

図番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)		重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						高さ	口径					底径
V-1	2	24	H-24 P-48	層上 層上	2 8	(21.3)	23.4	—	1,200	1口～胴部下位	深鉢	群番号 底面形式
総合破片総点数		13	適合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)		・E-7区・東横①							
胎土 (泥和材)		繊維	少量	粒径	細～中粒	種類	岩石 灰物 丸にあり	量	中～多量	備考	白色石灰 石英	
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	胎土 (泥和材)	
											褐色 (2.5YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)
裏	ナゾ	褐色 (2.5YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)	—	—	—	—	—	—	—	胎土 (泥和材)	
											褐色 (2.5YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)
裏	L.R. + R.L. 横文	褐色 (2.5YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)	—	—	—	—	—	—	—	胎土 (泥和材)	
											褐色 (2.5YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)
裏	R.L. + L.R. 横文 (H.R.) 横文	明赤褐色 (2.5YR6/3)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)	—	—	—	—	—	—	—	胎土 (泥和材)	
											明赤褐色 (2.5YR6/3)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)

表V-5 H-24・P-48復元土器観察表

図番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)		重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						高さ	口径					底径
V-1	3	24	H-24 P-48	層上 層上	3 1	(25.1)	—	(10.4)	1,350	胴部中央～下部	深鉢	群番号 底面E-1形式
総合破片総点数		34	適合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)		・E-7区・東横① (1) ・E-7区・東横② (1)							
胎土 (泥和材)		繊維	なし	粒径	中～細粒	種類	岩石主体	量	多量	備考	赤い→黒い横状白片 石英	
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	胎土 (泥和材)	
											紅褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)
裏	ナゾ	灰褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)	—	—	—	—	—	—	—	胎土 (泥和材)	
											灰褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)

表V-6 H-24・P-51復元土器観察表

図番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)		重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						高さ	口径					底径
V-1	4	24	H-24 P-51	層上 層上	3 12	(21.3)	—	2.4	1,500	胴部上位～底部	深鉢	群番号 蓋部形式
総合破片総点数		16	適合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)		・E-7区・東横① (1)							
胎土 (泥和材)		繊維	多量	粒径	細粒	種類	灰物主体	量	中量	備考	有色灰物 石英	
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	胎土 (泥和材)	
											紅褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)
裏	ナゾ	紅褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)	—	—	—	—	—	—	—	胎土 (泥和材)	
											紅褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)

表V-7 H-25復元土器観察表

図番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)		重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
						高さ	口径					底径
V-1	5	25	H-25	床面	11	16.6	18.0	2.0	700	1口～胴部	深鉢	群番号 蓋部形式
総合破片総点数		20	適合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)		・H-25・床面②							
胎土 (泥和材)		繊維	多量	粒径	細粒	種類	灰物主体	量	中量	備考	漂白灰物	
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	胎土 (泥和材)	
											灰褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)
裏	ナゾ	灰褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)	—	—	—	—	—	—	—	胎土 (泥和材)	
											灰褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)
裏	ナゾ	灰褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)	—	—	—	—	—	—	—	胎土 (泥和材)	
											灰褐色 (10YR6/4)	赤色化褐色 (2.5YR6/2)

表V-8 P-31復元土器観察表

図番	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			質量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
V-2	6	25	P-31	覆土	1	(26.5)	39.9	-	1,740	1部～ 胴部下位	深鉢	IV群a類 北朝B式
接合破片 部点数		22	接合-同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・E-64区・東組(31)						
胎土 (泥和材)		織織	少量	粒径	細～中粒	種類	岩石 風物 共にあり	量	少～中量	備考	白色胎土 並用～並内雜状破片 確認済	
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (構存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
		別み	明褐色色 (10YR6/4)	黒化北	-	口 唇 部 (50%)	ナデ	紅い黄褐色 (10YR6/4)	黒化北		-	
		肥厚層 R・L・R 北朝文 内朝和文文	明褐色色 (10YR6/4)	黒化北 炭化物付着	縦線孔2か所	口 縁 部 (80%)	ナデ	紅い黄褐色 (10YR6/4)	黒化北		-	
		R・L・R 北朝文 (細粒)	明褐色色 (10YR7/4)	炭化北 炭化物付着	縦線孔4か所	胴部上半 (80%)	ナデ	紅い黄褐色 (10YR7/4)	炭化北 炭化物付着		-	
裏	R・L・R 北朝文 (細粒)	褐色 (7.5YR6/4)	赤化北	縦線孔5か所	胴部下位 (60～70%)	ナデ	紅い黄褐色 (10YR6/4)	炭化北 炭化物付着	-	裏		

表V-9 P-37復元土器観察表

図番	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			質量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
V-2	7	25	P-37	成成面	1	(44.1)	25.5	-	6,050	1部～ 胴部下位	深鉢	IV群a類 北朝B式
接合破片 部点数		22	接合-同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・H-19・覆土(1)・F-56区・東組(1)						
胎土 (泥和材)		織織	少～中量	粒径	細～中粒	種類	岩石 風物 共にあり	量	少～中量	備考	石質 有色胎土 並用～並内雜状破片	
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (構存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
		別み	紅い褐色 (7.5YR5/4)	黒化北	-	口 唇 部 (90%)	ナデ	明褐色色 (2.5YR6/4)	-		-	
		肥厚層 胎土 内朝和文 L・R・L・R 北朝文	(濁灰色)	炭化北 炭化物付着	-	口 縁 部 (100%)	ナデ	赤褐色 (2.5YR4/4)	-		-	
		R・L・R 北朝和文	紅い黄褐色 (10YR6/4)	炭化北 炭化物付着	-	胴部上半 (100%)	ナデ	赤褐色 (2.5YR6/4)	炭化北		-	
裏	R・L・R 北朝和文	紅い褐色 (7.5YR6/4)	赤褐色 (2.5YR6/4)	断面割断	胴部下位 (70～80%)	ナデ	紅い赤褐色 (7.5YR6/4)	炭化北	-	裏		

表V-10 P-46・49復元土器観察表

図番	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			質量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
V-2	8	25	P-46 P-49	覆土 覆土	4 3	(6.5)	-	-	8.8	1部 ～ 底部	深鉢	I群b類 中朝B式
接合破片 部点数		9	接合-同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・G-10区・東組(1)・G-10区・東組(1)						
胎土 (泥和材)		織織	なし	粒径	細～中粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	重門～並内雜状破片 確認済	
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (構存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
		別み	紅い黄褐色 (10YR7/4)	黒化北	-	胴部下位～底部 (20～30%)	ナデ	紅い黄褐色 (10YR7/4)	-		-	
裏	ナデ	紅い黄褐色 (10YR7/4)	-	やや上1/3部	底面	ナデ	紅い黄褐色 (10YR7/4)	-	-	裏		

表V-11 P-49復元土器観察表

図番	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			質量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
V-2	8	25	P-49	覆土	1	(10.3)	-	-	275	胴部中位	深鉢	I群b類 中朝B式
接合破片 部点数		22	接合-同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・F-10区・東組(22)・F-60区・東組(1)・G-10区・東組(1)						
胎土 (泥和材)		織織	なし	粒径	細～中粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	重門～並内雜状破片	
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (構存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
		別み	紅い黄褐色 (10YR7/4)	-	-	胴部中位 (60～70%)	ナデ	紅い黄褐色 (10YR7/4)	炭化北		-	
裏	胎土 内朝和文	紅い黄褐色 (10YR7/4)	-	-	-	-	-	-	-	裏		

表V-12 遺構出土破片土器観察表(1)

図	番号	図面	出土地点	層位	遺物 番号	破片数 小計	破片部位		重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)
							文様・調整	色調				
胎土(産和材)			文様・調整				色調		使用の痕跡			
編織	種類	種類	外周	内周	(部位)	外周	内周	外周	内周	外周	内周	
V-3	1	24	H-17	遺土	—	1	3	口縁部	81.5	深鉢	群器A類	磁製用土
多量	細粒	胎土主 (多量)	粘付(突起) 矢羽状彫文	1.8キ	(突起) 刺突文	比色I (1.5YR6/4)	褐色 (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-3	2	26	H-17	遺土	—	1	口縁部 (外周部)	17.6	深鉢	群器A類	磁製用土	磁製用土
多量	細~中粒	胎土主 (黒色胎物 多量)	粘付(突起)	ナナシ	(突起) 刺突文	比色I (1.5YR7/4)	褐色 (1.5YR7/3)	—	—	—	—	—
V-3	3	26	H-17	遺土	—	5	胴部	78.4	深鉢	群器A類	磁製用土	磁製用土 内面磨粒
多量	細~中粒	胎土・胎物 ともにあり	粘付部 矢羽状彫文	—	(粘付部) 刺突文	比色I (1.5YR6/4)	—	—	—	—	—	—
V-3	4	26	H-17	遺土	—	3	4	胴部	110.7	深鉢	群器A類	磁製用土 磁製用土
多量	細~中粒	胎土・胎物 ともにあり	矢羽状彫文	ナナシ	—	比色I (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-3	5	26	H-17	遺土	—	1	胴部	17.2	深鉢	群器A類	磁製用土	—
多量	細~中粒	胎土・胎物 ともにあり (黒色胎物 多量)	沈着文	ナナシ	—	褐色 (2.5Y3/2)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-3	6	26	H-17	遺土	—	1	胴部	7.5	深鉢	1群器B	磁製用土	中華式土
なし	細~中粒	胎土・胎物 ともにあり	粘付文 曲線状彫文 短横文	ナナシ	—	比色I (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-3	7	26	H-18	遺土	—	2	1 胴部下位・胴部	30.2	深鉢	群器A類	磁製用土	—
多量	細~中粒	胎土・胎物 ともにあり (少量)	肥厚部	1.8キ	(肥厚部) 無し	褐色 (1.5YR7/3)	比色I (1.5YR6/4)	—	—	—	—	—
V-3	8	26	H-18	遺土	—	1	胴部	7.7	深鉢	群器A類	磁製用土	磁製用土
少~中量	細~中粒	胎土・胎物 ともにあり (少量)	胎土	ナナシ	—	褐色 (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-3	9	26	H-18 E-54区	遺土	—	1	9	胴部	129.7	深鉢	1群器B類	中華式土
なし	細~粗粒	胎土・胎物 ともにあり	粘付部 曲線状彫文	ナナシ	—	比色I (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-3	10	26	H-18	遺土	—	1	胴部	9.2	深鉢	1群器B	中華式土	—
なし	細~粗粒	胎土・胎物 ともにあり	粘付文 曲線状彫文	ナナシ	—	(褐色) 無し	(褐色) 無し	—	—	—	—	—
V-3	11	26	H-18 E-54区	遺土	—	2	2	胴部	234.7	深鉢	群器A類	高輪式土 外周磨粒 12.5同~磨粒
多量	細~中粒	胎土・胎物 ともにあり (少量)	矢羽状彫文	ナナシ	—	浅褐色 (1.5YR6/4)	(褐色)	—	—	—	—	—
V-3	12	26	H-18 E-54区	遺土	—	1	8	口縁~胴部	500	深鉢	群器A類	磁製用土 12.5同~磨粒
多量	細粒	胎土・胎物 ともにあり (少量)	肥厚部 刺突文 矢羽状彫文	1.8キ	(口縁部) ナナシ	比色I (1.5YR6/4)	褐色 (1.5YR7/3)	—	—	—	—	—
V-3	13	26	H-18 E-54区	遺土	—	2	2	口縁~胴部	165.4	深鉢	群器A類	磁製用土 14.5同~磨粒
多量	細粒	胎土・胎物 ともにあり	肥厚部 矢羽状彫文	ナナシ	(肥厚部)沈着文 矢羽状彫文 短横文 (口縁部) ナナシ	比色I (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-3	14	26	H-18 E-54区	遺土	—	2	2	口縁~胴部	40.7	深鉢	群器A類	高輪式土 外周磨粒 13.5同~磨粒
多量	細粒	胎土・胎物 ともにあり (少量)	肥厚部 矢羽状彫文	ナナシ	(口縁部) ナナシ	比色I (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-3	15	26	H-18	遺土	—	1	胴部	191.2	深鉢	群器A類	—	—
なし	細~中粒	胎物主 (石系 多量)	短横文	ナナシ	工具のナナシ	褐色 (5YR6/6)	褐色 (5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-4	16	26	H-18	遺土	—	5	胴部	137.3	深鉢	群器A類	磨粒丸	—
なし	細~粗粒	胎土・胎物 ともにあり (中~多量)	L具彫文	ナナシ	—	比色I (1.5YR6/4)	褐色 (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-4	17	26	H-18	遺土	—	2	口縁~胴部	13.4	深鉢	1群器B類	中華式土	—
なし	細粒	胎土・胎物 ともにあり (少量)	粘付部 L具・短横文	ナナシ	—	比色I (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-4	18	26	H-18	遺土	—	1	胴部	14.6	深鉢	1群器B類	中華式土	—
なし	細~粗粒	胎土主 (磨り~多量)	粘付部 短横文	ナナシ	—	比色I (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-4	19	26	H-18	遺土	—	1	胴部	11.6	深鉢	1群器B類	中華式土	—
なし	細~粗粒	胎土主 (磨り~多量)	胎土・胎物 ともにあり (磨り~多量)	ナナシ	—	比色I (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-4	20	26	H-18	遺土	—	1	胴部	8.0	深鉢	1群器B類	中華式土	—
なし	細~中粒	胎土主 (磨り~多量)	胎土・胎物 ともにあり (磨り~多量)	ナナシ	—	比色I (1.5YR6/4)	比色I (1.5YR6/3)	—	—	—	—	—
V-4	21	26	H-20	遺土	—	1	口縁部	15.6	深鉢	群器A類	磁製用土	—
多量	細粒	胎土主 (少量)	筋路状彫文	ナナシ	(口縁部) ナナシ	比色I (1.5YR6/4)	(褐色)	—	—	—	—	—

表V-12 遺構出土破片土器観察表(2)

図	番号	図面	出土地点	層位	遺物 番号	破片数 小計	破片部位		重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)
							文様・調整	色調				
破片部位		文様・調整		色調		使用の痕跡						
破片部位	種類	種類	外周	内周	内面	外周	内面	外周	内面	外周	内面	
V-4	22	25	H-20	藍土	—	1	割面	2.4	深鉢	Ⅱ群A型	—	中深式 256形
なし	面→中切	白土・藍物 土に夾み 多量	粘板付(藍文)	ナナナ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-4	23	27	H-21	藍土	—	1	割面	45.6	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 56形
多量	面→中切	白土(少量)	矢羽形(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-4	24	27	H-21	藍土	—	1	口縁部	86.9	深鉢	Ⅱ群A型	—	北流式
多量	面→中切	白土・藍物 土に夾み (少→中量)	空字帯 羽形(藍文) 矢ノ藍文	ナナ	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-4	25	27	H-21	藍土	—	1	割面	209.3	深鉢	Ⅱ群A型	—	—
少量	面→中切	白土・藍物 土に夾み (少量)	矢ノ・斜ノ藍文 (細)	ナナ 工具のナナ	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-4	26	27	H-21 H-19 H-22 H-23 H-24	藍土	—	1	割面	68.4	深鉢	Ⅱ群A型	—	—
少量	面→中切	白土・藍物 土に夾み (少量)	矢ノ・L・藍文 (細)	ナナ	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-4	27	27	H-23	藍土	—	3	口縁→割面	310	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 28.5同一個体
多量	面→中切	藍物土 (包含藍物 多量)	斜付(空藍文) 格子目状(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-4	28	27	H-23	藍土	—	3	口縁→割面	460	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 28.5同一個体
多量	面→中切	白土・藍物 (包含藍物 多量)	斜付(空藍文) 格子目状(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	29	27	H-23 H-22 H-21 H-20	藍土	—	1	口縁→割面	218.7	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 30.5同一個体
多量	面切	藍物土 (包含藍物 多量)	格子目状(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	30	27	H-23 H-22 H-21 H-20	藍土	—	2	割面	37.0	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 30.5同一個体
多量	面切	藍物土 (包含藍物 多量)	格子目状(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	31	27	H-23	藍土	—	3	口縁部	104.0	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 30形
多量	面→中切	白土・藍物 土に夾み (包含藍物 多量)	斜付(空藍文) 格子目状(藍文) 斜格子目状(藍文)	ナナ 1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	32	27	H-23	藍土	—	2	口縁部	92.4	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 30.5同一個体
多量	面切	白土・藍物 (包含藍物 多量)	斜付(空藍文) 斜付	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	33	27	H-23 H-22 H-21 H-20	藍土	—	4	口縁部	46.0	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 30.5同一個体
多量	面切	白土・藍物 土に夾み (包含藍物 多量)	斜付 格子目状(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	34	27	H-23	藍土	—	1	割面	11.7	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 30形
多量	面切	藍物土 (包含藍物 多量)	格子目状(藍文)	—	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	35	27	H-23	藍土	—	1	割面	26.2	深鉢	Ⅱ群A型	—	—
なし	面→中切	白土・藍物 土に夾み (包含藍物 少量)	矢ノ・斜ノ藍文 (細)	ナナ	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	36	27	H-24	藍土	—	1	割面	54.4	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式 30形
なし	面→中切	白土・藍物 土に夾み (包含藍物 多量)	斜字(少→中量) 格子目状(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	37	27	H-24	藍土	—	4	口縁→割面	82.1	深鉢	Ⅱ群A型	—	北流式
少量	面→中切	白土(少量)	内羽状(藍文) L・藍文	ナナ	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	38	26	H-25	藍土	—	3	口縁→割面	210.0	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式
多量	面→中切	白土・藍物 土に夾み (包含藍物 多量)	斜付 矢羽形(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	39	26	H-25	藍土	—	3	口縁部	78.2	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式
多量	面→中切	白土・藍物 土に夾み (包含藍物 少量)	矢羽形(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	40	26	H-25	藍土	—	1	口縁部	30.4	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式
多量	面→中切	白土・藍物 土に夾み (包含藍物 多量)	格子目状(藍文) 斜格子目状(藍文)	ナナ 1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化
V-5	41	26	H-25	藍土	—	4	割面	119.1	深鉢	Ⅱ群A型	—	蓋形式
多量	面→中切	白土・藍物 土に夾み (包含藍物 多量)	格子目状(藍文)	1.8* 1.8* 1.8*	—	—	—	—	—	—	—	赤色化

表V-12 遺構出土破片土器観察表(3)

図	番号	図面	出土地点	層位	遺物 番号	破片数 小計	破片部位 合計	重量 (g)	種類	分類	備考 (土器型式)	
											文様・調整	色調
胎土(産和材)												
組織	粒徑	種類	外周	内周	内面	外面	内面	外周	内面			
V-5	42	28	H-25	藍土	-	1	胴部 (下段)	587.0	深鉢	群青a類	蓋物形式	
多量	細粒	胎土・灰物 も混在 (灰白地物 多量)	矢野氏群青文 (灰)	ナデ	-	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	比20a-黄褐色 (10YR6/2)	-	-	黒色化	
V-5	43	28	H-25	藍土	-	1	口縁部	4.3	深鉢	1群b類	中央式	
少量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	磁糸体付黄文 土黄文	ナデ	-	(口縁部)	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	灰黄褐色 (10YR6/2)	-	-	-	
V-5	44	28	H-26	藍土	-	1	底面	82.4	深鉢	群青a類	内周片断	
多量	細粒	胎土10% (灰白地物 多量)	ナデ	ナデ	-	-	浅褐色 (10YR6/4)	褐色 (7.5YR/3)	-	-	赤色化	
V-5	45	28	H-27	藍土	-	2	(口縁-胴部)	66.3	深鉢	群青a類	内周縁部目立つ	
多量	細・中粒	胎土15% (灰白地物 目立つ)	肥厚部 不明物付黄文	ナデ	1群*	-	比20a-黄褐色 (7.5YR6/4)	(不明色)	-	-	赤色化	
V-5	46	28	H-28	藍土	-	3	胴部	36.9	深鉢	群青a類	蓋物形式 内周縁部	
多量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	矢野氏群青文	1.8群*	-	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	比20a-黄褐色 (10YR6/2)	-	-	黒色化	
V-5	47	28	H-29	藍土	-	1	口縁部	42.6	深鉢	群青a類	蓋物形式	
多量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	矢野氏群青文	ナデ	-	(口縁部)	比20a-黄褐色 (10YR6/2)	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	-	-	黒色化 灰化物付着	
V-5	48	28	H-29	藍土	-	1	胴部	28.9	深鉢	群青a類	蓋物形式	
多量	細粒	胎土・灰物 も混在	肥厚部 不明物付黄文	ナデ	-	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	比20a-黄褐色 (10YR6/2)	赤褐色 褐色 (5YR7/3)	赤褐色 褐色 (2.5YR6/3)	赤褐色 灰化物付着	
V-4	49	28	P-30	藍土	-	1	胴部	6.2	深鉢	1群b類	中央式	
少量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	磁糸体付黄文 土黄文	ナデ	-	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	(不明色)	-	-	黒色化 灰化物付着	
V-4	50	28	P-31	藍土	-	1	胴部	33.1	深鉢	群青a類	蓋物形式 内周縁部	
多量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	矢野氏群青文 (中央)	ナデ	-	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	比20a-黄褐色 (10YR6/2)	-	-	-	
V-4	51	28	P-31	藍土	-	1	胴部	18.9	深鉢	群青a類	-	
少量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	磁糸体付黄文 (中央)	ナデ	-	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	(不明色)	-	-	黒色化 灰化物付着	
V-4	52	28	P-34	藍土	-	1	(口縁-胴部)	149.0	深鉢	群青a類	蓋物形式	
多量	細粒	胎土・灰物 も混在	肥厚部 矢野氏群青文 黄群文	1.8群*	(口縁部)	-	比20a-黄褐色 (10YR6/3)	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	-	-	黒色化 灰化物付着	
V-4	53	28	P-34	藍土	-	1	口縁部	28.7	深鉢	群青a類	蓋物形式	
多量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	矢野氏群青文	ナデ	-	(口縁部)	比20a-黄褐色 (10YR6/3)	(不明色)	-	-	黒色化 灰化物付着	
V-4	54	28	P-34	藍土	-	1	口縁部	82.2	深鉢	群青a類	蓋物形式 外周縁部	
多量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	矢野氏群青文 矢野氏群青文	1.8群*	胎付・黄文 (口縁部)	ナデ	比20a-黄褐色 (10YR6/2)	比20a-黄褐色 (10YR6/2)	-	-	黒色化 灰化物付着	
V-4	55	28	P-34	藍土	-	1	底面 (底面)	32.6	深鉢	群青a類	蓋物形式 内周縁部	
多量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	矢野氏群青文	-	(底外面) ナデ	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	-	赤褐色 褐色 (5YR7/3)	-	赤褐色 褐色 (5YR7/3)	
V-4	56	28	P-34	藍土	-	1	底面 (底面)	73.1	深鉢	群青a類	蓋物形式 内周縁部	
多量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	矢野氏群青文	-	(底外面) ナデ	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	-	-	-	-	
V-4	57	28	P-34	藍土	-	1	胴部	25.1	深鉢	群青a類	-	
少量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	磁糸体付黄文 (多量)	ナデ	-	-	赤褐色 (5YR7/3)	(不明色)	-	-	黒色化 赤褐色 灰化物付着	
V-4	58	28	P-25	藍土	-	1	口縁部	31.3	深鉢	群青a類	内周縁部目立つ	
多量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	矢野氏群青文 (中央)	ナデ	ナデ	(口縁部)	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	-	-	-	
V-4	59	28	P-26	藍土	-	1	胴部	4.2	深鉢	群青a類	内周片断	
多量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	胎土	ナデ	-	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	-	-	赤褐色 褐色 (5YR7/3)	
V-4	60	28	P-27 H-19	藍土	31	3	胴部	147.0	深鉢	群青a類	外周縁部	
少量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	胎土・H.L.黄文 (多量)	ナデ	-	-	明赤褐色 (5YR5/3)	灰黄褐色 (5YR6/2)	-	-	赤褐色	
V-4	61	28	P-27	藍土	-	1	胴部	2.0	深鉢	1群b類	中央式	
少量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	磁糸体付黄文 土黄文	ナデ	-	-	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	-	-	黒色化 灰化物付着	
V-4	62	28	P-43 H-19 E-64段 E-65段	藍土	-	3	(口縁-胴部)	490	深鉢	群青a類	北周片断	
少・中量	細・中粒	胎土・灰物 も混在	肥厚部 胎付 行形黄文 胎土黄文 磁群文	ナデ	-	(口縁部 胎付 肥厚部) 胎付 土黄文	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	比20a-黄褐色 (10YR6/4)	-	-	黒色化 灰化物付着	

表V-12 遺構出土破片土器観察表(4)

図	番号	図面	出土地点	層位	遺物 番号	破片数 小計	破片部位 合計	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)
編織		種類	種類	外周	内周	(部位)	外周	内周	外周	内周	
V-4	63	29	P-45	覆土	-	1	製底	35.9	深鉢	群群a型	磁器式式 丸底器
多量	細	中	白・灰物 と土にあり (少量)	刻線・粘り状文	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	黒色化	-	
V-6	64	29	P-45	覆土	-	3	製底	174.7	深鉢	群群a型	-
少量	細	粗粒	白・灰物 と土にあり (多量)	素土焼文	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	黒色化 赤色化	黒色化 灰化物付着	
V-6	65	29	P-46 G-59区 G-59区 グリッド保土 の層	覆土 - - - 1 1 2	4	(口縁部)	31.9	深鉢	群群a型	磁器式式	
多量	細	中	灰物土塊 (少量)	肥厚部 丸底状器文 底縁文・刺突文	ナデ	-	(肥厚部) 丸底状器文 底縁文・刺突文	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	赤色化 褐色 (5YR72/4)	黒色化
V-6	66	29	P-46	覆土	-	1	製底	18.5	深鉢	群群a型	磁器式式
中量	細	中	白・灰物 と土にあり (多量)	刻線・粘り状文	1.8g	-	(頸部色)	褐色 (7.5YR76/4)	黒色化 灰化物付着	-	
V-7	67	29	P-46 P-49	覆土 覆土	- - 13	製底	162.5	深鉢	1群群a型	中家路式 68・71と同一類体	
なし	細	中	白・灰物 と土にあり	刻線・粘り状文 底縁(4)刺突文 底縁(4)粘り状文	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	-	-	
V-7	68	29	P-46	覆土	-	3	製底	61.0	深鉢	1群群a型	中家路式 67・71と同一類体
なし	細	中	白・灰物 と土にあり	粘り状 底縁(4)刺突文 底縁(4)粘り状文 粘り状	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	黒色化	黒色化	
V-7	69	29	P-46 P-59区	覆土 土層	- - 2	底面 (頸部)	15.8	深鉢	1群群a型	中家路式	
なし	細	中	白・灰物 と土にあり	底縁(4)刺突文	ナデ	(底面) ナデ	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	黒色化 灰化物付着	-	
V-7	70	29	P-47	覆土	-	3	製底	83.9	深鉢	群群a型	-
なし	細	中	白・灰物 と土にあり	土層・丸土焼文 (頸部)	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	赤色化	黒色化 赤色化	
V-7	71	29	P-49	覆土	-	3	(口縁部)	151.8	深鉢	群群a型	磁器式式 丸底器
多量	細	粗	黒土土塊 (少量)	肥厚部 丸底状器文	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	(頸部色)	黒色化 赤色化 褐色 (5YR72/4)	黒色化 灰化物付着	
V-7	72	29	P-49 G-59区 G-60区 H-60区	覆土 土層 土層 土層	- - - - 7	(口縁部)	80.5	深鉢	1群群a型	中家路式 67・68と同一類体	
少量	細	中	白・灰物 と土にあり	粘り状 底縁(4)刺突文 底縁(4)粘り状文	ナデ	(口縁部) ナデ	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	黒色化 灰化物付着	-	
V-7	73	29	P-49	覆土	-	1	(口縁部)	4.7	深鉢	1群群a型	中家路式
なし	細	中	白・灰物 と土にあり (少量)	底縁(4)刺突文	ナデ	(口縁部) ナデ	(頸部色)	灰黄褐色 (10YR76/4)	黒色化 灰化物付着	黒色化 灰化物付着	
V-7	74	29	P-49	覆土	-	2	製底	33.9	深鉢	1群群a型	中家路式
なし	細	中	白・灰物 と土にあり	粘り状 底縁(4)刺突文 粘り状・底縁(4)	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	灰黄褐色 (10YR76/4)	黒色化 灰化物付着	黒色化	
V-7	75	29	P-49 P-59区	覆土 土層	- - 2	製底	14.9	深鉢	1群群a型	中家路式	
なし	細	中	白・灰物 と土にあり	粘り状 底縁(4)刺突文 底縁(4)粘り状文 素土焼文・底縁(4)	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	(頸部色)	赤色化	黒色化	
V-7	76	29	P-49 H-60区	覆土 土層	- - 2	製底	9.5	深鉢	1群群a型	中家路式	
なし	細	中	白・灰物 と土にあり	粘り状 底縁(4)刺突文 底縁(4)粘り状文	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	-	黒色化	
V-7	77	29	P-49	覆土	-	1	製底	6.1	深鉢	1群群a型	中家路式
なし	細	中	白・灰物 と土にあり (少量)	底縁(4)刺突文	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	-	黒色化	
V-7	78	29	P-51	覆土	-	1	製底	9.2	深鉢	群群a型	磁器式式
多量	細	中	白・灰物 と土にあり (少量)	刻線・粘り状文	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	灰黄褐色 (10YR76/4)	赤色化	-	
V-7	79	29	P-53	覆土	-	1	(口縁部)	35.9	深鉢	群群a型	北朝式式
少量	細	中	白・灰物 と土にあり	肥厚部 同底状器文 L・刺突文	ナデ	(口縁部) ナデ 肥厚部 L・刺突文	褐色 (7.5YR76/6)	(頸部色)	-	黒色化 灰化物付着	
V-7	80	29	P-53	覆土	-	8	製底	36.7	深鉢	群群a型	丸底器
なし	細	中	白・灰物 と土にあり	L・刺突文	ナデ	-	22.2g・黄褐色 (10YR76/4)	褐色 (7.5YR76/6)	赤色化	黒色化 灰化物付着	
V-7	81	29	P-55	粘り土	-	3	製底	85.1	深鉢	群群a型	-
なし	細	粗粒	白・灰物 と土にあり (多量)	L・刺突文	ナデ	-	灰黄褐色 (10YR76/4)	(頸部色)	赤色化	黒色化	

表V-13 H-57区出土復原土器観察表

図番	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
						高さ	口径	底径						
V-10	1	30	H-57区	層第	4	10.7	(10.8)	8.4	210	1層～底面	深鉢	I群b類 中華式		
組合破片断点数						5			組合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数) ・G-5区・層第(1)					
新土(復原材)			組織	なし	粒径	細～中粒		種類	岩石主体		量	少量	備考	並列～並向層位の付片等残存
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	胎位(積存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	ナデ		陶風色)	黒色化	灰白色質付着	口縁部(10%)	ナデ		陶風色)	黒色化	-			
	刻み刻印等		陶風色)	黒色化	灰白色質付着	口縁部(10%)	ナデ		紅い表層色(10YR5/3)	黒色化	並列～並向層位の付片等残存			
	刻み刻印等		刻み刻印等	黒色化	灰白色質付着	口縁部(10%)	ナデ		紅い表層色(10YR5/3)	黒色化	並列～並向層位の付片等残存			
	刻み刻印等		刻み刻印等	黒色化	灰白色質付着	口縁部(10%)	ナデ		紅い表層色(10YR5/3)	黒色化	並列～並向層位の付片等残存			
内	上層文		紅い表層色(7.5YR5/4)	黒色化	-	胴部上半(20%)	ナデ		紅い表層色(10YR6/4)	黒色化	灰白色質付着	-		
	中層文		紅い表層色(10YR5/4)	黒色化	-	胴部下半～底部(30%)	ナデ		紅い表層色(10YR6/4)	黒色化	灰白色質付着	-		
	下層文		紅い表層色(10YR5/4)	黒色化	-	底部(90%)	ナデ		紅い表層色(10YR6/4)	黒色化	灰白色質付着	-		

表V-14 F-52区出土復原土器観察表

図番	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
						高さ	口径	底径						
V-10	2	30	F-52区	層第	21	(13.5)	-	7.2	267	胴部中位～底面	深鉢	I群b類 中華式		
組合破片断点数						21			組合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)					
新土(復原材)			組織	なし	粒径	細～中粒		種類	岩石 灰白色質付着あり		量	少～中量	備考	石表 有彩色物並列～並向層位の付片等残存
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	胎位(積存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	刻み刻印等		紅い表層色(10YR7/4)	黒色化	灰白色質付着	-	胴部中位～底部(30～40%)		ナデ	紅い表層色(10YR7/4)	灰白色質付着		-	
	ナデ		紅い表層色(10YR6/4)	黒色化	並向層位	-	胴部(80%)		ナデ	紅い表層色(10YR7/4)	-		-	

表V-15 F-52区出土復原土器観察表

図番	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
						高さ	口径	底径						
V-10	3	30	F-52区	層第	10	(8.4)	-	8.4	291	胴部下位～底面	深鉢	I群b類 中華式		
組合破片断点数						11			組合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数) ・G-5区・層第(1)					
新土(復原材)			組織	なし	粒径	細～中粒		種類	岩石 灰白色質付着あり		量	中～多量	備考	石表 有彩色物並列～並向層位の付片等残存
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	胎位(積存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	刻み刻印等		紅い表層色(10YR7/4)	黒色化	-	胴部下位～底部(40%)		ナデ	紅い表層色(10YR7/4)	灰白色質付着	-			
	ナデ		紅い表層色(10YR6/4)	黒色化	中～上層位	-	底部(70%)		ナデ	紅い表層色(10YR7/4)	-		-	

表V-16 G-55区出土復原土器観察表

図番	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
						高さ	口径	底径						
V-10	4	30	G-55区	層第	4	(8.1)	-	10.0	218	胴部下位～底面	深鉢	I群b類 中華式		
組合破片断点数						5			組合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数) ・F-5区・層第(1)					
新土(復原材)			組織	なし	粒径	細～中粒		種類	岩石主体		量	少～中量	備考	並列～並向層位の付片等残存
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	胎位(積存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	刻み刻印等		紅い表層色(10YR7/4)	黒色化	灰白色質付着	-	胴部下位～底部(20～30%)		ナデ	紅い表層色(10YR7/4)	-		-	
	ナデ		紅い表層色(10YR7/4)	黒色化	上層位	-	底部(60%)		ナデ	紅い表層色(10YR7/4)	-		-	

表V-17 F-64区出土復原土器観察表

図番	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
						高さ	口径	底径						
V-10	5	30	F-64区	層第	28	(23.2)	(19.0)	(9.0)	1,220	胴部中位～底面	深鉢	西群a類 玄類Ⅱ～Ⅲ式		
組合破片断点数						27			組合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数) ・G-6区・層第(1)					
新土(復原材)			組織	なし	粒径	細～中粒		種類	岩石 灰白色質付着あり		量	多量	備考	石表 有彩色付片
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	胎位(積存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内		
	刻み刻印等		灰白色(7.5YR5/2)	-	並向層位	胴部中位～底部(20～30%)	ナデ		紅い表層色(10YR5/3)	黒色化	並向層位			
	ナデ		灰白色(7.5YR5/2)	-	並向層位	底部(10%)	ナデ		紅い表層色(10YR6/4)	黒色化	並向層位			

表V-19 遺構出土石器観察表(1)

図面 番号	図名	遺構名	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			石種	特徴	残存 形態	特徴 観察事項	備考			
						長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)								
図V-15	1	図V34	H-17	覆土	-	石錐	2.3	1.3	0.3	0.65	黒曜石	-	完全 先端内湾			
図V-15	2	図V34	H-17	覆土	-	つまみ付きナイフ	4.0	2.3	0.6	5.57	黒曜石	-	完全 両側縁と下端縁に刃部			
図V-15	3	図V34	H-17	覆土	-	スレイバー	3.7	2.4	0.9	6.74	黒曜石	-	完全 左側縁と下端縁に刃部			
図V-15	4	図V34	H-17	覆土	-	磨製石斧	11.0	4.6	2.5	189.1	紀石	両面 R100 2.5YR/2	半完成 先端内湾	刃部 先端内湾		
図V-15	5	図V34	H-17	床面	-	石錐	(10.0)	(11.7)	(0.8)	(06.7)	砂岩	両面 R100 2.5Y7/2	半完成 片	表面に広い 断面		
図V-15	6	図V34	H-17	床面	-	砥石	(5.4)	(5.9)	(1.9)	(01.1)	砂岩	R100 2.5Y7/2	片	くぼみ2か所		
図V-15	7	図V34	H-18	覆土	-	石錐	(2.0)	1.2	0.3	0.62	黒曜石	球状	半完成 完全	小形 基底内湾		
図V-15	8	図V34	H-18	覆土	-	石槍またはナイフ	6.3	2.9	0.6	7.90	黒曜石	-	-	-		
図V-15	9	図V34	H-18	覆土	-	石槍またはナイフ	6.2	2.7	1.0	12.86	頁岩	両面 R100 2.5YR/2	-	-		
図V-15	10	図V34	H-18	床面	1	石錐	4.9	2.4	0.7	6.55	チャート	R100 2.5YR/2	-	完全	基部鋭鋭の 表面面に 鈍角に近く残る	
図V-15	11	図V34	H-18	覆土	-	つまみ付きナイフ	7.6	3.4	0.8	9.68	頁岩	R100 2.5YR/2	-	完全	表面片面加工	
図V-15	12	図V34	H-18	覆土	-	つまみ付きナイフ	5.2	2.2	0.9	8.35	チャート	R100 2.5YR/2	-	完全	表面片面加工	
図V-15	13	図V34	H-18	床面直上	9	スレイバー	6.5	2.5	1.6	18.47	チャート	R100 2.5Y R8	-	完全	表面片面加工・ 急角刃部	
図V-16	14	図V34	H-18	床面	3	スレイバー	3.9	3.8	1.3	16.57	黒曜石	両面 R100 2.5YR/2	-	完全	両縁に急角度 刃部	
図V-16	15	図V34	H-18	床面	3	スレイバー	4.1	3.5	1.0	11.16	黒曜石	-	-	完全	両縁に急角度 刃部	
図V-16	16	図V34	H-18	覆土	-	磨製石斧	7.1	3.9	0.9	27.5	紀石	R100 2.5YR/2	-	完全	表面に 鋭角の溝	
図V-16	17	図V34	H-18	床面	2	石錐	(12.1)	18.6	1.0	(304.6)	砂岩	R100 2.5YR/2	片	下端部に刃部	3点接合・熱痕	
図V-16	18	図V34	H-18	床面直上	13	砥石	22.6	5.8	1.2	170.9	砂岩	R100 2.5Y7/2	-	完全	両面に砥面	
図V-16	19	図V34	H-18	床面直上	14	砥石	(15.8)	(16.8)	2.2	(640)	砂岩	R100 2.5YR/2	-	半完成	両面に砥面	
図V-17	20	図V34	H-19	覆土	-	石錐	3.2	1.4	0.4	1.40	黒曜石	-	-	完全	右側縁返し 欠損	
図V-17	21	図V34	H-19	覆土	-	石錐	2.8	1.9	0.4	1.61	黒曜石	-	半完成	-		
図V-17	22	図V34	H-19	覆土	-	石錐	4.5	2.6	0.6	4.73	黒曜石	-	-	完全	表面に広い 断面	
図V-17	23	図V34	H-19	覆土	-	石槍またはナイフ	9.2	3.9	1.6	41.26	黒曜石	-	-	完全	両側縁 鋭角にあり	
図V-17	24	図V35	H-19	覆土	-	石槍またはナイフ	22.0	4.6	1.4	105.35	黒曜石	-	-	完全	大欠・鋭角内縁 鋭角にあり	TOS-1所山面
図V-17	25	図V35	H-19	覆土	-	石錐	5.5	2.2	0.9	7.70	チャート	R100 2.5YR/2	-	完全	両面とのみ 一次加工	
図V-17	26	図V35	H-19	覆土	-	つまみ付きナイフ	(4.3)	(2.2)	(0.8)	(6.07)	チャート	R100 2.5YR/2	-	半完成	下端部欠損	
図V-17	27	図V35	H-19	覆土	-	スレイバー	5.7	3.5	1.4	39.59	頁岩	両面 R100 2.5YR/2	-	完全	左側縁 外湾刃部	
図V-17	28	図V35	H-19	覆土	-	磨製石斧	6.3	1.8	1.0	16.0	緑色灰岩	両面 R100 2.5YR/2	-	完全	左側縁に 鋭角刃部	
図V-17	29	図V35	H-19	覆土	-	砥石	9.1	3.5	3.4	122.3	凝灰岩	R100 2.5YR/2	-	完全	表面に砥面と たまたま粗	
図V-17	30	図V35	H-19	床面・覆土	-	砥石	(14.6)	(15.5)	(1.1)	(191.2)	砂岩	R100 2.5YR/2	片	両面に砥面	6点接合	
図V-18	31	図V35	H-20	覆土	-	石錐	(5.8)	(2.1)	(0.5)	(5.08)	黒曜石	-	半完成	基部外湾欠損		
図V-18	32	図V35	H-20	覆土	-	スレイバー	4.5	2.7	0.8	6.39	黒曜石	両面 R100 2.5YR/2	-	完全	右側縁に 鋭角刃部	
図V-18	33	図V35	H-20	覆土	-	スレイバー	5.7	2.2	0.9	8.92	黒曜石	-	-	完全	左側縁と下端縁 に刃部	
図V-18	34	図V35	H-20	床面直上	-	磨製石斧	6.7	3.6	1.2	43.7	緑色灰岩	両面 R100 2.5YR/2	-	完全	刃部有溝 ・片刃	
図V-18	35	図V35	H-20	床面直上	-	石錐	(25.6)	(23.6)	(5.4)	(3,850)	砂岩	R100 2.5Y7/2	-	半完成	両面にすり面	
図V-18	36	図V35	H-21	覆土	-	石錐	3.4	1.6	0.4	1.34	黒曜石	-	-	完全	有溝・ 右側縁に 右側縁に鋭角刃部	
図V-18	37	図V35	H-21	覆土	-	スレイバー	3.2	2.2	1.1	5.44	黒曜石	-	-	完全	右側縁に鋭角刃部・左 側縁に急角度刃部	
図V-18	38	図V35	H-21	覆土	-	スレイバー	4.3	2.3	1.2	18.44	黒曜石	-	-	完全	右側縁に 急角度刃部	
図V-18	39	図V35	H-22	覆土	-	つまみ付きナイフ	(5.4)	2.7	0.5	(4.47)	黒曜石	-	-	半完成	右側縁刃部 ・下欠損	
図V-19	40	図V35	H-23	覆土	-	石錐	2.9	1.3	0.3	0.87	黒曜石	-	-	完全	-	
図V-19	41	図V35	H-23	HPC-1	-	石槍またはナイフ	13.8	2.9	1.2	39.30	黒曜石	-	-	半完成	右側縁に鋭角 の下端部欠損	3点接合
図V-19	42	図V35	H-23	床面	1	スレイバー	(3.8)	4.9	1.0	(17.04)	黒曜石	-	-	完全	表面石側縁 に刃部	
図V-19	43	図V35	H-23	覆土	-	磨製石斧	7.5	2.5	1.5	41.1	紀石	両面 R100 2.5Y7/2	-	完全	片刃・ 上端内湾	
図V-19	44	図V35	H-23	覆土	-	石錐	4.8	(13.0)	0.5	(36.4)	砂岩	R100 2.5Y7/2	片	湾い刃部	5点接合	
図V-20	45	図V36	H-24	床面	6	石槍またはナイフ	9.8	2.7	5.0	21.14	黒曜石	-	-	完全	表面に鋭角 の断面	TOS-4白丸2
図V-20	46	図V36	H-24	床面	6	石槍またはナイフ	9.7	3.6	1.1	32.95	黒曜石	(R100)	-	完全	表面に 一次加工	TOS-2白丸2
図V-20	47	図V36	H-24	床面	6	石槍またはナイフ	9.6	4.4	1.3	44.90	黒曜石	-	-	完全	上下部に 断面あり	TOS-3白丸1
図V-20	48	図V36	H-24	床面	2	石錐	9.1	2.3	1.4	30.80	黒曜石	球状	-	完全	両面に 鈍角にあり	TOS-5白丸1
図V-20	49	図V36	H-24	床面	4	石錐	6.2	1.6	1.1	10.39	頁岩	R100 2.5YR/2	-	完全	表面広い 断面	
図V-20	50	図V36	H-24	床面	1	つまみ付きナイフ	9.4	2.9	1.1	22.05	頁岩	R100 2.5YR/2	-	完全	表面片面加工	備付書
図V-20	51	図V36	H-24	床面	-	スレイバー	6.9	3.4	0.8	9.58	黒曜石	(R100)	-	完全	右側縁に刃部	

表V-19 遺構出土石器観察表(2)

図面	図名	遺構名	層位	遺物番号	器種	計測値 (cm)			石種	特徴	残存形態	特徴観察事項	備考		
						長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)							
図V-20	52	図0636	H-24	床面	7	磨製石斧	6.3	2.1	0.8	(15.13)	灰岩	にみい(裏面) 2.5Y6/4	半完成	上下部に刃部	
図V-20	53	図0636	H-24	床面	5	磨製石斧	8.7	4.2	1.5	90.3	緑色灰岩	オリーブ(裏面) 2.5Y6/1	完成	基部進行面・刃部磨製	黒色物質付着
図V-20	54	図0636	H-24	床面	3	たたき石	8.7	4.3	4.3	224.3	灰岩	暗灰色 灰岩	完成	側面に特徴的な凸部	
図V-20	55	図0636	H-24	床面	8	石錐	(6.1)	(6.2)	(0.5)	(17.3)	砂岩	灰岩色 2.5Y6/1	片	薄い刃部	
図V-20	56	図0636	H-24	覆土	-	石錐	2.9	(5.3)	0.5	(11.9)	砂岩	にみい(裏面) 2.5Y6/4	半形	全面にすり面・凸部	
図V-21	57	図0636	H-25	覆土	-	石錐	1.9	1.1	0.3	0.35	黒曜石	-	完成	小形	
図V-21	58	図0636	H-25	覆土	-	石錐	2.3	1.2	0.3	0.49	黒曜石	-	完成	両側面下平内面・穴縁	
図V-21	59	図0636	H-25	覆土	-	石槍またはナイフ	5.6	2.8	1.5	16.95	黒曜石	-	完成	側面に刃部	
図V-21	60	図0636	H-25	床面	9	石槍またはナイフ	10.9	3.5	1.4	37.00	黒曜石	-	完成	縁に凹溝、側面下部に刃部	TOS-7所山
図V-21	61	図0636	H-25	覆土	-	石槍またはナイフ	13.4	3.5	1.0	36.23	黒曜石	-	完成	基部に凹溝	
図V-21	62	図0636	H-25	覆土	-	石錐	(3.2)	1.2	0.8	(2.83)	チャート	灰岩色 10YR7/2	半完成	棒状・上部欠損	
図V-21	63	図0636	H-25	床面	5	つまみ付きナイフ	6.1	2.6	1.9	16.03	チャート	灰岩色 10YR7/1	完成	表面片面加工	
図V-21	64	図0636	H-25	床面	6	つまみ付きナイフ	4.8	3.8	1.5	14.64	チャート	灰岩色 10YR7/1	完成	下部部に刃部	
図V-21	65	図0636	H-25	床面	3	スタレイバー	(3.0)	(2.5)	0.4	(3.06)	黒曜石	-	半形	上部・左側縁に刃部	
図V-21	66	図0636	H-25	覆土	-	スタレイバー	5.9	3.8	1.4	19.71	黒曜石	-	完成	両側縁・下部縁に刃部	
図V-21	67	図0636	H-25	覆土	-	スタレイバー	4.6	2.0	0.6	3.76	黒曜石	-	完成	表面両縁を加工	
図V-21	68	図0636	H-25	覆土	-	磨製石斧	5.3	2.7	1.0	20.7	緑色灰岩	暗灰色 10Y2/2	完成	刃部有溝・片刃	
図V-21	69	図0636	H-25	床面	10	磨製石斧	8.0	3.8	1.6	83.3	緑色灰岩	オリーブ(裏面) 2.5Y6/1	完成	研磨面・片刃	
図V-21	70	図0636	H-25	覆土	-	磨製石斧	17.5	6.8	1.8	249.2	砂岩	暗灰色 2.5Y6/1	完成	両側縁・基部	
図V-21	71	図0636	H-25	床面	2	磨製石斧	8.6	4.9	1.8	117.5	砂岩	灰岩色 2.5Y6/2	完成	刃部加工	
図V-21	72	図0636	H-25	床面	8	石錐	(9.8)	(11.7)	0.9	(75.3)	砂岩	灰岩色 2.5Y7/2	片	上下縁部に刃部	
図V-22	73	図0637	H-25	床面	1	石錐	8.0	2.1	1.3	363.3	砂岩	灰岩色 2.5Y7/2	完成	大型・全面に刃部	焼熱・保存付
図V-22	74	図0637	H-25	床面	4	砥石	(10.1)	8.6	0.9	(73.5)	砂岩	灰岩色 2.5Y6/4	片	両面に砥面	
図V-22	75	図0637	H-25	覆土	-	石錐	(6.0)	33.8	6.0	5.459	砂岩	にみい(裏面) 2.5Y6/4	完成	縁部のすり面	焼熱・炭化物付着
図V-22	76	図0637	H-26	覆土	-	石錐	4.4	1.8	0.7	3.76	黒曜石	-	完成	表面片面加工	
図V-22	77	図0637	H-26	覆土	-	スタレイバー	7.0	3.9	0.9	17.97	灰岩	灰岩色 10YR7/1	完成	両側縁に刃部	焼熱・焼けほじけ
図V-22	78	図0637	H-27	覆土	-	スタレイバー	3.2	2.0	0.6	3.01	黒曜石	-	完成	下部に刃部	
図V-22	79	図0637	H-28	覆土	-	石槍またはナイフ	(7.4)	5.2	1.2	(36.24)	黒曜石	-	半形	基部欠損	
図V-22	80	図0637	H-29	HP-3覆土	-	石錐	5.8	1.0	0.8	3.91	頁岩	-	完成	棒状	
図V-23	81	図0637	P-30	覆土	-	スタレイバー	5.9	2.9	0.9	11.21	黒曜石	-	完成	側面基部のみ・刃部両側縁	
図V-23	82	図0637	P-30	覆土	-	磨製石斧	5.7	2.7	0.9	23.3	片岩	暗灰色 10Y2/1	完成	研磨面	
図V-23	83	図0637	P-30	覆土	-	石錐	(6.2)	(14.5)	1.0	(111.6)	緑灰岩	灰岩色 2.5Y7/4	完成	刃部断面尖る	焼熱
図V-23	84	図0637	P-31	覆土	-	石錐	3.2	2.0	0.7	3.41	黒曜石	-	完成	両側縁下部内面	
図V-23	85	図0637	P-31	覆土	-	石槍またはナイフ	4.8	2.5	1.0	8.34	頁岩	暗灰色 10YR4/1	完成	左右非対称	
図V-23	86	図0637	P-31	覆土	-	スタレイバー	5.1	3.2	1.6	20.08	黒曜石	-	完成	両側縁に凸角度刃部	
図V-23	87	図0637	P-31	覆土	-	石錐	(7.6)	(10.7)	1.4	(107.2)	砂岩	灰岩色 2.5Y7/2	半形	下部断面尖る	
図V-23	88	図0637	P-31	覆土	-	石錐	(7.1)	(12.4)	1.4	(64.3)	砂岩	灰岩色 2.5Y6/4	半形	下部断面尖る	
図V-23	89	図0637	P-34	覆土	-	石錐	3.0	1.6	0.4	1.14	黒曜石	新断面縁 5YR3/5 見える	完成	有茎	
図V-23	90	図0637	P-34	覆土	-	石錐	(3.6)	(2.4)	0.4	(3.69)	黒曜石	-	半完成	石錐縁下部破損	
図V-23	91	図0637	P-34	覆土	-	石錐	5.8	1.4	1.1	6.67	頁岩	暗灰色 2.5Y6/3	完成	表面加工	
図V-23	92	図0637	P-34	覆土	-	つまみ付きナイフ	7.4	1.6	0.6	5.51	頁岩	灰岩色 10YR7/1	完成	両側縁に刃部	焼熱保存付
図V-23	93	図0638	P-34	覆土	-	スタレイバー	6.5	2.0	0.6	5.49	黒曜石	-	完成	左側縁に刃部	
図V-23	94	図0638	P-34	覆土	-	スタレイバー	2.4	2.6	0.8	4.78	黒曜石	-	完成	両側・凸角度刃部	
図V-23	95	図0638	P-34	覆土	-	スタレイバー	3.8	3.8	0.9	14.23	黒曜石	-	完成	両側・凸角度刃部	
図V-23	96	図0638	P-34	覆土	-	砥石	(10.4)	(4.9)	(1.6)	(47.3)	砂岩	にみい(裏面) 10YR7/2	片	縁状の磨製	
図V-24	97	図0638	P-35	覆土	-	石槍またはナイフ	3.7	2.4	0.5	2.96	黒曜石	-	完成	-	
図V-24	98	図0638	P-35	坑底面直上	-	石錐	(6.1)	(10.3)	(0.9)	(48.0)	砂岩	灰岩色 2.5Y7/2	半形	断面縁丸まる	
図V-24	99	図0638	P-37	坑底面	1	石槍またはナイフ	(13.1)	4.6	1.2	(67.30)	黒曜石	-	半完成	先端欠損・基部下部に左側縁	TOS-8所山、HP-19層上土層直
図V-24	100	図0638	P-37	覆土	2	石槍またはナイフ	14.3	4.5	1.2	65.80	黒曜石	-	完成	左側縁に凸角度刃部・右側縁に黒色物質付着	TOS-9白堊1
図V-24	101	図0638	P-38	坑底面	-	たたき石	10.1	8.1	3.1	400	灰岩	灰色 10YR/1	完成	-	

表V-19 遺構出土石器観察表(3)

図面番号	図名	遺構番号	層位	遺物番号	器種	計測値 (cm)			石種	特殊	残存形態	特徴観察事項	備考		
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)							
図V-24	102	102038	P-38	坑底面	—	台石・石皿	(18.9)	(8.0)	2.1	(400)	砂岩	こいし裏面に10YR6/2	片	磨り痕・敲打痕	
図V-24	103	102038	P-39	覆土	—	つまみ付きナイフ	(3.3)	(3.7)	(0.8)	(7.64)	黒曜石	輪郭面に10YR6/8 成り	平形	下平部欠損	
図V-25	104	102038	P-43	掘り上げ土	—	スタレナイフ	4.0	2.3	0.8	3.39	黒曜石	—	平形	両側縁に刃部	掘り上げ土
図V-25	105	102038	P-43	掘り上げ土	—	スタレナイフ	(4.6)	2.3	1.0	(5.05)	黒曜石	—	平形	両側縁に刃部	掘り上げ土
図V-25	106	102038	P-43	掘り上げ土	—	磨製石斧	7.5	4.1	1.5	44.6	頁岩	灰黄色 10YR7/2	平形	両側縁に磨製 跡あり	掘り上げ土
図V-25	107	102038	P-44	覆土	—	石皿	(2.7)	1.2	0.4	(0.90)	黒曜石	—	平形	先端部欠損	焼熟
図V-25	108	102038	P-45	覆土	—	砥石	(12.5)	(16.0)	3.4	(600)	砂岩	灰黄色 10YR7/2	片	両面中や凸凹	
図V-25	109	102038	P-46	覆土	—	石槍またはナイフ	3.3	2.7	0.6	4.31	黒曜石	—	平形	有蓋	
図V-25	110	102038	P-46	覆土	—	磨製石斧	6.2	2.8	1.1	38.1	頁岩	新成色 10B3/1	平形	刃部両面に刃部	片方
図V-25	111	102038	P-47	覆土	—	石皿	(1.9)	(1.2)	(0.3)	(0.53)	黒曜石	—	平形	下平部欠損	
図V-25	112	102038	P-47	覆土	—	石皿	2.9	1.9	0.3	1.00	黒曜石	—	平形	—	
図V-25	113	102038	P-47	覆土	—	つまみ付きナイフ	6.0	4.0	0.8	14.09	黒曜石	—	平形	—	焼熟
図V-25	114	102038	P-47	覆土	—	スタレナイフ	5.3	2.3	0.9	5.97	黒曜石	—	平形	石側縁と下平部 に刃部	
図V-25	115	102038	P-47	覆土	—	台石・石皿	30.7	24.7	6.5	4.300	砂岩	灰黄色 10YR/2	平形	たがき痕・ すり痕	
図V-26	116	102039	P-49	覆土	—	石皿	(3.8)	1.8	0.5	(2.21)	黒曜石	—	平形	先端部欠損	
図V-26	117	102039	P-49	覆土	—	石槍またはナイフ	(6.6)	2.8	0.9	(11.72)	黒曜石	—	平形	先端部欠損	
図V-26	118	102039	P-49	覆土	—	石槍またはナイフ	(5.6)	2.5	0.9	(9.63)	頁岩	新成色 10YR7/1	平形	先端部欠損	
図V-26	119	102039	P-49	覆土	—	石皿	5.3	1.4	0.8	4.86	黒曜石	—	平形	両面加工・ 両面に刃部	
図V-26	120	102039	P-49	覆土	—	スタレナイフ	3.1	3.0	0.7	6.10	黒曜石	—	平形	両面に刃部	
図V-26	121	102039	P-49	覆土	—	砥石	(15.2)	(13.8)	1.9	(350)	砂岩	灰黄色 10YR/2	片	両面に刃部	
図V-26	122	102039	P-50	覆土	—	両面磨製石皿	4.2	4.7	0.9	16.80	黒曜石	—	平形	両面刃部・ 急角度刃部	
図V-26	123	102039	P-51	覆土	—	石皿	2.5	1.3	0.4	0.80	黒曜石	—	平形	下部縁部破・ 再加工	
図V-26	124	102039	P-51	覆土	—	スタレナイフ	4.7	2.4	0.7	5.30	黒曜石	—	平形	左側縁に刃部	
図V-26	125	102039	P-53	覆土	—	スタレナイフ	(2.7)	3.7	0.8	(6.91)	黒曜石	—	平形	上平部欠損	
図V-26	126	102039	P-53	覆土	—	たたき石	8.0	7.4	3.4	38.1	砂岩	灰黄色 10YR/2	平形	下平部に たがき痕	
図V-26	127	102039	P-55	坑底面	1	石槍またはナイフ	(6.4)	4.1	1.1	(22.2)	黒曜石	—	平形	—	TV8-4層(4)山
図V-26	128	102039	FC-5	遺物	—	スタレナイフ	6.1	3.6	1.1	13.29	黒曜石	—	平形	左側縁と下平部 に刃部	

表V-20 包含層出土石器観察表(1)

図面番号	図名	出土地点	層位	遺物番号	器種	計測値 (cm)			石種	特殊	残存形態	特徴観察事項	備考		
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)							
図V-30	1	102040	F36EK	Ⅲ	—	石皿	2.2	0.9	0.3	0.48	黒曜石	—	平形	基部内角	
図V-30	2	102040	D65EK	Ⅲ	—	石皿	2.8	0.9	0.3	0.56	黒曜石	—	平形	基部前縁部	
図V-30	3	102040	F36EK	Ⅲ	—	石皿	1.7	1.4	0.3	0.52	黒曜石	—	平形	無蓋凹角	
図V-30	4	102040	G59EK	Ⅲ	—	石皿	(2.2)	1.6	0.3	(0.83)	黒曜石	(凹角縁)	平形	無蓋凹角	
図V-30	5	102040	I64EK	Ⅲ	—	石皿	3.1	1.2	0.2	0.41	黒曜石	—	平形	無蓋凹角	
図V-30	6	102040	G70EK	Ⅲ	—	石皿	3.8	2.1	0.4	2.13	黒曜石	—	平形	無蓋凹角 表面に11YR6/2	
図V-30	7	102040	I65EK	Ⅲ	—	石皿	1.9	(1.2)	0.3	(0.50)	黒曜石	—	平形	無蓋・平基	
図V-30	8	102040	F36EK	Ⅲ	—	石皿	2.7	1.2	0.3	0.90	黒曜石	—	平形	無蓋・平基	焼熟・白色化
図V-30	9	102040	F86EK	Ⅲ	—	石皿	(3.8)	(2.5)	0.5	(2.64)	黒曜石	—	平形	無蓋凹角 基部両側欠損	
図V-30	10	102040	I66EK	Ⅲ	—	石皿	4.3	2.6	0.7	5.10	黒曜石	—	平形	磨製・ 左右非対称	
図V-30	11	102040	D65EK	Ⅲ	—	石皿	3.0	1.7	0.3	1.20	黒曜石	—	平形	基部・基部 両方に刃部	
図V-30	12	102040	I67EK	Ⅲ	—	石皿	2.4	1.2	0.3	0.80	黒曜石	—	平形	左側縁に刃し 左右非対称	
図V-30	13	102040	F36EK	Ⅲ	—	石皿	3.6	1.8	0.5	2.36	黒曜石	—	平形	左側縁に刃し 左右非対称	
図V-30	14	102040	I64EK	Ⅲ	—	石皿	3.9	1.6	0.4	1.65	黒曜石	—	平形	基部縁部で長い	
図V-30	15	102040	F98EK	Ⅲ	—	石槍またはナイフ	5.4	1.5	0.8	4.70	黒曜石	—	平形	扁平・中央部 鋭み残る	
図V-30	16	102040	F98EK	Ⅲ	—	石槍またはナイフ	0.7	2.1	0.8	6.36	黒曜石	—	平形	表面中央は 急角	
図V-30	17	102040	I70EK	Ⅲ	—	石槍またはナイフ	7.7	2.6	1.1	21.16	黒曜石	—	平形	両側縁に狭り・ 基部に磨製面	
図V-30	18	102040	F98EK	Ⅲ	—	石槍またはナイフ	5.8	2.5	1.1	13.27	頁岩	両側色 10YR6/2	平形	両側縁部	
図V-30	19	102040	F64EK	Ⅲ	—	石槍またはナイフ	6.4	3.1	1.2	17.76	黒曜石	—	平形	表面片面加工・ 基部両縁部	
図V-30	20	102040	F36EK	Ⅲ	—	石槍またはナイフ	7.9	3.7	0.8	18.44	黒曜石	—	平形	表面片面加工・ 基部両縁部	
図V-30	21	102040	I69EK	Ⅲ	—	石槍またはナイフ	7.6	2.9	0.7	9.37	黒曜石	—	平形	左右非対称・ 凹角	
図V-30	22	102040	I55EK	Ⅲ	—	石槍またはナイフ	9.4	2.4	7.0	14.50	頁岩	両側色 10YR6/2	平形	左側縁 急角度刃部	
図V-30	23	102040	G57EK	Ⅲ	—	石皿	5.0	1.7	1.0	6.34	黒曜石	—	平形	右側縁は折れ 両側縁上部に 狭り	
図V-30	24	102040	I60EK	Ⅲ	—	石皿	5.1	1.2	0.4	2.89	黒曜石	—	平形	—	
図V-30	25	102040	I60EK	Ⅲ	—	石皿	3.1	1.9	0.7	2.45	黒曜石	—	平形	表面面上部に 磨製面	

VI章 まとめ

1. 遺構について

平成26(2014)年度にトーサムボロ湖周辺堅穴群B地区のⅢ層で確認した遺構は、堅穴住居跡13軒(H-17~29)、土坑32基(P-26~57)、焼土5か所(F-1~5)、フレイク集中3か所(FC-3~5)である。このうち堅穴住居跡2軒(H-17・18)は、平成23年度に続く北側部分の調査である。遺構は標高19~21mの緩斜面のグリッド46~74ラインにまともてみられ、北側は分布がやや希薄となる。遺構の時期は縄文時代前期前半が多く、縄文時代早期後半、縄文時代後期前葉がある。

堅穴住居跡の時期は、概ね縄文時代前期の押型文尖底土器の時期と考えられるが、放射性炭素年代測定ではH-19は縄文時代中期、H-26が縄文時代後期初頭の数値がでた。堅穴住居跡の平面は①隅丸長方形に近い形状のもの、②円・楕円形のもの、③不整形のものがある。①はH-18・19・23・24で、長径が約7~10mと大きく、H-19を除き、焼失住居跡である。また柱穴・杭穴は20か所以上と数が多く、壁に沿って直線的に並び、長方形の配列が伺われるものがある。②はH-25が長径6.6mと大きい他は、H-20・21・27が径4m以下、H-22・29が径3m以下と小型である。H-20・26・27は焼失住居跡の可能性が高い。H-20・25には壁際がやや高くなる段構造があり、H-29には住居跡外に柱穴・杭穴がみられた。③はH-17・28である。H-28は3m以下と小型で、炉跡焼土東側に隣がみられることから石組炉の可能性が高い。

土坑は平面が楕円形のものが多い、他に不整な楕円形、不整形がある。規模は0.8~6.2mと、ばらつきがある。時期は縄文時代早期、前期、後期があり、不明なものも多い。

縄文時代早期の可能性が高い土坑は、P-46である。平面は長径約3mの楕円形で、西側と南東側の壁際で直径8~11cmの柱穴・杭穴を9か所確認した。覆土からは中茶路式土器が多数出土した。

縄文時代後期の可能性が高い土坑は、遺物からP-37・48・55、形状等からP-30・34・43・53・54である。P-37・48は北筒式土器が出土し、P-37では底部は欠失するものの、それ以外は器形を保った状態で土器が出土した。またP-55では底面から被熱した礫のまとまりとⅣ群a類土器が出土した。同様に底面から礫が出土したP-56・57も同期の可能性が高い。P-30・34・53・54は平面が不整な楕円形、不整形のもので、規模が3~6.2mと比較的大きく、底面にはくぼみや段構造、土坑がみられる。P-43は平面が長楕円形で、土坑の北側には約4mの範囲で掘り上げ土がある。

上記以外の土坑の時期は概ね縄文時代前期と考えるが、遺物を伴うものはP-49・51など少数である。P-49は平面が円形で、底面中央が一段低くなる構造で、柱穴・杭穴を6か所確認した。底面からはⅡ群a類土器が出土した。

過年度の調査を踏まえ、B地区の遺構をまとめる(図Ⅱ-5・図Ⅳ-1)。トーサムボロ湖東岸の半島状の突出部の台地(L-1地区)では昭和39(1964)年の調査で、170を超える堅穴(くぼみ)が確認された。堅穴は台地平坦面から南側にかけて広く分布し、特に南・南西斜面に集中する。前回・今回のB地区の調査は、南・南西斜面の集中域からやや北側に離れた台地中央部を細長くトレンチ状に調査したことになる。

調査では、標高13m以下、標高17~19m、標高19~21mの緩斜面にそれぞれ遺構の集中域が確認された。遺構の時期は概ね縄文時代前期前半が主体であるが、調査区東側の標高19~21mの区域では縄文時代前期のほか、縄文時代後期前葉の遺構が多くなり、縄文時代早期後半の遺構・遺物もみられた。

(愛場)

2. 遺物について

(1) 土器

今回の調査で、土器等は遺構から985点、包含層から2,605点出土し、合計は3,590点である。土器の時期は縄文時代早期～晩期、統縄文時代で、時期別の点数はⅡ群が1,853点と最も多く、次いでⅠ群1,155点、Ⅳ群546点、Ⅴ群21点、Ⅵ群10点、Ⅲ群3点の順となる。また、土製品（焼成粘土塊）が2点出土している。平成21～23（2009～2011）年度調査（以下「前回調査」）では、遺構から3,908点、包含層から2,511点出土している。前回調査との合計では、遺構から4,893点、包含層5,116点となる。以下、出土した土器について前回調査も含めた全体的な特徴を時期ごとに述べる。

縄文時代早期の土器は今回の調査で1,155点、前回調査では20点出土し、前回に比べ出土量が多い。土器型式は後半の中茶路式である。全体の器形がわかるものは少なく、薄手で焼成は良好である。文様は細い貼付帯と絡条体瓦痕文などが施され、地文はRL、LR縄文がみられる。

前期の土器は1,853点出土した。前回調査では5,664点と多く出土しており、前回に比べて少ない。ほとんどが前半の押型文尖底土器である。土器は、剥離や摩耗しているものや、小破片が多く良好な復原個体はごく少数である。口縁部は平縁で、刺突文や刻みが施された突起や貼付がみられるものもある。また肥厚帯が施されるものも多い。文様は矢羽状押型文が多いが、格子目状や斜格子状のものもある。押型文の方向は、全体的に横位が多いが、胴部より下位では縦位、斜位方向にも施される。また、捺糸文も少量みられ、縦位、斜位に施される。器厚は厚く、胎土には繊維を多量に含む。土器型式は前回調査で出土したのもを含め、温根沼式といえるが、温根沼式の型式設定には含まれない、縄文や捺糸文などが施されるものが少数あり、それらの位置付けを今後考えて行く必要がある。

後期の土器は今回の調査で546点、前回調査では415点出土している。土器型式では、北筒Ⅱ～Ⅲ式である。全体的に胴部の破片が多く、口縁部や底部は少ない。P-37などの土坑から比較的まとまって出土している。口縁部には肥厚帯がみられ、肥厚帯上には縦位の沈線が施され、棒状突起がみられるものもある。肥厚帯直下には円形刺突文が施される。地文はLR、RLの斜行縄文が多いが、羽状の構成になるものもある。

上記の時期以外に、縄文時代中期～晩期、統縄文時代の土器が少量出土している。縄文時代晩期の遺物は、前回調査でA地区から出土しているが、B地区では初めての出土である。また、1964年に東京教育大学が行ったL-1地区の調査（以下「1964年調査」）では、第1号竪穴から少量出土している。また、統縄文時代の土器は、前回調査及び1964年調査でわずかに出土している。

(広田)

(2) 石器

石器は遺構から9,503点、包含層から9,691点出土し、合計は19,194点である。この内、礫が9,224点、フレイクが8,751点で、合わせて93%を占める。礫、フレイクを除くと、剥片石器ではスクレイパー（167点）、石鏃（86点）、石槍またはナイフ（80点）が多く、礫石器では砥石（421点）、石鋸（82点）が多い。

石器の石材は、剥片石器では黒曜石が最も多く、他に頁岩、チャートなどが少量みられる。礫石器では砂岩が最も多く、他に泥岩、凝灰岩、粗粒玄武岩等がみられる。

石器の分布は各器種とも遺構の分布（47～75ライン）と重なり、石器の時期は遺構と同様に縄文時代早期から後期が主体と考える。

縄文時代前期押型文尖底土器の時期のH-24では石器の床面・床面直上から石槍またはナイフ、石

錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、石鋸が、同時期のH-25では石鎌、石槍またはナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、砥石、石鋸が床面・床面直上などから出土しており、この時期の石器組成を示す良好な資料といえる。磨製石斧では縄文時代前期から後期に北海道北東部でみられる「刃部有溝石斧」（石川・斎野2000）が、H-20・H-25の覆土から1点ずつ出土した。いずれも長さ7cm未満と小型で、刃部は片刃である。表面側の刃部には縦位の溝が連続して刻まれ、鋸歯状となる。H-20出土のものは溝が磨滅しており、溝を刻んだ後、使用されている。

（愛場）

3. 過去に調査が行われた遺構について

第1・29・30号竪穴について

トーサムボロ湖の東側の段丘（L-1地区）では、170を超える竪穴（くぼみ）が確認され、昭和39（1964）年に縄文時代前期押型土器期の竪穴住居跡が4軒（第1号竪穴、第25号竪穴、第29号竪穴、第30号竪穴）調査されている。第25号竪穴については平成21年度調査区内で確認したため、トーサムボロ湖周辺竪穴群（1）の報告で、昭和41（1966）年の調査報告書の記載事項を抜粋し、内容を整理した。今回、調査区外ではあるが、残りの第1・29・30号竪穴についても同様に概要をまとめた。なお先の報告では付属遺構、土層断面図の番号が付されておらず、今回の報告で内容を整理し、新たに番号を付けた。また第1・25・29・30号竪穴出土の主な土器を図VI-4に図示した。

第1号竪穴（図VI-1・表VI-3～5）

位置 L-1地区で確認されたくぼみで最も西側にある（図II-5） 平面形態 円形？

規模 7.15×(4.25)/6.66×(4.25)/0.73m

確認 昭和39（1964）年の調査時、道路造成により削られた法面で、住居跡の土層断面が確認された。

調査の内容 昭和41（1966）年の調査報告書の記載事項を抜粋し、内容を整理した（表VI-5）。その内容をまとめると、本遺構は南側の半分を道路造成で壊されており、北側部分を調査した。まず南北方向に先行トレンチ調査し、順次東側、西側でもトレンチ調査を行った。南北トレンチで床面、壁の立ち上がりを確認した後、床面まで遺構全体を掘り下げた。床面ではビットなどの付属遺構を調査し、埋め戻して調査を完了した。

覆土 昭和41（1966）年の調査報告では、「表土層」「黒色土層」「上部黒褐色混雑層」「混雑焼土層」「下部黒褐色混雑層」に分層し、断面図が掲載されているが、土層注記の記載はない。本報告では、「表土層」を覆土一層、「黒色土層」を覆土二層、「上部黒褐色混雑層」を覆土三層、「混雑焼土層」を覆土四層、「下部黒褐色混雑層」を覆土五層とした。先の報告の記述を整理し、遺構外の包含層も、本報告書で設定した基本層序に対応させた土層表を浄書した図VI-1に付した。図VI-1の断面図番号は、1が覆土一層、2が覆土二層、3が覆土三・四・五層に対応し、覆土一層は0・1層、覆土二層はII・III層、図番号4はVI層である。

床面・壁 壁は斜めに立ち上がり、床面は中央が緩やかにくぼむ断面形態である。

付属遺構 焼土3か所（HF-1・2・3）、柱穴・杭穴23か所（p1～23）、段構造がある。なおHF-3と段構造は、土層断面図から推定し、今回新たに追加した付属遺構である。焼土はp7・8・13・15・20～23を覆って堆積するもので、いずれも炉跡ではない。柱穴・杭穴はp23が住居の中央付近に位置する以外は、壁に沿いにあり、2基単位のものが多くみられる。なおP-1～3は床面の焼土を切って構

築され、覆土に焼土が混じらないことから、住居跡より新しいと考えられ、付属遺構ではない。

遺物出土状況 遺物は床面では少なく、床面直上で多数出土した。土器は床直上では押型文尖底土器が多く、覆土三層上面では北筒式土器が出土した。石器は各層から石鏃、石槍、石匙、各種スクレイパー、石錐、磨製石斧、石鋸、砥石が、床面からは石鋸、砥石が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と判断する。

第29号竪穴 (図VI-2・表VI-3・4・6)

位置 今回調査区東端から南西側へ約50m (図II-5) **平面形態** 不整な楕円形

規模 3.11×2.79/2.62×2.35/0.58m

確認 昭和39 (1964) 年の調査で、南北に近接する2つの円形のくぼみとして認識された。北側の浅いくぼみが本遺構で、南側の深くくぼみが第30号竪穴である。

調査の内容 昭和41 (1966) 年の調査報告書の記載事項を抜粋し、内容を整理した (表VI-6)。その内容をまとめると、まず南北方向の先行トレンチ調査し、床面と壁の立ち上がりを確認した。さらに東西方向のトレンチ調査を行った後、遺構全体を掘り下げた。床面直上では粘土層が住居跡の北側壁際から南側の張り出し部にかけてみられ、粘土層の下位で土壌を2か所確認した。土壌、柱穴・杭穴を調査し、埋め戻して調査を完了した。

覆土 昭和41 (1966) 年の調査報告では、I～IIIを設定し、断面図が掲載されているが、土層注記の記載はない。本報告では混乱をさけるため、これらの土層を漢数字で記述する。

昭和39 (1964) 年の調査で、覆土は三つに分けられ、これは浄書した図 (図VI-2) の断面図番号1～3である。さらに「粘土」層 (図番号4) を覆土四層とすると、遺構内の土層は覆土一～四層で構成される。先の報告の記述を整理し、遺構外の包含層も、本報告書で設定した基本層序に対応させたものが図VI-2の土層表である。覆土一層は0・I層、覆土二層はII・III層、覆土三層は黒褐色土層で、礫や焼土粒が混じる。覆土四層は「粘土貼り」とされたもので、白色の粘土とVI層が混じる粘土層である。下位はVI層とは接しておらず、覆土三層が堆積する。

床面・壁 壁は東西で斜めに、北側ではやや急角度で立ち上がる。床面は中央が緩やかにくぼむ断面形態である。

付属遺構 土壌2か所、柱穴・杭穴3か所 (p1・2・3)、張り出し3か所である。土壌はいずれも粘土層の下位にあり、平面は長径70cmを超える楕円形である。土壌1は覆土中に白色物質 (骨片か?) や赤色物質 (ベニガラ、丹とされる) がみられた。土壌2は東側の壁際で小型完形の押型文尖底土器が出土し、覆土中からは黒曜石のフレイクが多数出土した。p1・2・3は平面が直径13～17cmの円形で、深さは12～15cmである。張り出しは住居跡の南東側部分に2か所、北側部分に1か所みられる。張り出し1・2は床面と段がある。

遺物出土状況 住居跡張り出し1・2付近の床面では、擦り切り手法の磨製石斧5点と石鋸1点がまとまって出土した。土壌2から小型完形の押型文尖底土器や黒曜石のフレイクが出土した。覆土からは押型文尖底土器片、石鏃、石槍、石錐、石匙、スクレイパー、石鋸などが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と判断する。

第30号竪穴 (図VI-3・表VI-3・4・7)

位置 今回調査区東端から南西側へ約50m (図II-5) **平面形態** 楕円形

規模 7.85×6.72/7.20×6.06/0.82m

確認 昭和39(1964)年の調査で、南北に近接する2つの円形のくぼみとして認識された。南側の深くくぼみが本遺構で、北側の浅いくぼみが第29号竪穴である。

調査の内容 昭和41(1966)年の調査報告書の記載事項を抜粋し、内容を整理した(表VI-7)。その内容をまとめると、まず南北方向に先行トレンチ調査し、次に東西方向のトレンチを追加して調査した。覆土下位(覆土七層)からは広い範囲で炭化物が多量に出土した。住居跡の北側部分で床面、壁の立ち上がりを確認し、炭化材の位置を記録した後、全体を床面まで掘り下げた。斜面下側の住居跡の南西側の壁際には盛土層があり、北側の壁と高さを揃えるために盛土された可能性がある。

覆土 昭和41(1966)年の調査報告書では、I~IXを設定し、断面図が掲載されているが、土層注記の記載はない。本報告では混乱をさけるため、これらの土層を漢数字で記述する。

昭和39(1964)年の調査で、覆土は九つに分けられ、これは浄書した図(図VI-3)の断面図番号1~9である。九層は本文の記述から地山で、遺構内の土層は覆土一~八層で構成される。先の報告の記述を整理し、遺構外の包含層も、本報告書で設定した基本層序に対応させたものが図VI-3の土層表である。覆土一層は0・I層、覆土二層はII・III層、覆土三層はIV層、覆土四層は黒色土主体層、覆土五層はVI層主体層、覆土六層は焼土層、覆土七層は炭化物層、覆土八層は黒色土層である。また十一層は住居外の南西側部分にあり、盛土層と判断した。

床面・壁 壁は斜めに立ち上がり、床面は中央が緩やかにくぼむ断面形態である。

付属遺構 焼土4か所(HF-1~4)、柱穴・杭穴36か所(p1~36)、段構造がある。HF-1は炉跡焼土である。長径1.25m、短径0.87mの楕円形の掘り込みがあり、掘り込み覆土上面と掘り込み面に被熱層がある。柱穴・杭穴はp35・36が住居跡の中央部、それ以外は住居跡の壁側に沿うように位置し、2基単位のもの多くみられる。p28・29・30とp31・32・33はそれぞれ1列で平行する位置にある。段は住居跡の北東側の壁近くであり、約4mの範囲が床面より約20cm高くなる。

遺物出土状況 遺物は住居跡の南西側から多く出土した。床面からは押型文尖底土器、横長の石匙、磨製石斧、石鋸、砥石が出土した。覆土からは押型文尖底土器、北筒式土器、石鏃、石槍、石錐、石匙、各種のスクレイパー、石鋸、砥石、石皿、礫器(礫石器)が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と判断する。

4. 分析の目的と結果の評価

本遺跡から出土した遺物について、以下の各項の自然科学的手法による分析を行った。分析の詳細は付篇各節を参照していただきたい。本節では分析の目的と結果の評価を述べる。

(1) 黒曜石製石器の産地推定(付篇1)

・目的

今回の調査で出土した剥片石器の石材の多くは黒曜石である。この黒曜石について時期ごとの原産地の状況を確認する目的で原産地分析を行った。試料はH-19・24・25の床面等出土の石器6点、P-37・55出土の石器3点である。時期は竪穴住居跡が主に縄文時代前期、土坑が縄文時代後期である。

・結果の評価

遺構ごとにまとめた表を掲載した(表VI-8)。竪穴住居跡では白滝地域4点、置戸地域2点という結果が出た。白滝地域とされた試料4点はすべてH-24出土で、うち石槍またはナイフ3点(TS-2~4)は重なって出土した。置戸地域とされた2点の試料の原石群は、いずれも所山群である。H-

19 (TS-1)・H-25 (TS-7)とも大型の石槍またはナイフで、特にTS-1は長さ20cmを超えるものである。

土坑では白滝地域1点、置戸地域2点という結果が出た。置戸地域とされた試料の原石群は所山群1点、置戸山群1点である。P-37出土の石槍またはナイフはTS-8が置戸地域所山群、TS-9が白滝産である。TS-8は底面出土の破片とH-19覆土の破片が接合したもので、TS-9は図V-2-7の北筒式土器内の覆土から出土したものである。P-55出土の石槍またはナイフは置戸山群で、土坑からは他に被熱した礫が16点出土している。

トーサムボロ湖周辺堅穴群(1)の報告では、黒曜石製石器試料28点中、縄文時代前期では白滝地域17点、置戸地域10点、ケショマップ第2群1点、縄文時代後期では白滝地域1点という結果が出ている。今回の結果とあわせ、本遺跡では縄文時代前期・後期を通じ白滝、置戸地域の黒曜石が利用されている。

(2) 放射性炭素年代測定 (付篇2)

・目的

本遺跡では縄文時代早期・前期・後期の遺構を確認した。今回は縄文時代前期押型文尖底土器期と推測される堅穴住居跡の年代測定を行い、絶対年代を把握し、住居の変遷を明らかにするのが主な目的である。分析試料は堅穴住居跡出土の木炭である。

・結果の評価

分析結果のうち、「補正年代(y rBP)」の数値が、上段が古く下段が新しくなるように並び替え、平成26年刊行のトーサムボロ湖周辺堅穴群(1)の結果と合わせ、表にした(表VI-9)。

トーサムボロ湖周辺堅穴群(1)ではH-10・H-6・H-2・H-3・H-7・H-13・H-2覆土中焼土の分析結果が5,210±30~4,910±30 y rBPの間で、比較の数値がまとまっている。

今回の分析結果は、H-20が5,230±30 y rBPという結果で、これまでで最も古い年代がでた。またH-24は4,980±30 y rBPという結果で、H-13と近い数値である。H-18は4,720±30 y rBPで縄文時代前期末葉から中期前葉とやや新しい数値となった。

またH-19は4,530±30・4,120±30 y rBPで、縄文時代中期前葉から中葉・縄文時代中期中葉から後葉、H-26は3,880±20 y rBPで縄文時代後期初頭と想定より新しい結果がでた。H-19とH-26は重複し、調査ではH-26が新しいと認識され、この点は分析結果と合致する。出土遺物や平面形状などから時期は縄文時代前期前半と想定していたが、H-19は縄文時代中～後期、H-26は縄文時代後期の可能性もある。

(3) 炭化材樹種同定

・目的

本遺跡の縄文時代前期前半、押型文尖底土器の時期の堅穴住居跡の構造材の樹種を知ることにより、木材の利用状況を推定する。樹種同定試料はH-18、H-24から出土した炭化材で、分析点数はH-18が3点、H-24が3点である。

・結果の評価

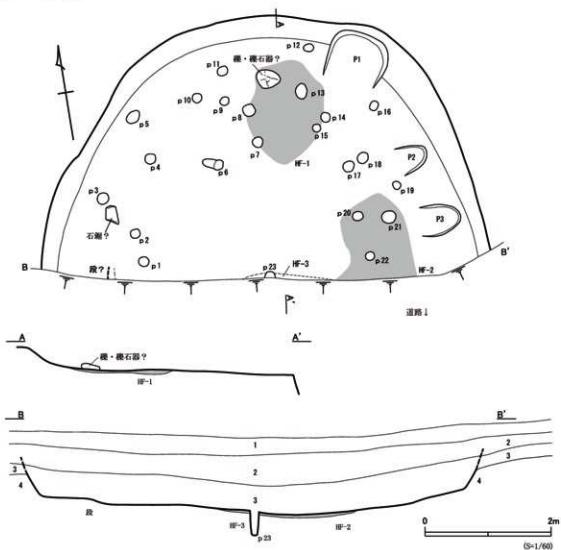
分析試料6点中、「コナラ属コナラ節」が2点、「トネリコ属」が2点、「オニグルミ」が1点、「コシアブラ」が1点である。

平成26年度刊行のトーサムボロ湖周辺堅穴群(1)でも同時期の堅穴住居跡(H-10・H-13)の

構造材樹種を同定し、6点中「コナラ属コナラ節」3点、「カツラ属」1点、「オニグルミ」1点、「トネリコ属シオジ節」1点という結果が出た。前回と今回の結果を統合すると、試料12点中、「コナラ属コナラ節」5点、「トネリコ属」3点、「オニグルミ」2点、「コシアブラ」1点、「カツラ属」1点である。5種類の落葉広葉樹が利用され、特に「コナラ属コナラ節」が多く、次いで「トネリコ属」、「オニグルミ」がある。これらは当時の遺跡周辺で生育した樹木と考えられるため、集落周辺において入手可能な樹木を利用したものと推定される。

(愛場)

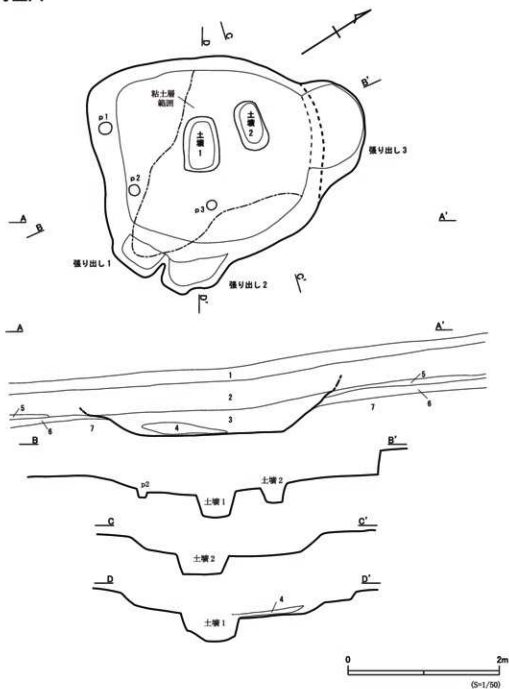
第1号竖穴



断面図 位置	断面図 番号	断面 での位置	本層の 文化層	層位 層別	層厚(cm)	特徴	本層裏での土層区分 (栗山の土層)	備考
第1号 竖穴 内部	1	—	層位一層	灰土層	20~30	—	0-1層、灰土層	後堀内方に堆積する。
	2	—	層位二層	褐色土層	30~50	—	II層	散乱、煎焼石チップ、人骨出土
	3	—	層位三層	赤褐色土層	20~30	—	V層土層か	瓦片式土層、フシク土層
	—	—	層位四層	灰褐色土層	7~8	—	—	—
	—	—	層位五層	下層灰褐色土層	20前後	—	V層土層か	—
	4	—	—	—	—	VI層	—	「竖穴はこの層を初～60cm掘り込んでつくられた」 「黄褐色火山灰」=黄褐色ローム層、VI層土層とする。 認められていない。
	—	—	—	外層	—	「自然崩壊層及び表面は岩盤をけずり込んで形成」	—	本層裏では未確認である。平成21年度の調査で北の調査でV層70cmに層を多く含む層を確認した。それと対応する可能性がある。

図VI-1 第1号竖穴

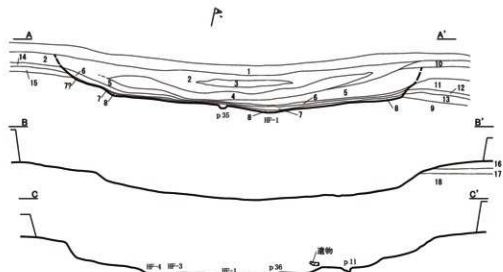
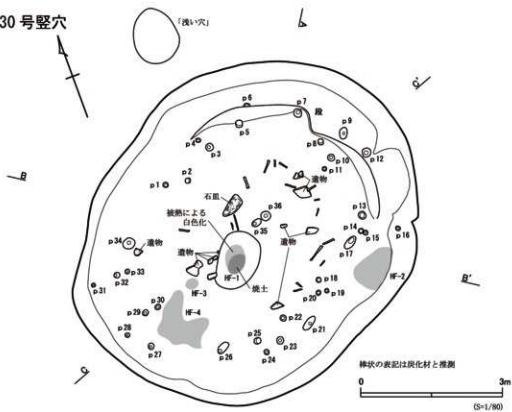
第29号竪穴



断面図 — 土層	断面図 番号	調査 次の頁記	本層の 土質記	層位 説明	層厚(cm)	特徴	本層までの土層区分 厚さの合計	備考
第29号 竪穴 遺跡域内	1	I	凝土一層	灰土層	15	—	0・I層、灰土表土	
	2	II	凝土二層	褐色土層	40	—	II・III層	
	3	III	凝土三層	黒褐色土	20	「層底の赤褐色土粒が散らる。」	V層土のクマ	
	4	IV	凝土四層	粘土	6~18	「白色粘土とローム質黄褐色土の混合土」	ローム質黄褐色土、VI層	白色粘土は本層まで見られず。 「粘土外層直下層に褐色火山灰」 ⇒厚さ2.5cm層
AA'ライン 断面	5	—	—	IV層	—	—	—	「黄褐色土(IIIa)が堆積し、地 山につづいている」⇒断片的に IV層と続くとするV層と判断 される。
	6	—	—	V層	—	—	—	「地山の黄褐色火山灰土」⇒ 黄褐色ローム層
	7	—	—	VI層	—	—	—	

図VI-2 第29号竪穴

第 30 号竖穴



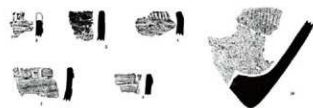
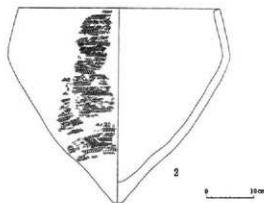
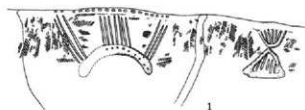
断面位置	断面番号	断面	本層中のV字断面	断面	断面(寸)	特徴	本層裏面(下)層との境界と炭化材の分布	備考
第30号竖穴 内部内	1	II	炭化土層	炭化土層	12	—	—	層厚約1.6mの範囲に炭化土層あり。
	2	III	炭化土層	炭化土層	13	「本層の最底層中、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	3	IV	炭化土層	炭化土層	14	「本層の下層にかけて、炭化土層の分布が不均一。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	4	V	炭化土層	炭化土層	15	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	5	VI	炭化土層	炭化土層	16	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	6	VII	炭化土層	炭化土層	17	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	7	VIII	炭化土層	炭化土層	18	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	8	IX	炭化土層	炭化土層	19	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	9	X	炭化土層	炭化土層	20	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	10	XI	炭化土層	炭化土層	21	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
第30号竖穴 外部	11	—	—	炭化土層	—	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	12	—	—	炭化土層	—	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	13	—	—	炭化土層	—	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。
	14	—	—	炭化土層	—	「(断面)で確認し、(断面)1.4mの範囲に炭化土層あり。」	—	炭化土層の分布が不均一。

図VI-3 第30号竖穴

第1号竖穴出土土器



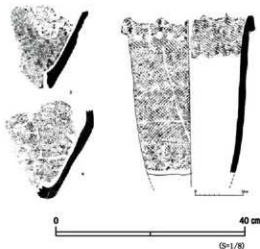
第25号竖穴出土土器



第29号竖穴出土土器



第30号竖穴出土土器



図VI-4 第1・25・29・30号竖穴出土土器

表VI-1 B地区出土遺物点数表

種別	出土場所・年度 分類	遺構			包含層			総計
		2009- 2011年度	2014年度	合計	2009- 2011年度	2014年度	合計	
土器等	I群b類	4	130	134	16	1,025	1,041	1,175
	II群a類	3,501	662	4,163	2,163	1,191	3,354	7,517
	III群b類	316		316	1	3	4	320
	IV群a類	84	193	277	331	353	684	961
	V群c類					21	21	21
	VI群					10	10	10
	不明	3		3				3
	土製品					2	2	2
	土器等 合計	3,908	985	4,893	2,511	2,605	5,116	10,009
	石器等	石鏃	54	37	91	72	49	121
石鏃付けナイフ		37	47	84	43	33	76	160
両面調整石鏃		36	21	57	47	15	62	119
石鏃		10	12	22	16	11	27	49
つまみ付きナイフ		31	17	48	39	24	63	111
スクレイパー		103	80	183	101	87	188	371
楔形石鏃		1		1				1
U・Rフレイク		108	69	177	74	72	146	323
石核		6	2	8	6	2	8	16
フレイク		8,985	4,488	13,473	4,529	4,263	8,786	22,259
原石		2	2	4	5		5	9
磨製石斧		19	37	56	17	12	29	85
たたき石		8	6	14	4	6	10	24
すり石		10		10	14	2	16	26
石鏃		100	45	145	31	37	68	213
塚石・石皿		171	156	327	213	265	478	805
石鏃		6	4	10	5	3	8	18
U・Rレキ		46	34	80	5	32	37	117
礫		1,199	4,446	5,645	364	4,778	5,142	10,787
石製品		1		1	3		3	4
石器等 合計		10,933	9,503	20,436	5,583	9,691	15,274	35,710
総計		14,841	10,488	25,329	8,094	12,296	20,390	45,719

表VI-2 B地区出土遺物点数表（水洗選別）

種別	出土場所・年度 分類	遺構			包含層			総計
		2009- 2011年度	2014年度	合計	2009- 2011年度	2014年度	合計	
土器等	I群b類		6	6		3	3	9
	II群a類	26	8	34		1	1	35
	IV群a類		2	2				2
	不明		10	10				10
	土器等 合計	26	26	52		4	4	56
石器等	石鏃	1	1	2				2
	両面調整石鏃	6	5	11				11
	石鏃	1		1				1
	スクレイパー		1	1				1
	U・Rフレイク	9	1	10				10
	石核	1		1				1
	フレイク	11,892	16,437	28,329	6,677	1,106	7,783	36,112
	磨製石斧		5	5				5
	礫	22	4	26		3	3	29
	石器等 合計	11,931	16,455	28,386	6,677	1,109	7,786	36,172
総計	11,957	16,481	28,438	6,677	1,113	7,790	36,228	

表VI-3 第1号・29号・30号竪穴概要一覧

遺構名	図	平面 形態	規模 (m)				付属遺構		主な出土遺物	備考		
			確認 長さ	短径	長さ	短径	最大深	種別			記号	番号
1号竪穴	VI-1	円形?	7.15	(4.25)	6.66	(4.25)	0.73	土坑	P	1~3	早期土器、押型文土甕土器、 北陶式土器、石鏃、石鏃またはナイフ、 石鏃、つまみ付きナイフ、 スクレイパー、磨製石斧、石鏃 砥石、(竹製尖頭器)	南側は道路に より削平される
								柱穴・杭穴	p	1~25		
								礎土	H F	1・2		
29号竪穴	VI-2	不整な 円形	3.11	2.79	2.62	2.35	0.58	土坑	-	1・2	押型文土甕土器・ フレイク・ 磨製石斧・石鏃	粘土層・ 土塊
								柱穴・杭穴	p	1~3		
								張り出し	-	1~3		
30号竪穴	VI-3	楕円形	7.85	6.72	7.20	6.06	0.82	砂礫土	H F	1	押型文土甕土器、北陶式土器、 つまみ付きナイフ、 磨製石斧、石鏃、砥石、石皿	炭化材多量・ 南側半分は礎土
								礎土	-	2~4		
								段構造	-	-		

表VI-4 第1号・29号・30号竪穴付属遺構一覧

遺構名	図	付属遺構名	種類・内容	平面形状	厚 様 (m)				主な出土遺物	備考	
					埋込部		遺留部				最大深 最大径
					長径	短径	長径	短径			
第1号竪穴	図VI-1	H F - 1	竪穴・ 坑穴	不整な楕円形	1.64	1.19	-	-	0.08	燧石・磁石?	
		H F - 2		不整形	(1.35)	(1.20)	-	-	(0.06)	-	
		H F - 3		不明	(1.42)	(0.06)	-	-	(0.04)	-	
		p - 1		円形	0.17	-	-	-	-	-	
		p - 2		円形	0.15	-	-	-	-	-	
		p - 3		円形	0.20	-	-	-	-	-	
		p - 4		円形	0.16	-	-	-	-	-	
		p - 5		楕円形	0.25	0.17	-	-	-	-	
		p - 6		楕円形	0.18	-	-	-	-	-	
		p - 7		円形	0.16	-	-	-	-	-	
		p - 8		円形	0.20	-	-	-	-	-	
		p - 9		円形	0.15	-	-	-	-	-	
		p - 10		円形	0.14	-	-	-	-	-	
		p - 11		円形	0.18	-	-	-	-	-	
		p - 12		楕円形	0.16	0.12	-	-	-	-	
		p - 13		楕円形	0.24	0.18	-	-	-	-	
		p - 14		円形	0.16	-	-	-	-	-	
		p - 15		円形	0.13	-	-	-	-	-	
		p - 16		円形	0.15	-	-	-	-	-	
		p - 17		円形	0.19	-	-	-	-	-	
		p - 18		円形	0.20	-	-	-	-	-	
		p - 19		円形	0.14	-	-	-	-	-	
		p - 20		円形	0.16	-	-	-	-	-	
		p - 21		円形	0.23	-	-	-	-	-	
		p - 22		円形	0.14	-	-	-	-	-	
p - 23	円形	0.18	-	-	-	0.38	-				
段	段構造	-	-	-	-	-	-	深さは断面図から 土層面図りから推定			
第1号竪穴 より新しい 土坑	土坑	P - 1	楕円形?	(0.80)	0.98	(0.72)	0.82	-	-		
		P - 2	楕円形?	(0.47)	0.47	(0.41)	0.47	-	-		
		P - 3	楕円形?	(0.62)	0.53	(0.59)	0.44	-	-		
第29号竪穴	図VI-2	p - 1	竪穴・ 坑穴	円形	0.17	-	-	-	0.12	-	
		p - 2		円形	0.15	-	-	-	0.12	-	
		p - 3		円形	0.13	-	-	-	0.13	-	
		土層1		楕円形	0.75	0.48	0.62	0.54	0.58	-	
		土層2		楕円形	0.67	0.38	0.52	0.27	0.58	-	
		張り出し1		楕円長方形	0.70	0.43	0.55	0.32	-	-	
		張り出し2		不整な円形	0.95	0.50	0.77	0.38	0.14	-	
張り出し3	円形	1.57	0.58	1.00	0.55	-	-				
第30号竪穴	図VI-3	竪穴・ 坑穴	H F - 1	楕円形	1.25	0.87	-	-	0.15	-	
			H F - 2	楕円形	0.44	0.30	-	-	0.03	-	
			H F - 3	楕円形	0.58	0.42	-	-	0.05	-	
			H F - 4	不整形	0.98	0.66	-	-	-	-	
			p - 1	円形	0.12	-	-	-	0.08	-	
			p - 2	円形	0.10	-	-	-	0.10	-	
			p - 3	円形	0.18	-	-	-	0.06	-	
			p - 4	円形	0.12	-	-	-	0.06	-	
			p - 5	円形	0.16	-	-	-	0.12	-	
			p - 6	円形	0.14	-	-	-	0.08	-	
			p - 7	円形	0.18	-	-	-	0.08	-	
			p - 8	円形	0.14	-	-	-	0.10	-	
			p - 9	楕円形	0.26	0.17	0.06	0.04	-	-	
			p - 10	円形	0.16	-	-	-	0.08	-	
			p - 11	円形	0.09	-	-	-	0.06	0.09	
			p - 12	円形	0.20	-	-	-	0.08	-	
			p - 13	円形	0.18	-	-	-	0.11	-	
			p - 14	円形	0.10	-	-	-	0.08	-	
			p - 15	円形	0.11	-	-	-	0.06	-	
			p - 16	円形	0.12	-	-	-	0.05	-	
			p - 17	楕円形	0.32	0.17	0.14	0.09	-	-	
			p - 18	円形	0.12	-	-	-	0.10	-	
			p - 19	円形	0.09	-	-	-	0.07	-	
			p - 20	円形	0.12	-	-	-	0.08	-	
			p - 21	楕円形	0.34	0.15	0.06	0.05	-	-	
			p - 22	円形	0.16	-	-	-	0.08	-	
			p - 23	円形	0.17	-	-	-	0.08	-	
			p - 24	円形	0.13	-	-	-	0.06	-	
			p - 25	円形	0.16	-	-	-	0.12	-	
			p - 26	楕円形	0.30	0.15	0.09	-	-	-	
			p - 27	円形	0.14	-	-	-	0.04	-	
			p - 28	円形	0.11	-	-	-	0.05	-	
			p - 29	円形	0.13	-	-	-	0.07	-	
			p - 30	円形	0.14	-	-	-	0.08	-	
			p - 31	円形	0.10	-	-	-	0.03	-	
			p - 32	円形	0.13	-	-	-	0.04	-	
p - 33	円形	0.11	-	-	-	0.06	-				
p - 34	円形	0.24	-	-	-	0.08	-				
p - 35	楕円形	0.22	0.15	0.08	0.09	-	-				
p - 36	円形	0.22	-	-	-	0.08	0.11				
段	段構造	-	4.36	0.92	-	-	0.44	燧石片など 北から東側の埋戻			

付 篇

自然科学的手法による分析結果

1. 黒曜石製石器の産地推定

株式会社 バレオ・ラボ (竹原弘展)

1 はじめに

根室市豊里に所在するトーサムボロ湖周辺堅穴群より出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2 試料と方法

分析対象は、縄文時代前期の堅穴住居跡H-24、H-25及び前期～後期の堅穴住居跡H-19より出土した黒曜石製石器6点と、縄文時代後期の土坑P-37・P-55より出土した黒曜石製石器3点の合計9点である(表1)。

試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb分率 = $Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 2) Sr分率 = $Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 3) $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$
- 4) $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

そして、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸 $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。

ただし、風化試料の場合、 $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ の値が減少する(望月, 1999)。

試料の測定面にはなるべく奇麗で平坦な面を選んだ。原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図1に各原石の採取地の分布図を示す。

表1 分析対象となる黒曜石製石器

試料番号	器種	出土遺構・調査区	層位	遺物番号	時代
TS-1	石槍またはナイフ	H-19	覆土	1	縄文時代前～後期
TS-2				6	
TS-3				6	
TS-4				6	
TS-5	石離	H-24	床面	2	縄文時代前期
TS-6				2	
TS-7	石槍またはナイフ	P-55	坑底	1	縄文時代後期
TS-8				9	
TS-9		P-37	坑底	1	縄文時代後期
TS-10				1	
TS-11				2	

表2 北日本黒曜石産地の判別群

北海道	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢産地(15)	赤石山山頂、八号沢産地
	白滝2	7の沢川支流(12)、K 産地(10)、十勝石炭産地(下川(11)、アジサイの滝産地(10))	赤石山山頂、八号沢産地、十勝石炭産地、下川、アジサイの滝
	赤井川	曲川・土本川(24)	曲川、土本川
	上土幌	十勝三股(4)タラシベツ川右岸(42)、タラシベツ川左岸(10)、十三ノ沢(32)	十勝三股、タラシベツ川右岸、タラシベツ川左岸、十三ノ沢
	置戸山	置戸山	置戸山
	所山	所山(5)	所山
	豊浦	豊浦(10)	豊浦
	知川	近文台(8)、南台(2)	近文台、南台
	石寄	石寄(19)	石寄
	秩父別	秩父別	秩父別
	秩父別	中山(66)	中山
	秩父別	秩父別	秩父別
	遠軽	遠軽	社名湖川河床(3)
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)
	留辺蘂	留辺蘂	マシヨマップ川河床(9)
留辺蘂	留辺蘂	留辺蘂	
青森	網走	網走	網走市官スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)
	木造	出来島	出来島海岸(15)、鶴ヶ夜(10)
	深川	八森山	岡崎(7)、八森山公園(8)
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
	雄勝	雄勝	雄勝海岸(4)
岩手	北上新居1	北上新居1	北上新居1
	北上新居2	北上新居2	北上新居2
山形	羽根	羽根	月山荘前(24)、大蔵沢(10)
	鶴引	鶴引	たらのき代(19)
宮城	宮崎	宮ノ倉	宮ノ倉(40)
	色麻	根岸	根岸(40)
	仙台	秋保1 秋保2	土蔵(18)
新潟	塩塚	塩塚	塩塚(10)
	新発田	新発田	新発田(10)
新潟	新津	金津	金津(7)
	高田	甘藷沢 七尋沢	甘藷沢(22) 七尋沢(3)、宮川(3)、桂野沢(3)



図1 北日本の黒曜石原石採取地の分布図

3 分析結果

表3に石器の測定値および算出した指標値を、図2と図3に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。なお、図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、3点が白滝1群(北海道、白滝エリア)、2点が白滝2群(北海道、白滝エリア)、1点が置戸山群(北海道、置戸エリア)、3点が所山群(北海道、置戸エリア)の範囲にプロットされた。表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。また、表4に時期および出土遺構別の産地推定結果を示す。

表3 測定値および産地推定結果

番号	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb比率	Mn ¹⁰⁰ /Fe	Sr比率	log Fe/K	判別群	エリア	番号
TS-1	252.6	76.0	1770.4	698.1	396.7	333.2	843.3	30.74	4.29	17.47	0.85	所山	置戸	TS-1
TS-2	241.9	79.1	1566.9	749.5	84.8	353.2	470.2	45.21	5.05	5.12	0.81	白滝2	白滝	TS-2
TS-3	200.7	60.1	1324.1	544.8	146.1	269.3	463.7	38.26	4.54	10.26	0.82	白滝1	白滝	TS-3
TS-4	236.0	80.5	1520.3	764.1	89.8	366.3	492.4	44.62	5.29	5.24	0.81	白滝2	白滝	TS-4
TS-5	272.8	85.9	1907.2	767.6	203.0	369.9	616.9	39.22	4.51	10.37	0.84	白滝1	白滝	TS-5
TS-6	232.3	91.3	2469.3	532.9	497.4	313.8	1085.4	21.93	3.70	20.47	1.03	置戸山	置戸	TS-6
TS-7	251.5	74.3	1739.8	670.8	390.2	325.7	814.0	30.48	4.27	17.73	0.84	所山	置戸	TS-7
TS-8	256.7	74.4	1765.4	679.0	381.7	323.6	805.4	31.01	4.21	17.43	0.84	所山	置戸	TS-8
TS-9	257.7	78.5	1740.5	716.2	187.8	346.9	580.5	39.11	4.51	10.25	0.83	白滝1	白滝	TS-9

表 4 時期および出土遺構別の産地

時期	出土遺構	白滝			置戸			合計
		白滝1	白滝2	小計	置戸山	所山	小計	
縄文時代前期	H-24	2	2	4	-	-	0	4
	H-25	-	-	0	-	1	1	1
	小計	2	2	4	-	1	1	5
縄文時代後期	P-37	1	-	1	-	1	1	2
	P-55	-	-	0	1	-	1	1
縄文時代前～後期	H-19	-	-	0	-	1	1	1
合計		3	2	5	1	3	4	9

4 おわりに

トーサムボロ湖周辺堅穴群より出土した黒曜石製石器計9点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、5点が白滝エリア産、4点が置戸エリア産と推定された。

引用文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2－上和田城山遺跡篇－」：172－179。大和市教育委員会。

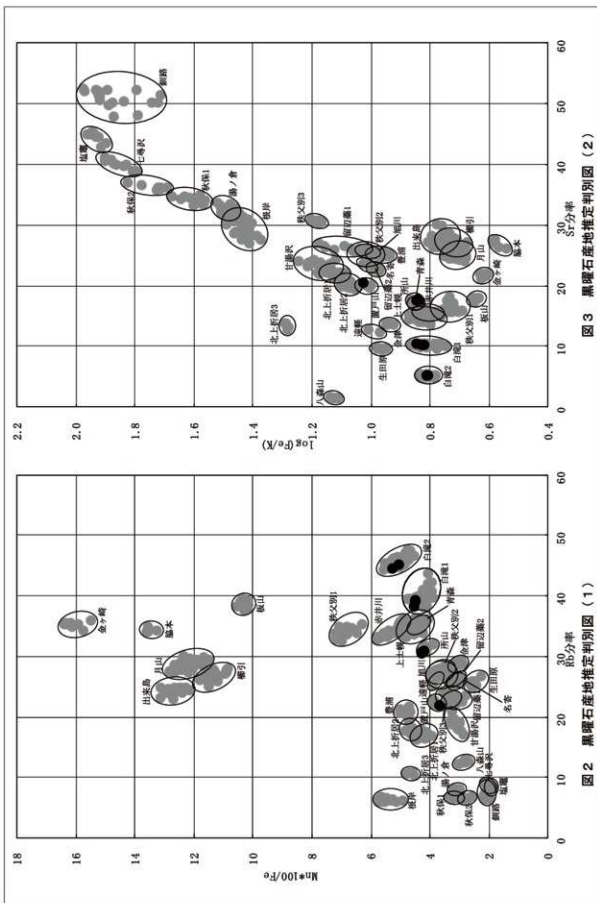


図3 黒曜石産地推定判別図(2)

図2 黒曜石産地推定判別図(1)

2. 放射性炭素年代測定

株式会社 加速器分析研究所

1 測定対象試料

トーサムボロ湖周辺堅穴群は、北海道根室市豊里96-1ほか（北緯43.389741°、東経145.753028°）に所在し、納沙布岬から西へ5km、トーサムボロ沼東側の段丘上に立地する。測定対象試料は、堅穴住居跡から出土した木炭6点である（表1）。

摩周テフラ上位の黒色土を掘り込んで堅穴住居跡が構築されている。H-18、H-20、H-24、H-26は焼失住居跡である。

2 測定の意義

複数の堅穴住居跡の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 Mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁵N濃度（¹⁵N/¹⁴N）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxII）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) δ¹³Cは、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age：yr BP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0 yr BP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代はδ¹³Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年校正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた校正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年校正年代は、 ^{14}C 年代に対応する校正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年校正年代を表す。暦年校正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、校正曲線および校正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年校正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2校正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年校正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年校正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて校正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/A D」(または「cal B P」) という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、表2に示す。

試料6点の ^{14}C 年代は、5230 \pm 30yr BP (TOS-4) から3880 \pm 20yr BP (TOS-6) の間にある。暦年校正年代 (1σ) は、最も古いTOS-4が4043~3990cal BCの範囲、最も新しいTOS-6が2453~2298cal BCの間に3つの範囲で示され、古い方から順にTOS-4が縄文時代前期中葉頃、TOS-5が前期中葉から後葉頃、TOS-1が前期末葉から中期前葉頃、TOS-2が中期前葉から中葉頃、TOS-3が中期中葉から後葉頃、TOS-6が後期初頭頃に相当する (小林編2008)。

試料の炭素含有率は60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

[#7092]

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC (%)
IAAA-142748	TOS-1	壑穴住居跡 H-18 覆土	木炭	AAA	-26.63 \pm 0.26	4,720 \pm 30	55.57 \pm 0.18
IAAA-142749	TOS-2	壑穴住居跡 H-19 HF-1焼土	木炭	AAA	-21.51 \pm 0.33	4,530 \pm 30	56.88 \pm 0.18
IAAA-142750	TOS-3	壑穴住居跡 H-19 HF-2焼土	木炭	AAA	-25.69 \pm 0.27	4,120 \pm 30	59.88 \pm 0.20
IAAA-142751	TOS-4	壑穴住居跡 H-20 床直上	木炭	AAA	-22.73 \pm 0.31	5,230 \pm 30	52.15 \pm 0.17
IAAA-142752	TOS-5	壑穴住居跡 H-24 床直上	木炭	AAA	-25.31 \pm 0.25	4,960 \pm 30	53.78 \pm 0.17
IAAA-142753	TOS-6	壑穴住居跡 H-26 覆土	木炭	AaA	-25.37 \pm 0.27	3,880 \pm 20	61.73 \pm 0.18

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

[参考値]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-142748	4,750 \pm 30	55.38 \pm 0.18	4,719 \pm 26	3627calBC-3596calBC (22.1%) 3527calBC-3507calBC (13.4%) 3427calBC-3381calBC (32.7%)	3632calBC-3561calBC (33.3%) 3536calBC-3497calBC (20.7%) 3457calBC-3377calBC (41.4%)
IAAA-142749	4,480 \pm 20	57.28 \pm 0.18	4,533 \pm 25	3356calBC-3327calBC (18.5%) 3218calBC-3176calBC (26.3%) 3160calBC-3121calBC (23.5%)	3362calBC-3308calBC (24.6%) 3298calBC-3283calBC (2.6%) 3276calBC-3264calBC (2.5%) 3240calBC-3104calBC (65.7%)
IAAA-142750	4,130 \pm 30	59.80 \pm 0.19	4,119 \pm 26	2854calBC-2812calBC (20.9%) 2745calBC-2726calBC (9.1%) 2697calBC-2625calBC (38.2%)	2865calBC-2805calBC (25.7%) 2761calBC-2579calBC (69.7%)
IAAA-142751	5,190 \pm 30	52.39 \pm 0.17	5,230 \pm 26	4043calBC-3990calBC (68.2%)	4222calBC-4211calBC (1.8%) 4155calBC-4133calBC (4.3%) 4066calBC-3970calBC (89.3%)
IAAA-142752	4,990 \pm 30	53.74 \pm 0.17	4,983 \pm 25	3781calBC-3712calBC (68.2%)	3907calBC-3880calBC (4.5%) 3801calBC-3698calBC (90.9%)
IAAA-142753	3,880 \pm 20	61.68 \pm 0.18	3,875 \pm 23	2453calBC-2419calBC (19.2%) 2406calBC-2377calBC (18.1%) 2350calBC-2298calBC (31.0%)	2463calBC-2289calBC (95.4%)

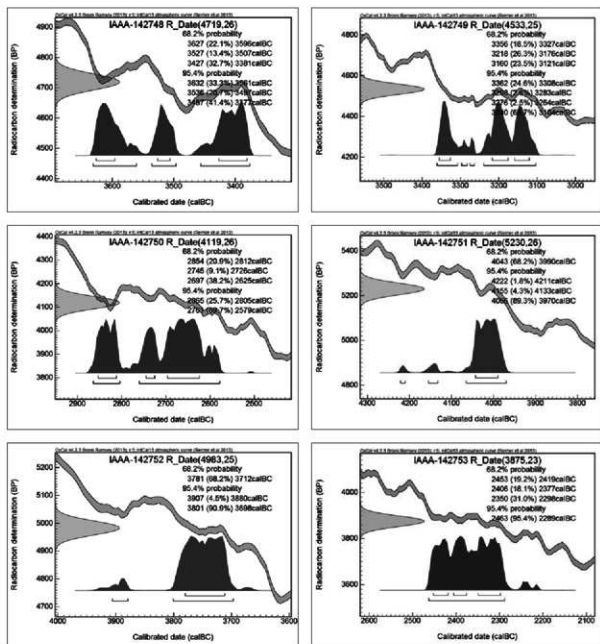
文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360.

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション.

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887.

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363.



[図版] 暦年校正年代グラフ (参考)

3. 炭化材樹種同定

株式会社 バリノ・サーヴェイ

はじめに

トーサムボロ湖は、根室半島東端のオホーツク海に面した湖で、湖の北側にオホーツク海と繋がる湖口がある汽水湖である。トーサムボロ湖周辺堅穴群は、湖を囲むように分布する段丘上にあり、縄文時代早期～オホーツク文化期・擦文文化期の堅穴が2000箇所以上存在すると考えられている。

本報告では、湖口東岸の段丘上の調査で検出された堅穴出土の炭化材について、木材利用を検討するための樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、縄文時代前期の堅穴住居跡 H-18と H-24から出土した炭化材各3点、合計6点（TOS-1～6）である。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の剖断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、広葉樹4分類群（オニグルミ・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コシアブラ・トネリコ属）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

表1 樹種同定結果

試料No.	遺構	時期	取上No.	種類
TOS-1	H-18	縄文時代前期	サンプルNo1	オニグルミ
TOS-2	H-18	縄文時代前期	サンプルNo3	コナラ属コナラ亜属コナラ節
TOS-3	H-18	縄文時代前期	サンプルNo6	コシアブラ
TOS-4	H-24	縄文時代前期	サンプルNo1	トネリコ属
TOS-5	H-24	縄文時代前期	サンプルNo2	トネリコ属
TOS-6	H-24	縄文時代前期	サンプルNo4	コナラ属コナラ亜属コナラ節

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2-3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) プナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・コシアブラ (*Acanthopanax sciadophylloides* Fr. et Sav.) ウコギ科ウコギ属

環孔材で、孔圏部は接線方向が疎な1列で、孔圏部にも小道管が認められる。孔圏外で急激に径を減じた後、多数が複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性~同性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

4. 考察

縄文時代前期の竪穴住居跡から出土した炭化材には、合計4種類の広葉樹が認められた。オニグルミは、河畔等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。コナラ節は、本地域に見られる落葉広葉樹林の主要な構成種である落葉高木のミズナラを含む。コナラ節の木材は重硬で強度が高い。コシアブラは、山地・丘陵地に生育する落葉高木で、木材は軽軟な部類に入り、強度と保存性は低い。トネリコ属は、湿地に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。

遺構別にみると、H-18は、住居の中央から北側にかけての範囲で炭化材が多数確認されている。炭化材は、住居中央から外側に向かって放射状に伸びるものや、それに直交するように出土しているものがあり、垂木や横木等が含まれていると考えられるが、今回の分析試料の部位については詳細が不明である。炭化材には、オニグルミ、コナラ節、コシアブラが認められ、少なくとも3種類の木材が利用されたと考えられる。オニグルミやコナラ節が利用されていることから、比較的強度の高い木材を利用したことが推定される。コシアブラについては、軽軟で強度・保存性が低いことから、オニグルミやコナラ節とは異なる用途・部位に利用された可能性がある。

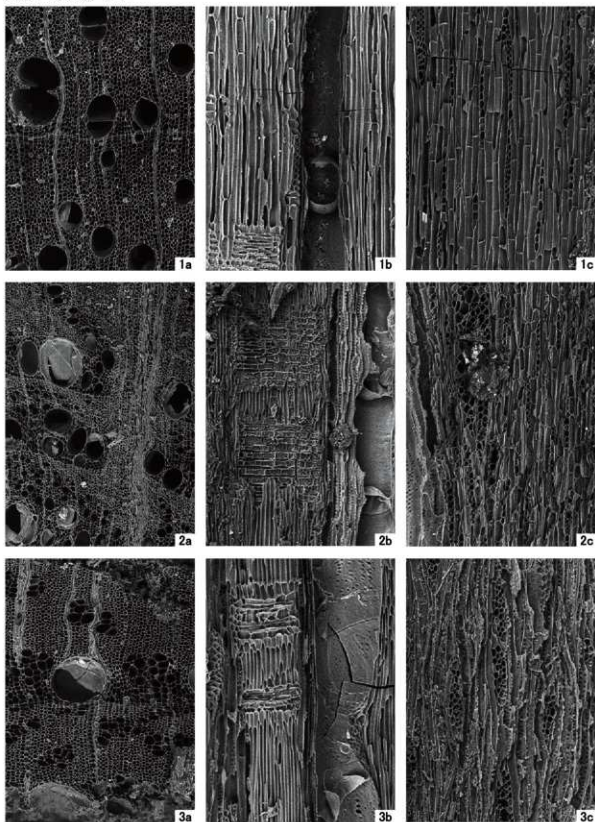
H-24は、住居南側の主に壁に近い床面上から炭化材が出土している。分析した炭化材は、放射状に出土しており、垂木等に由来すると考えられる。炭化材は、トネリコ属とコナラ節に同定され、強度が高い木材の選択・利用が推定される。

伊東・山田(2012)のデータベースによれば、縄文時代前期の住居跡出土炭化材の樹種同定を実施した例は、道南(渡島)地域の蛇内遺跡、花岡2遺跡、森川3遺跡の報告があり、クリ、クワ属、コナラ節、ニレ属、モクレン属、ヤナギ属が確認されている。一方、道東では、縄文時代前期の木材利用に関する調査例は掲載されていない。今回の結果から、道南(渡島)地域と同様の木材が利用されていたことが推定される。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久 (編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース, 海青社, 449p.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 炭化材(1)



1.オニグルミ(TOS-1,H-18No.1)

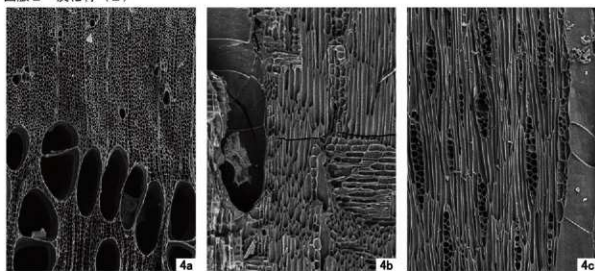
2.コナラ属コナラ亜属コナラ節(TOS-6,H-24No.4)

3.コシアブラ(TOS-2,H-18No.6)

a.木口,b.柱目,c.板目

100 μ m:a
100 μ m:b,c

図版2 炭化材 (2)



4.トネリコ属(TOS-5,H-24№.2)

a:木口,b:柁目,c:板目

100 μ m:a100 μ m:b,c

写 真 图 版



トーサムボロ湖周辺堅穴群B地区遠景（南西から）



調査風景（東から）

図版 2



調査区西側調査状況（東から）



調査区東側調査状況（西から）



調査区東側完掘状況（西から）



調査区中央付近完掘状況（北東から）

図版 4



調査区完掘状況（東から）



H-17 土層断面（北から）



H-18 東西土層断面（南西から）



H-18 覆土中焼土・炭化材検出状況（東から）



H-18 HP-12・13 土層断面（南から）



H-18 HP-21 土層断面（南から）

図版 6



H-19 東西土層断面 (南西から)



H-19 HF-3 土層断面 (南から)



H-19 HS-1 検出状況 (北東から)



H-19 完掘 (北から)



H-20 土層断面（東から）



H-20 覆土中焼土・炭化材検出状況（西から）



H-20 HP-13 土層断面（南から）



H-20 完掘（北西から）

図版 8



H-21 東西土層断面 (南西から)



H-21 HP-1 土層断面 (西から)



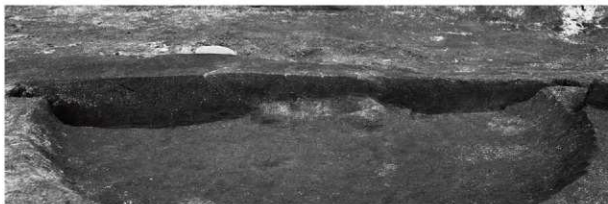
H-21 HF-1 検出状況 (北西から)



H-21 HP-4 土層断面 (南西から)



H-21 完掘 (北西から)



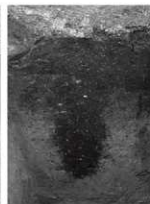
H-22 土層断面 (南から)



H-22 HF-1 土層断面 (南から)



H-22 HP-1 土層断面 (西から)



H-22 HP-7 土層断面 (北西から)



H-22 完掘 (南東から)

図版 10



H-23 東西土層断面（南西から）



H-23 HS-1 検出状況（北東から）



H-23 HFC-1 検出状況（東から）



H-23 HP-26 土層断面（西から）



H-23 完掘（東から）



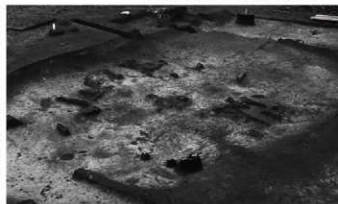
H-24 東西土層断面（南東から）



H-24 石楯またはナイフ出土状況（南東から）



H-24 遺物出土状況（南西から）



H-24 覆土中焼土・炭化材検出状況（東から）



H-24 完掘（南から）

図版 12



H-25 東西土層断面（南から）



H-25 HF-2 検出状況（南から）



H-25 床面遺物出土状況（南東から）



磨製石斧出土状況（南西から）



H-25 完掘（東から）



H-26 東西土層断面（北から）



H-26 覆土中焼土・炭化材検出状況（北から）



H-26 覆土中焼土土層断面（東から）



H-26 完掘（北西から）

図版 14



H-27 東西土層断面（南西から）



H-27 南北土層断面（北西から）



H-27 完掘（北西から）



H-28 土層断面 (北から)



H-28 HF-1 土層断面 (南西から)



H-28 遺物出土状況 (西から)

図版 16



H-29 土層断面 (南から)



H-29 HF-1・2土層断面 (南東から)



H-29 HP-2土層断面 (南から)



H-29 HP-4土層断面 (南から)



H-29 完掘 (西から)



P-26 遺物出土状況（南西から）



P-27 完掘（南西から）



P-28 土層断面（南から）



P-29 完掘（西から）



P-30 遺物出土状況（北東から）



P-31 土層断面（西から）



P-32 遺物出土状況（北西から）



P-33 完掘（北から）



P-34 完掘（北西から）



P-35 遺物出土状況（北から）



P-36 完掘（北東から）



P-37 遺物出土状況（南西から）



P-37 土器内石槍またはナイフ出土状況（東から）



P-38 遺物出土状況（北東から）



P-39 遺物出土状況（西から）



P-40 完掘（北から）



P-41 完掘（西から）



P-42 完掘（西から）



P-43 土層断面（南から）



P-43 掘り上げ土検出状況（南東から）



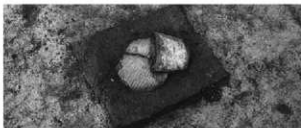
P-43 完掘（北西から）



P-44 完掘（南西から）



P-45 遺物出土状況（北から）



P-45 遺物出土状況（東から）



P-46 SP検出状況（南から）



P-46 遺物出土状況（北から）



P-46 完掘（北から）



P-47 遺物出土状況（北東から）



P-48 遺物出土状況（西から）



P-49 完掘 (北西から)



P-50 完掘 (北西から)



P-51 完掘 (南から)



P-52 炭化材検出状況 (西から)



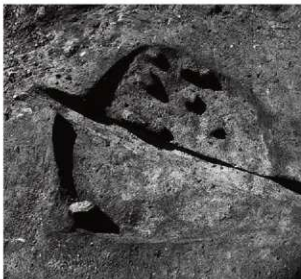
P-53 完掘 (東から)



P-54 完掘 (東から)



P-55 土層断面 (南西から)



P-56 遺物出土状況 (北東から)



P-57 遺物出土状況 (東から)



F-1 検出状況 (北東から)



F-2 上面炭化材検出状況 (南西から)



F-3 土層断面 (北から)



F-4土層断面（西から）



F-5土層断面（南から）



包含層土器出土状況（西から）



包含層石器出土状況（北東から）



調査状況（西から）



H-24



1 H-24・P-48

2



H-24・P-48



3 H-24・P-51

4



H-25

5



P-31

6



P-37

7



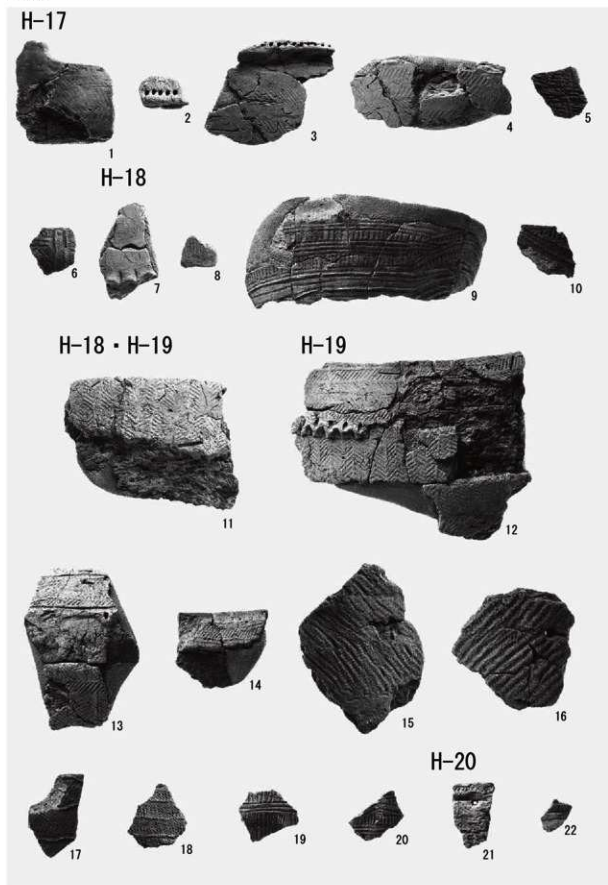
P-46・P-49

8



P-49

9



遺構出土の破片土器（1）

H-21・P-34・P-47

H-21



23



24



25

H-21・H-19



26

H-23



27



28



29



30



31

H-24



32



33



34



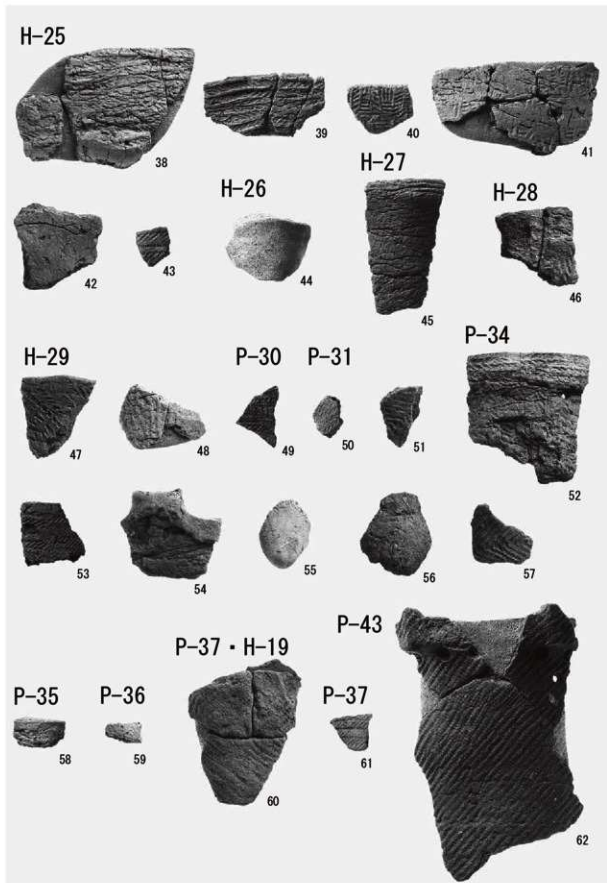
36



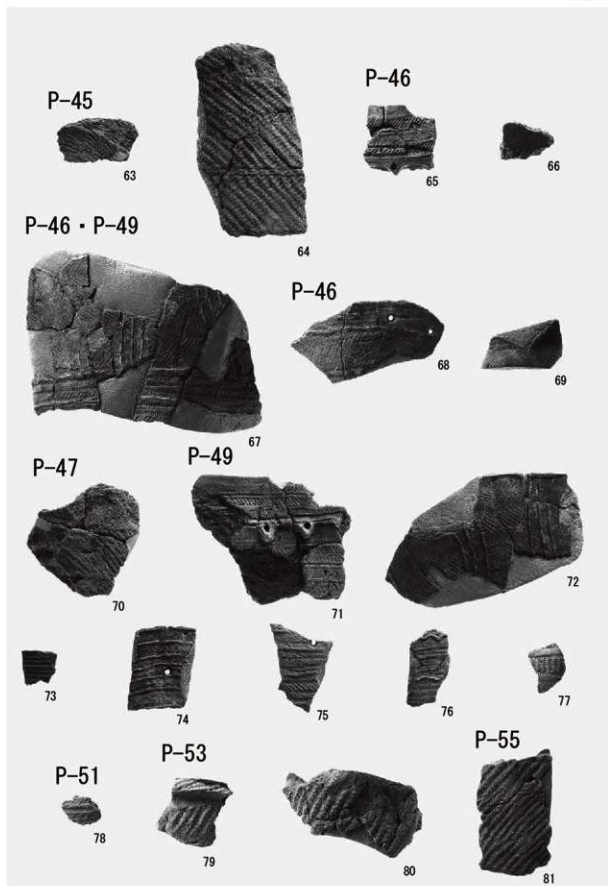
37



35



遺構出土の破片土器 (3)



遺構出土の破片土器 (4)



1



2



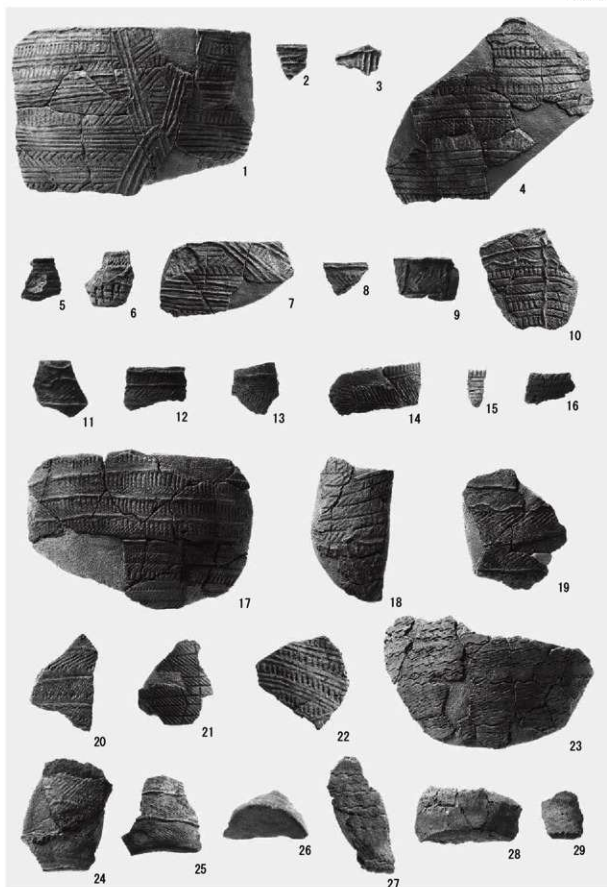
3



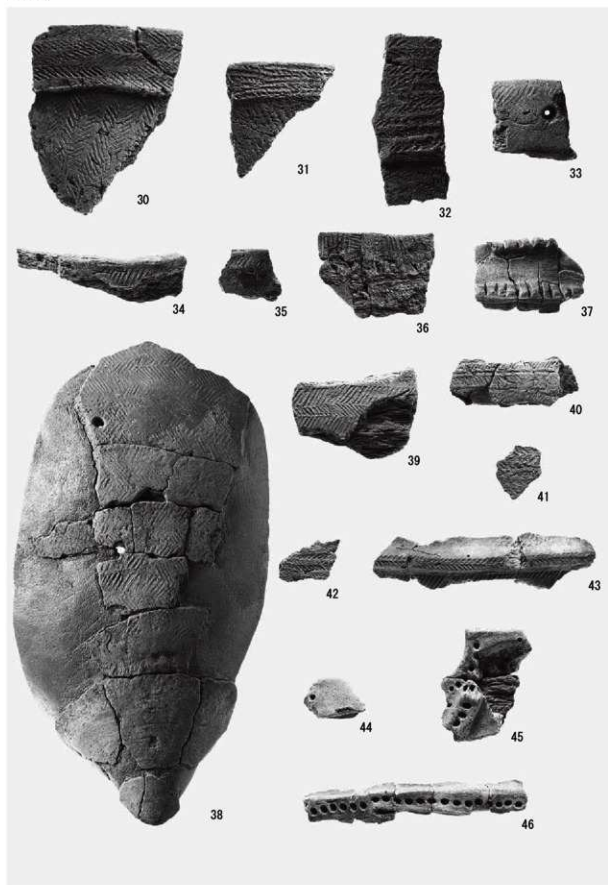
4



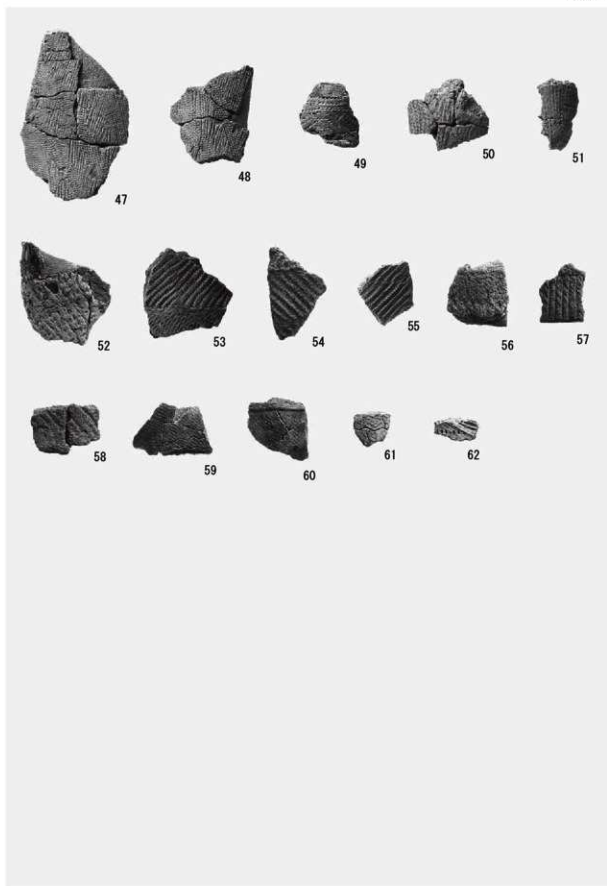
5



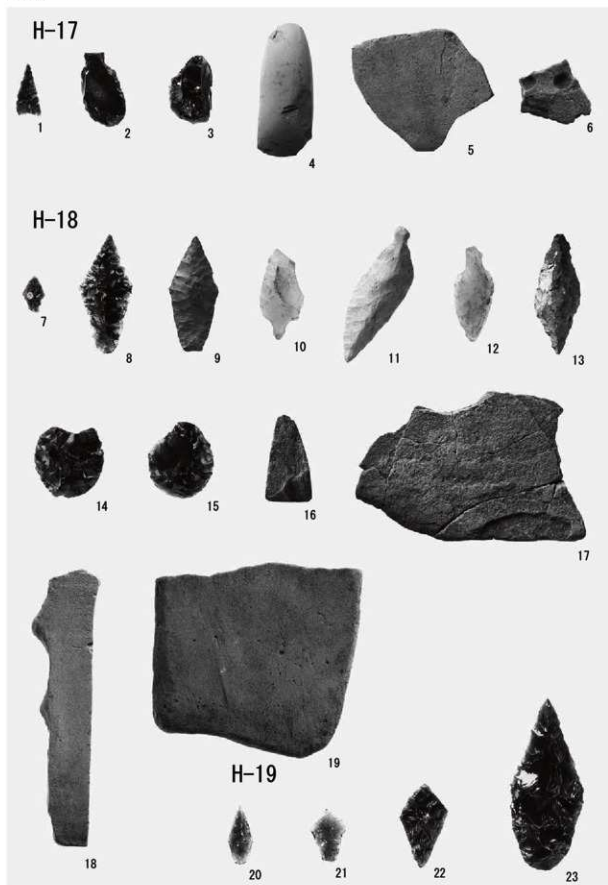
包含層出土の破片土器 (1)



包含層出土の破片土器（2）



包含層出土の破片土器（3）



遺構出土の石器 (1)

H-19



H-20



H-21



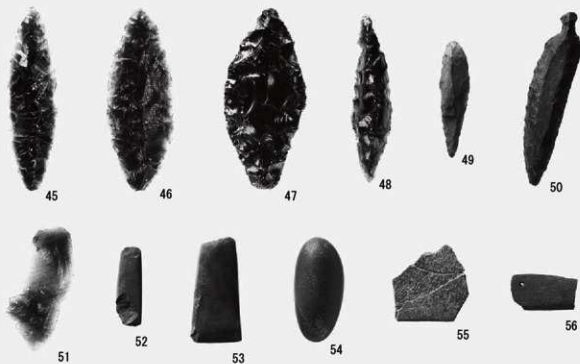
H-23



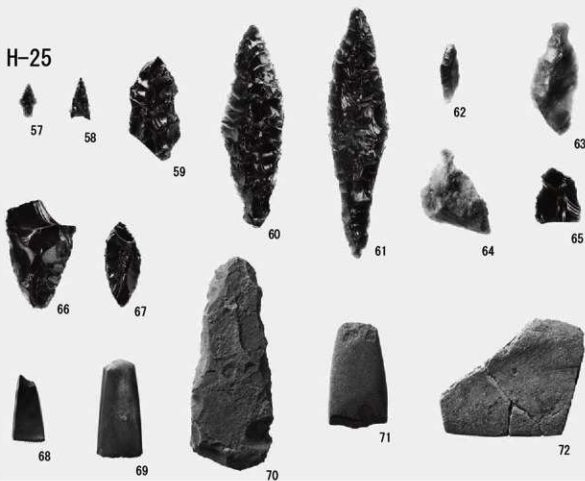
H-22



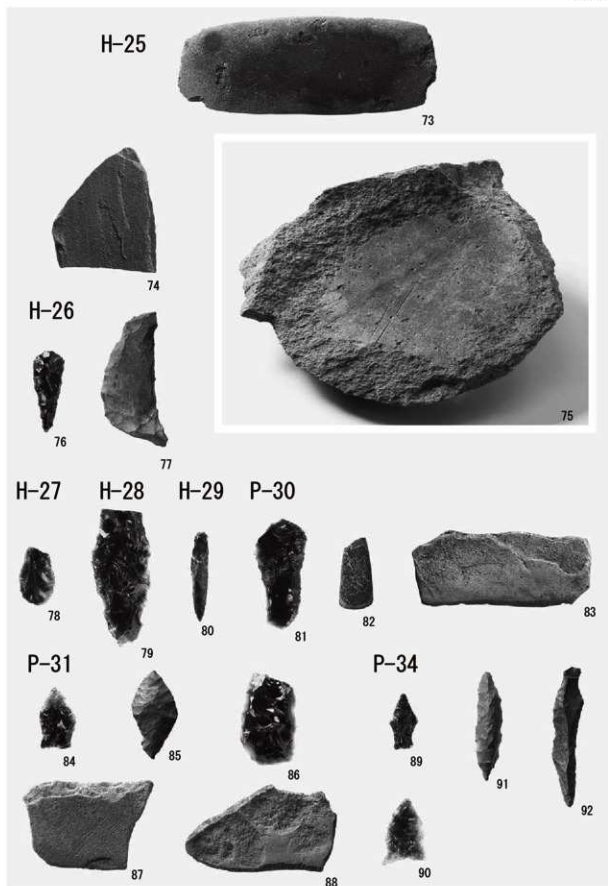
H-24



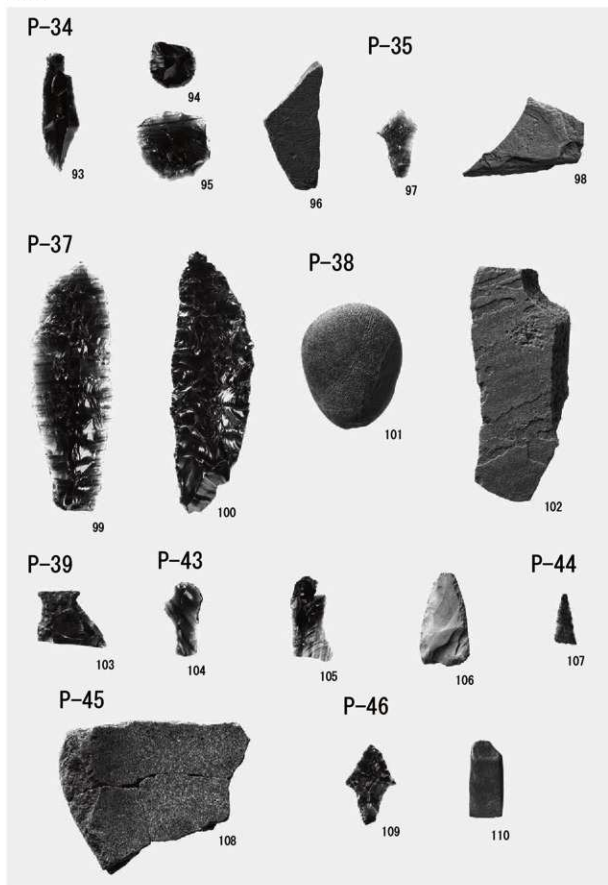
H-25



遺構出土の石器 (3)



遺構出土の石器 (4)



P-47



111



112



113



114



115

P-49



116



117



118



119



120



121

P-50



122

P-51



123



124

P-53



125



126

P-55

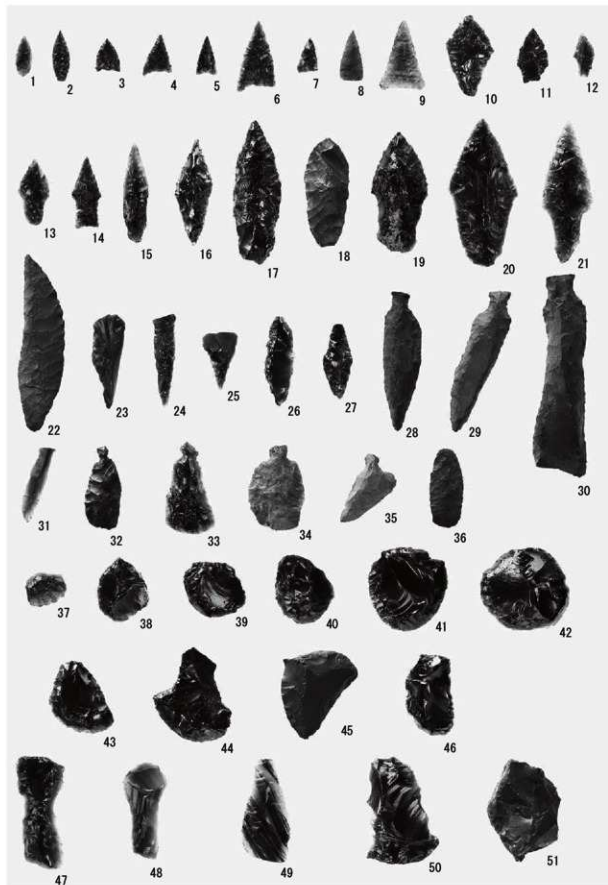


127

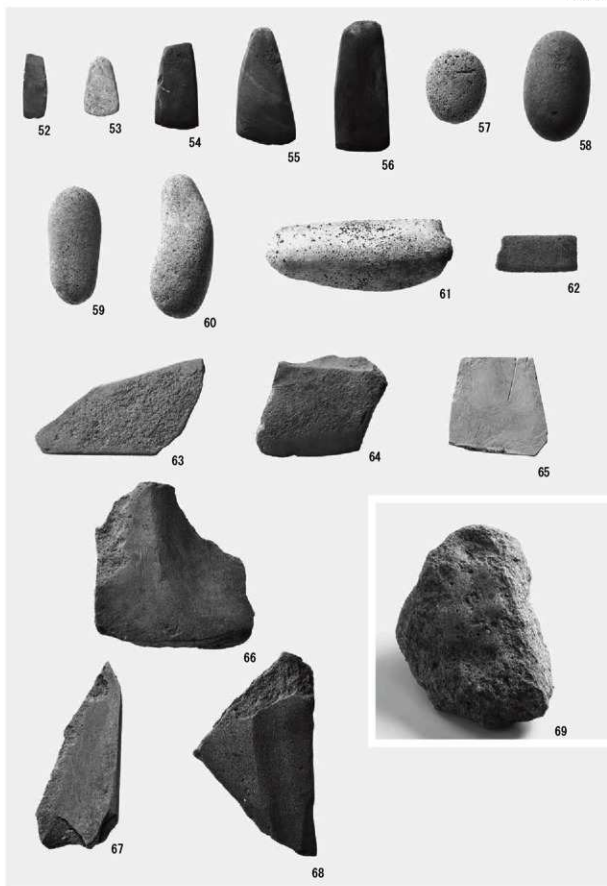
FC-5



128



包含層出土の石器 (1)



包含層出土の石器 (2)

引用参考文献

論文・論考・書籍等

- 伊藤初太郎 1935 「考古学上の根室の遺物と遺跡」 安曇写真製版所
- 伊藤初太郎 1938 「根室半島部に存在せるチャン」 『考古学雑誌』 28巻7号
- 宇田川洋・豊原照司・藤本 強編 1985 『北海道のチャン集成図1 (道東北篇)』 北海道チャン学会
- 川上 淳編 1985 『根室半島チャン跡群環境整備事業報告書』 根室市教育委員会
- 北構保男 1941 「根室半島カツラムイにおける竪穴発掘」 『上代文化』 21号
- 北構保男・岩崎卓也 1977 「北海道根室市オンネモト遺跡の調査」 『考古学ジャーナル』 15号
- 北構保男・須貝 洋 1953 「北海道根室半島トースムボロオホーツク式遺跡調査報告」 『上代文化』 24号
- 北構保男・前田 潮・山浦 清・金澤文雄 1984 「北海道根室市トースムボロ遺跡オホーツク文化住居址」 『日本考古学協会年報』 34
- 熊谷仁志 2008 「北海道押型文系土器」 『総覧縄文土器』 小林達雄編 アム・プロモーション
- 工藤研治 2008 「北筒式土器」 『総覧縄文土器』 小林達雄編 アム・プロモーション
- 児玉作左衛門・大場利夫 1956 「根室國温根沼遺跡の発掘について—温根沼式押型文遺跡—」 『北方文化研究報告』 11 北海道大学北方文化研究室
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』 日本色研事業株式会社
- 澤 四郎・北構保男 1963 「根室市ベニケイ出土の早期縄文土器」 『釧路の古代文化』 5 輯
- 豊原照司 1989 「根室半島における考古学的調査—その歩み—」 『根室市博物館開設準備紀要』 3
- 西本豊弘編 2003 「第1部根室市弁天島遺跡発掘調査報告」 『国立歴史民俗博物館研究報告』 第107集
- 平光吾一 1929 「千島および弁天島出土土器破片について」 『人類学雑誌』 第44巻4・5・7号
- 北地文化研究会 1968 「根室市弁天島西貝塚調査概報—1968年度—」 『考古学雑誌』 第54巻第2号 日本考古学会
- 北地文化研究会 1979 「根室市弁天島西貝塚竪穴調査報告」 『北海道考古学』 第15輯
- 三浦正人・広田良成 2008 「根室市トースムボロ湖周辺竪穴群の調査概要」 『日本考古学』 31 日本考古学研究会

団体組織刊行物

- 石川 朗・斎野裕彦 2000 「刃部有溝石斧の形態と使用痕」 『仙台市富沢遺跡保存館研究報告』 3
- 澤 四郎・西 幸隆・松田 猛 1984 「道東海岸線の遺跡分布」 『道東海岸線総合調査報告』 釧路市立博物館
- 道東の自然史研究会 編 1999 『道東の自然を歩く』 北海道大学図書刊行会
- 西田 茂・松島義章・川上 淳 1992 「根室市ヒリカタ遺跡・トースムボロ遺跡採集の資料」 『根室市博物館開設準備紀要』 第6号 根室市博物館開設準備室
- 文化庁 1979 『全国遺跡地図 北海道Ⅱ』 文化庁文化財保護部
- パドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』 博友社
- 北地文化研究会 1974 『根室市城遺跡分布調査報告書』 根室市教育委員会
- 北海道教育委員会 1977 『埋蔵文化財包蔵地一覧表 (付 指定文化財) (全道編)』
- 松井伸輝ほか 1987 『根室市の自然と文化財』 根室市教育委員会

埋蔵文化財発掘調査報告書

- 筑波大学歴史・人類学系 1980 『筑波大学先史学・考古学研究調査報告Ⅰ 北海道東部地区の遺跡研究』
- 根室市教育委員会 1966 『北海道根室の先史遺跡』
- 根室市教育委員会 1974 『オンネモト遺跡』
- 根室市教育委員会 1983 『根室市西月ヶ岡遺跡発掘調査報告書』
- 根室市教育委員会 1994 『總香竪穴群発掘調査報告書』
- 根室市教育委員会 1994 『コタンケシ遺跡発掘調査報告書』
- 北地文化研究会 1977 『コタンケシ川口遺跡—調査概報—』
- 北地文化研究会 2004 『根室市トースムボロ遺跡R-1地点の発掘調査報告書—オホーツク文化末期の竪穴—』

(財)・(公財)北海道埋蔵文化財センター刊行物

- (財)北海道埋蔵文化財センター 1994 『遺跡が語る北海道の歴史』 財団法人北海道埋蔵文化財センター15周年記念誌
(財)北海道埋蔵文化財センター 2004 『遺跡が語る北海道の歴史』 財団法人北海道埋蔵文化財センター25周年記念誌
(財)北海道埋蔵文化財センター 2010 『調査年報22 平成21年度』
(財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『調査年報23 平成22年度』
(財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『調査年報24 平成23年度』
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2015 『調査年報27 平成26年度』

(財)・(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)

- (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 『根室市 穂香竪穴群(1)』
一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報170
(財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『根室市 穂香竪穴群(2)』
一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報184
(財)北海道埋蔵文化財センター 2004 『根室市 穂香竪穴群(3)』
一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報198
(財)北海道埋蔵文化財センター 2005 『根室市 穂香川右岸遺跡』
一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報212
(財)北海道埋蔵文化財センター 2008 『釧路町 天寧1遺跡』
一般国道44号釧路町釧路外環状道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報254
(財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『釧路町 天寧1遺跡(2)』
町道床丹5号線道路改良事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報274
(財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『鶴居村 下幌呂1遺跡』
釧路鶴居弟子屈線(A交-57)交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報287
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2014 『根室市 トーサムボロ湖周辺竪穴群(1)』
根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報317

報告書抄録

ふりがな	ねむろし とーさむぼろこ しゅうへん たてあなくん (2)							
書名	根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群 (2)							
副書名	根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報)							
シリーズ番号	第324集							
編著者名	愛場和人・広田良成							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 Ⅷ011-386-3231							
発行年月日	西暦2016年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
トーサムボロ湖 周辺堅穴群	北海道 根室市 敷屋 96-1地先～ 96-8地先	01223	N-01-01	D-33杭		20140818 ～ 20141031	2,760㎡	道道根室半島線 改良工事に伴う 事前調査
				43° 23' 22.0"	145° 45' 10.4"			
				G-55杭				
				43° 23' 23.0"	145° 45' 14.1"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
トーサムボロ湖 周辺堅穴群	集落跡	縄文時代早期 縄文時代前期 縄文時代後期	土坑 竪穴住居跡・土坑・焼土 土坑	縄文土器 (早期・前期・後期) 石鏃 石槍またはナイフ 両面調整石器 石錐 つまみ付きナイフ スクレイパー 磨製石斧 たたき石 すり石 石鏃 砥石 台石・石皿				
	散布地	縄文時代晩期 続縄文時代		縄文土器 続縄文土器 石器等				
要約	<p>トーサムボロ湖周辺堅穴群は根室半島東部にあるトーサムボロ湖周辺に位置する堅穴群である。過去に東京教育大学(現筑波大学)、北地文化研究会等による学術調査が断続的に行われている。当センターでは平成21～23(2009～2011)年度に2か所(A・B地区)の調査を実施している。今回の調査は、オホーツク海につながる半島状に突き出た湖口の東側(B地区)で、平成23(2011)年調査区の隣接部を対象とした。なお、平成21～23(2009～2011)年度の調査については、平成26年度に『根室市 トーサムボロ湖周辺堅穴群(1)』で報告を行っている。</p> <p>今回は、B地区のⅢ層の竪穴住居跡・土坑・焼土などを調査した。遺構の主な時期は縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉である。遺物は縄文時代早期、前期、後期のものが多く、他に縄文時代晩期や続縄文時代の土器などが少量みられる。</p>							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第324集

根室市 トーサムポロ湖周辺竪穴群(2)

— 根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成28(2016)年3月25日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238
[URL] <http://www.domuibun.or.jp/>
[E-mail] mail@domuibun.or.jp

印刷 中西印刷株式会社
〒007 0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号
TEL 011(781)7501 FAX 011(781)7516
[URL] <http://www.nakanishi-printing.co.jp/>
[E-mail] owlnet@nakanishi-printing.co.jp

